有リ右等不良分子ノ活動ハ全部党部又ハ十九路軍ノ指金ニ依ル組織的ノモノトハ認メ難ク共産分子ノ攪乱行為及純然タル強盗行為ト認ム可キモノ有リ後二者ニ対シテハ省政府及公安局方面ニテハ充分責任ヲ以テ取締ヲ為シ居レルモ党部ト関係有ル者ニ対シテハ異常ナル越軌行為ヲ制止スル程度ノ事ハ為シ得可キモ事件ヲ根本的ニ追究スル事ハ到底至難ノ様見受ケラルル事耳切事件ノ例ニ徴シテ明カナリ

前電通リ転電セリ

支ヨリ上海ニ駐満全権ヨリ奉天ニ転報アリ度シ

事項六　国民政府との交渉

1　昭和6年12月30日　在天津桑島総領事より犬養外務大臣宛（電報）

張学良の関内撤兵はランプソン英公使の勧告によるとの情報について

天津　12月30日後発
本省　12月31日前着

第七二六号（暗）

卅日沈同午ノ内話左ノ通

今次学良カ中央ノ命令及国民ノ期待ニ反シ錦州ヨリ関内ニ撤兵スルニ至リシハ「ランプソン」ノ指金ナリ学良ハ十数万ノ兵ヲ保持シ華北ニ蟠居スル限リ韓及蔣ト相並ンテ地方実力派ノ一首領トシテ存在シ得ヘク又日本ニ対シ飽ク迄無抵抗主義ヲ執ル以上何人モ敢テ犯ス者ナク且ツ河北省ノ全収入月額約五百万元トセハ現有軍隊ヲ養フニ足ルヘキヲ以テ内部的兵変ニシテ防止セハ保身上極メテ安全ナル立場ニ在リ殊ニ最近改組セラレタル南京政府ハ実力ナク内部不統一ノ為其寿命モ長カラス蔣介石ノ再起モ遠カラサルニ依リ夫レ迄隠忍シテ専ラ実力保持ニ努ムヘキ旨「ラ」ヨリ建策シタル結果ナリ云々

尚姚震等ニ於テモ同様ノ聞込アル趣語レル処安福派ニ於テハ東北軍内面ニ相当反学良ノ気運醞釀シ居リ殊ニ熱河ノ湯玉麟ノ如キハ代表ヲ段祺瑞及閻錫山ノ許ニ派シ接洽シツツアルヲ以テ近ク内部ヨリ瓦壊ヲ起シ学良ノ没落モ近カルヘシト観測シ居レリ

公使ヨリ上海ニ転報アリ度シ

公使、北平、奉天、南京、済南、青島ニ転電セリ

2　昭和6年12月31日　在上海重光公使より犬養外務大臣宛（電報）

犬養総理の密使と称せられる萱野長知の動静について

上海　昭和6年12月31日後発
本省　昭和7年1月1日前着

第一四二三号（暗、極秘）

最近張公権等ハ本使ニ対シ犬養総理ノ密使ナリトテ萱野（長知）氏最近到来満州問題ニ付立入リタル交渉ヲ南京側要部ト行ヒツツアル処右ハ果シテ犬養総理ノ意ヲ受ケタルモノナリヤトノ質問ヲ発シタルニ付本使ハ自分ハ如何ナル関係ニ於テ萱野カ到来セシヤハ承知セス犬養総理カ本使ノ承知セサル密使ヲ送ラルル事ハ有リ得サル事ナリ尤モ萱野ハ自分ニ対シ国民党老同志トシテ種々意見ノ交換ヲ為ス為来着セル旨ノ説明ヲ為シタル次第ニテ右ハ犬養総理モ承知セラレ居ルヘキモ代表トシテ具体的ノ交渉ヲ行フ為ニ非サル事ハ明カナリト答ヘ置キタリ

萱野ハ閣下ノ御意向ヲ受ケタルモノト称シ居ルニ付其辺ノ事情本使参考迄御回電ヲ請フ

奉天、北平、南京、広東ヘ転電セリ

3　昭和6年12月31日　在上海重光公使より犬養外務大臣宛（電報）

萱野との会談内容及び同人の活動状況について

上海　昭和6年12月31日後発
本省　昭和7年1月1日前着

第一四二四号（暗、極秘）

一、萱野ハ卅日南京ヨリ帰来本使ヲ来訪南京ノ空気ハ甚タ改善セラレ此分ナラハ話モ纏マルヘキ旨ヲ説キタルカ本使ハ萱野ニ対シテハ大体論トシテ満州ハ支那側ニ於テ思切ル様ニ説得シ其空気ヲ作ルコトハ差支ナキモ具体問題ニ深入リスルハ今日ニ於テハ猶ホ危険ナルニ付其辺ハ用心ヲシ常ニ事情ヲ本使ニ内報スヘキ旨ヲ話シ置キタル次第ナリ

一、然ルニ他方面ノ報告ニ依レハ萱野ハ南京ニ於テ東京参謀本部某氏ノ意向ヲ酌ミタルモノナリトテ居正ヲ通シテ南京首脳部ト往復シ南京側ハ其意見ニ依リ満州接収ノ為東北委員会ヲ組織シ主トシテ西山派、許崇智、居正、傅汝霖、陳中孚、周西成（汪精衛ニ親シ）等五名ヲ委員トシテ不日満州ニ派遣スル手筈トナリ右ニ関シ萱野ハ東京ニ電報ヲ以テ意向問合セ中ナル趣ナリ

尚萱野ハ当地方ニ滞在ノ上満州問題ニ付支那側ト交渉続行ノ予定ノ由

奉天、北平、南京、広東ニ転電セリ

4　昭和7年1月2日　在南京上村領事より犬養外務大臣宛（電報）

萱野の南京における活動状況について

南京　1月2日前発
本省　1月2日後着

第三号（暗、極秘）

公使発閣下宛電報第一四二四号（三文書）ニ関シ

萱野一行三名ハ廿四日上海ヨリ来京四五日間当地ニ滞在シ其ノ間本官ヲモ度々来訪シタルカ本官ニ対シ自分ハ犬養総理ヨリ一応南京側ノ脈ヲ見来ル可シトノ話ニ依リ渡来セル次第ニテ目下南京ニハ自分年来ノ友人多キニ依リ旧同志トシテ隔意ナキ意見ノ交換ヲナシ居ルニ過キス立チ入リタル交渉ハ素ヨリ自分等ノ為スヘキ筋合ニ非ストノ趣旨ヲ述ヘ居タルカ廿六日犬養総理宛ノ暗号電報ト称スル長文モノヲ持参シ本官ニ右打電ノ方法ニ付相談シ来レル事アリタルカ結局上海ヨリ電報スル事トナリ一行中ノ一人ハ右ヲ持参シ上海ニ急行セル事実アリ

御参考迄

公使、奉天、北平、広東ヘ転電セリ

5　昭和7年1月3日　犬養外務大臣より在上海重光公使宛（電報）

萱野訪中の事情について

本省　1月3日後6時30分発

第一号　極秘

客年貴電第一四二三号（二文書）ニ関シ

萱野ハ本人ノ希望モアリ渡支シタル次第ナルモ何等交渉等ヲ行ハシメムトスル趣旨ニ非スシテ本人モ申シ居ル通リ一応南京側ノ脈ヲ見ル為メニ過キス従テ冒頭貴電ノ張公権ニ対スル応酬振ハ機宜ニ適スル次第ナルニ付将来モ必要ニ応シ右ト同趣旨ニテ応酬セラレ度

北平、奉天、広東、南京ニ転電セリ

6　昭和7年1月（5）日　在上海重光公使より犬養外務大臣宛（電報）

萱野の訪中と陳中孚らの日本派遣取止めの事情について

上海
本省　1月5日後着

第四号（極秘）

貴電第一号（五文書）ニ関シ

広東側ハ中央政府乗取ト同時ニ日本ニ対シテハ特ニ閣下ノ

国民党トノ密接ナル歴史的関係ヲ利用シ満州問題ヲ好転センコトヲ企図シ胡漢民ヨリハ孫科等ト協議ノ上陳中孚及山田ヲ東上セシメントシ胡ハ須磨領事ヲ通シテ閣下ノ御意向ヲ伺ヒタル訳ナルカ右ニ対シテハ御返事アリタルニモ拘ラス組閣ノ御祝ヲ表面ノ名義トシテ彼等ハ東京ニ到リ満州問題ニ関スル日本側ノ大体ノ意向ヲ聴ク予定ナリシ趣ノ処今般萱野ハ其ノ最懇意ナル居正ヲ通シ閣下ノ密使ナリトノ触込ニテ渡支シ支那側ハ萱野ニ依リ犬養総理ノ意向モ判明シ問題解決モ困難ナラサルヘキニ付陳中孚等ノ渡日ハ不要トナリタリト述ヘ居ル趣ナリ御参考迄

奉天、北平、広東、南京ヘ転電セリ

7　昭和7年1月5日　在上海村井総領事より犬養外務大臣宛（電報）

呉鉄城上海市長七日就任の予定について

上海　1月5日後発
本省　1月5日後着

第五号（暗）

時局情報

一、上海市長ニ決定シタル呉鉄城ハ七日就任ノ筈ナルカ目下辞表提出中ノ秘書長以下各局長ノ後任ハ未定ナリ

二、前十九路軍六十一師長戴戟ハ熊式輝ニ代リ淞滬警備司令ニ去ル卅一日就任セリ

三、蔣介石派将領ヲ主席トスル江蘇、浙江、江西、安徽、湖南、湖北、河南、甘粛、陝西ノ九省カ連合シテ南京新政府ニ当ラントスル九省連防説客年往電第九四六号安徽浙江等ノ独立説ニ引続キ当地方ニ於テ伝ヘラレツツアルカ最近張群カ奉化ニ赴キタルニ事寄セテ一部ニ於テハ蔣ノ再起説早クモ擡頭シツツアリトノ事ナリ

四、汪兆銘ハ引続キ当地ニテ病臥中ナルカ同人カ予期ニ反シ新政府ノ要職ニ就ク事能ハサリシ為取巻連中ニハ不平ヲ鳴シ居ル者多数アリ汪モ之カ処置ニ困シ居ル由ナリ

支ヘ転報セリ

北平、奉天、南京、天津、青島、済南、漢口、福州、広東ヘ転電セリ

8　昭和7年1月5日　※犬養外務大臣より在上海重光公使宛（電報）

萱野に対する帰還命令発出について

付　記　萱野長知に関する情報（外務省作成）

第二号　暗、極秘　　本省　1月5日後0時20分発

萱野退去方ニ関スル件

往電第一号（五文書）ニ関シ

永井次官ヨリ

犬養総理ヨリ萱野ニ対シ至急退支方電命セラルルコトトナレリ右貴官限リ御含迄

（付　記）

（極秘）　　外務省

萱野ニ関スル件

一、萱野ノ行動ニ関スル情報左ノ通リ

萱野ハ在支公使、在南京領事等ニ対シ「自分ハ犬養総理ヨリ一応南京側ノ脈ヲ見来ルヘシトノ話アリタルニ依リ渡来セル次第ニテ立入リタル交渉ハ素ヨリ自分等ノ為スヘキ筋合ニ非ス」トノ趣旨ヲ告ケタル趣ナルカ一方在支公使ヨリ「萱野ハ南京ニ於テ居正ヲ通シ南京首脳部ト往復シ南京側ハ其ノ意見ニ依リ満州接収ノ為東北委員会ヲ組織シ許崇智、居正、傅汝霖、陳中孚、周西成等五名ヲ委員トシテ不日満州ニ派遣スル手筈トナリ右ニ関シ萱野ハ東京ニ電報ヲ以テ意向問合中ナル趣ナリ（確カ十二月三十一日、萱野発犬養総理宛長文ノ暗号電報外務省ニ配達セラレタルニ付総理官邸ニ転送セル事実アリ）トノ情報アリ」トノ一月一日本省着電アリ尚ホ軍部入電ニモ略同様ノ情報アリ殊ニ右軍部入電ハ支那側ニテ右様ノ趣旨ヲ云ヒフラシ居ル旨ヲ伝フ

二、萱野ヲ至急帰朝セシムルコト肝要ナリ蓋シ当該官憲不知ノ間ニ萱野ノ遣支ヲ見タルコトハ綱紀粛正ノ精神ニ反スルノミナラス萱野ニ於テ前記ノ如ク南京側トノ間ニ直接交渉開始方ニ付話合ヲナシ居ルモノトセハ右ハ左記各般ノ理由ニ依リ我方ニ取リ極メテ不利ナリ又前記萱野ノ行動カ事実ニ非ストスルモ既ニ斯種風説立チタル以上萱野ノ支那滞在ハ同様ノ理由ニ依リ我方ニ不利ナリ

(イ)今次事件ニ関連セル満蒙問題ノ処理振ニ付テハ其ノ大綱ニ於テ外務、陸軍、海軍各部事務当局ノ意見略々一致シ居ル次第ニテ右ニ関シテハ近ク犬養総理ノ御考慮ヲ仰ク手続ヲ執ル筈ナリ即チ右各部事務当局ノ略々一致セル意見ハ「満蒙問題ノ解決ニ付テハ同地方ノ支那本部ニ対スル政治関係ヲ出来得ル限リ薄弱ナルモノタラシムルニ努

ムル一方我方権益ノ回復拡充ハ満蒙ニ於ケル現存ノ地方官民又ハ新ニ発生スヘキ同地方統一政権ヲ相手トシテ行ヒ着々既成事実ヲ作リ行クコト肝要ナリ従テ支那本部政権ニ対シテハ満蒙ヲ自然ニ断念セシムル様ニ仕向ケ行キ前記既成事実出来上リタル上ニテ之ヲ承認セシムルカ又ハ右既成事実ヲ其儘押通シ行クカノ外ナキナリ尤モ南京政府ヨリ直接交渉開始方申出アル場合我方トシテハ正面ヨリ支那本部政権ハ相手ニセヌト拒否スル訳ニハ行カサルニ付近キ将来ニ於テ右様ノ申出アル場合ニハ我方ハ大正四年ノ条約其他一切ノ条約取極ノ再確認及排日排貨ノ根絶テウ国民党トシテ到底承諾シ得サル条件ヲ持チ出シ事実上直接交渉開始ヲ不可能ナラシムヘク要スルニ我方トシテハ本件ニ関スル支那本部政権トノ直接交渉ヲ出来得ル限リ遷延スルコト肝要ナリ」ト云フニ存ス

(ロ)目下我出先官憲ハ前記趣旨ニ依リ満蒙各省新政権ノ迅速ナル確立ヲ期シ種々助力ヲ与ヘ居ル実情ナル処此際我方ニ於テ南京側トノ間ニ直接交渉ヲ開始シ殊ニ南京側ノ勢力ヲ満蒙ニ持チ来ルカ如キ案ヲ議スル様ノコトアラムカ右新政権ヲシテ其将来ヲ疑惧セシメ之ニ対シ多大ノ動揺ヲ与フヘシ

(ハ)今次事件後東三省人士間ニ東三省ハ東三省人ノ東三省ナリトノ観念益々濃厚トナリ来レルハ事実ナルカ我方ニ於テ右機運ヲ捉ヘ我満蒙経略ノ為メニ資スルノ肝要ナルコト云フ迄モナシ然ルニ此ノ際我方ニテ南京側ノ人々ヲ東三省ニ引キ入ルルカ如キコトヲナサムカ必スヤ東三省人士ノ反感ヲ買フヘシ

(ニ)此ノ際南京側ノ東三省接収委員カ現地ニ乗リ込ミ来ルト云フカ如キハ前記趣旨ニ依リ満蒙新政権ノ樹立其他既成事実ノ現出ニ鋭意努力シ居ル関東軍ヲ甚シク刺激シ同軍将士中右接収ヲ妨害シ甚シキニ至リテハ接収委員ノ身辺ニ危害ヲ加フルカ如キコトノ絶無ヲ期シ難シト認メラル

9 昭和7年1月6日 在北平矢野参事官より犬養外務大臣宛（電報）
張学良の北平綏靖主任就任と東北政務委員会の改称について

北平 1月6日後発
本省 1月7日前着

第一一号

張学良ハ一日北平綏靖主任ニ就任セルト共ニ従前ノ副司令行営ヲ北平綏靖公署ト改メタルカ其ノ内部組織及主要職員ハ全然変更ナキ由尚東北政務委員会ハ北平政務委員会ト改称シ従来ノ東四省ノ外河北察哈爾ノ両省ヲモ管轄区域トスル事トナレル由

公使、南京、広東、漢口、青島、済南、天津、奉天ニ転電シ奉天ヨリ吉林、哈爾賓ニ転電アリタシ

張家口ニ暗送セリ

10 昭和7年1月6日 在南京上村領事より犬養外務大臣宛（電報）
萱野の行動に関し陳外交部長不満表明について

南京 1月6日前発
本省 1月6日後着

第一三号（暗、至急極秘）

(1)陳外交部長ヨリ本官ニ会見シ度キ旨申越セルニ付五日午後六時外交部長官邸ニ往訪セル処陳ハ突如口ヲ開キ貴官ハ萱野ナル人物カ南京ニ来レルコトヲ御承知ナリヤト尋ネタルニ付本官ハ質問ノ意味ヲ捜ル為態ト簡単ニ承知シ居レリトノミ答ヘタル処陳ハ言ヲ継キ萱野氏ハ犬養総理ノ代表トシテ来レリトテ当地ニ於テ種々策動ヲナシタル趣ナルカ実ハ本日モ政府部内ノ或者ヨリ萱野トノ談合ノ次第ヲ話サレ自分ハ外交部長トシテ面目ヲ失シタリ自分ハ犬養総理ヲ近代的政治家ト考ヘ居タルカ果シテ自分ノ考ハ誤ナリシヤト述懐セルニ付本官ハ貴部長ノ考ハ全然誤ニアラス犬養総理カ私設代表ヲ送ルカ如キコト絶対ニ無之現ニ萱野ノ噂ヲ聞キ当方ニテ為念確メタル処(2)犬養総理ハ萱野渡支ノコトハ承知シ居ル模様ナルカ勿論代表トシテ派遣シタルカ如キコトナク又総理ハ同人カ何等交渉類似ノ行動ニ出ツヘシトハ考ヘ居ラス単ニ国民党ノ老同志ト交驩ノ為渡支セルモノト了解シ居リタルコト明カトナレリ将来モアルコト乍ラ日本政府ハ正当ナル外交機関ヲ通スルコトナク私設代表ニ依リ外交交渉ヲ行フカ如キコト絶対ニ無之次第ニ付此点充分御含置アリタシト述ヘタルニ陳ハ実ハ自分モマサカ犬養総理カ斯ルコトヲ為スヘシトハ思ハサリシカ御話ニ依リ事情ハ好ク了解セリ正当ナル外交機関ノ厳存スルニ拘ラス私設代表ノ如キモノカ勝手ニ外交機関以外ト話ヲ為スカ如キコトア

リテハ事態ヲ紛糾セシメ事件ノ正常ナル解決ニ妨碍ヲ与フルノミナルニ付此点ハ充分注意スル必要アリト述ヘ居タリ

在支公使、北平、奉天、広東ヘ転電セリ

11　昭和7年1月6日　在南京上村領事より犬養外務大臣宛（電報）

陳外交部長より日本新内閣の意向問合せおよび不侵略協定締結方申入れについて

南京　1月6日前発
本省　1月6日前着

第一四号（暗、至急、極秘）

五日外交部長ト会見シ往電第一三号ノ応酬アリタル後[1]（一〇文書）

一、陳ハ自分ノ対日態度ハ一日貴官ニ御話シタル通従来ト少シモ変化ナク大亜細亜主義ノ理想ノ下ニ日本トノ友好関係ヲ回復シ満州ニ於テモ日支ノ共存共栄ヲ計リ度キ考ナルカ未タ日本ノ新内閣ノ意向ヲ承知セサル為当惑シ居ル次第ナリ従テ外交部長ニ就任以来各方面ヨリ自分ノ外交政策ニ関シ質問アリタルモ最重要ナル日本ノ意向ヲ承知セサル為確タル政策ヲ建ツルコトモ出来ス従テ質問ニ対シテモ極ク曖昧ニ答ヘ居ル次第ナリ

然ルニ最近自分ノ従来ノ対日政策ニ対シ攻撃ヲ初メタル向アリ右ハ実ハ主トシテ蔣介石派ノ仕業ニテ自分ハ之ニ打克ツ自信ヲ有スルモ之カ為ニハ出来ル丈速ニ日本新内閣ノ意向ヲ承知シタル上自分ノ進ムヘキ途ヲ確然ト定メ一般ヲ此政策ニ惹付クル様指導スル準備ヲ進ムル必要アリ他方欧米各国ニ対シテモ前述ノ如キ事情ヨリ未タ南京新政府ノ対日方針ニ付テハ何等表明セル所ナキモ本月廿五日ニハ国際連盟モ再開セラルル筈ナルニ付其際ハ南京政府ノ態度ヲ明ニスル必要アルヘキヲ以テ夫レ迄ニハ支那国内ノ輿論ヲ充分指導シ置キ国内ニ於ケル準備ヲ整ヘ置ク必要アリ是自分カ極メテ速ニ日本側ノ意向ヲ承知シ度ク考ヘ居ル所以ナリ

二、[2]満州問題解決ニ関スル自分ノ考ハ従来須磨総領事代理ヲ通シ日本政府ニ表明シ置キ尚重光公使ニ対シテモ親シク御話致シ置キタルカ本問題ハ極メテ「デリケート」ニテ両国々民ノ感情モ尖鋭化シ居ルヲ以テ何等カ此感情ヲ緩和スル問題ヲ提ケ注意ノ転換ヲ計ルコト良策ナリト考ヘラル就テハ先ツ両国間ニ不侵略協定（Pact of non-aggression）ヲ締結スルコトトシタク（曩ニ自分ノ述ヘタル「アンタント、コルディアル」及「ノン、ミリタリー、アライアンス」ノ問題ハ今ノ処持出ササル方可ナリ）此際支那側ヨリ撤兵ノ要求ハセサルヘキモ不侵略協定サヘ成立セハ当然撤兵セラルヘキ筋合ニシテ結局日本軍部ノ顔モ立チ同時ニ支那側ノ輿論ニモ良好ナル影響ヲ与フヘク極メテ面白キ案ナリト思考ス尚又当政府ノ対日方針ハ前述ノ通リ日支ノ共存共栄ニ在ルヲ以テ日本ノ満州ニ於ケル条約上ノ権利ハ充分尊重スル意向ニテ此条約上ノ権利ノ問題ハ日支両国共同調査委員会（Joint Commission）ヲ組織シ解決案ヲ見出スコトトシタク[3]以上ノ「ライン」ニテ本件ノ解決ヲ付ケ得レハ両国国民間ノ感情モ漸次良好トナルヘク満州ハ文治主義ノ下ニ中央ノ直属トナリ中央ノ命令モ徹底スルヲ以テ問題解決後ハ過去ニ於ケルカ如キ紛糾ヲ繰返スコト無カルヘシト考ヘラル

三、尚交渉ノ方法ハ先日モ御話シタル通先ツ秘密ニ「アンオフィシャリー」ニ談合ヲ進メ大体ノ談合纏リタル上是ヨリ直接交渉ヲ開始スヘシト言フカ如ク発表シ発表ノ後ハ瞬ク間ニ協定ヲ成立セシメ交渉中外部ヨリ入リ来ル各種ノ故障乃至妨害ヲ避クル様ニ致シ度キ考ナリト述ヘタル上陳ハ更ニ繰返シ右ハ当方ノ案ナルカ自分ハ速ニ日本側ノ意向ヲ知リタル上輿論ノ指導及近ク開カルヘキ国際連盟ニ対スル準備ヲ進メル必要アルヲ以テ(一)日本側ノ新内閣ハ誠意ヲ以テ満州事件ヲ平和的交渉ニ依リ解決スル決心アリヤ(二)「イエス」ナラハ細目ノ点ハ兎モ角大体右御話ノ「ライン」ニテ直ニ直接交渉ニ入ル意向アリヤ至急承知シタキニ付日本政府ノ意向ヲ質サレ回答ヲ得ラルル様御配慮アリタシト述ヘタリ

依テ本官ハ御話ノ次第ハ早速政府ニ伝達スヘキ旨ヲ答ヘ置キタリ

支ヘ転電セリ

12　昭和7年1月8日　在北平矢野参事官より犬養外務大臣宛

下野問題をめぐる張学良の動静について

北平　1月8日付
本省　1月20日着

機密第一六号

昭和七年一月八日

在中華民国日本公使館
大使館参事官　矢野　真（印）

外務大臣　犬養　毅　殿

時局情報報告ノ件

本件ニ関シ昭和六年十二月二十八日諜者ノ齎ラセル情報左ノ通報告ス

一、張学良ハ元々蔣介石ト同時ニ下野ノ意思ヲ有シ居リタルモ十二月十五日飛行機ニテ赴京ノ途次済南ニテ蔣ノ辞職通電ニ接シタルヲ以テ即日同地ヨリ引返シ（電報報告済）同日付ヲ以テ副司令辞職通電ヲ発出セル次第ナルカ（十二月二十一日付往信公第九九三号参照）一方同夜順承王府ニ重要軍官会議ヲ召集シ下野ノ決意ヲ披露セル処万福麟、栄臻、于学忠、王樹常等ノ強硬ナル反対ニ遇ヒ殊ニ栄臻ノ如キハ東三省ハ東北軍ノ郷土ナルヲ以テ若シ外人ニ売却セムト欲セハ東北軍ニ於テ之ヲ為スヘク広東政府ヲシテ為サシムヘカラス現ニ広東政府部内ニハ内訌起リ東北派トシテハ山西派ト連絡シテ東三省回復ノ絶好機会ナル旨強硬ニ主張スル所アリタルヲ以テ張学良ノ態度改変スルニ至レル次第ナリ

二、張学良ハ態度改変後徐永昌、傅作義等ヲ通シ閻錫山、馮玉祥ト又蔡元、胡若愚等ヲ通シテ韓復榘ト提携合作シ更ニ蔣介石ト密接ノ連絡ヲ保チ居ルハ勿論ナリ斯クテ張、閻、馮、蔣、韓及何応欽、劉峙、何鍵、宋哲元、龐炳勛等ノ間ニハ対日及対広東計画ニ関シ提携ノ気運漸次醞釀シ居レリ

三、十二月二十五日張学良ハ順承王府ニ徐永昌、傅作義及張宗昌、馬廷福等ノ退職軍官ヲ招宴セルカ同席上ニ於テ張学良ハ張、馬ノ二人及山東方面ニ於テハ石友三ノ起用方ヲ表示シ又呉佩孚、孫伝芳ノ許ニ人ヲ派シ其ノ出廬ヲ促ス等之等旧軍閥ノ起用モ遠カラス実現スヘク既ニ呉佩孚ヨリハ遠カラス来平スヘキ旨電報越アリタリ又閻錫山モ新年後来平スヘシト答ヘ来レリ

右何等御参考迄報告ス

本信写送付先　公使、哈爾賓、奉天、天津、済南、青島、漢口、上海、広東、南京

13　昭和7年1月11日　在上海重光公使より犬養外務大臣宛（電報）

一時帰朝について

上海　1月11日前発
本省　1月11日後着

第一二号（暗）

本使発在支各領事及香港宛電報

合第一一号

本使十二日発一時帰朝ス留守中ハ守屋書記官ノ名ヲ以テ便宜上通常通リ電公信ノ発受ヲナスヘキニ付御承知アリ度シ南京政府ニ対スル表面ノ交渉モ上村書記官ヲシテ便宜上行ハシムル筈

大臣ヘ転電セリ

14　昭和7年1月12日　在北平矢野参事官より犬養外務大臣宛（電報）

時局に関する張学良の記者への談話について

北平　1月12日後発
本省　1月12日後着

第一五号

十一日学良ノ新聞記者ニ対スル談話概要

一、北方政局ニ関シ種々謡言伝ヘラルルモ何レモ事実ニアラス九省連防説ノ如キモ事実ニアラス

二、外交ニ関シテハ予ハ奉天事変発生以来一切中央ノ意思ニ従ヒタルカ今ヤ先ツ日支間困難ナル局面ヲ打開スルヲ要ス

三、財政整理政治公開ノ見地ヨリ北平ニ三委員会ヲ設ク北平政務委員会ハ東北政務委員会ヲ移転シ組織ヲ拡大セルモノニテ東三省ノ外河北、察哈爾、熱河ヲ管轄スルコトトシ山西ヨリ徐永昌、趙戴文、楊愛源等委員トシテ加入ス又財政委員会ハ既ニ成立シ軍事委員会ハ近ク成立スヘシ

北方目下ノ財政状態ハ山西、綏遠ヲ合シテ毎月約二百五十万元ノ不足ナルヲ以テ経費四割減額トシ軍隊モ一連二百十人ヲ百二十人ニ改メメリ政費ハ中央ヨリノ補助月額五十万元ハ三ケ月来送付ナキ為月額約百万元ノ不足ナルカ右中央ノ補助金送付ヲ得ハ略々収支償フヘシ

四、予個人ノ進退ニ付蔣主席辞職当時南下シテ辞職ヲ乞ハントセルモ果サス其後モ時局一段落ヲ俟ツヲ要ストナスモノアリタルヲ以テ予モ之ニ従ヘリ

五、最近呉佩孚将軍ハ既ニ甘粛ヲ出発シ或ハ来平スヘシトノコトナルヲ以テ予ハ代表ヲ綏遠ニ派シ置ケルカ予ハ此先輩ヨリ師教ヲ乞ハントスルモ実際上ノ干渉ハ希望セス其他

北方在住ノ元老ニ対シテモ夫々人ヲ派シ教ヲ乞ハントス
公使ヨリ上海ヘ転報アリ度シ
公使、南京、漢口、広東、青島、済南、天津、奉天、哈爾賓ニ転電セリ

15　昭和7年1月12日　長警視総監より中橋内務大臣、犬養外務大臣宛

南京より帰来後の萱野長知の言動について

1月12日付
1月13日着

外秘第四六号
昭和七年一月十二日
警視総監　長延連

内務大臣　中橋徳五郎殿
外務大臣　犬養毅殿

南京帰来邦人ノ言動ニ関スル件

住所　市内芝区愛宕下町四ノ三八番地
萱野長知
当六十一年

右者渡支ニ関シ旧臘二十二日外秘第三、三八六号既報ノ処其ノ後本名ハ南京国民政府ノ近情ヲ視察シタリト称シ一昨十日東京駅著帰宅セルガ時局ニ関シ左ノ談ヲ為シタリ、御参考迄

一、犬養首相ノ特使ニ非ス

余ハ昨年十二月十五日犬養首相ヲ其ノ私邸ニ訪ヒ国民政府ガ広東系ニ依リテ組織セラレ之カ要人中ニ相当知己有ルヲ以テ政情視察ニ赴ク旨述ヘテ首相ノ対支意見ヲ求メタルニ首相ハ帝国政府ノ対支政策ニ何等変更ヲ有セストノミニテ多クヲ語ラレサリキ、依ツテ余ハ個人トシテ渡支シタルニ余ヲ犬養首相ノ特使ノ如ク伝フルモノアルハ観察ヲ誤レルモ甚ダシト云フヘシ、何トナレバ現ニ民国ニ重光公使駐在シテ国交上ノ問題ヲ処理シ居ル以上何等特使ノ要ナキニ非スヤト

二、国民政府ノ政情

㈠伍朝枢等ハ新政権容認、直接交渉希望

余カ渡支ノ旧臘二十三日頃ノ南京ハ排日熱盛ニシテ街頭ノ各所ニハ排日宣伝ビラ貼付セラレ居タリ、此ノ真只中ヲ国民政府外交部ニ陳友仁ヲ訪問シタルニ林森其

ノ他ノ要人等ハ何レモ余ヲ歓待優遇セリ、此際満州問題ニ関シ伍朝枢等要人ノ意見ヲ聴キタルニ「満州ニ於テハ日本政府後援ノ下ニ樹立スル新政権ヲ認メ国民政府トシテハ民国統一上満州問題ニ関シ日本ト直接交渉ヲ開始シ度シ」トノ意見アリタリ

㈡現国民政府ノ基礎薄弱

現国民政府（広東系）ハ兵力モ権力モ不充分ナルノミナラス、財政的ニモ甚シク窮乏シ現ニ内国債ニ依リ政費ヲ支弁セント目下上海ノ有力実業家等ト交渉中ノ状況ニ在リ、今後財政及兵力ノ充実カ可能トナレバ現状ヲ維持シ得ルモ否ラサル時ハ容易ノ業ニアラサルベシ

㈢対日好転機ヲ窺フ

学生ノ排日運動ハ益々熾烈ヲ加ヘツツアルガ現国民政府ハ対日好転機ヲ得ント焦慮ノ状況ニアルヲ以テ学生等ノ運動ハ問題トナラサルベシ、現政府ガ対日交渉ノ好機ヲ窺ヒ居レルコトハ余ヲ歓待シタル事実ニ照シ明瞭ナリト信ス、斯ク考ヘ来タル時現国民政府要人ノ対日感情ハ頗ル緩和シツツアリト認メラル

右及申（通）報候

16　昭和7年1月13日　在北平矢野参事官より犬養外務大臣宛（電報）

張学良の下野問題に関する商震の内話について

北平　1月13日後発
本省　1月13日後着

第一七号（暗）

張学良ノ下野問題ニ関シ十三日商震カ極秘トシテ原田ニ為セル内話

一、学良ノ下野説カ夙ニ喧伝セラルルニ拘ラス一向其ノ実現ヲ見サルハ主トシテ部下将領ノ引留ト軍隊ヲ譲リ渡ス適任者無キ為（部下将領ハ張下野ノ場合蔣介石以外ニハ絶対服従セサル旨ノ決心ヲ表示セリ）ニシテ学良個人トシテハ彼ノ性格ニ照スモ寧ロ速ニ此ノ難局ヲ去リ外遊ノ閑日月ヲ欲シ居ルカ如シ

二、東北派ノ旧派中張作相、万福麟等ハ仮令胸中反張ノ意ヲ有スルモ自己軍隊ヲ関内ニ有セサル為何等積極行動ニ出テ難ク又湯玉麟依然不即不離ノ態度持続ニ変化無キカ如シ

三、閻、馮及韓ノ態度ヲ観ルニ閻ハ武器、兵力、軍費ヲ欠

キ馮ハ自己ノ軍隊ヲ有セス韓ハ河南一帯ニ在ル蔣直系軍隊ヲ憚リ従テ右三者ハ一味反張ノ挙ニ出テ難キ情勢ニアリ他方南京乗込前学良ニ対シ強硬意見ヲ表示セル広東派ハ南京ニ入ルヤ表面閻馮ト合作ヲ保持シツツ内面学良ノ強硬態度ニ一驚シ却テ学良ノ意ヲ迎フルニ汲々タルニ至リ（往電第一五号参照）（一四文書）近ク更ニ陳公博ヲ表面ハ訪問ニ装ヒテ学良ノ許ニ差遣スル等ノ醜態ヲ演シツツアリ

四、右ノ如ク学良ノ地位ハ外間ノ風説ニ似ス安定ノ観アル処蔣介石ハ満州問題ニ対スル国民一般ノ反感及外交上ノ関係（日本ヲ指ス）ヨリ学良下野ノ必要ヲ痛感シ曩ニ四全大会ノ際自分（南）ノ意見ヲモ求メタル上直ニ熊式輝ヲ派シ学良ニ対シ東北軍ハ蔣ニ於テ収編スヘキニ付下野方因果ヲ含メタルカ偶々南京政変ニ依リ蔣ノ奉化行トナリタル為遂ニ有耶無耶トナレル経緯アリ目下孫科等ハ極力蔣汪ノ出廬方運動中ノ処蔣復活ノ上ハ自然学良下野問題モ解決スルコトトナルヘシ

公使ヨリ上海ヘ転報アリタシ

公使、南京、漢口、広東、青島、済南、天津、奉天、哈爾賓ヘ転電セリ

17　昭和7年1月13日　在天津桑島総領事より犬養外務大臣宛（電報）

張学良下野策実行方について

天津　1月13日後発
本省　1月13日後着

第一七号（暗）

学良ハ最近作相ヨリ四囲ノ環境面白カラサルニ付速ニ引退方然ルヘキ旨勧告アリタルモ之ヲ退ケ却テ日本ニ謝罪ノ上東三省ニ復帰シ度キ旨ヲ洩ラセリトモ伝ヘラレ其他各般ノ情報ヲ綜合スルニ其態度ニ著シク落着キヲ見セ来レルカ如ク錦州軍撤退後寧ロ其地位固マルヤニ観察スル筋アリ其原因トシテ

(一)南京政府トハ内密適当ニ連絡ヲ為シ居ルモ其基礎薄弱ニシテ永続キセサル見極メ付キタルコト（汪精衛ハ病気恢復覚束ナシトモ称セラル）

(二)蔣介石トノ連絡依然鞏固ナルコト

(三)反学良派ヲ操リ相当有効ニ食止メ得ル見込アルコト

(四)日本トノ間ニ何等諒解成立シタルコト（北平宛客年貴電第一二九号末尾ヲ指スニ非スヤトモ考ヘラル）（一一五—一四四文書）

等挙ケラレ居ル処又之トハ反対ニ

(一)関内撤退ハ栄臻ノ我方ニ対スル内応ニ依ルモノニシテ撤退部隊中ニモ反学良熱旺ンナルコト

(二)其ノ他ノ東北軍ニモ兵変ヲ企図シ居ルモノ鮮カラサルコト

等ノ情報モアル処東北軍内部瓦解ハ夙ニ喧伝セラレナカラ今尚実行ノ一端ヲモ見サル情勢ヨリ察スルニ学良ノ地位ハ左程動揺シ居ラス而モ往電第六九八号ノ如ク河北政治軍事委員会成立シ学良ニ於テ表面上ノ責任ヲ免レ実権ヲ把持シ得而モ蔣介石ト相呼応シ画策中ナル反中央的策動成功スルニ於テハ東北ノ東北軍ヲ基礎トスル彼ノ勢力ハ愈々鞏固トナリ将来我カ満蒙政策ニ対シ不断ノ脅威ヲ与フルノ虞多分ニ存スル筋合ナルニ付我方トシテハ成ルヘク速ニ彼ニ代ツテ親日乃至ハ我満蒙政策ニ理解アル政権樹立セラレンコト満蒙問題ノ最後交渉ヲ有利ニ導ク上ニ於テモ肝要ト存セラルル処往電第七一一二号ノ如ク果シテ我実力行使ニ依ル彼ノ下野困難ナル以上ハ我方ニ於テ彼ノ所属軍隊ノ背反若ハ我方ト相通スル思想団体ヲ背景トスル実力者ニ対シ無形的或ハ進テハ物質的支持ヲ与フルコト多少内政干渉ノ嫌アルモ（一一五—一四三文書）

此際已ムヲ得サル措置ニシテ而モ刻下其ノ時機ニ到来セルヤニ認メラル右ハ政府当局ニ於テモ御考究ノコトトハ存スルモ卑見開陳ス

公使、北平、奉天ニ転電セリ

18　昭和7年1月15日　在南京上村領事より芳沢外務大臣宛（電報）

満州事変処理に関する政府の内意回示方について

南京　1月15日前発
本省　1月15日後着

第三五号（暗、極秘）

往電第一四号ニ関シ（一一文書）

其後甘介侯ヨリ回答ノ催促ヲ受ケタルコトアリタルカ本官ハ政府ノ御意向ニ付テハ何等承知スル処ナキニ依リ已ムナク或ハ犬養総理ニ於テ芳沢大使ノ帰朝ヲ待ツテ決定セントセラレ居ルカ為メ本件回答ノ発出遅延シ居ルモノカトモ思ハルル旨ヲ述ヘ先方ニ於テ早急ノ回答ヲ期待セサル様押ヘ置キタル経緯アル処最近外交部ノ外部ニ対スル発表ハ五日陳部長ノ開陳セル意向トハ全然相反スルモノ多ク右カ単ナ

ル宣伝ニ過キサルモノナリヤ将又方針ヲ変更シタルモノナリヤ判明セス去リトテ本官トシテモ政府ノ御意向ヲ全然承知セスシテ部長ト会見スル訳ニモ参ラス誠ニ困リ居ル次第ニ付此際政府ノ御内意丈ナリトモ御回示ヲ得ハ好都合ナリト存セラル

在支公使ヘ転電セリ

19　昭和7年1月(16)日　在上海守屋(和郎)臨時代理公使より芳沢外務大臣宛(電報)

国民政府内各種対日策に関する陳中孚の内話について

上海　本省　1月16日後着

第一九号（暗）

十六日朝南京ヨリ帰来セル陳中孚ノ話ナリトテ山田ノ当館員ニ語ル処ニ依レハ南京政府部内ニテハ十三、十四両日ニ亘リ三回対日策ヲ議セシカ多数ハ強硬論者ニシテ日支国交断絶ヲスラ主張スルモノアリ其ノ中ノ多クハ唯単ニ強ガリヲ言フニ過キス慎重態度ヲ主張セルハ多クハ狡ヒ連中ニテ形勢ヲ観望セントスルモノナリ居正ハ終始穏健ナル主張ヲ持シ此ノ際成ル可ク速ニ日本ト直接交渉ヲ開始シ先ツ満州問題ヲ解決スルヲ要ス之カ為国民ノ攻撃ヲ受クルトモ支那将来ノ為得策ナリト主張セルカ居正カ日本ノ事情ニ精通セル点ハ常々一同ノ尊敬ヲ受ケ居ルモ日本カ山海関以内ニ兵ヲ進メサルコト明カトナレハ直接交渉ヲ開クコトモ宜シカランモ日本ハ今ヤ熱河ヲ侵サントシ更ニ北平、天津迄モ侵入シ来ルヤモ計ラレス日本軍部ノ決心ヲ明カニシタル上ニアラサレハ直接交渉ハ不可能ナリト云フモノ多ク結局此ノ点ヲ取調フルコトトナレリ陳友仁ハ日本ノ主張スル基本五ケ条ハ此ノ際承認シテ直接交渉ニ入ルモ差支ナク実ハ重光公使ニ其ノ意ヲ伝ヘンカト思ヒシモ目下自分（陳）ニ対スル国民ノ攻撃甚タシキ為差控ヘ居ル旨ヲ報告シタル処一同ハ基本五ケ条ナルモノノ意味充分ニ明カナラス之ヲ研究スルノ要アリトシテ結局何等具体的決定ヲ見ス更ニ討議スルコトトシテ散会セル趣ナリ尚政府部内ニテモ陳友仁ヲ呼フニ売国奴ヲ以テシ彼ノ別名ト為シ居レリトノコトナリ

（編注）本電報は、一月十八日に在パリ沢田連盟事務局長、在米国出淵大使に転電された。

20　昭和7年1月18日　在上海守屋臨時代理公使より
※芳沢外務大臣宛（電報）

陳中孚の満州独立問題に関する日本陸軍の真意打診について

上海　本省　1月18日後発
1月18日後着

第二三号（暗、至急、極秘）

重光公使(1)ヘ左ノ通

十八日田中(隆吉)少佐ノ談ニ依レハ同日陳中孚同武官ヲ訪ヒ孫科居正ノ代表ナリト前提シ去ル十三、四両日ノ国民政府ニ於ケル対日策会議ニ於テハ大勢対日国交断絶説ニ傾キ殊ニ外交部側ハ極力強硬説ヲ主張シ（陳友仁、陳銘枢、朱培徳、何応欽、孫科等強硬論者）事態極メテ重大ナリシヲ以テ兎ニ角今一応日本側ノ真意ヲ確メタル上方針ヲ決定スルコトトシ陳ヲ代表トシテ来滬セシメ広東政府独立以来同人ト関係アリシ田中少佐ヲ訪ヒ日本軍部ノ真意ヲ確メシムルコトトナリシ事情ヲ告ケタル上支那側ハ陳ノ復命ヲ待チテ何分ノ決意（ヲ）為スコトトナリ居ル次第ニテ若シ日本カ満州ヲ支那ノ一部トシテ今後ノ処分ヲ講スルニ於テハ南京政府ハ広東政府以来執リ来レル方針ニ基キ日(2)本トノ交渉ヲ進ムヘキモ若シ満州ノ独立宣言セラルルニ於テハ其時期ニ於テ南京政府ハ直ニ対日国交断絶ヲ宣言スルコトニ決定シ居レリト述ヘテ田中少佐ノ回答ヲ求メタリ右ニ対シ同少佐ハ一応中央軍部ニ問合セタル上何分ノ返答ヲ為スヘシトテ陳ヲ引取ラシメタル趣ナリ（萱野ハ帰国後南京政府要人ニ対シ日本軍部ノ意向ハ極メテ強硬ニシテ満州ノ独立ハ免レ難キ旨報道シ来リ居ル模様ナリ）陳ハ十九日夜行ニテ上海ヨリ南京ニ赴キ廿日ノ国務会議ニ列スル積リニテ田中少佐ノ回答ヲ待チツツアル関係モアリ右陳申出ノ次第ハ田中少佐モ軍部ヘ至急請訓中ナル由ナルカ本件ニ関シ本官トシテ心得置クヘキ点アラハ至急御回示ヲ請フ

北平、南京、奉天ヘ転電シ上海ヘ転報セリ

21　昭和7年1月18日　在上海田代公使館付武官より真崎参謀次長宛（電報）

満州独立問題に関し軍部の意向照会方陳中孚よりの申出につき回答振りについて

1月18日後7時43分発
1月18日後9時6分着

支第一六九号（其一―四）極秘

本十八日午前陳中孚ハ孫科及居正ノ使者ナリトテ特ニ小官ニ会見ヲ求メ次ノ如ク語リ至急回答ヲ求メタリ

「現南京政府ハ成立当初ヨリ満州問題ノ解決ヲ以テ其重要政策ノ一トシテ之カ実行ヲ期シ居タル所偶々萱野ノ来京ニ依リ犬養総理ノ意志モ亦南京政府ト同一ナルコトヲ知リ大ニ喜ヘリ然レトモ彼ノ帰京後同人ヨリ外務方面ハ兎モ角軍部方面ノ意志ハ満蒙独立ニ在ルコト並其意志ハ極メテ確乎タルモノアルコトヲ電報シ来レリ夫レ迄ハ売国奴ノ汚名ヲ着セラレツツモ一縷ノ望ヲ嘱シ来レル孫科及陳友仁等モ萱野ノ報ヲ得テ俄然態度硬化シ対日国交断絶ヲ絶叫スルニ至リ十六日ノ政治会議ニ於テハ殆ント其通過ヲ見ントセリ茲ニ於テ自分並ニ居正ハ孫科ニ対シ其暴挙ヲ忠告シ今一度上海ニ到リ広東政府独立以来関係アリシ小官ニ日本軍部ノ意志カ何レニ在リヤヲ確ムヘク夫レ迄国交断絶ノ決議ヲ延期セラレ度シト述ヘ孫科亦意ヲ翻シテ小官ヲ当地ニ派遣セル次第ナリ満州問題ハ独立以外ノ手段ナラハ如何ナル条件ノ下ニモ解決ニ応スヘキモ若シ独立ヲ断行セラルルニ於テハ遂ニ不幸ナル国交断絶ヲ招徠スルノ已ムヲ得サルニ至ルヤモ知レス日本ノ真意ハ果シテ何レニ在ルヤ若シ満州独立ヲ断行セラルルナラハ居正並自分等モ国交断絶ニ同意セサルヲ得ス日本ノ方針ヲ承知シ度シ」ト之ニ対シテ小官ハ公使館ニ林出書記官ヲ訪問シ如何ニ回答スヘキヤ小官トシテハ「独立ノ方針ナリ」ト答ヘ国交断絶ニ導クヲ有利トセスヤト申シ入レタルニ林出書記官ハ事重大ナルヲ以テ本省ニ意見ヲ問合セタル上回答シタシト述ヘタリ、小官トシテハ如何ニ回答スルヲ可トスルヤ至急指示セラレ度尚此回答ハ陳カ明十九日午後十一時ノ列車ニテ南京ニ帰ルヘキニ依リ明日中ニ返電ヲ乞フ

22　昭和7年1月18日　芳沢外務大臣より在南京上村領事宛（電報）

陳外交部長の不侵略協定締結申出に対する回答振りについて

本省　1月18日後5時発

第一号　暗、極秘

満州事変解決陳友仁申出ノ件

貴電第三二五号（一八文書）ニ関シ

貴電第一四号（一一文書）陳友仁申出ハ近時ニ於ケル我国論ト相当ノ懸隔アルノミナラス南京政府ノ地位甚タ不安定ナル現状ニモ顧ミ我方ニ於テ差当リ殆ト問題トシ居ラサル次第ナルモ右我方態度ヲ明ラ様ニ先方ニ示スコトノ面白カラサルハ勿論ナルニ付貴官ハ必要ニ応シ本邦ニ於テハ内閣更迭、新外相就任、議会開会切迫等ノ事由ノ為メ何彼ト取込ミ居ルコト思考スル処目下帰朝中ノ重光公使ハ本件ニ付テモ本国政府ト篤ト協議スルコトトナルヘシ位ノ趣旨ニテ不即不離ノ応酬ヲ為シ置カレタシ

守屋書記官ニ転報アリタシ

23　昭和7年1月18日　在北平矢野参事官より芳沢外務大臣宛

東北軍の軍費支給状況について

北平　1月18日付
本省　2月5日着

公第二六号

昭和七年一月十八日

在中華民国日本公使館
大使館参事官　矢野　真（印）

外務大臣　芳沢謙吉殿

東北軍軍費ニ関スル件

曩ニ張学良カ東北政務委員会ヲ改組シテ其ノ下ニ財政整理委員会ヲ設置セルコトハ客年十二月三十一日付往信公第一〇一〇号ヲ以テ及報告置キタル処諜者ノ報告ニ依レハ右ハ全ク満州事件後極度ニ窮乏セル軍費問題解決ノ為ニシテ殊ニ錦州陥落後ハ同地方ヨリ撤退セル東北軍ノ軍費ヲモ関内ニテ調達セサルヘカラサルコトトナリ即チ従来河北省内東北正規軍及雑色軍ノ軍費ト合計スルトキハ一律ニ六割宛支給スルトシテモ一ケ月尚約四百七十万元ヲ要スルコトトナリ之カ措置ニ窮スルニ到レルカ財政委員会ハ本件ニ関シ屢次討議ノ結果大要左ノ如ク決定シ已ニ秦華ヲ南京ニ派シテ今後国税ハ一切南京政府ニ送付セサルコトニ付承認ヲ取付中ナリ一方財政特派員公署ニ於テモ最近税収ノ激減ニ依リ斯ノ如キ巨額ヲ負担シ難ク同方案カ果シテ能ク実行セラルルヤ疑問ニ属スル由

一、如何ナル軍隊タルヲ問ハス毎月規定額費ノ六割ヲ発給スルコト

二、左記各機関ニ共同調達方ヲ指令スルコト

甲、河北財政特派員公署　二百五十万元

但シ従来同公署ヨリ支出中ナリシ教育経費及其ノ他種種ノ費用ハ全部之ヲ取消スコト

乙、河北省財政庁　百五十万元

丙、察哈爾省財政庁　二十万元

丁、綏遠省財政庁　十万元

戊、北平、天津両市財政局及其ノ他独立ニ収入ヲ有スル機関ヨリ五十万元

三、前記各機関ハ毎月三十日迄ニ各定額ヲ北平綏靖公署ニ送付シ同公署ヨリ各軍隊ニ配布スルコトトシ各軍直接ニ徴収スルヲ得ス

四、北平綏靖公署ノ経費ハ北寧鉄路局ニ於テ負担ス

五、順承王府ノ費用ハ平綏鉄路局ヨリ毎月十万元ヲ支出シテ之ニ充当ス

右何等御参考迄報告ス

本信写送付先　公使、上海、哈爾賓、奉天、天津、済南、青島、漢口、吉林、広東、福州、香港、長春、牛荘、南京、張家口、関東長官

24　昭和7年1月19日　在上海守屋臨時代理公使より芳沢外務大臣宛（電報）

陳中孚への回答および不測の事変発生に備え南京領事館の警戒方について

上海　1月19日後発
本省　1月19日後着

第二六号（暗、至急、極秘）

本官発南京宛電報

第七三号（二〇文書）

大臣宛往電第二三号ニ関シ

本件ニ付田中輔佐官ヨリノ請訓ニ対シ十九日軍部ヨリ「返答ノ限ニ非ス」トノ回訓アリタル趣ニテ右ノ次第ハ既ニ陳中孚ニ回答済ナリ従テ二十日貴地国務会議ニテ少クトモ支那側態度一応決定ヲ見ルヘク他方上海発大臣宛電報第四二号事件ニ対スル当地一般ノ憤激甚シキモノアリ当方面ノ日支関係ハ著シク緊張味ヲ増シツツアリ旁々時ニ貴地ハ不測ノ事変発生ノ虞無シトセス支那側不羈ノ団体中ニハ既ニ貴館焼打ノ手筈モ定マリ居レリトノ噂サヘアリ此ノ際一層ノ警戒ヲ加ヘラルル要アルヘク御真影始メ貴館員及機密書類ノ保善処置乃至避難手配ハ早目ニ準備シ置カルル要アルヤニ認メラル為念

大臣、北平、奉天ヘ転電シ上海ニ転報セリ

25　昭和7年1月(19)日　在天津桑島総領事より芳沢外務大臣宛（電報）

対日国交断絶問題に関する大公報の論評について

第二九号（暗）

対日国交断絶説ニ関シ十七日大公報ノ論評左ノ通リ

事ノ是非ヨリハ能不能カ問題ナリ日支通商条約ハ民国十五年ヲ以テ満期トナリ支那ハ日本ニ対シ十七年ヨリ無条約国ニ対スル臨時弁法ヲ当然適用スヘキニ拘ハラス日本ノ反対ニ依リ之ヲ実施セス現在尚法理上無効トナレル条約ヲ援用シツツアリ今ヤ対日絶交宣布ヲ云々スルモ之ヲ貫徹スル為公使、領事ノ退去租界ノ接収ヲ強制執行スル方法ノ準備アリヤ又絶交ノ上ハ事実上交戦状態ニ入ル処支那ノ現状ニテハ戦争ハ不可能ナルノミナラス却テ日本ヲシテ各地ニ於テ事ヲ醸サシムルノ利便ヲ与ヘ而モ其責任ハ支那ニ帰スルニアラスヤ宣戦ノ意ナクシテ絶交ヲ論スルハ余リ疎漏ナリ或ハ露国トノ提携ヲ主張スルモノモアルヘキ処露国ハ日本ニ対シ相互不可侵条約ヲ提議シ居リ何ソ日支闘争ノ渦中ニ投センヤ吾人ハ依然九ケ国条約ト連盟ニ縋ルト共ニ全国ノ智力ヲ集中シ遠大ナル国策ヲ決シ先ツ内政ノ充実ヲ計ルヘキナリ国民及政府ニ切望ス

支、北平、南京ヘ転電セリ

26　昭和7年1月20日　在上海守屋臨時代理公使より芳沢外務大臣宛（電報）※

満州独立問題に関し国民政府部内における強硬論について

上海　1月20日後発
本省　1月20日後着

第二七号

重光公使ヘ

廿日山田ノ語ル所ニ依レハ十九日居正来滬シ山田ヲ訪ヒ南京政府内部ニ於ケル強硬論有力ニシテ同人ハ極力之カ緩和ニ努メ来リシモ昨今満州独立実現ノ模様見ユル為一層強硬論ヲ煽リ此分ニテハ対日国交断絶宣言迄押進ムヨリ外無キ状態ニアリ孫科ハ国交断絶ニ伴フ支那ノ蒙ルヘキ損害ノ大ナルヲ憂慮シ之カ阻止ニ努メシモ力及ハス若シ満州独立セハ其機ニ於テ国交ヲ断絶スヘシトテ一時ヲ糊塗セシモ孫科

居正等ノ力ニテハ大勢ヲ動カシ難キヲ知リ恥ヲ忍ヒ膝ヲ屈シテ孫科自ラ杭州ニ赴キ蔣介石及汪精衛ノ入京ヲ促シ同人等ノ力ヲ借リ大局ヲ維持セント苦心シツツアル次第ナリト語レル趣ナリ

又十九日陳中孚ノ談トシテ山田ノ内報スル所ニ依レハ曩ニ同人等ハ萱野ノ言ヲ信シ満州接収委員迄モ内定セル次第ナルカ満州独立説伝ハリ同人等ハ政府部内ノ攻撃ヲ受ケ全ク立場ヲ失フニ至レリ若シ蔣介石、汪兆銘等入京セハ過般萱野ニ接近セシ居正一派ハ南京ニ留ル事能ハサルニ至ルヘシ

又広東政府独立当時ヨリ張学良部下ノ六ケ旅団ノ各団長ヲ代表セル使者広東ニ来リテ之ト接触ヲ保チ居リシカ同代表ハ目下上海ニ在リテ引続キ広東派ニ接近シツツアリ然ルニ最近ノ情報ニ依レハ北方ニ於テハ孫伝芳又ハ段祺瑞ヲ中心トシテ平津地方独立運動計画セラレツツアル模様ナルカ広東派ハ南京政府内ニ於テ将来勢力ヲ維持シ難カルヘキヲ察シ右六旅団長ト連絡シテ北方ノ独立ヲ計画シ広東ト呼応シテ南京ヨリ独立セハ南北双方ヨリ南京政府ヲ圧シテ再ヒ勢力ヲ回復シ得ヘク右南北ノ独立実現セハ満州独立ノ国民ニ対スル刺戟ヲ和クヘク然ル後日本ト満州問題解決ヲ為ス事好都合ト思ハルルモ右六ケ旅団ヲ動カスニハ少クトモ一旅ニ対シテ三十万元ヲ要シ全体ニ於テ約三百万元ノ運動費ヲ要スル為此点ニ苦心シツツアリト語レル趣ナリ

北平、奉天、南京ヘ転電シ上海ヘ転報セリ

27　昭和7年1月21日　在杭州米内山(庸夫)領事代理より芳沢外務大臣宛（電報）

蔣介石の対日方針演説要領について

杭州　1月21日後発
本省　1月22日前着

第一四号（暗）

蔣介石[1]カ本月十一日奉化ブリヨウ学校記念週ニ於テ為セル対日方針ニ関スル演説筆記本日当地国民党機関紙民国日報ニ発表セラレタリ要領左ノ通

一、最近対日宣戦又ハ絶交ヲ云フ者アルカ之（カ）実行ニ当リテハ実力ヲ考慮セサルヘカラス若シ日本ニ絶交宣戦ノ口実ヲ与ヘナハ三日以内ニ沿海各地及長江流域ハ占領セラルヘク我国ハ屈服スルヨリ外無カルヘシ故ニ責任ノ地位ニ在ル者ハ実際ノ力量利害ヲ計リ国家ヲ孤注一擲ニ置クヘカラサルナリ

二、日本ハ戦ツテ宣セサルノ方式ヲ執リツツアリ我モ此方法ヲ執ル可シ国家間ノ抗争ハ僅ニ軍事動作ニ限ラス国民経済ノ断交モ亦一ノ抗争方式タリ民間ノ愛国心ニ基ク自動的経済絶交ハ即チ国民間ノ絶交ニシテ政府ノ干渉シ能ハサル所ナリ

三、絶交ト宣戦ハ中国ヨリ之ヲ為スヘカラス局ニ当ル者ハ個人一時ノ栄辱ヲ以テ念ト為サス国家及民族ヲ重シトナスヘク余ハ過去一切ノ事業ト歴史ヲ擲テモ我国家ト民族ノ利益保存ニ努ムヘシ

四、[2]国人中国際連盟カ充分制裁ノ能力ナキヲ以テ之ヲ脱退スヘク又同時ニ日本トノ直接交渉ニモ反対スルモノアルカ之ハ矛盾ノ甚タシキモノナリ中国ハ独立国家ナルヲ以テ当然直接交渉ノ資格アリ然ルニ直接交渉ニ依ルヲ不利トシテ連盟ニ訴ヘナカラ更ニ又連盟ヲ脱退セントスルハ誠ニ不可解ト云フヘシ之少数ノ外交ヲ内争ニ利用セントスルモノノ所為タリ予ノ意見トシテハ政府ハ明カニ外交方針ヲ定メ責任ヲ負フテ問題ノ解決ヲ計ルヘク同時ニ又日本ノ朝野ヲシテ其ノ軍閥ノ暴行ヲ制止セシムルコトヲ努ムヘキナリ

五、我カ政府ノ外交方針トシテハ対日絶交及宣戦ヲ除ク外ノ方法ヲ以テシ国権ヲ損セサルコトヲ目的トスヘク引続キ連盟ニ訴フルモ可ナリ九国条約及不戦条約ニ訴フルモ可ナリ又主権ヲ損セサル範囲内ニ於テ日本ト交渉スルモ可ナリ一面交渉シ一面連盟ニ訴フルモ不可トセス

六、要スルニ国民ハ政府ヲ信任シ政府ノ外交政策ヲ擁護シ政府カ如何ナル方式ヲ取ルニセヨ之ヲ援助シテ自由運用ノ余地ヲ与フヘク唯一ノ要件ハ絶対ニ領土割譲ノ条約ヲ締結セシメサルコトナリ云々

支ヨリ上海ヘ転報アリタシ、支、南京ヘ転電セリ

28　昭和7年1月22日　在南京上村領事より芳沢外務大臣宛（電報）

対日国交断絶問題に関する顧維鈞の談話要領について

南京　1月22日後発
本省　1月22日後着

第五九号

二十一日津浦線ニテ南下シ上海ニ向ヘル顧維鈞ノ新聞記者ニ対スル談話要領左ノ通リ

(一)最近国内ノ輿論ハ対日国交断絶ニ傾キツツアル模様ナル

カ之カ実行ニハ内ハ軍事財政ヲ始メ一切ノ実力ヲ充実シ外ハ国際上ノ連絡接衝ヲ計ル要アリ此ノ準備アラハ絶交可ナルモ然ラサル限リ一時ノ憤激ニ駆ラレ万一ノ僥倖ニ頼ルカ如キ事アランカ絶交後ニ於ケル利害得失ハ予見シ難キモノアリ蓋シ国家ノ人格ハ素ヨリ考慮ノ要アルモ国家ノ生命ハ尚更保全ノ要アルヲ以テナリ

㈡対日絶交後或ハ国際形勢一変スヘシト云フモノアレトモ現在欧米列強ハ各自ノ困難ナル問題アリテ到底義侠ノ為ニ事ヲ醸ス余力無シ恰モ自宅出火ノ際隣家ノ盗難ヲ救ヒ得サルト同様各国ノ同情モ口先ノミナリ

㈢満州事件ニ関スル連盟ノ力ハ既ニ吾人ノ認識セル通リニシテ之レ以上望ム事ヲ得ス尤モ連盟トシテハ自ラノ威信ノ為実力無キ故ヲ以テ正義行動ヲ顧ミスト云フ訳ニハ行カス連盟ノ公平ナル処置ハ日本ノ服従ト否トニ拘ハラス其ノ責任ヲ果セルモノト云フヘク若シ日本ニシテ尚服従セサレハ日本ハ連盟ニ対スル義務ヲ履行セス正義平和ノ破壊者トシテ世界輿論ノ制裁ヲ受クルニ至ルヘシ

㈣連盟調査員派遣ニ関スル準備ニ付テハ予テ相当警戒シタル事アリ外交部モ対策ヲ用意シ居ルコトト思考スルモ自分カ右「アセサー」ヲ受諾スルヤ否ヤハ未タ決定シ居ラス支、北平、奉天ヘ転電セリ

29　昭和7年1月22日　芳沢外務大臣より在米国出淵大使、在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛（電報）

国民政府内における対日国交断絶論の擡頭について

別　電　同日芳沢外務大臣より在米国出淵大使、在ジュネーヴ沢田連盟事務局長宛合第一六〇号
陳中孚申出への対応ぶりについて

本省　1月22日後10時30分発

合第一五九号　暗、極秘

満州事変（南京政府対日国交断絶論）（二九文書）

在支公使館守屋書記官発本大臣宛電報第一九号ニ関シ

十八日陳中孚ハ孫科及居正ノ代表トシテ公使館付陸軍輔佐官田中少佐ヲ来訪シ最近満州独立ニ関スル日本軍部ノ決意固キ旨ノ情報ニ接シタル結果南京政府部内ノ対日論議益々強硬ヲ加ヘ十六日ノ政治会議ニ於テハ殆ト国交断絶ノ決議ヲ見ントシタリト述ヘ同政府トシテ若シ日本カ満州ヲ支那ノ一部トシテ今後ノ処分ヲ講スルニ於テハ広東政府以来執

リ来レル方針ニ基キ日本トノ交渉ヲ進ムヘキモ反之若シ満州ノ独立宣言セラルルニ於テハ直ニ国交断絶ヲ宣言スルニ決シ居リ居正等穏健論者ニ於テモ之ニ同意ノ外ナシトシ居ル処日本殊ニ軍部ノ真意如何ト訊ス所アリ又十九日来滬セル居正ハ山田ニ対シ此ノ分ニテハ国交断絶迄押進ム外ナキ状態ニ在リ孫科ハ断絶ニ伴フ支那側ノ損害大ナルヲ憂慮シ之カ阻止ニ努メシモ力及ハス若シ満州独立セハ其ノ機ニ於テ断絶スヘシトテ一時ヲ糊塗センモ自分等ノ力ニテハ大勢動シ難キヲ知リ恥ヲ忍ンテ孫科自ラ杭州ニ赴キ蔣介石及汪精衛ノ入京ヲ促シ其ノ力ヲ借リテ大局ヲ維持セント苦心シツツアリト語レル趣ナリ

前記陳中孚申出ニ関スル我方態度別電合第一六〇号（在支守屋書記官宛第二一号）ニテ御承知アリ度

（連盟宛ニハ「在欧各大使ニ転電アリタシ」ト付記ノコト）

（別　電）

本省　1月22日発

合第一六〇号　暗、極秘

満蒙独立説陳中孚申出ノ件

本大臣発在支守屋書記官宛電報第二一号

貴電第二三号及貴官発南京宛電報第七三号ニ関シ（二〇文書）（二四文書）

一、田中輔佐官ノ請訓ニ対スル軍部ノ回訓ハ当方ト打合ノ上発セラレタルモノニシテ其要旨ハ「満州問題ニ関スル帝国政府ノ態度ハ累次ノ声明等ニ依リ明ナリ又斯種問題ニ付テハ我軍部代表トシテ応接スヘキ筋合ニ非ス」ト云フニ在ル処右ハ支那側カ責任ノ地位ニ在ラサル人々ノ言説ニ惑ハサレ盲動シ居ルヲ戒ムルト共ニ斯種政治問題ニ付支那側責任者カ我軍部代表ニ「アップローチ」スルカ如キハ極メテ変則ノ遣口ニシテ軍部トシテモ迷惑至極ナリトノ趣旨ヲ表示セルモノナリ

二、満蒙ニ対スル帝国ノ要望ハ前記ノ如ク屢次ノ声明等ニ依リ極メテ明カナリ即チ我方トシテハ満蒙ニ対シ何等ノ領土的野心ナク且門戸開放機会均等主義ノ尊重ヲ期スルモノニシテ同地方カ治安ノ維持ト経済開発ニ依リ内外人安住ノ地タランコトヲ翹望スル外他意ナシ而シテ満蒙ニ於テ斯ル事態ヲ実現スヘキ政治組織ノ形態如何ハ専ラ支那人自身ノ決定スヘキ問題ナリ従テ目下東北地方ニ於テ省長連主唱ノ下ニ官民間ニ問題トナリ居ルヤニ仄聞ス

ル独立云々ハ恐ラク東北地方ト支那本部トノ従来ノ関係並東北人ノ南方人ニ対スル感情及其立場保全等種々複雑ナル事情ノ下ニ胚胎セルモノナルヘキ処日本トシテハ満州ニ於ケル其立場ニ顧ミ多大ノ関心ヲ有スルコト勿論ナルモ右独立云々ト云フモ支那ニハ有勝ノコトニテ果シテ如何ナル実質ヲ有シ如何ナル程度ノモノナリヤ我方トシテハ何等適確ノ情報ヲ有セサルト同時ニ彼此レ関与スヘキ筋合ニアラサル次第ナリ

三、就テハ叙上ノ趣旨御含ノ上今後必要ニ応シ陳中孚其他適当ノ向ニ対シ篤ト右我方ノ立場ヲ説明セラレ万一支那側ニシテ勢ニ駈ラレ条理ヲ顧ミス我方ニ対シ国交断絶等ノ過激手段ニ出ツルコトアランカ其ノ結果ハ支那側ノ予期ニ反スルモノアルヘキト同時ニ之ニ基ク其責任ハ総テ支那側ノ負フヘキモノナルコトヲ説示シ置カレ度

（寿府連盟宛ニハ「在欧各大使ニ電報アリタシ」ト付記ノコト）

30　昭和7年1月26日　在北平矢野参事官より芳沢外務大臣宛（電報）

張学良下野実現の具体策について

北平　1月26日後発
本省　1月26日後着

第四一号（暗、極秘）

一、(1) 事件以来学良ハ直接ノ責任者トシテ国民ノ信望ヲ失ヒ反学良気分当地方ニ濃厚ナルカ彼ハ大軍ヲ擁シテ財政的ニモ非常ニ窮境ニ在リ又部下ノ将領中叛意アルコトヲ風評セラレ居ルモノモアリ且最近錦州撤退、給料不渡等ニ依リ部下ノ不平甚シク時ニ兵変ノ噂サヘアルモ厳重ナル戒厳ノ実施ニ依リ今日迄僅ニ事ナキヲ得居ルカ如キ状態ナリ又彼ハ南京政府トモ実質上無関係ニテ従来ノ如ク有形無形ノ補助ヲ同政府ヨリ期待シ難ク加フルニ韓復榘、閻錫山等ニ対シ腹背ヲ顧慮セサルヲ得サル立場ニ在ルヲ以テ人ヲ派シテ款ヲ両者ニ通シ其積極的反張ノ表示ヲ喰止ムルコトニ努メ三委員会ヲ急造セルモ何等実績ノ見ルヘキモノナク又当地方実権者トシテ自然外国公使殊ニ英国公使ト親交アルコトヲ利用シ政治的ニモ英、米、仏諸国ト特別ノ関係アルカ如ク言ヒ振ラシテ自己ノ窮状ヲ隠蔽シ密ニ蔣ノ出馬ヲ待チテ河北現在ノ地盤ヲ確保センコトヲ企図シ居ルカ如キモ蔣トシテハ今日ニ於テハ内政的ニモ学良ヲ邪魔者視スヘキノミナラス外交上ハ彼カ当地方ノ実権者タルコトハ日本トノ直接交渉ノ障碍タルノ見地ヨリ之ヲ喜ハサルモノトモ見ラレ支那ノコト故将来ヲ予想スルコト困難ナルモ現在ノ情勢ヨリ推セハ彼ノ失脚ハ最早時期ノ問題ナルカ如シ

二、(2) 彼ハ目下ノ難局ニ当リ時ニハ下野ノ意アルコトヲ側近ニ洩ラシ又時ニハ蔣ト勾結シテ河北ニ居据ランコトヲ企ツルカ如キ優柔不断ニシテ現ニ先般錦州撤兵ヲ勧告シタル際ニモ口ニ親日ヲ標榜スルモ依然トシテ駆引ニ駆引ヲ重ネ其間何等カノ奇貨ヲ希望スル風ニ見エ未タ自己ノ地位ヲ悟ラサルカ如ク対日関係ニ於テハ周囲ノモノ一部ノ浪人等ニ誤ラレテ極メテ皮相ノ見解ヲ抱キ日本軍部トハ交渉ノ余地ナキモ満州ニ関スル日本側ノ希望ヲ容ルル決心アルコトヲ表明シテ日本政府若ハ政界ノ有力者ノ了解ヲ得ルコトニ努ムレハ或ハ他日奉天ニ帰還シ得ルコトモアルヘク少クトモ河北ノ地盤丈ケ位ハ維持シ得ヘキカト考ヘ居ルカ如ク察セラル

三、満州事件一段落ヲ告ケ今ヤ新満州ノ建設時期ニ入リ満州ノ接壌地方ノ政情ヲ考察スルニ当リ学良政権カ将来ノ禍根ナルヘキハ申ス迄モナク結局彼ノ処置方ヲ考慮スヘキ時機ニ達シタルヤニ思考ス就テハ通常ノ方法ヲ以テシテハ成功ヲ期シ難キコト勿論ナルカ差当リ当方ノ思付ヲ述フレハ此際彼ニ対シ内外両面ヨリ下野ヲ勧告スルコトトシ内部方面ニ於テハ王樹幹、湯爾和潘復江藤ヲ利用シテ学良ニ因果ヲ含メシメ外部ヨリハ例ヘハ左ノ条件ヲ提供シテ帝国政府ノ公ノ措置トシテ下野ヲ勧告シ彼カ日本政府方面ニ一縷ノ望ヲ懸ケ居ル空想ヲ打破スルコト一策カト思考ス

(イ)(3) 我権内ニ於テハ学良ノ生命身体ノ安全ニ付充分ノ措置ヲ講スルコト

(ロ) 我権内ニ於ケル彼ノ私有財産ノ解除引渡シ

右二点ノ条件ハ武士ノ情ニシテ彼ニ私人トシテノ安全ノ途ヲ与ヘ其ノ下野ヲ容易ナラシムル効果アルヘシ

尚右勧告ノ場合学良ハ部下軍隊ノ処分難ヲ理由トシテ彼是言フヘキハ想像ニ難カラサルニ付其ノ場合先決条件タル下野実行ノ上ハ我方ヨリ裁兵費トシテ一定ノ金額（五百万元位ヲ要スヘキカ）ヲ裁兵実行当局ニ交付スヘキコトヲ約スルコト右実行ヲ円滑ナラシメル為メ必要ナルヘ

キカト思考ス右裁兵事業ハ実際問題トシテハ自然張宗昌ノ手ニ帰スヘク従テ裁兵費モ大部分其手ニ落チ張作相ノ反日行動ヲ援助スル結果ニ終ル疑問無キニ非サルモ右ハ当面ノ目的タル下野ノ実行ヲ容易ナラシムル為或ハ已ムヲ得サル処ナルヘシ

四、右勧告ノ時機ハ支那ノ内政上ノ形勢等ヲ利用シ得ヘキ時機ヲ有利トスヘキモ我方ノ覚悟次第ニ依リテハ必スシモ之ヲ待ツ要ナカルヘシ唯右勧告実行後ハ支那側ニ対スル地方的交渉ノ相手方ニ大ナル困難ヲ感シ一時ハ一切ノ交渉ヲ中止スルノ止ムナキニ至ルヘク又形勢ノ如何ニ依リテハ張家口及双橋在留官民ノ安全ヲ計リ置クコトヲ要スヘシ

五、最後ニ学良カ右勧告ニ応セサル場合ノ第二段ノ措置トシテ（必スシモ戦闘行為ヲナス意ニアラス）（脱？）ニ依リ之カ貫徹ヲ計ル外ナシト思考スルモ前記私案ニ対スル御詮議ノ結果ニ依リ第二段ノ措置ニ付テ更ニ請訓スルコトト致シ度シ

右御詮議ノ上何分ノ御回訓ヲ請フ

重光公使ヘ御転報ヲ請フ、奉天、天津ニ転電セリ

31　昭和7年1月26日　在上海村井総領事より芳沢外務大臣宛（電報）

陳外交部長の辞職声明について

上海　1月26日後発
本省　1月27日前着

第一〇七号

外交部長陳友仁ハ廿五日辞表ヲ提出セルカ辞職ノ理由トシテハ廿五日付ヲ以テ大要左ノ如キ「ステートメント」ヲ発シタリ後任ニハ顧維鈞、羅文幹擬セラレ居レリ

自分ハ日本ノ暴戻ナル満州侵略ニ対スル蔣介石ノ受身的政策ヲ改ムヘク就任以来努力シ夫レニハ上海和平会議ニテ決定セル外交政策ニ基キ断交ノ実施ト九ケ国条約及「ケログ、パクト」ニ依ル会議開催ノ要求ヲ計画シ居リタルニ蔣介石ハ独断的ニ之ニ反対セリ蔣ノ斯ル態度ハ上海ニ於ケル日本ノ無理要求ヲ容レ愛国運動ヲ圧迫スルノ屈辱ヲ敢テスルニ至ラン即チ自分ハ蔣ノ掣肘ノ為外交政策ヲ実行スルコトヲ得サルニ至レルニ付辞職スル次第ナリ

守屋書記官ニ転報セリ

（広東ヨリ香港ニ転電アリタシ）

北平、奉天、天津、済南、南京、漢口、福州、広東ニ転電セリ

32　昭和7年1月26日　在南京上村領事より芳沢外務大臣宛（電報）

臨時中央常務会議における対日方針決定に関する情報について

南京　1月26日後発
本省　1月26日後着

第六八号

二十五日午後臨時中央常務会議開カレ中央委員六十余名列席汪精衛主席トナリ党務ニ関スル二、三ノ案件ヲ決議発表セルカ（委細郵報）二十六日ノ新民報ハ昨日中央ハ対日絶交問題ニ関シ大体左ノ通リ方針ヲ決定セル旨報道セリ

一、日本側ヨリ引続キ暴力ヲ以テ迫ルニ於テハ全力ヲ以テ自衛手段ヲ執リ積極的ニ抵抗スルコト

二、上海問題ニ関シテハ

㈠同地軍隊ニ命シ厳重防衛ノ準備ヲ為サシム

㈡市政府ヲシテ日本人ノ暴行ニ対スル適当ナル方法ヲ講セシム

㈢日本陸戦隊カ領土又ハ機関ヲ占領スル場合ハ有効ナル自衛手段ヲ講ス

三、愛国運動ニ対シテハ絶対ニ保護ノ原則ヲ採用ス但シ無意義ノ排日例ヘハ濫ニ日本人ヲ殺シ又ハ日本人ノ生命財産ニ危害ヲ及ホスカ如キ行為ハ厳重取締ルコト

四、各団体ニ対シ対外問題ニ関シテハ平静ナル態度ヲ執ル様通告スルコト

支、北平、奉天、天津、青島、済南、漢口、広東、福州ヘ転電セリ

33　昭和7年1月26日　在南京上村領事より芳沢外務大臣宛（電報）

孫行政院長、陳外交部長の辞職申出について

南京　1月26日後発
本省　1月26日後着

第六九号（暗）

政治会議特務委員会成立後孫科、陳友仁等ハ対日国交断絶ヲ主張シタル趣ハ累次電報ノ通ナル処一方蔣介石及汪精衛ノ両人ハ入京以来各要人ト共ニ連日談話会ヲ開キ時局対策協議中ナルカ蔣、汪両人ノ意見ハ対日絶交反対ナル趣ニテ

陳友仁ハ両三日前突然上海ニ赴キ次テ孫科モ赴滬セルカ廿五日陳ハ政府ニ対シ又孫ハ執行委員会及蔣介石、汪精衛ニ対シ夫々陳ノ外交政策ハ容レラレス非才此ノ難局ニ処シ能ハサル旨ヲ以テ夫々辞職ヲ申出テタル為中央ハ張人傑、張継、居正等ヲ上海ニ派シ慰留セシメ居ル趣ナリ

廿六日陳亜州司長ノ内話ニ依レハ陳ノ辞職願出ハ事実ニシテ後任ニハ羅文幹（現司法行政部長）大体内定シ居ル趣ナリ

尚新聞ハ廿五日辞表ヲ提出セル外交次長傅秉常ノ後任ニハ蔣作賓任命セラルヘシト報道シ居レリ

支、北平、奉天、天津、青島、済南、漢口、広東、福州ニ転電セリ広東ヨリ香港ヘ奉天ヨリ哈爾賓、吉林ヘ転報アリタシ

34　昭和7年1月27日　在上海守屋臨時代理公使より ※芳沢外務大臣宛（電報）

南京政府における日本の基本五大綱目に基づく直接交渉希望に関する陳中孚の談話について

上海　1月27日後発
本省　1月27日後着

第四三号（暗）

重光公使ヘ

二十七日陳中孚ノ談トシテ山田ノ内話スル所ニ依レハ対日強硬論ヲ主張セル陳友仁ハ既ニ辞表ヲ提出シ南京政府部内ノ態度穏健トナリ蔣介石、汪兆銘等モ日本ノ主張スル基本五大綱目ヲ承認スル事ニ異議無キ次第ナルカ日本ハ支那カ右五ケ条ヲ承認セハ直ニ直接交渉ニ応スルヤ又右五ケ条以外ニ更ニ要求スル所アルモノニヤ此ノ際日本側ノ意向ヲ確カメタル上五ケ条承認ノ基礎ニ於テ直接交渉ニ入ル事トシ度蔣、汪等ハ重光公使ノ帰任ヲ待チ本件ニ付折衝シ度キ考ナリトノ事ナリ

北平、奉天、広東、南京ヘ転電シ上海ヘ転報セリ

35　昭和7年1月27日　在天津桑島総領事より 芳沢外務大臣宛（電報）

陳烱明の北方政権樹立画策などについて

天津　1月27日後発
本省　1月27日後着

第四〇号（暗）

陳烱明ハ二十二日香港ヨリ来津シタルカ其ノ目的ハ以党治

国ノ現国民党政府ニ反対シ北洋派ノ大同団結ヲ画シ段祺瑞、呉佩孚、孫伝芳等ト合作シ北方ニ新政権ヲ樹立セントスルニアルモノノ如ク来津以来安福派、直隷派ノ各要人ト往復シ今後ノ工作ニ関シ密議ヲ凝ラシツツアリ尚陳ハ呉佩孚トノ直接連絡ヲ計ル為劉蔭泉ヲ代表トシテ二十三日綏遠ニ密派セル趣ナリ

支ヨリ上海ヘ転報アリ度シ

支、北平、奉天、南京、広東ヘ転電セリ

36　昭和7年1月29日　在北平矢野参事官より 芳沢外務大臣宛（電報）

呉佩孚等の反張学良画策に関する情報について

北平　1月29日後発
本省　1月29日後着

第四七号（暗）

二十九日黄濬情報

現在北方ニテハ呉佩孚、段祺瑞、孫伝芳、閻錫山、湯玉麟等ノ間ニ大規模ノ反学良運動ノ機運醸成セラレ天津ニテハ劉永謙ヲ中心トシ画策中ニテ孫伝芳亦積極的ニ活動セントシ徐永昌側ヨリノ情報ニ依レハ閻呉ノ合作ハ既ニ相当進捗シ居リ右成就ノ上ハ先ツ第一ニ中央ニ対シ党治ノ取消及学良ノ下野ヲ要求スル筈

尚呉佩孚于学忠ノ関係モ極メテ密接ナルカ唯于ノ部下四旅中二旅及騎兵旅ハ于ノ命ニ肯カサルカ如シ其他麗炳勲、孫殿英等モ既ニ新組織加盟ニ傾キ張宗昌亦加入説アリ公使ヨリ上海ニ転報アリタシ

公使、南京、広東、青島、済南、天津、奉天ニ転電シ張家口ニ暗送セリ

37　昭和7年1月29日　在南京上村領事より 芳沢外務大臣宛（電報）

日本飛行機の吉林賓県等へ爆弾投下に関する外交部の抗議について

南京　1月29日後発
本省　1月30日前着

第八八号

本官発在支公使宛電報

第八一号（ママ）（羅文幹）

陳外交部長ヨリ二十九日付公文ヲ以テ本月十日前後日本飛

行機カ吉林賓県其他各地ニ於テ爆弾ヲ投下シ多数ノ人民ヲ死傷セシメタル状況ヲ詳述シ右ハ日本側カ故意ニ形勢ヲ拡大シ中国ノ主権ヲ侵シ連盟ノ決議ニ違反シ国際公法及条約ヲ無視セルモノナリトテ各所ノ日本軍隊ニ今後再ヒ此ノ種不法行動ヲナササル様政府ヨリ至急厳命アリ度キ旨並今回受ケタル生命財産ノ損害ニ対シテハ正当要求権ヲ留保スル旨申越セリ

奉天ヨリ吉林ニ転電アリ度シ、大臣、北平、奉天ニ転電セリ

38　昭和7年1月(31)日　在南京上村領事より芳沢外務大臣宛（電報）

南京領事館館員および在留邦人の引揚げについて

第八七号

往電第八三号ニ関シ

一、在留邦人及当館員全部午前十一時迄ニ無事雲陽丸ニ引揚ヲ了セリ（但シ館員一、二名交替ニテ領事館ニ残留ス）尚万一ヲ慮リ当館ノ御紋章ハ之ヲ取外シタリ

二、当地一般支那人ハ勿論在留外国人モ日本領事館ノ引揚ハ日本側カ積極的行動ヲ執ル前提ナリト誤解シ居ル向アリ旁無用ノ誤解ヲ避クル為「上海事件ノ影響ヲ受ケ南京ノ状態亦険悪ノ模様アル処我方ハ事件ノ拡大ヲ防止セント努力シ来レル次第ニテ何等事件ノ発生スルコトハ我方ノ最モ希望セサル所ナルニ鑑ミ人心ノ安定ヲ見ル迄暫ク館員及在留邦人ヲ下関ノ安全地帯ニ移シ以テ事件発生ノ危険ヲ除去シ当地治安ノ平静ヲ期セントスルモノナル」旨ノ声明書ヲ発表シ支那側各新聞社ニ送付シ置キタリ

三、外交部ニ対シテハ事態険悪ナルニ依リ館員及在留邦人ヲ安全地帯ニ移ス旨ノ覚書ヲ送付スルト共ニ本官外交部亜州司長ヲ往訪シ引揚ノ事情ヲ説明シ留守宅等ノ保護方申入レ置キタリ

尚谷憲兵司令ニハ特ニ電話ニテ事情ヲ述ヘ置キタルカ其他留守宅等ノ保護方ニ関シ当局ニ対シ公文ヲ送付シ置キタルコト前電ノ通リ

四、外国代表者及在留外人ニ於テ事態ヲ憂慮シ居ルニ鑑ミ引揚前本官首席領事タル米国総領事ト会見シ上海ノ事態ヨリ引揚ノ已ムナキニ至レル事情ヲ説明シ置キタルカ米国総領事ハ支那側ノ満足ナル回答アリタルニ拘ハラス何故日支間ニ衝突ヲ生シタルヤ疑問トシ居タルカ本官ノ説明ニ依リ戒厳令ニ依ル租界ノ共同警備ノ計画ニ基キ日本側カ上海ノ北部方面警備ヲ担当セル所支那軍隊カ之ニ対峙シ発砲セル為大事ニ至レル次第ナルコトヲ知リ始メテ事情釈然トセリトテ本官ノ通報ヲ感謝シ尚引揚ノ事情等本官ノ話ハ早速各国領事及代表者ニ通報スヘキ旨述ヘタリ尚英国「イングラム」来訪セルカ本官不在ナリシ為館員ニ於テ右ト同様ノ説明ヲ為シ置キタル趣ナリ（転電先脱？）

39　昭和7年1月31日　在南京上村領事より芳沢外務大臣宛（電報）

国民政府の洛陽移転について

別　電　同日在南京上村領事より芳沢外務大臣宛第九二号

国民政府の洛陽移転に関する宣言

南京　1月31日後発
本省　2月1日前着

第九三号

一両日来支那側ハ多量ノ弾薬ヲ城内ヨリ下関ニ搬出シ一部ハ上海方面ニ輸送シ大部分ハ津浦線ニテ北送シタル形跡アリタル処卅日蔣介石、汪精衛等要人ハ励志舎ニ会合対日方針ヲ協議シタル結果国民政府ヲ一時洛陽ニ移スコトニ決シ当地ノ治安ニ任スル為何応欽ヲ又外交問題ヲ処理ノ為羅文幹ヲ残シ要人ノ大部分ハ同夜発北上セル趣ナリ

右ニ関シ国民政府ハ卅一日ノ各新聞ニ大要別電第九二号ノ如キ宣言（卅日付）ヲ発表セリ

尚政府洛陽移転ノ点ニ付卅一日朝電話ニテ谷正倫ニ確メタル処谷ハ之ヲ肯定シ居タリ

別電ノ通リ転電セリ

（別　電）

南京　1月31日後発
本省　2月1日前着

第九二号

別電

国民政府ノ宣言

日本ノ東北侵略以来政府ハ九国条約連盟規約及不戦条約ノ精神ヲ尊重シ隠忍自重各締約国ノ公理維持ヲ待ツト共ニ一面軍隊ニ厳命シ全力ヲ以テ地方ヲ経営シ人民ノ生命財産ノ安全ヲ保障シ苦心スルコト数ケ月ヲ経タルカ日本ノ進出ハ

止マス最近多数ノ軍艦ヲ上海ニ派遣シ陸空軍ヲ輸送シ市民ノ反日行為ニ藉ロシ暴力ヲ以テ恫喝セントス然ルニ人民カ団体ヲ組織シ国難ニ赴カントスルハ素ヨリ愛国ノ熱誠ニ出ツルモノニシテ苟モ越軌行動ナクハ政府トシテ干渉ヲ加フルニ由ナシ併モ政府ハ戦禍ヲ免ルル為一再ナラス日本ノ要求ヲ容レ民衆ノ抗日言論行動ニシテ多少ナリトモ過激ニ亘ルモノハ等シク禁止シ以テ各種ノ民衆団体ヲ諭シ自発的ニ抗日ノ名儀ヲ取消サシメ以テ強隣ノ口実ヲ絶テリ本月二十八日上海市長ハ日本総領事ノ満足トスル回答ヲ与ヘタルニ拘ラス同夜一遣司令官ハ突如上海駐屯軍ノ撤退ヲ要求シ拒絶セラルルヤ直ニ攻撃ヲ開始シ無制限ナル爆撃ニ出テ人民ノ生命財産ニ大ナル損害ヲ与ヘタルカ同時ニ首都及長江各地ニ於テ日本軍艦ハ挑戦シ居レリ右ハ日本側カ政府ヲ威嚇シテ屈服セシメントスルモノナルカ政府ハ国家ノ人格ヲ保持シ国際信義ヲ尊重シ武力ニ屈スルコトナク既定ノ方針ヲ堅持スル外一面軍隊ヲ督励シテ自衛ヲ計リ寸尺ノ土地モ決シテ譲ラサルト共ニ外交手段ヲ講シ各国ニ対シ条約上ノ責任履行ヲ要求スヘシ政府ハ日本ノ暴行ニ対シ正当防衛ノ権利ト義務ヲ有スルコトヲ確信スルト共ニ各国モ亦世界ノ平和及国際信義ヲ維持スル為必スヤ座視シ得サルヘキヲ確信ス政府ハ自由ニ主権ヲ行使シ暴力ノ脅迫ヲ受ケサラン為洛陽ニ移駐執務スルコトニ決定セリ

広東ヨリ香港ヘ、奉天ヨリ吉林、哈爾賓ヘ転電アリタシ

支、北平、奉天、天津、青島、済南、漢口、広東、福州ヘ転電セリ

---

40 昭和7年2月1日　在広東須磨総領事代理より芳沢外務大臣宛（電報）

対日宣戦問題に関する程広東市長の談話について

広東　2月1日後発
本省　2月1日後着

第七九号（暗、極秘）

一[1]日共和報問題（別電）ノ為往訪セルニ程市長（天固）ハ実ハ本日自分ヨリ伺ヒ種々御意見ヲ承ル筈ナリシトテ汕頭ニ於ケル日本軍艦ノ演習問題並ニ上海事変ノ経過等ニ付種々質問シタルニ付然ルヘク応酬ノ上左ノ通会談セリ

一、本官ヨリ国民政府カ近ク対日宣戦ヲ布告スヘシトノ説アル処不幸右実現ノ場合ト雖当方面ハ全中国ノ思想的根拠

地ニシテ広東国民政府時代以来故総理ノ遺嘱タル大亜細亜主義ニ基キ日華両国ノ親善関係ノ為御互努力シ来リタルニモ鑑ミ且ツ不幸ニシテ一度武力衝突ヲ見ンカ之カ原因タル事情等ハ容易ニ忘却セラレ唯交戦セル生々シキ事実ノミカ永ク両国民ノ記憶ヲ支配シ遂ニハ双方感情ノ恒久的不和ヲ見ルコト所謂「アルサスローレン」問題ノ示ス所ナルニモ顧ミ当方面丈ケハ愚劣ナル対日宣戦等ノ暴挙ニ出テサランコト希望ニ堪ヘサルカ御見込如何ト試問シタルニ市長ハ誠ニ切実ナル御考慮ニシテ実ハ鄒魯等当地ニ現在スル要人共既ニ寄々協議シ居リ何トカシテ貴官トノ従来ノ接触ニ鑑ミ何等カ御話ノ如キ「ライン」ヲ考慮シ度キ積リナルカ貴問ニ答ヘ得ル前ニ御尋ネシ度キ点アリトテ少時沈黙ノ上左ノ通リ語ヲ続ク

二[2]、今回ハ満州問題以来時ヲ追フテ激化シ来ル日本側ノ積極的軍事行動ニ対シ国民一致憤激シ来リツツアルハ御承知ノ通ナルカ実ハ上海事件ニ関シテモ此ノ間ノ国民的憤懣ニソグハサル様党方面当局ハ十九路軍ニ対シ金銭的援助ヲナシタル外激励ノ電報ヲ発出シタル次第ナルカ極秘ヲ以テ申上クレハ実ノ処当方面ト南京側トノ間ニハ解ケサル間隔アリ殊ニ孫科、陳友仁ノ辞職以来右間隙ハ漸次深ミニ入リツツアル際故唯今御話ノ点ヲ特ニ興味ヲ以テ傾聴シタル次第ナルカ先ツ日本ハ上海ニ於テ又国民政府ニ対シ何ヲナサントスル次第ナリヤ伝ヘラルルカ如ク絶大ナル野心ヲ以テ自ラ全支ヲ相手ニ戦闘行為ニ訴ヘントスルヤト尋ネタリ

三、依テ本官ヨリ上海ニ於ケル我方ノ行動ハ曾テ五卅事件ノ際各列強ノ執リタル措置ト同様居留民保護ノ外他意ナキ次第ヲ御声明ノ趣旨ニ基キ縷々説明シ聞カセタル上帝国政府ハ予テ本官カ胡漢民ニ伝ヘタル犬養総理ノ個人的伝言ニ依リテモ明カナルカ如ク飽ク迄国民党老同志ノ誠意ヲ期待シ其協力ヲ求ムル次第ナル旨繰返シ申聞ケタル処市[3]長ハ御話ノ趣旨ハ了解セルモ上海呉市長カ貴方ノ要求ヲ全部容レタルニ拘ラス而モ軍事行動ニ訴ヘラレタル次第ハ如何ニモ納得行カヌト申述ヘタルニ付更ニ本官ヨリ支那側ヨリ発砲挑戦シタル事実ヲ篤ト説明シタル処市長ハ余程了解シタル面持チニテ何レ本日午後開催ノ党方面要人ノ会議ニ於テ自分ヨリ進ンテ御話ノ趣旨ヲ申聞ケ篤ト対策ヲ協議シ見ルヘキモ自分ハ貴官ノ熱意ニ対シ今直ニ左ノ点タケハ自分限ニ

テ申上ケ得ル次第ナリトテ

(一)国民政府カ仮リニ対日宣戦ヲ布告スルモ自分ハ市長トシテ飽ク迄貴官トノ間ニ従来ノ友誼関係ヲ継続スヘシ

(二)民衆ノ憤激等ニ依リ愈事態悪化シ当方面モ国民政府側ニ捲込マルル虞ヲ生シ已ムナク最後ノ決定ヲナサントスルニ至ラハ右決定ヲ見ルニ先チ自分ハ必ス先ツ貴官ヲ訪問シ之カ打開策ニ関シ最後ノ御相談ヲ申上クル用意アリト述ヘタリ

四、本日ノ会談ニ於ケル程市長ノ態度ハ極メテ真摯ニシテ其応酬カ決シテ一片ノ御世辞ニアラスト認メラレタルニ付右特ニ電報ス

公使ヨリ上海、南京ニ転報アリ度シ

公使、北平、奉天、天津、青島、済南、漢口、福州、厦門、汕頭ニ転電シ香港ニ暗送セリ

41　昭和7年2月1日　在広東須磨総領事代理より芳沢外務大臣宛（電報）

国民政府の遷都に対する広東側の対応について

広東　2月1日後発　本省　2月3日後着

第八三号（暗、極秘）

(1)往電第七九号（四〇文書）ニ関シ

甲、本一日偶然ニモ鄧沢如ヨリ林麗生ヲ派遣越シ実ハ鄧自身来訪ノ筈ナリシカ此ノ際特ニ人目ヲ避クル要アルヲ以テ林ヲ派遣セル趣ニテ左ノ如ク内報セシメタリ

一、徐州ナル汪精衛ヨリ三十日付ヲ以テ鄧沢如、蕭仏成、陳済棠、伍朝枢宛ニ国民政府ハ日本ノ圧迫ニ依リ遂ニ徐州ニ移リ更ニ洛陽迄遷都スルノ已ム無キニ至リタル旨電報越シタルニ依リ当地当局ニ於テハ即日緊急会議ヲ招集シ当方面ニ於ケル特殊ノ関係ヲ考慮シテ今後ノ方針（ヲ）熟議シタル結果此ノ際蔣介石ノ尻馬ニ乗リテ上海ニ於ケル日支紛争事件ニ捲込マルルコト国民党将来ノ為賢明ナル策ニ非スト為ス説有力トナリタリ

二、抑蔣介石対胡漢民ノ関係ハ依然氷炭相容レス国民党ハ現在二派ニ分レ蔣介石派カ日本ト連絡センカ胡漢民側必ス反日トナリ胡派カ親日政策ヲ執ランカ蔣派ハ必ス反日政策ヲ執ルコト自然ノ勢ナリ然ルニ今ヤ蔣派ノ南京政府ハ羅文幹ト何応欽トヲ残シテ洛陽ニ落延ヒントシ空シク残骸ヲ止メ居ル状態ナレハ此ノ際西南政府ヲ拡張シテ事実上ノ国民政府トスルコト極メテ時宜ニ適スル次第ナル一方上海事変ノ如キハ満州事件ニ付随シテ生シタルモノニテ其ノ責任張学良及蔣介石ニ在ルコト明カナレハ軽率ニ中央政府ノ命ニ服センカ遂ニ蔣介石ノ術中ニ陥リ延テハ全中国ヲ誤ラシムルコトアルヘキハ想像ニ難カラス故ニ此ノ際ハ暗黙ノ間ニ国民政府ト離レ日本トノ衝突ヲ避クルハ従来広東国民政府ノ執リタル反蔣運動ノ目的ヲモ達スル所以ナルニモ鑑ミ広東独立ノ議漸ク唱ヘラルルニ至リタリ（続ク）

（編注）第八三号の二以下は見当らない。

42　昭和7年2月1日　在南京上村領事より芳沢外務大臣宛（電報）

国民政府の遷都に関する宋財政部長の談話について

南京　2月1日後発　本省　2月1日後着

第一〇二号

三十一日財政部長再任ニ対スル挨拶ノ為宋子文ヲ訪問シタル処宋ハ全然友人トシテノ話ナルニ付一切政府ニハ報告セサル様念ヲ押シタル上一時間以上ニ亘リ種々本官トノ間ニ意見ヲ交換シタルカ御参考トナル点大要左ノ通

一、自分ハ満州事件発生以来ヨリ日支間ノ関係改善ノ為努力シ居タル次第ナルカ満州ニ於テハ日本ハ満州ヲ占領シ更ニ北上シテ兵ヲ哈爾賓ニ迄進メ塩税其他各種ノ税収ヲ押収シ中央政府ノ統一税等ヲモ認メス他方独立政府ノ建設ニ熱中シ居リ日本ノ満州ニ於ケル目的ニ付テハ自分等トシテハ大ナル疑惑無キ能ハストテ本官ニ説明ヲ求メタルニ依リ本官ハ差支ヘ無キ程度ニ於テ我方ノ立場ヲ良ク説明シ置キタリ

二、上海事件ニ付テハ本官ヨリ詳細説明シタル処宋ハ我方ノ立場ヲ相当了解シタルモノノ如クナリシカ打明話トシテ日本側ハ上海ニ於テモ満州ニ於ケルト同様突如攻撃ヲ開始シ人家稠密ノ市街ニ飛行機ヨリ爆弾ヲ投下スルカ如キ極端ナル行動ニ出テ更ニ進ンテ多数ノ軍艦ヲ南京ニ集中シ南京政府威嚇ノ態度ニ出タルニ依リ南京政府ニ於テハ事態脅威ノ下ニ各問題ヲ処理スル事危険ナリト為シ政府ヲ安全地帯ニ移シタル次第ナリ従テ右ハ単ナル「ジェスチュアー」ニ非ス事態此処ニ至リテハ飽ク迄支那側ニ

於テ正当ナリト信スル方針ノ下ニ進ミ日本側ノ威嚇ニ依リ譲歩ヲ余儀無クセラルルコト無キヲ期スルヨリ外無シトノ意見ニ一致シタルカ為ナリ依テ自分トシテハ已ムヲ得スンハ新疆迄モ退ク決意ヲ有ス斯ル状態ナルニ依リ上海事件ニ付テモ日本側ノ武力ニ屈服スルガ如キ話合乃至命令ハ到底為シ得サル処ナリ対日宣戦ヲ為スカ国交断絶ヲ宣スルカ如キハ為ササル積ナリ

自分トシテハ上海事件ニ付テハ差当リ事件発生以前ノ状態ニ復ストノ協定ヲ為ス事位カ妥当ナル可シト思考スト述ヘタルニ依リ此点ニ付テモ本官ヨリ充分説明ヲ為シ置キタリ

尚国民政府ハ洛陽ニ移シタル建前ナルカ宋子文（財政）羅文幹（外交）何応欽（軍政）陳紹寛（海軍）ハ引続キ南京ニ（脱）スル予定ナル趣述ヘタリ

43　昭和7年2月1日　在南京上村領事より芳沢外務大臣宛（電報）

国民政府に対日宣戦の意図なき旨の宋財政部長の談話について

南京　2月1日前発

第一〇四号（暗）

本官発漢口宛電報

第三号

国民政府ヲ洛陽ニ遷スコトトナリ既ニ三十日蔣介石、汪精衛以下離京シ当地ニハ羅文幹（外交）、宋子文（財政）、何応欽（軍政）、陳紹寛（海軍）ノミ残ルコトトナレルカ三十一日宋子文ノ本官ニ語ル所ニ依レハ国民政府ハ対日宣戦乃至国交断絶ノ宣布ノ如キコトハ考ヘ居ラストノコトナリ

奉天ヨリ哈爾賓ヘ、漢口ヨリ九江、宜昌、沙市ヘ転報アリ度シ

大臣、公使、北平、奉天、天津、青島、済南、広東、福州、汕頭、厦門、蘇州、蕪湖ニ転電セリ

本省　2月1日後着

44　昭和7年2月1日　在南京上村領事より芳沢外務大臣宛（電報）

蔣介石等の徐州到着洛陽行について

南京　2月1日後発

本省　2月2日前着

第一〇八号（暗）

往電第九三号（三九文書）ニ関シ

新聞報道ニ依レハ林森、蔣介石、張継、馮玉祥、李済深、葉楚傖、朱培徳、李烈鈞等ハ三十一日夕刻徐州ニ到着シ直ニ洛陽ニ向ヘル趣ナリ

尚蔣介石ハ張学良及閻錫山ニ対シテモ洛陽ヘ集合方申送ル由

冒頭往電ノ通転電セリ

奉天ヨリ哈爾賓、吉林ヘ、広東ヨリ香港ヘ転電アリタシ

45　昭和7年2月2日　在漢口坂根総領事より芳沢外務大臣宛（電報）

国民政府の洛陽移転に関する葉参謀長の内話について

漢口

本省　2月2日後着

第五三号（暗）

南京政府ノ洛陽遷都問題並蔣介石ノ時局対策ニ関シ本一日綏靖公署葉参謀長ノ極秘ノ含ミトシテ語ル所ニ依レハ蔣介石ハ約三ケ月前下野ノ準備トシテ河南ニ直系部隊ヲ集結セル当時ヨリ既ニ各種雑多ナル分子ノ寄合世帯ニ過キサル統一政府ノ将来ヲ見縊リ其ノ遠カラス瓦解ノ運命ニ逢着スルカ然ラスハ政務ノ遂行不能ニ陥ルヘキ時機ノ到来ヲ見越シ爾来一意兵力ノ休養ニ力メツツ政権ノ自分ニ転カリ来ルヲ待チ居タル次第ニテ蔣ハ現政府ノ重大危機到来セハ直ニ再起シテ其ノ軍隊ヲ以テ固メタル洛陽ニ遷都ヲ宣布スルカ若ハ同地ニ国民政府弁事処ノ一時移動ヲ決行シテ政府要人ヲ招致スル肚ナリシハ確カナル事実ナリ従テ今回ノ国民政府遷都宣言中ニ「茲ニ暴力ニ依ル脅迫ヲ受ケス職権ヲ自由且ツ完全ニ行使センカ為既ニ洛陽ニ移駐スルコトニ決定セリ」トノ句アル処「暴力ニ依ル脅迫」トハ或ル程度迄連盟等ニ対スル宣伝味ヲ加ヘテ日本軍ノ脅威ヲ指シテ云ヘルモノナルコトハ前後ノ関係ヨリ察シ得ラルルモ右ハ極メテ巧ナル言回シニシテ其ノ実党部始メ学生団ノ圧迫ヲ指スモノト解スルヲ至当トスト断言シ今次遷都ノ直接動機ヲ形成セル最大ノ原因ヲ挙クレハ今次上海事変ニ依リ政府ハ党部学生工人商人等各方面ノ団体ヨリ陳情ト請願攻メトナルコト必定ニシテ斯テハ過般ノ学生騒擾ノ際ノ如ク南京ニテハ到底円滑ナル政務ノ遂行不可能ナルヲ以テ先ツ蔣介石、汪精衛、林森三巨頭ノ北上トナリタルモノニシテ右三名ハ目下

開封ニ滞在シテ河南省当局ト折角洛陽ニ国民政府弁事処設置方打合セ中ナルカ現ニ居残レル人物ハ右三名ノ指図ヲ俟ツニ非レハ何事モ責任ヲ以テ処理シ得サル手合ナルニ付今後政府ノ立場ニ窮スルカ如キ難問題ヲ提ケテ政府ニ迫ルモノアラハ南京及上海ニ居残レル政府当路者ハ之ヲ洛陽ニ転達スヘシトテ逃ケ得ヘク請願団ノ場合ニハ先ツ洛陽行ヲ促シ途中軍隊ヲシテ北上ヲ阻止セシムル手筈トナリ居ル事実アリト説キ次ニ蔣介石ハ国難ノ此際現在ノ政府ヲ表面支持スルノ態度ヲ執リ居レリト雖中央政界ノ雲行如何ニ依リテハ何時ニテモ政府ノ改組ヲ断行スヘク又政府移転後其ノ直系部隊中ノ相当部隊ヲ上海、南京ニ集結シ置カントノ考ヲ有シ居ルコトモ確カナル旨語レリ

因ニ南京上海ニ残留スヘキ人物ニ付テ宋子文ハ財政関係ニテ上海ヲ離ルルコト能ハサル事情アリ其ノ他海軍ノ陳紹寛外交ノ羅文幹軍政ノ何応欽タケハ遷都後モ引続キ連絡ノ必要上残留スヘク陳友仁モ恐ラク北上セサルヘキ旨付言セリ

支、北平、南京、済南、奉天、広東、天津ヘ転電セリ

---

46 昭和7年2月5日　在南京上村総領事代理より芳沢外務大臣宛（電報）

汕頭、漢口等における日本側の挑発的行動に対する外交部の抗議について

南京　2月5日後発
本省　2月7日後着

第一二三号
本官発支宛電報
第一一八号

外交部長ヨリ貴公使宛四日付公文ヲ以テ左ノ通申越セリ

(一)広東省政府ノ電報ニ依レハ汕頭市政府ハ汕報ノ不敬記事ニ関スル日本領事ノ要求ニ従ヒ各新聞ニ対シ慎重掲載方勧告シタルニ拘ハラス日本官庁ハ二月一日迄ニ満足ナル回答ヲ得サレハ断乎タル処置ヲ執ルヘシトテ毎晩探海燈ヲ以テ支那軍駐屯地ヲ照射シ且機銃ヲ空発シテ示威シ日本在留民ハ全部飛行機ニテ搬出セル趣ナルカ右ハ故意ニ挑戦スルモノト言フ可シ支那政府ハ事態ノ拡大ヲ防止スル見地ヨリ汕報ニ対シテハ事情ヲ斟酌シ法ニ依リ処理方広東政府ニ電報シ置ケリ又(二)湖北省政府ヨリノ電報ニ依レハ日本海軍ハ日本租界南小路及大正街等ニ土嚢ヲ築キ且境界ヲ越ヘ防備工

事ヲ施シ交通ヲ妨碍シタルニ付公安局ヨリ日本警察ニ交渉シタルモ其効無キ趣ナルカ右ハ故意ニ形勢ヲ重大ナラシメントスルモノナルニ付若シ之カ為意外ノ変事ヲ醸成スル場合ハ其責任ハ完全ニ日本側ニ於テ負フ可キモノナリ

就テハ貴公使ヨリ至急貴国政府ニ伝達シ海軍ノ自由行動並ニ形勢ヲ重大ナラシムルニ足ル一切ノ行動ヲ制止セシメラレ度ク尚何分ノ儀御回示ヲ請フ

北平ヨリ大臣ヘ転電請フ

大臣、北平、漢口、広東、汕頭ヘ転電セリ

---

47 昭和7年2月5日　在南京上村総領事代理より芳沢外務大臣宛（電報）

上海における日本軍の不法行動に関する外交部の抗議について

南京　2月5日後発
本省　2月7日後着

第一四一号
本官発支宛電報第一六号

外交部長ヨリ貴公使宛四日付公文ヲ以テ大要上海市政府ヨリノ電報ニ依レハ日本軍ハ停戦ニ関スル政府ヨリノ回訓アル迄ハ相互ニ侵サストノ約束ニ反シ二日支那軍ヲ攻撃シ又三日軍艦ヨリ呉淞要塞及白竜港ヲ砲撃シ多数ノ飛行機ニテ爆撃セル趣ナルカ右ハ故意ニ事変ヲ拡大セントスルモノニシテ之カ為生スル一切ノ責任ハ完全ニ日本側ニ於テ負フヘキモノトス茲ニ厳重抗議スルニ付貴公使ヨリ至急政府ニ電報シ上海ニ於ケル日本軍ノ一切ノ不法行動ヲ直ニ制止セシメラレ度ク尚何分ノ回答アリ度キ旨申越セリ

北平ヨリ大臣ヘ転電アリ度シ

大臣、北平、奉天、天津、青島、済南、漢口、広東ヘ転電セリ

---

48 昭和7年2月8日　在南京上村総領事代理より芳沢外務大臣宛（電報）

上海事変に対する中国軍部の観測に関する原田武官の報告について

南京　2月8日後発
本省　2月11日後着

第一五二号（暗、極秘扱）

八日原田陸軍武官（熊吉）ノ当館ニ提出セル報告左ノ通リ

当地軍部要人ト数回ノ会見ニ依リ上海事件ニ対スル支那側

ノ軍事上ノ観察ヲ綜合スルニ
一、第十九路軍ノ損害ハ大ナラス目下第一線ニ使用シ在ルハ五、六大隊ニ過キサル故尚充分ナル抵抗力ヲ保有シ戦闘ハ尚支那軍ニ不利ナラス
二、警衛軍二個師団ハ杭州及南京ニ保有シ何時タリトモ第十九路軍ヲ応援シ得ルノミナラス飛行機ノ如キモ未タ一部ノ外戦闘ニ参加シ居ラス
三、呉淞砲台ハ陸、海、空ノ三方面ヨリ攻撃ヲ受ケ居ルモ尚充分之ヲ保持シ在リ
四、第十九路軍ハ支那ノ最モ頑強ナル軍隊ニシテ今日迄ノ戦況ハ毫モ戦敗ト認メ居ラス
大体右ノ如ク今日迄我海軍ノ努力ニ依ル皇軍ノ威力ニ対スル観念ハ案外平静ニシテ此ノ際我軍ノ圧迫ヲ緩和スレハ益益増長シ支那軍ハ決シテ戦敗シタルニ非ス日本ノ攻勢カ頓挫セリト宣伝シ我方ノ努力水泡ニ帰スルノ虞大ナリ此ノ空気ハ上海ニ在ル第十九路軍ノ将士（最近帰来セル者アリ）ハ勿論上海以外ノ地方ハ支那一流ノ宣伝ニ依リ普及サレ在ル処ニシテ我方ニ於テ更ニ猛烈ナル弾圧ヲ加フルニ非サレハ皇軍ノ武威ヲ示ス能ハサルモノト認ム

陸軍ニモ御伝ヘアリ度シ
公使、北平、奉天、漢口ヘ転電セリ

49　昭和7年2月8日　在済南西田総領事より芳沢外務大臣宛（電報）

反張学良気運の擡頭など華北内情について

済南　2月8日前発
本省　2月8日後着

第四三号（暗、極秘）
一、[1] 本七日王子明本官来訪ノ節関内ノ東北軍ハ十余万アリ之ニ関外ヨリ撤退軍ヲ合スレハ約二十万アル筈ナル処諸情報ヲ綜合スルニ同部隊ハ約七八万ニ過キスシテ其ノ理由ニ付テハ脱出セルカ或ハ喜峰口古北口方面ヨリ義勇軍便衣隊等トシテ赴ケルモノナルヤ判明セス右ノ如ク関内東北軍減少セルヨリ最近張学良反対ノ気運醞醸シ国家主義ノ段祺瑞ヲ擁護シ山西直隷派ニ加フルニ石友三再起シ劉桂堂（劉ハ山東省陸軍第一師長トナリ軍費ハ省政府負担トナレリ）等一緒ニ行動スルヤノ説頻ニ伝ハレルカ目下連絡中ナレハ早晩何カ惹起スモノト思ハル（其ノ節段派カ大連ニテ日本側ヨリ五百万元ヲ受ケタル説アリト言ヘルニ付本官ハ全然右

ノ消息ヲ承知セス右ハ反対派ノ謡言ナルヘシト答ヘ置ケリ）云々ト内話セルカ
二、右ニ関シテハ当館諜報者ヨリモ韓ノ天津侵入計画ハ着々進捗シ韓ハ表面ニ立タサルモ張荘兵工廠辛荘兵営等ニ於テハ既ニ兵器兵員ノ整備ヲ終ヘ先鋒部隊ハ膠東ニ集中セル劉部及徳州駐屯ノ第二十九師ニシテ石友三前敵総指揮タルヘシトノ報告アリ又中野駐在武官モ本官ニ京津方面ノ反張気運ハ漸次擡頭シ閻錫山、呉佩孚等ノ態度完全ニ話纏マリタルニアラサルモ連絡中ニテ本月下旬頃ニ何所カニテ事件勃発セハ直[2]ニ之ニ響応スル計画相当進捗セル模様ナルヲ述ヘ蔣介石トシテモ上海事件アリ且又張鈁、馬鴻逵、吉鴻昌部等河南方面ニ在ル関係上直属ノ主力部隊ヲ北方ニ輸送スル事困難ナルヘキニ付北方ノ結束サヘ出来レハ張下野ノ外無カルヘシトノ観測ナリ
三、右ニ関シテハ昨秋来国民党反対ノ趣旨ニテ段祺瑞推戴（韓ノ内話客年往電第二六六号参照）ノ気運醞醸シツツアリタルモノト認メラルル処何分ニモ日支関係紛擾セル際内乱的行動ハ一般民ノ反対ヲ受ケ成功覚束無シト其機会ヲ狙ヒツツアルモノノ如ク各種情報ヲ綜合スルニ右計画ハ事実ト思ハルルモ蔣張ノ関係密ニシテ蔣ノ直属部隊ノ大部分河南ニ駐屯セル以上直ニ成功スルモノトモ思ハレサルカ万一中央要人中汪馮等ハ洛陽ニ蔣ハ開封トニ分レ馬鴻逵張鈁等ノ傍系部隊ノ給与不充分ニシテ漸次問題ヲ惹起シ他方劉桂堂部蔣部ニハ韓ヨリ費用ヲ支出セルカ内部ニテハ石友三ヨリ出サレ然モ石ハ二三十万元位ヨリ所持セサレハ永クハ劉ヲ長期ニ亘リ膠東方面ニ駐セシメ難キ事情等モアルヨリ之等ノ点ヨリ意外ニ機会ヲ早メル事アランモ韓トシテハ表面蔣ニ服従シ又張学良ニ対シテモ好感ヲ有セサルモ直ニ東北軍ト正面衝突シテ迄反対スルノ要無ク張下野時期ノ熟スルヲ窺ヒツツアルモノト認メラルルニ付今直ニ該計画ノ実行セラルルモノトハ思考セラレサルモ内情御含迄
支ヨリ上海ヘ転報アリ度シ
支、北平、青島、南京、奉天、天津、漢口、広東ヘ転電セリ
芝罘、張店、博山、坊子ヘ暗送セリ

50　昭和7年2月8日　在北平矢野参事官より芳沢外務大臣宛

北平政務委員会および軍事整理委員会の組織

等について

付属書　民国二十一年一月三十日発布の「北平政務委員会暫行条例」

北平　2月8日付
本省　2月25日着

公第六五号

昭和七年二月八日

在中華民国日本公使館
大使館参事官　矢野　真（印）

外務大臣　芳沢謙吉殿

北平政務委員会及軍事整理委員会ニ関スル件

曩ニ張学良カ東北政務委員会ヲ改組移転シテ北平政務委員会ヲ設置スルコトトセル次第ハ曩ニ報告（昭和六年十二月三十一日付公第一〇一〇号拙信並関係電報参照）ノ通ナル処同委員会ハ一月三十日順承王府ニ於テ成立会ヲ開キ張学良、李石曽、張継、韓復榘、徐永昌、周作民、呉達銓、于学忠、王樹幹等九人ヲ常務委員ニ推薦シ別ニ主席ヲ設ケス同会ノ一切事務ハ前記常務委員ニ於テ負責処理スルコトトナリ又別紙訳文ノ如キ同会暫行条例ヲ制定発布セリ

尚軍事整理委員会モ近々正式成立ノ模様ナル処同会ハ北平綏靖公署ニ直属シ華北駐軍ノ整理、軍費ノ節減、強固ナル国防計画、各軍ノ防地分配等ニ付商議ノ筈ニテ委員百余人中ヨリ張学良、万福麟、湯玉麟、于学忠、王樹常、劉翼飛、商震、徐永昌、傅作義、楊愛源、孫殿英、韓復榘、劉鎮華、宋哲元、龐炳勛等十五人ヲ理事ニ推薦シテ会務ヲ処理セシメ特ニ理事長ヲ設ケス別ニ総務（処長鮑文樾、副処長秦紹文）教育（処長門致中、副処長栄臻）両処ヲ付設スルコトトナレル由

右御参考迄報告ス

本信写送付先　公使、上海、哈爾賓、奉天、天津、済南、青島、漢口、広東、張家口

（付属書）

北平政務委員会暫行条例

（民国二十一年一月三十日発布）

第一条　本会ハ国民政府ノ許可ニ依リテ之ヲ設立ス

第二条　本会ノ管轄区域ハ暫時河北（天津市ヲ含ム）、遼寧、吉林、黒竜江、熱河、察哈爾六省及東省特別区北平市ヲ以テ其ノ範囲トス

第三条　本会ハ其ノ管轄区域内ニ於ケル最高級ノ地方政府ヲ指揮監督ス本会ハ国民政府ニ於テ明白且詳細ナル規定ナキ事項ニ付抵触セサル範囲内ニ於テ適宜ノ処分ヲナスコトヲ得但シ処分後国民政府ニ申請シテ備案スヘキモノトス

第四条　本会ノ決議事項ハ管轄区内ノ各該省区市最高級地方政府ヲシテ之ヲ執行セシム

第五条　本会ニ暫時委員若干人ヲ設ケ国民政府ニ於テ之ヲ指定ス

第六条　本会ニ常務委員七人乃至九人ヲ設ク委員中ヨリ之ヲ互選ス

第七条　在北平ノ中央政治会議委員、国民政府委員ハ本会ニ出席スルコトヲ得

第八条　本会ニ秘書庁ヲ設ク其ノ組織条例ハ別ニ之ヲ定ム

第九条　本会ハ必要ニ応シ専門委員ヲ招請スルコトヲ得

第十条　本会議事及弁事細則ハ別ニ之ヲ定ム

第十一条　本条例ニシテ若シ不備ノ点アレハ随時之ヲ修正スルコトヲ得並国民政府ニ申請備案スルモノトス

第十二条　本条例ハ国民政府ニ申請備案ノ日ヨリ施行ス

51　昭和7年2月9日　在上海村井総領事より芳沢外務大臣宛（電報）

日本軍の上海租界利用に対し呉市長より工部局に抗議申入れについて

上海　2月9日後発
本省　2月9日後着

第二六七号（暗）

呉市長ハ曩ニ一月三十日及二月三日ノ再度ニ亘リ共同租界工部局ニ対シ日本軍カ租界ヲ支那軍ニ対スル軍事行動ノ根拠ト為セルヲ容認シ若ハ之ヲ阻止セサリシハ租界ノ中立性ニ違反スルモノニシテ工部局ハ当然其責任ヲ負フヘキモノナリト厳重抗議シ来リタルカ之ニ対シ「マクノーデン」ハ六日付ヲ以テ租界ノ中立性ハ租界ニ関係アル各国ト支那トノ条約又ハ協定ニ依リ発生シタルモノナレハ其中立性ハ之等列国ノ維持スヘキモノナリ而シテ日本ハ之等列国中ノ一ナルヲ以テ日本軍ノ行動ニ対スル責任ハ日本政府ニアリテ工部局ニアラサル旨回答ヲ発シタル処呉市長ハ八日付関係国領事宛公文ヲ以テ前記租界当局宛抗議文ヲ引用シ工部局ハ右市政府ノ抗議ニ対シ今日迄何等有効措置ヲ執ラサリシ

ヲ以テ関係国領事工部局当局ニ厳命シ速ニ日本軍ノ右行動ヲ阻止スヘキ有効措置ヲ講セラレ度ク尚租界ヲ根拠トセル日本軍ニ対シ支那軍カ自衛ノ為攻撃シ其結果各国在留民ノ生命財産ニ損害ヲ与ヘタル場合支那政府ハ何等責任ヲ負ハサルコトヲ声明スル旨照会越シタル由

連盟ヨリ英、仏ニ転電アリ度シ

連盟、米、北平、奉天、天津、青島、漢口、広東、南京ニ転電シ公使ニ転報セリ

52　昭和7年2月10日　在南京上村総領事代理より芳沢外務大臣宛（電報）

十九路軍に対する孫科等の煽動に関する情報について

南京　2月10日後発
本省　2月11日前着

第一五〇号　暗

八日范漢生ノ本官ニ対スル談話中参考トナルヘキ点左ノ通

一、五日汪精衛浦鎮ニ来リ南京残留ノ要人ト会見シ蔣介石ノ意向ヲ伝ヘタルカ蔣ハ上海ニ於ケル十九路軍ノ遣方ヲ不満トシ居ル趣ナリ（大臣宛往電第一四四号及公使宛往電第一四四号ハ右会見ノ結果ナルヤニ認メラル）

二、孫科、陳友仁一派ハ上海ニ於テ盛ニ十九路軍ヲ煽動シ居リ右ハ上海ニ於ケル日支ノ衝突ヲ拡大スルコトニ依リ蔣介石ヲ困ラシ其立場ヲ失ハシメ之ヲ葬リ去ラントシ居ル次第ナリ胡漢民モ蔣ヲ倒ス道具トシテ十九路軍ヲ操リ居ル模様ニテ南京側ハ之ヲ苦々シク思ヒ居レリ云々

公使、北平、奉天、天津、青島、済南、漢口、広東、福州ニ転電セリ

53　昭和7年2月11日　在上海村井総領事より芳沢外務大臣宛（電報）

中国飛行機の租界上空飛行停止問題に関する呉市長の見解について

上海　2月11日後発
本省　2月11日後着

第二八八号（暗）
（一一一二文書）
往電第二六六号末段ニ関シ

呉市長ハ首席領事ヨリノ中国飛行機租界上空飛翔停止要求ニ対シ租界内領空主権ハ支那固有ノモノニシテ未タ曾テ之ヲ抛棄セル事無シ故（ニ）支那飛行機ノ租界上空飛行ハ其自由ニシテ何人ノ干渉ヲモ許ササル所ナルカ租界内在住者ノ生命財産ノ安全ヲ計ル見地ヨリ来翰ノ趣旨ハ軍事当局者ニ伝達シタリ唯若シ租界当局カ引続キ日本飛行機ノ租界上空飛行乃至通過ヲ許容シ若ハ制止セス我軍隊カ自衛ノ為之ヲ射撃シ起ル事アルヘキ一切ノ結果ハ支那政府ノ責任ニ非サル事ヲ声明スル旨十日付回答セル趣ナリ

支ヘ転報シ連盟局長、米、北平、奉天ヘ転電セリ

連盟局長ヨリ英、仏ヘ転電アリタシ

54　昭和7年2月12日　在南京上村総領事代理より芳沢外務大臣宛（電報）

南京における中国側の日本軍艦に対する警戒ぶりについて

南京　2月12日前発
本省　2月12日後着

第一六九号（暗）

一、本十一日ノ紀元節ニハ南京碇泊ノ支那側軍艦モ満艦飾ヲ施シタリ

二、市内ハ平静ナルモ軍艦ヨリ観望スルニ本日午後ヨリ獅子山砲台ノ大砲ハ一斉ニ日本ノ軍艦ニ向ケラレ又定淮門（「スタンダード、オイル、ヒル」ノ後方）ノ高地ニモ野砲数門据付ケラレタル趣ニテ我軍艦ハ特別警戒ヲナシツツアルモ目下ノ処当地支那側カ攻撃的態度ニ出ツヘシトハ思ハレサルニ依リ我方陸軍ノ派遣ト往電第一六六号ノ誤発事件トニ関連シ支那側ニ於テ疑心ヲ抱キ出シタル為ノ警戒ナルヤニ存セラルルニ付海軍側ニハ右ノ事情ヲ説明シ自重スル様要望シ置キタリ

支、北平、奉天ヘ転電セリ

55　昭和7年2月14日　在南京上村総領事代理より芳沢外務大臣宛（電報）

上海事変に対する国民政府の回避的態度について

南京　2月14日前発
本省　2月15日前着

第一七一号（暗、極秘扱）

十三日本官陳儀ト会見ノ際及其後原田武官同人トノ会見ノ際ノ談話及印象ヲ綜合スルニ

一、南京側ハ南京カ上海ノ事件ニ捲込マル可キコトヲ極度ニ恐レ居リ従テ広東ノ飛行機南京ニ到着ノ場合右飛行機カ

上海ノ戦線ニ参加ノ希望ヲ棄テサルニ於テハ直ニ上海方面ニ去ラシメ長ク南京ニ置カサル様措置スルモノト思ハル

二、我陸軍愈上海ノ戦線ニ出動セハ十九路軍ハ南京ニ援軍派遣ヲ求ムル事愈急ト成ルヘキ処其際ハ南京側ハ何トカ口実ヲ設ケテ一時逃レヲ為ス積リノ様思ハルルモ同時ニ陳儀等ハ蘇州及杭州方面ニアル旧警衛師（八十七及八十八師）カ果シテ中央ノ意向ヲ諒解シ黙シ居ルヤ否ヤニ付相当心ヲ痛メ居ル様子見ヘタルニ依リ本官等ハ累次往電ノ通リ機会アル毎ニ我方態度ヲ説明シ南京側カ十九路軍ヲ応援スルコトニ依リ上海ノ事態ヲ拡大シ南京其他ヲ上海ノ事件ニ捲込ムカ如キ愚ヲ為ササル様説得シ南京ノ十九路軍援助ヲ断念セシムルニ力メツツアル次第ナリ

三、陳儀ハ八十七師及八十八師ノ一部既ニ上海ノ戦線ニ参加セリトノ報道ヲ強ク否定セリ尚南京ニハ目下谷正倫配下ノ部隊ノ外殆ト云フヘキ軍隊ナキニ付六十五及六十八師南京ヨリ上海ニ出発セリトノ「ユー・ピー」通信（上海発閣下宛電報第二九八号）ハ事実ニアラスト認メラル

四、尚又陳儀ハ十三日原田ニ対シ上海ノ戦闘ヲ直ニ停止シ而シテ後協定ノ交渉ヲ為スコトトシ度ニ付我陸軍上陸ヲ阻止アリ度旨申出タルニ依リ原田ヨリ十九路軍ニ対シ相当距離ノ撤退ヲ実行セシムル自信アリヤト反問セル処陳ハ撤退セシムルコトハ至難ナルカ停戦丈ケナラハ実行セシムル自信アル旨答ヘタル趣ナリ

支、北平、奉天、天津、青島、済南、広東、漢口ヘ転電セリ

56 昭和7年2月15日　在上海村井総領事より芳沢外務大臣宛（電報）

徹底抗戦、十九路軍への援助など孫科ら在上海中央委員の政府あて要請について

上海　2月15日後発
本省　2月15日後着

第三一四号

十四日孫科、孔祥熙、呉鉄城、賀耀組等ノ在滬中央委員二十五名ハ汪精衛、蔣介石等宛通電ヲ以テ此際政府ハ

㈠徹底的対抗策ヲ決定シ国民ヲシテ全力ヲ挙テ、民侮(ヲ)防カシムルコト

㈡陸海空ノ全軍ヲ以テ上海ヲ固守スヘク十九路軍ヲ十分援助スルコト

㈢此機ニ乗シ北方各軍ハ反抗シ被侵略地ノ恢復ヲ計ルコト

㈣外交方面ニ於テハ日本兵全部ノ撤退スルニアラサレハ交渉ニ応セス上海事件ハ満州問題ト一併解決スルコト

ノ四項ヲ実行セラレタキ旨申入レタル趣ナリ

連盟、米、奉天、北平、南京、広東ヘ転電シ支ヘ転報セリ広東ヨリ香港ヘ転電アリタシ

57 昭和7年2月16日　在広東須磨総領事代理より芳沢外務大臣宛（電報）

李宗仁の対日問題に関する中央政府批判の演説について

広東　2月16日後発
本省　2月16日後着

第一二一号

十五日ノ西南執行部及政務委員会合同記念週ニ於ケル李宗仁ノ対日問題演説要旨左ノ通

一、統一政府ハ成立後モ依然旧式外交ニテ遂ニ日本側要求ノ全部ヲ承認セル為日本ハ無抵抗主義ト見縊リ兵ヲ以テ圧迫セントセリ

二、南京政府ハ只管衝突ノ発生ヲ恐レテ十九路軍ニ撤退ヲ命スルト共ニ顧祝同等ノ部隊ヲシテ之ニ代ラシメントシタルモ同軍ハ之ヲ聴カス遂ニ日本軍ハ閘北ニ進出今次ノ事変トナレリ

三、右報告ニ接スルヤ南京側ハ上海責任者ニ対シ事情ノ如何ヲ問ハス発砲シ得スト電命セルモ十九路軍ハ日本軍既ニ発砲セリトテ更ニ耳ヲ藉サス上海民衆ノ激烈ナル援助ノ下ニ敢然抵抗セリ

四、最近日本軍ハ三時間以内ニ上海ヲ片付ケ得ヘシト称シ乍ラ既ニ三週間ニシテ尚未解決ナル上却ツテ我方ヨリモ多大ノ損害ヲ蒙ムリ居ルハ一ニ十九路軍ノ奮闘ニ依ル今ヤ国際的形勢モ一変シ列国ハ熱心ニ我方ヲ援助シツツアリ

五、南京政府ハ遷都ノ美名ニ隠レ且ツ対抗ノ為ト称シツツ洛陽ニ移転セルカ右ハ人ヲ欺クモノニシテ現ニ蔣介石派ハ鄭州着後モ南京ニ対シ日本軍カ砲撃スルモ応戦スヘカラスト電命セル状態ナリ

六、兎ニ角南京政府カ内ニハ刷新ノ精神ナク外ニハ無抵抗ナル以上今後果シテ此ノ難関ヲ脱シ得ヘキヤ楽観ヲ許サス依テ我方ハ先ツ両広ノ建設ヲ完成シテ更ニ西南各省ニ及ホシ漸次全国ニ拡大スルコト必要ナリ云々

公使、北平、奉天、天津、哈爾賓、漢口、南京ニ転電シ香港ニ暗送セリ
公使ヨリ上海ニ転報アリ度シ

58 昭和7年2月19日　在上海村井総領事より芳沢外務大臣宛（電報）

上海方面事態の責任は日本側にありとの呉市長の回答について

上海　2月19日後発
本省　2月20日前着

第三四五号（暗、至急）
公使発閣下宛電報第二三五号（一一一五九文書）ニ関シ
十九日午後七時呉鉄城ヨリ本官宛公文並十九路軍総指揮ヨリ植田師団長宛書面ヲ接到シタリ前者ノ大要ハ上海方面ノ事態ハ日本軍ノ醸成セルモノニシテ日本ニ於テ一切ノ責任ヲ負フヘキモノナルコト累次申入レノ通ナリ又今般総領事申越ノ各項ハ当地中国軍隊ニ転達致シ難シ右ハ何レモ日支両国関係ニ影響スル問題ニシテ両国外交代表間ニ於テ処理スヘキモノナルニ付既ニ中央政府ニ転達シ置キタレハ外交部ヨリ日本公使ニ何分ノ回答アルヘシ唯本市長ハ日本軍カ引続キ挑発シ来リ有ユル破壊止マス民衆ノ憤慨日ニ甚シキ今日ノ情勢ニ於テ所謂抗日運動ノ消滅ノ如キハ望ミ難ク其責任亦日本ニ在ルコトヲ声明ストノ趣旨ナリ尚十九路軍総指揮ヨリ植田師団長宛ノモノノ要旨ハ十九路軍ハ国家ノ軍隊ナレハ其行動ハ国民政府ノ指揮ニ俟ツモノナルニ付凡テ南京政府ト交渉アリタシトテ簡単ナルモノナル由ナリ
冒頭電報ノ通転電セリ

59 昭和7年2月19日　在広東須磨総領事代理より芳沢外務大臣宛（電報）

陳済棠らの抗日勦共通電について

広東　2月19日後発
本省　2月19日後着

第一三〇号（暗）
陳済棠、李宗仁、陳策、張恵長外両広将領二十六名ハ十八日付ヲ以テ「東北ニ次イテ上海事件発生シ亡国ノ危機ニ直面セリ全国ノ力ヲ合セテ長期対抗セサレハ之ヲ切リ抜ケ得サル処一方共産党ハ此ノ機ニ乗シテ後方ヲ攪乱セントスルニ付自分等ハ爾後抗日ヲ続クル一方勦共ニモ努力シ以テ国民ノ期待ニ副ハントスル」旨ノ抗日勦共ノ通電ヲ発セシ処

時節柄勦共ヲ強調セル点ハ注意ヲ要スルニ付不取敢電報ス
支ヨリ上海ヘ転報アリタシ
支、北平、奉天、天津、漢口、南京、汕頭ヘ転電シ香港ヘ暗送セリ

60 昭和7年2月20日　在南京上村総領事代理より芳沢外務大臣宛（電報）

植田師団長の要求に対する外交部長の抗議について

南京　2月20日後発
本省　2月21日前着

第一八九号
本官発支宛電報第一八五号
外交部長ヨリ貴公使宛十九日付公文ヲ以テ大要左ノ通照会越セリ
奉天事件以来日本軍隊ハ更ニ上海閘北地方ニ進攻シ閘北、呉淞ノ各地ヲ任意攻撃シタル為中国軍隊ハ自衛上抵抗ノ已ム無キニ至レル処植田司令官及村井総領事ハ十八日各種不可能ノ要求ヲ提出セルカ若シ日本軍隊ニシテ更ニ進攻スルニ於テハ中国軍隊ハ必ス力ヲ尽シテ抵抗スヘク依テ生スル一切ノ結果ハ総テ日本政府ニ於テ負担スヘキモノナリ
原文郵送ス
外務大臣、北平、奉天、天津、青島、済南、漢口、広東ヘ転電セリ

61 昭和7年2月20日　在南京上村総領事代理より芳沢外務大臣宛（電報）

上海における日本軍爆撃等の損害賠償方外交部より照会越について

南京　2月20日後発
本省　2月21日前着

第一九〇号
本官発支宛電報
第一八六号
往電第一八五号（六〇文書）ニ関シ
外交部長ヨリ貴公使宛二十日付公文ヲ以テ一月二十八日以来上海方面ニ於ケル日本軍ノ爆撃及日本浪人ノ暴行ニ依ル各種損害ニ対シ損害賠償要求ノ権利ヲ留保スル旨並ニ詳細調査ノ上更ニ具体的要求ヲ提出スヘキ旨照会越セリ
原文郵送ス、冒頭往電ノ通転電セリ

62　昭和7年2月21日　在南京上村総領事代理より芳沢外務大臣宛（電報）

上海事変に対する汪行政院長の態度表明について

南京　2月21日後発
本省　2月22日前着

第一九一号

汪兆銘ハ行政院長ノ名ニ於テ廿日各省市政府及各軍事長官並新聞社ノ諸団体ニ対シ上海事件ニ関スル長文ノ通電ヲ発セルカ其ノ要旨ハ我方ノ最後通牒発出前後ニ於ケル外交及軍事経過ヲ述ヘタル後若シ日本政府カ日本軍隊ヲシテ即日一切ノ侵略行動ヲ停止セシメ更ニ一方進ンテ誠意ヲ示スニ於テハ支那側平和維持ノ方針ヲ貫徹シ依然トシテ善意ノ考量ヲ加フヘキモ日本軍カ引続キ進撃スルニ於テハ支那軍ハ飽迄極力抵抗スヘク凡ソ軍民ハ挙国一致最大ノ決心ヲ以テ長期ノ奮闘ヲ為ササルヘカラスト述ヘタルモノナリ

北平ヨリ大臣ヘ転電（第一九一号）アリタシ

支、北平、奉天、天津、青島、済南、漢口ヘ転電シ広東、福州ヘ暗送セリ

63　昭和7年2月22日　在上海村井総領事より芳沢外務大臣宛（電報）

警衛師の十九路軍加入説について

上海　2月22日後発
本省　2月22日後着

第三六七号（暗）

南京発公使宛電報第一八五号（六〇文書）ニ関シ

二十一日蔣方震ハ往訪ノ館員ニ対シ右ハ蔣介石汪兆銘等協議ノ上発セラレタルモノナルカ多分ニ対内的意味ヲ有シ裏門ハ明ケラレテ居リ（外交交渉ノ途アルヲ指ス）蔣汪等ノ真意了解ニ難カラストテ暗ニ其熟読翫味方ヲ諷シ更ニ警衛師十九路軍ニ加入セリトノ噂ニ付右事実ノ有無ニ関スル館員ノ問ニ答ヘテ警衛師ノ十九路軍加入ハ有リ得ヘシ但シ夫ハ孫科ノ警衛師ニ対スル懐柔奏効セルヲ意味スルニ過キス之ヲ以テ直ニ蔣介石ノ積極的戦闘参加ト見ルハ当ラストテ中央ノ和平解決態度ノ依然変ラサルヲ力説シ居タル趣ナリ

尚警衛師中八十七師ハ今猶崑山蘇州方面ニ在リ八十八師ハ一部竜華ニ在リ戦闘ニ参加シ居ラス廟行鎮ニ在ル同師一部隊モ二十日ノ我軍ノ総攻撃ニ対シテモ一切沈黙ヲ守リ居タル趣ナリ

北平、奉天、天津、青島、済南、広東、福州、南京、漢口ヘ転電セリ

64　昭和7年2月23日　在広東須磨総領事代理より芳沢外務大臣宛（電報）

上海事変の早期解決に関する意見具申について

広東　2月23日後発
本省　2月23日後着

第一四三号（暗）

一、[1] 当方面ハ第十九路軍ノ出身地丈ケニ我方最後通牒以来中国側当局ハ勿論各国同僚其他在留外人等モ異常ノ緊張振リヲ示シ中ニハ足繁ク本官ヲ来訪シ或ハ上海ヨリ香港ニ避難中ノ友人等（例ヘハ南京政府ニ関係アル米人建築士「マーフエー」夫婦）ヲ伴ヒ来リテ我方ニ対スル一般輿論ノ悪化ニ関シ注意ヲ喚起スルアリ或ハ外人旅行者（例ヘハ廿日本官来訪ノ米国「ブラウン」大学総長「バーブア」博士）等モ唯何トナク日本ハ侵略者ナリヤノ先入主ヲ有シ居ルヤニ認メラルル処右様ニ対シテハ勿論其都度納得ノ行ク様我方ノ態度ヲ説明シツツアルモ一般ノ此種感触侮リ難キヤニ看取セラル

二、廿二日昵懇ナル米国総領事ノ如キモ本官ニ対シ米本国ニ於テ例ヘハ「ボラ」等ノ対日経済絶交反対論モアル一方「ハーバード」大学総長「ローウェル」及前陸相「ベーカー」等有力者ノ賛成論モアリテ日本ニ執リ仲々油断ナラヌ情勢ナルカ此間国務省ハ沈黙シ居ルカ如キモ米国政府トシテハ既ニ数次対日「ノート」ヲ発出シ居ルカ故ニ此上ノ措置ハ相当有効ナルヲ要スル等ノ考慮ヨリ謂ハハ「シニスターサイレンス」ヲ以テ時局ヲ見送中トモ言ヒ得ヘシト語リ又本廿三日本官来訪ノ英国総領事ハ諸方面ノ情報ニ依レハ英国議会其他ノ輿論ノ手前又殊ニ日本側ノ主張ニハ道理ハアルヘキモ何シロ日本ハ事実上最後ノ通牒ニ依ル戦争ト異ナラサル事態ヲ形成シ居ルノ事実ハ之ヲ否ミ難ク流石ノ「サイモン」外相モ此上対日好感ヲ続ケ難キ状態トモ成ルヘキヲ惧ルトテ憂色ヲ示シ居タリ

三、[2] 更ニ二十三日「ワシントン」二百年祭会合ニテ多数中国人トモ時局談ヲ交ヘタル印象ニ依レハ当方面トシテハ累

次電報ノ通リ十九路軍ノミ矢面ニ立ツ間ハ依然反蔣ヲ標榜シ従来ノ如ク不即不離ノ関係ヲ持続スヘキモ愈蔣介石軍カ対日軍事ニ参加センカ反蔣ノ目標ヲ失ヒ遂ニハ当方面モ引摺ラルルコトトナリ結局挙国一致我方ニ抗敵スルコトトナルヘキヤニ思料セラルル処事実公使発閣下宛電報第二四六号ノ(二)ニ依レハ警衛軍ハ既ニ事実上加担シ居ルカ如ク斯クテハ上海発閣下宛電報第三一七号ノ次第ハアルモ漸次前記ノ如キ憂慮スヘキ状態ニ陥ルコトアルヘク懸念セラル

四、之等事情並連盟発閣下宛電報第一一三号連盟ノ空気等ヲ併セ考フルニ決シテ楽観ヲ許ササル重大事態ニ直面シ居ルニ付テハ此ノ際公使発閣下宛電報第二四八号（一一一六八文書）重光公使御意見ノ方針ニ依ルコト最モ機宜ニ適スト認メラルル処更ニ我方要求ノ撤兵地域内ニ敵影ヲ認メサル時期ニ至ラハ速ニ我軍事行動ヲ止ムルト同時ニ支那側意向ノ如何ニ拘ハラス我方ヨリ進テ列国側ニ対シ撤兵区域ニハ国際軍ヲ入レテ警備方公然要求シ之ト同時ニ我軍ハ原駐地ニ復スルトセハ一方帝国カ十九路軍ヲ膺懲スルノ趣旨ト面目トハ充分之ヲ遂ケラルヘキノミナラス他方我方ヲ侵略者ト誤認シツツアル列国ヲシテ正当ナル認識ニ帰ラシムル「モーラル、エフェクト」大ナルヤニ思考セラレ且右我方ノ立場ヲ三月三日連盟総会前ニ表明スルコトヲ得重要ナル危機ヲ去リ得ヘキヤニ存セラル当方面消息申進旁右電稟ス

公使、北平、奉天、南京ヘ転電セリ、公使ヨリ上海ヘ転報アリ度シ

65　昭和7年2月23日　在天津桑島総領事より芳沢外務大臣宛

英領事等の中国正規兵及び保安隊に対する二十支里外撤退要求について

付属書　二月二十一日付在天津仏国領事より王河北省政府主席宛

右公文

天津　2月23日付
本省　3月7日着

公信機密第一四三号

支那正規兵及保安隊ノ二十支里外撤退要求ニ関スル件

当地ニ租界ヲ有スル英仏伊国領事ヨリ二月廿一日王樹常ニ対シ天津治安保持ノ見地ヨリ王ノ衛隊三百名ヲ除キ一切ノ支那正規軍ノ撤退及保安隊モ之ト同様ニ措置サレ度旨ノ同文要求ヲナシタル件ニ付テハ電報済ノ通ナルカ仏国領事発王宛公文漢訳文茲ニ郵送ス

本信写送付先　在中国公使　北平　上海　南京　奉天　済南　青島

（付属書）

訳文

逕啓者近在上海発生重大之事変在中国各処双方之激動能随時於各処拡大極厳重之戦事波及天津故本領事亟請厳為履行預訂之条約以免在津軍事衝突之危険

中国対此曾已承認義務為保護其土地且尊重此項義務能保極重要地方外人連帯利益之安寧本領事不能不言明極正式保留之条件故不能允予缺欠此項義務因於法租界之安寧特有危険影響之可能故本領事応請

貴主席対於義務之所属厳行一九零一年議定書所付随一九零二年七月十五日協定之条件加以注意

貴主席洞悉禁止中国軍隊在津市二十里内駐紮或通過前次事変之経験足以証明此項条約之良善故為預免発生誤会較弁理災害実現為尤妙対於

貴主席保護個人之衛隊三百名不在此例亦経載明此項条件顕未遵守以本領事之観点応行特別通知

貴主席保安隊即正式軍隊之部分与其他軍隊在津之存在有違議定書之条例本領事再進一言尊重所述協約之精神為図津市之保全只許如各国租界無武装警察之存在為此函請

貴主席明悉此函之来意且請明悉本領事不但籌画法国利益更為中国普通之利益本領事相信

貴主席迅予取締否則

貴主席応知可畏重大事変之重責将由

貴主席担負此致

河北省政府主席王

付法文　　法国駐津正領事官李畢飛

一九三二年二月二十一日

66　昭和7年2月(24)日　在済南西田総領事より芳沢外務大臣宛（電報）

国民政府の動向に関する韓主席の内話について

済南
本省　2月24日後着

第六〇号（暗）

本二十三日韓主席ノ本官ニ対スル内話左ノ通リ

一、蔣介石、汪精衛ハ目下南京ニ在リ又馮玉祥ノ病気モ大体全快セシヲ以テ浦口ニ赴キ馮夫人ハ徐州ヨリ当地ニ立寄リ北平ニ帰レリ上海方面ニハ十九路軍ノ外ニ既ニ顧祝同ノ一師及旧警衛師ノ一師ヲ配置シ居リ必要ニ応シテハ更ニ浙江方面ヨリ応援軍ヲ参加セシムル模様ニ付日本軍ノ上海ニ在ル現有実力位ニテハ日本側ハ予期ノ如ク成功ヲ収メ難カルヘク（往電第四九号参照）中央ハ日本ニシテ今後軍隊ヲ増派スル場合ハ夫レニ対応シテ援軍ヲ増加スルコトニ大体方針ヲ決定シ居ルモノノ如シ

二、中央政府ハ最近第二全体会議又ハ国難会議ヲ開催スル予定ナル処右ハ三月ノ国際連盟総会ニ関連シ中国ノ軍事、外交、財政等全般的ニ亘ル事項ニ付協議スルモノナランカ対日問題ニ関シ中央トシテハ積極的ニ出テサルモ日本軍ノ攻撃ニ対シテハ出来得ル限リ抵抗スルコトニ決定シ居レリ右会議地点ハ洛陽説アルモ目下ノ処未定ナリ自分ハ参加方特別ナル訓令無キ限リ成ルヘク出席セサル意向ナリ

三、蔣、汪、馮三者ノ関係ハ汪、馮両人ハ大体一致セルカ蔣ト両人トハ必ススシモ一致セリト認メ難キモ将来ハイサ知ラス現在ノ場合対内的感情ヨリ蔣カ馮ヲ監禁スルカ如キコトハ無ク先ツ一致シテ国難ニ当ル態度ヲ有スルモノノ如シ

又北方ニ於テ呉佩孚ハ張学良ト必ススシモ一致セルニ非サルモ左リトテ段、閻トモ充分連絡セル気配ナク現状維持ノ態度ニテ反張学良派ノ運動モ未タ確タル団結ノ気運ニ至ラス云々ト

支ヨリ上海ヘ転報アリタシ

支、北平、青島、南京、奉天、天津、漢口、広東ヘ転電シ芝罘ヘ暗送セリ

67　昭和7年2月24日　在厦門三浦領事より芳沢外務大臣宛（電報）

十九路軍により日本軍潰滅との報道について

厦門　2月24日後発
本省　2月24日後着

第七七号（暗）

㈠廿三日夕刻上海ニ於テ十九路軍大捷日本軍全滅セリトノ報到達セリトテ各新聞社ハ之ヲ大書シテ市内各所ニ張出シ又厦門大学生ハ約十台ノ自動車ニ分乗シ其他ノ学生ハ隊伍ヲ組ミ又抗日会ニテハ夫々手分ケシテ宣伝ニ努ムルト同時ニ祝勝ノ爆竹ヲ鳴ラス様勧誘シテ廻リタル結果午後九時頃ヨリ厦門側及鼓浪嶼側ノ支那人一斉ニ騒キ出シテ目抜ノ通リハ忽チ人山ヲ築キ爆竹ハ到ル所耳ヲ聾センハカリニテ物凄キ光景ヲ顕出シタリ

㈡依テ直ニ軍艦側ニ之ヲ急報シ充分ノ連絡ヲ遂クルト共ニ一般在留民ニ必要ノ指示ヲ与フル一方本官ヨリ林司令ニ直接電話ヲ掛ケ当夜ノ出来事ヲ詰問シタルニ林司令ハ厦門ノ治安維持並ニ在留日本人保護ノ為直ニ巡警隊及軍隊ヲ出動セシメ総テ手配済ナルカ当地ニ於ケル出来事ニ付テハ自分ニ於テ全責任ヲ負ヒ措置スヘキニ付御安心アリタキ旨回答アリ更ニ工部局ニモ電話シタル処同局警察ニ於テモ直ニ必要ノ措置ヲ執リ居ルコトヲ確メタリ

㈢午後十時過ヨリ厦門及鼓浪嶼側トモ漸次下火トナリ廿四日午前一時頃ニ至リ沈静ニ帰シタリ

支、奉天、上海、北平、広東、汕頭、南京、福州ヘ転電セリ

68　昭和7年2月25日　在南京上村総領事代理より芳沢外務大臣宛（電報）

軍政部の洛陽移転について

南京　2月25日後発
本省　2月25日後着

第一九八号

軍政部ハ最近記録等ヲ取纒メ当地ヨリ洛陽ニ移転セリ尚外交部ハ既ニ駐京弁事処ト改メタルモ部長以下尚当地ニ在リ

支、北平、奉天、漢口ニ転電セリ

69　昭和7年2月25日　在南京上村総領事代理より芳沢外務大臣宛

満州独立運動並びに日本の関与に関する羅外交部長の抗議について

付属書　同日付在南京上村総領事代理より在上海重光公使宛公信機密第七四号
羅外交部長来翰転達について

南京　2月25日付
本省　3月3日着

公信機密第一〇一号

昭和七年二月二十五日付機密第七四号重光公使宛公信写送付

件　名

一、満州独立運動ニ関スル外交部長来翰転達ノ件

（付属書）

公信機密第七四号　　南京　2月25日付

満州独立運動ニ関スル外交部長来翰転達ノ件

本件外交部長来翰別紙ノ通リ転達ス御査収相成度

本信写送付先　大臣　北平　奉天

（別　紙）

照　会

大中華民国外交部長羅　　為

照会事近日拠報在日軍侵佔中之東北各地有所謂独立運動之積極醞釀而国連行政院二月十九日開会時日本代表佐藤竟声称日本対於東三省独立運動頗表同情並予以贊助等語查中国政府曾於上年十月二日正式声明在日軍未正式交還其所佔領各地方城市以前当地如有不合法之組織日本政府応負其責中国概不承認並屢次向貴国為鄭重之抗議在案又查上年九月二十七日駐東京中国公使館丁秘書為東省建立中和国事往晤谷亜細亜局長拠称已厳禁日人参預否則駆逐出境嗣蔣公使関於満蒙建国計画事又備文向貴国政府声明日政府在未撤兵前対此応負全責准復称厳禁日人奨励支持或参預華人樹立政権之策動等語乃近日所謂東省独立運動之陰謀較前益為顕著而日本代表佐藤竟公然自承日本贊助此種非法運動似此違反貴国外交当局之声明破壊中国領土行政之完整中国政府絶対不能承認所有自日軍非法侵佔東北各地後在該処建立所謂独立或自主政府之挙動及令中国人民参加此種傀儡之組織日本政府応負完全責任相応再行提出厳重抗議照会貴公使即希查照為荷須至照会者

右　照　会

大日本帝国特命駐華全権公使重光

中華民国二十一年二月二十四日　　羅　文　幹

（訳　文）

以書翰致啓上候陳者近日報告ニ依レハ日本軍侵佔中ノ東北各地ニ於テ所謂独立運動ノ積極的醞釀アリ又二月十九日国際連盟開会ノ際日本代表佐藤氏ハ竟ニ日本ハ東三省ノ独立運動ニ頗ル同情ヲ表シ並ニ贊助ヲ与フヘキ旨述ヘタル趣ノ処查スルニ中国政府ハ曽テ客年十月二日正式ニ日本軍カ其ノ占領セル各地城市ヲ正式ニ返還セサル限リ該地ニ於テ若シ不合法ノ組織ヲ見ルコトアラハ日本政府ハ其ノ責任ヲ負フヘク中国ハ概シテ不承認ナル旨声明シ又屢々貴国ニ向ヒ抗議セル次第アリ又查スルニ客年九月二十七日東京駐在中国公使館丁秘書カ東省ニ中和国建設ノ件ニ付谷亜細亜局長往訪シ其ノ節同局長ハ既ニ日本人ノ参与ヲ厳禁セリ然ラサル者ハ退去セシムヘシト述ヘラレ次テ蔣公使カ満蒙建国計画ノ件ニ関シ再ヒ文書ヲ以テ貴国政府ニ向ヒ日本政府ハ撤退前ニ於テハ此ニ対シ全責任ヲ負フヘキ旨声明シ御回答ニ依レハ日本人カ中国人ノ政権樹立ノ策動ニ奨励、支持或ハ参与ヲナスコトヲ厳禁セリトノコトナルニ近日所謂東省独立運動ノ陰謀カ以前ニ較ヘ益々顕著トナリ又日本代表佐藤ハ竟ニ公然日本カ此ノ種不法運動ニ贊助スルモノナルコトヲ自認セリ斯ノ如キハ貴国外交当局ノ声明ニ違反シ中国領土及行政保全ヲ破壊スルモノト云フヘク中国政府ノ絶対ニ承認シ能ハサル処ナリ日本軍ノ東北各地不法侵佔後該地ニ於ケル凡ユル所謂独立或ハ自主政府建設ノ挙動及中国人ヲシテ此種傀儡組織ニ参加セシムルコトニ付テハ日本政府ハ完全ニ其ノ責ヲ負フヘキモノトス茲ニ重ネテ厳重抗議ヲ提出ス右御了知ノ上可然御取計相成度此段照会得貴意候

敬具

中華民国二十一年二月二十四日　　羅　文　幹

重　光　公　使

70　昭和7年2月26日　在南京上村総領事代理より芳沢外務大臣宛（電報）

警衛師の上海戦参加の情報について

南京　2月26日後発
本省　2月26日後着

第二〇三号（暗　至急）

往電第二〇二号ニ関シ

廿六日憲兵司令部ニ付確メタル処浦口ヨリ渡リ来レル約一千名ノ軍隊ハ徐州方面ノ統制ナキ雑軍ヲ整理ノ為全部武装ヲ解除シ南京ニ送リタルモノニシテ目下城内ニ収容シ居ル

モ金策出来次第手当ヲ与ヘ全部解散スル筈ナリトノコトナリ

二、尚其際本官ヨリ警衛師カ上海ノ戦闘ニ参加シ居ル点ニ付確メタル処八十八師ノ一旅ハ当初ヨリ上海付近ニ駐屯シ居リタル為遂ニ戦闘ニ捲込マレタルモノト思ハルルモ蔣介石ヨリ戦闘参加ヲ命令セルカ如キコトハ有リ得サル旨説明セリ

三、廿六日多量ノ弾薬ヲ浦口ヨリ下関ニ運送シツツアリ目下注視中

支、北平、奉天、広東ヘ転電セリ

71 昭和7年2月26日 在南京上村総領事代理より芳沢外務大臣宛（電報）

中国飛行機の北上について

南京 2月26日後発
本省 2月26日後着

第二〇四号（暗、至急）

本廿六日支那飛行機十一台南方ヨリ当地ニ飛来シ小憩ノ後午後一時頃更ニ北方ニ向ヘル処右ハ或ハ蘇州杭州方面ニ在リシ中央ノ飛行機ヲ北方ノ安全地帯ニ移シタルモノカト思料セラル為念

支、北平、奉天、天津、青島、済南、漢口、広東ヘ転電セリ

72 昭和7年2月28日 在南京上村総領事代理より芳沢外務大臣宛（電報）

蔣介石の十九路軍援助に関する我方対策について

南京 2月28日後発
本省 2月28日後着

第二〇九号（暗、部外秘）

本官発在支公使宛電報[1]

第二〇六号

当地支那側ハ今日ニ於テモ従来通リ本官等ニ対シテハ上海ノ争闘ハ十九路軍ノ為ス所ニシテ南京ノ之ニ影響セラルルハ最モ欲セサル所ナルヲ以テ上海ノ事態ノ進展ニ拘ラス南京タケハ日支双方ノ協力ニ依リ平和ヲ維持シ度キ旨ヲ述ヘ外交部及憲兵司令部ヨリハ毎日部員ヲ本官ノ許ニ派シテ我方ト意思ノ疏通ヲ計ルニ努ムル外夫々部員ヲ下関ノ旅舎ニ常駐セシメ我方トノ連絡ヲ密ニシ居ル次第ナルカ近時雑

談ノ折等ニハ十九路軍カ上海ニ於テ既ニ久シク敢然日本軍ノ前進ヲ防止シツツアルニ拘ラス南京側ハ何等積極的援助ヲ為サストテ反蔣派ヨリハ勿論国内一般ヨリモ攻撃ヲ受ケ蔣介石モ其ノ立場ニ窮シツツアリ其辺ノ複雑ナル内情ハ日本側ニ於テモ充分諒察セラレタシトノ口吻ヲ洩シツツアル次第モアリ蔣ハ将来ノ立場ヲ救フ為十九路軍ニ対シテハ密カニ言訳ノ立チ得ル程度ノ援助ヲ為シツツアルヤニ察セラル然レトモ之カ為自己ノ実勢力ヲ失ヒ若ハ南京ニ戦禍ヲ及ホスカ如キハ極力之ヲ避ケントシ居ルモノノ如ク当地ニ於ケル軍隊ノ移動乃至南京ニ於ケル防禦工事等ニ関スル我方ノ抗議的質問ニ対シテハ一々丁寧懇切ニ説明シ（右説明カ事実ナリヤ否ヤハ別問題トシ）只管我方ノ諒解ヲ得ルニ努メツツアリ依テ本官モ機会アル毎ニ我方ニ於テハ上海事件ヲ拡大シ若ハ南京ヲ敵トスルノ意ナキ次第及我方ノ立場ヲ徹底セシムルニ努ムルト共ニ他方当地軍隊軍需品ヲ集メ之ヲ上海ノ戦線ニ送ルカ如キコトアラハ我方ニ於テハ戦略上已ムナク南京ヲ以テ上海ノ戦闘ノ一策源地ト看做シ其ノ策動ヲ阻止スルノ手段ヲ執ラサルヲ得サルニ至ルヘキ次第ヲ警告シ居リ支那側モ之ヲヨク諒解シ十九路軍ヲ援助スルトスルモ我方ノ監視ニ気兼シツツ目立タサル方法ヲ取ルニ努メ居ル次第ニテ国内ノ関係錯綜セル支那ノ現状ニテハ蔣介石ノ立場ニ付テモ相当同情的ニ見ルノ要アルヘキ此ノ際蔣ノ十九路軍援助阻止ニ関シ余リ大袈裟ナル手段ニ出テ必要以上ノ積極的行動ヲ執リ若ハ蔣ヲ全然窮地ニ陥ルルカ如キハ却テ彼ヲ反撥セシメ面白カラサル結果ヲ招来スルノ虞アルヤニ思考セラル

最近我軍部ニ於テ南京ノ交通遮断方法攻究中ナリトノ聞込モアリ御参考迄（部外秘）

大臣、北平、奉天、天津、青島、済南、漢口、広東ヘ転電セリ

73 昭和7年2月28日 在上海重光公使より芳沢外務大臣宛

満州独立運動に関する羅外交部長照会への回答について

付属書 同日付在上海重光公使より在南京上村書記官宛公信機密第六二号
重光公使より羅外交部長あて回答文

上海 2月28日付
本省 3月7日着

公信機密第六五号
昭和七年二月二十八日付在南京上村三等書記官宛機密公第六二号信写送付
満州独立運動ニ関スル外交部長公文ニ対スル
回答文送付ノ件

（付属書）

公信機密第六二号　　上海　2月28日付
満州独立運動ニ関スル外交部長公文ニ対スル
回答文送付ノ件
貴電第一九八号ヲ以テ要領電報アリタル本件公文ニ対スル回答公文茲ニ添付送付スルニ付外交部ニ転交方可然御取計相成度
本信写送付先　外務大臣　北平　奉天　上海

（別紙）

外第一九号（訳文）
以書翰啓上致候。陳者、所謂満州独立運動ニ関シ二月二十四日付貴翰ヲ以テ御申越ノ趣閲悉致候。右ニ対シ本使ハ左ノ通回答スルノ光栄ヲ有シ候。
満州各地ニ於ケル所謂独立運動ナルモノハ従来同地方ノ政情ニ不満ナル貴国人ノ所為ト認メラレ帝国政府及官憲ニ於テ何等之ニ関係ヲ有セサルモノナルハ茲ニ之ヲ明ニ致シ候。又二月十九日連盟理事会ニ於テ佐藤代表ハ日本ハ東三省ノ独立運動ニ対シ同情ヲ有スル旨ヲ述ヘタル趣指摘セラレタル処、当方ニ於テハ詳報ニ接シ居ラサルモ右事実ナリトセハ右ハ満州地方ニ成立スル自治運動ノ発達ノ結果トシテ同地方ノ治安恢復セラレ内外住民ノ不安除去セラルルニ至ル事ハ日本ノ歓迎スル所ナリトノ趣旨ヲ表示シタルニ過キサルヘクト思考セラレ候。従ツテ何等日本政府ニ於テ右運動ニ関係アルコトヲ示ス次第ニハ無之候。
右回答申進旁本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候。
敬具
昭和七年二月二十八日
日本帝国特命全権公使　重光　葵
国民政府外交部長　羅文幹殿

74　昭和7年2月29日　在上海村井総領事より芳沢外務大臣宛（電報）
上海戦参加の中国軍の動向について

第四〇四号（暗）　　上海　2月29日後発
本省　2月29日後着
二十九日唐蟒ノ館員ヘノ談話要領
一、蔣介石ハ当初ヨリ日本ト戦フノ意ナク十九路軍開戦後ハ日夜煩悶シ居リ殊ニ直属ノ八十八師カ手酷キ損害ヲ受ケタル為モアリ最近ハ神経衰弱ニテ不眠症ニ罹リ南京ニテ病臥中ナリ（山本英治モ之ヲ肯定シ居タリ）又陳銘枢モ十九路軍問題ノ為蔣トノ間ニ不和ヲ来シ引籠リ中ナル趣ナリ
一、目下戦線ニアル支那軍隊ハ十九路軍十七個団、独立旅（王庚）ノ四個団及八十八師ノ大部分、八十七師ノ一部ニテ兵数約八万、内戦闘員ハ四万ソコソコナリ世上岳盛宣、蔣鼎文、王均軍等ノ来援説アルモ事実ニアラス又従来戦闘ニ参加セン義勇軍（学生、工人ハ少ナク主ニ無頼漢）ハ先程解散ヲ命セラレ目下戦線ニアルモノハ後方勤務ニ廻サルルコトトナリ南京ヨリノ義勇軍参加モ政府ニ於テ厳禁シタル由
一、尚其際唐ハ支那軍側ニ於テハ大部浮腰ニナリ居リ一両日中ニ退却スルコトトナルヤモ知レス日本側トシテハ事態ヲ之レ以上拡大セス速ニ全国支那民衆ノ気持ヲ転換セシムル様仕向クル必要アリ何レ犬養総理ニモ此ノ旨申入ルヘキ考ナリト語リ居タル趣ナリ
公使ヘ転報シ、北平、奉天、南京、広東ヘ転電セリ

75　昭和7年3月2日　在上海村井総領事より芳沢外務大臣宛（電報）
中国の対ソ国交復旧に関するロイテル電について

第四一五号　　上海　3月2日後発
往電第四一一号ニ関シ　　本省　3月2日後着
三月一日南京発「ロイター」電ニ依レハ
外交特別委員会ノ満州新独立国討伐ノ件既ニ事実トシテ知ラレ居タルモ「ソビエット」国交復旧ノ件ハ驚異ヲ以テ迎ヘラレ居レリ尤モ世界カ日本ノ武力侵略ニ対シ中国ヲ支持セルニ(ママ)於テハ中国ハ「ソ」ト提携スルノ外無シトノ話過去四箇月来中国人一般ノ間ニ行ハレ居リ中国ハ日本ノ武力ニ屈服スルヨリハ寧ロ「コムミュニズム」ト提携スルニ至ラ

ント称セラレ一般ニ国交復旧ノ決定ハ明日（二日）ノ洛陽ニ於ケル会議ニ於テ採択セラルヘシト信シ居レリト
北平、奉天、哈爾賓、斉々哈爾、南京、広東へ転電シ支ヘ転報セリ

76　昭和7年3月6日　在上海村井総領事より芳沢外務大臣宛（電報）

朱兆莘が二中全会に提出の対日宣戦意見書内容について

上海　3月6日後発
本省　3月6日後着

第四九七号（暗）
朱兆莘カ外交委員会ノ審査ヲ経二中全会ニ提出セル二月十七日付対日宣戦意見書ナルモノヲ入手シタルカ同意見書中彼ハ友邦ノ調停望ミナキ今日城下ノ誓ヲ為スニ異ルナキ日本提案ニ対シテハ巍然宣戦ノ外ナシ宣戦セサレハ抵抗シテ勝ツモ徹底的弁法ナシ宣戦シテ勝テハ固ヨリ善シ勝タストモ長期対峙スレハ破ルルノ理ナシトテ長期抵抗ノ要ヲ力説シ長期抵抗ニ依リ工業国日本ハ失業者激増シ革命起リ社会党共産党及朝鮮独立党ハ機ニ乗シテ起リ国内紛糾シ出征軍ノ士気弛緩スヘシト云ヒ日本必敗スヘシトテ
一、日本ハ軍費欠乏シ遠征ニ不利ナリ
二、世界大戦前ノ独逸ニモ等シキ日本ニ対スル戦争ニハ英米ノ加担アルヘク
三、国際戦争トナレハ其勝敗ハ目前ノ局部的失敗ニ依リ決スルモノニ非ス長期抵抗ハ日本軍ノ疲労ヲ待タハ一撃ニ依リ之ヲ倒シ得ヘシ
トナシ対日宣戦勝算アリト揚言シ更ニ対日宣戦ノ結果
一、戦後損害ノ賠償及軍費ヲ要求シ得ルコト
二、東三省失地ヲ恢復シ台湾琉球ノ還付ヲ要求シ朝鮮ヲ解放セシメ得ルコト
三、南満ニ於ケル日本ノ一切ノ権利及鉄路鉱権ヲ無条件ニ回収シ得ルコト
四、期限満了ノ日支条約及其他現存ノ不平等権利ノ廃棄並ニ二十一ケ条及一切ノ苛約密約ヲ無効トシ得ルコト
五、北平政府及各省ノ対日借款ノ一律取消シ及庚款残額西原借款等ヲ廃棄シ得ルコト
六、日本側ノ形勢非トナラハ嘗テ対独宣戦ヲ為セシ米国ハ同一態度ニ出テ我ヲ援助スルニ至ルヘキコト

等ノ利益アリトテ弱ヲ転シテ強トナスヘキ千載一遇ノ好機ヲ獲ヘヨト述ヘ居レリ右ハ大体広東側ノ意向ヲ代表スルモノナルヤニ認メラルルニ付何等御参考迄
北平、奉天、広東、漢口、南京へ転電シ支ヘ転報セリ

77　昭和7年3月7日　在南京上村総領事代理より芳沢外務大臣宛（電報）

国民党中央執行委員会第二次全体会議の開催について

別　電　同日在南京上村総領事代理より芳沢外務大臣宛第二二五号
右会議宣言および全国将士に対する通電などについて

南京　3月7日後発
本省　3月8日前着

第二二四号
中央第二次全体会議ハ予定ノ通三月一日洛陽ニ於テ開会式ヲ挙ケ（出席委員約六十名）一日ヨリ三日迄本会議ヲ開キ軍事、外交、財政、党務等ニ関スル問題ヲ討議シ六日閉会セル趣ナルカ右会議ハ六日付ヲ以テ大要別電第二二五号ノ如キ宣言及全国将士ニ対スル激励ヲ通電並十九路軍及第五軍慰問ノ電報ヲ発セル趣ナリ
尚五日ノ本会議ニ於テハ長安ヲ西京ト改メ陪都トシ洛陽ヲ行都トスル旨決議セル由
別電ト共ニ在支公使、北平、天津、奉天、青島、済南、漢口ニ転電シ福州、広東ヘ暗送セリ

（別　電）

南京　3月7日後発
本省　3月8日前着

第二二五号（別電）
一、宣言
現下第一ノ急務ハ外侮ヲ防ク事ナルカ今回上海方面ノ武装同志ハ天職ヲ尽シ国軍ノ模範トナレリ次ニ剿匪モ等閑ニスルヲ得ス中央ハ日本ニ対シ長期ノ抵抗ヲ為スニ決定セルニ付国民ハ国家ト存亡ヲ共ニシ沈着勇敢ナル精神ヲ以テ民族再興ノ意識ヲ表現スヘシ特ニ世界各国ニ対シテハ国際条約ハ各国ノ自由意思ニ依リ締結セルモノナレハ共同シテ之カ尊厳ヲ保障スル事必要ニシテ暴日カ制裁ヲ受ケサレハ東亜ニ寧日ナキ次第ヲ告ケ度ク又日本人民ニシテ軍閥ノ専横ヲ非トスルモノハ深刻ニ覚醒セン事ヲ希望ス

二、全国将士ニ対スル通電
最近十九路軍ハ上海方面ニ在リテ第五軍ト共ニ暴日ノ陸海軍ト苦戦スル事三十余日ニ及ヒ敵ヲ十二分ニ殺傷セリ最近戦略上陣地ヲ変更セルモ精神ハ尚屈セス中央ハ夙ニ長期ノ抵抗ヲ決意ス全国百余万ノ武装同志ニシテ存亡ヲ共ニスルノ士ヲ以テ暴力ト見エンカ外侮ハ自ラ来ラサルヘシ
三、十九路軍及第五軍慰問電
東北ハ辺防軍ノ不抵抗主義ニ依リ廿四時間内ニ二省ヲ失ヒタルカ上海ノ一隅ハ十九路軍及第五軍ノ奮闘ニ依リ三十余日ヲ支ヘ得タリ我方ハ交通運輸不備ノ為十九路軍苦戦ノ際第五軍ノ江蘇、浙江ニアリシモノカ漸ク応援セル外各地ヨリノ援軍ハ尚途中ニアル状態ニシテ我忠勇ノ将卒カ戦略上退却ヲ余儀ナクセラレタルハ中央同人ノ遺憾トスル処ナリ吾人ハ長期奮闘ノ最大ノ決心ヲ有ス勝ツトモ喜フニ足ラス敗ルトモ悲シムニ足ラス唯犠牲ヲ払ヒテ民族復興ノ代償トセンノミ

78　昭和7年3月7日　在天津桑島総領事より芳沢外務大臣宛（電報）
西園寺元老の意向に関する張学良密使の情報について

天津　3月7日後発
本省　3月8日前着

第一〇一号（暗）
往電第六八号ニ関シ
学良ノ密使ハ曽彝進ニテ数日前帰平シタルカ同人カ孫潤宇ニ洩シタル所ニ依レハ西園寺公ハ学良ノ現状ニ対シ同情ヲ表スルモ日本国民ノ反感甚タシク軍部方面ノ態度強硬ナルヲ以テ元老トシテ学良ノ懇請ニ対シ明答ヲ与フルニ便ナラスト応酬セラレタル旨復命シタル由ニシテ孫自身モ右曽カ学良ノ感触ヲ害セサランカ為適当粉飾シタルモノナルヘシト疑ヒ居ル模様ナルカ之カ為学良ヲシテ日本朝野ノ有力者中ニハ彼ニ同情ヲ寄セ居ルモノアレハ東北復帰ハ兎モ角河北ニ於ケル政権ノ維持ハ不可能ナラストノ感ヲ抱カシメ北支政局ノ安定上面白カラサルヤニ存セラル
支、北平、奉天ヘ転電セリ

79　昭和7年3月7日　在天津桑島総領事より芳沢外務大臣宛（電報）
江藤張学良顧問の直隷派との接触について

天津　3月7日後発
本省　3月7日後着

第一〇二号（暗、極秘）
学良ノ顧問江藤豊二ハ約一週間当地ニ滞在シ直隷派各要人ヲ歴訪シ学良ノ身ノ振方ニ付意見ヲ探リタル模様ナルカ当館ノ得タル情報ニ依レハ張志譚等ヨリ学良トシテハ直隷派ニ合流シ北方元老ヲ擁立シ国民政府トノ関係ヲ脱離シテ独立ヲ宣布スルカ然ラサレハ下野外遊ノ二途アルノミナリ而シテ此ノ際学良カ政権ヲ直隷派ニ譲レハ其ノ責任モ軽クナリ対日関係モ緩和シ得ルト同時ニ東北軍ノ実力ヲ保存シ得ル結果トナリ一方直隷派モ亦労セスシテ平穏裡ニ政権ヲ継承シ得ヘク右ハ双方ニ取リ得策ニアラスヤトノ意見出テ張等ハ暗ニ江藤ヲ通シ学良ヲ説得セシメントシ江藤モ右意見ハ妙案ナリトシ同意シタル趣ニシテ同人ハ六日帰平セリ右情報ノ真偽ニ付テハ尚取調中ナルカ左シテ穿チ過キタルモノニハ非スト思料セラル（脱）本月末頃帰京シ閣下ニ意見ヲ上申スル考ナル旨申居リ其ノ内話ニ依レハ学良ハ鋭意日本トノ感情ヲ緩和シ事端ノ発生ヲ防キ現勢力ヲ保持セントノ肚ナリトノコトナルカ江藤自身モ右様ノ考アルヤニ見受ケラルルヲ以テ同人ヲ利用セラルル場合ニハ相当注意ヲ要スルモノト認メラル
支、北平、奉天ヘ転電セリ

80　昭和7年3月7日　在広東須磨総領事代理より芳沢外務大臣宛（電報）
十九路軍の敗北と対日空気の悪化について

広東　3月7日後発
本省　3月7日後着

第一七六号（暗）
往電第一六九号ニ関シ
一、七日漢字紙ハ日本軍ニ切苛ナマレ避難シ来タレル者ナリトテ多数負傷者ノ写真ヲ掲ケテ所謂上海ニ於ケル我軍ノ暴行振リヲ宣伝スルト共ニ郭泰祺ノ談ナリトシテ「支那側ハ日本軍隊カ撤退セサル限リ如何ナル会議ニモ参加セス」ト特報シ又西南執行部及政務委員会ノ十九路軍宛激励電報ヲ掲載スル等対日強硬論ヲ主張シ居ル処
二、之ト共ニ一般対日空気モ著シク悪化シ現ニ当館自動車運転手モ再三民衆ニ迫害セラルル為解職方申出テ居ル事実モアリ其他之迄当館出入リノ支那人中鉄血団等暴力団体ノ

脅迫ヲ恐レテ来訪ヲ遠慮スル者モ鮮カラサル有様ト成レル等形勢楽観ヲ許ササルモノアリ

三、右ノ形勢ハ当方面出身ノ十九路軍隊カ戦勝セリト誤信シ居タル矢先ニ漸次惨敗ノ現実暴露ヲ経験スルニ及ヒ反動的ニ必然到来スヘキ事態ニモアリ（往電第一二六号末段参照）現ニ之迄陳銘枢ノ下ニ最高顧問タリ且当地保安隊長タリシ黄強ハ十九路軍参謀長トシテ督戦中三日呉淞砲台ニテ戦死セル等ノ報道ニ依リ当地軍人間ニ復讐心ニ駆ラルルモノ鮮カラサル等（右ハ五日漢字記者ノ本官ニ対スル談話）ノ事情モアリ本官ハ更ニ在留民ニ対シ此上トモ一層隠忍自重方申聞ケルト共ニ租界当局（殊ニ英国総領事）トモ一層密接ナル連絡ヲ続ケ随時中国側ニモ保護取締方申入レ事態ノ推移ヲ折角警戒中ナルモ右不取敢支ヨリ上海ヘ転報アリ度シ

支、北平、奉天、天津、青島、済南、漢口、福州、南京、厦門、汕頭ヘ転電シ香港ヘ暗送セリ

81　昭和7年3月10日　在済南西田総領事より芳沢外務大臣宛（電報）

十九路軍敗北後の時局に関する韓主席の態度について

済南　3月10日後発
本省　3月10日後着

第七九号（暗）

時局ニ関スル韓主席ノ態度ハ各方面ヨリ相当注視セラレ居ル処本官韓ト累次会見ニ依リ得タル印象並各種情報ヲ綜合スルニ

一、上海事件ニ伴フ第十九路軍ノ敗戦ニ関シ広東派及反蔣派側ハ其ノ敗因ハ蔣介石カ同軍ヲ援助セサル為ナリトテ漸次露骨ニ蔣ヲ非難スルニ至リシカ蔣トシテハ此ノ上直系軍ヲ増援シテ日本ト衝突スルコトヲ避ケ連盟ノ成行ヲ観ルト共ニ停戦スルカ如ク又セサルカ如キ態度ニテ日本側ヲ牽制シ奔走ニ疲レシメンコトヲ策シ乍ラ出来得ル限リ現勢力維持ヲ計ラントスルモノノ如キモ国内ニ於ケル広東派並反蔣派等ノ関係複雑ニテ蔣ノ立場困難ナル為其ノ意思通リ決行シ得ルヤ否ヤハ目下ノ処判明セサルモ自己ノ勢力ヲ維持スル傍ラ時局収拾ノ策ニ出テント腐心シ居ルカ如ク看取セラルル処若シ蔣ニシテ現勢力ヲ維持シ日本ト進ンテ衝突セス日本モ亦蔣ヲ目ノ上ノ瘤トシテ敵視セス然ルヘク妥協ノ意

アル限リハ韓ニ於テモ蔣トノ関係ヲ離脱スルカ如キコト無ク従来ノ態度ヲ継続スヘシ

二、一方韓ト張学良トハ表面連合シ居ルモ韓ハ学良カ何時迄モ現在ノ地位ヲ保持シ得サルヘシト観測シ居ルカ如キモ左リトテ反学良運動モ現在何等具体化セサル今日而モ蔣ト日本トノ関係ハ双方共正面衝突ヲ避ケントセル状態ナルニ鑑ミ石友三等カ河北方面ニ侵出セント内々焦慮シ居ルニ付テモ韓ハ石ニ対シ其ノ時機ニ非ストテ其ノ軽挙ヲ抑ヘ石モ之ニ納得シ居ル実情ナルヲ以テ韓ハ当分劉珍年、沈青島市長等ト然ルヘク協力シテ山東ノ治安維持ニ努メツツ時局ノ推移ヲ静観シ好機ニ乗セントスルモノノ如ク韓カ往電第六九号ノ如ク近キ将来ハ揚子江以南、黄河南北ノ三区ニ分ルヘシト内話セシハ即チ揚子江及黄河以南ハ蔣介石ニ、揚子江以南ハ両広派ニ、又黄河以北ハ山西派カ山西、綏遠、察哈爾方面ニ勢力伸長シ又学良カ早晩現状ヲ維持シ得サルヘキ際ニ乗シ韓ハ山東ヲ根拠トシテ河北方面ヲ其ノ勢力範囲ニ拡張セン底意アリト観測セラルルモ当分ハ現状維持ノ態度ヲ持続スト認メラル

公使ヨリ上海ヘ転報アリ度シ

公使、北平、奉天、天津、漢口、広東、南京ヘ転電シ芝罘、坊子、張店、博山ヘ暗送セリ

82　昭和7年3月11日　在広東須磨総領事代理より芳沢外務大臣宛（電報）

蔣介石派対両広実力派の関係について

広東　3月11日後発
本省　3月12日後着

第一九五号（暗）

往電第一七三号ニ関シ

陳済棠ノ時局対策ハ略々冒頭往電ノ通ナル処茲ニ最近各方面ヨリ得タル情報ヲ綜合シ内面的ニ動キツツアル全支政局ノ潮流ヲ検討スルニ(イ)国民党排斥(ロ)実力派ノ提携漸次醞釀セラレ殊ニ本年初頭統一政府成立後モ尚兎角ノ噂アリタル蔣介石対両広実力派（陳済棠、李宗仁）ノ関係ハ上海事件ヲ（脱）トシテ著シク接近シ相互ニ党部ノ横暴ヲ抑制セントスル傾向アリヤニモ観取セラルル処右ニ関連セル情報取纒メ不取敢左ニ電報ス

一、蔣派対両広実力派ノ関係ハ客年四月反蔣以来本年一月統一政府成立迄双方ニ於テ何等直接意思ノ疏通ヲ計リタルコトナカリシ処一月下旬于右任カ表面胡漢民ノ北上説得ノ

為ト称シテ南下セル際（往電第七四号参照）蔣ハ密カニ陳済棠トノ妥協斡旋ヲ依頼セルモノノ如ク其際済棠モ意大イニ動キ主トシテ南方ニ於ケル自家勢力ノ保障ヲ条件トシテ内々妥協ノ言質ヲ与ヘタルモノノ如ク斯クテ反蔣ヲ以テ終始セントスル胡漢民ノ息ノ掛カレル伍朝枢ヲ省政府主席ヨリ追出シ再ヒ林雲陔ヲ主席ニ据ヘタルニ非スヤト察セラル

又先般孫科、陳友仁ノ南下ヲモ夫レトナク阻止シタルコト及事実南下セル李文範ニ会見ヲ与ヘサリシカ如キ孰レモ此間ノ消息ヲ伝フルヤニモ存セラル

二、右ハ客年来汪精衛、孫科等国民党ノ政客ニ荒サレタル苦キ経験ヲ有スルト共ニ相当修業ヲ積ミタル陳済棠カ蔣介石ノ党部長老圧迫ノ故智ヲ真似テ執リタル政策トモ見ラルヘク上海事件直後李宗仁帰広スルヤ共匪討伐軍トシテ江西ニ入ルノ案ヲ実現セシメ又胡漢民一派ノ反対アリシニ拘ハラス自派ノ子分ヲ二中全会出席委員ニ任命スル等稍々目立チタル進展ヲ見セ最近ハ又張発奎軍ヲ前衛トシテ湖南ニ入レ何鍵ノ代表ヲ接受シテ連絡ヲ計ル等漸次予定ノ「プラン」ヲ実行シ居ル外民間ニ於テ盛ニ国民党否認ヲ宣伝セシメ居レリ

三、尤モ両広実力派ト妥協スルニハ蔣介石トシテモ余程ノ譲歩ヲ為シ行々ハ江西、湖南ノ地盤等ヲ譲ル等ノ内約モアルヘキハ想像ニ難カラス之ニハ尚幾多ノ階梯ヲ経ヘキ訳合ナルヘキハ差向十九路軍ノ善後処置ニ関シテモ今ノ処両者間ニ何等ノ決定ナキモノノ如ク従テ蔣ヨリ同軍ノ後始末ヲ命セラレタル陳銘枢カ最近南下スヘシト伝ヘラレ居ルモ同人トテ既ニ成案アル訳ニモ非サルヘク先ツ先ツ首鼠両端ノ体ニテ広東側ニ精々泣ヲ入ルル腹ナルヘク広東側トシテハ元々敵軍ナル同軍ノ南下ヲ拒ムハ自然ナルヘク現ニ最近福建境ヲ固メタルハ同軍カ民国十六年頃駐防セル厦門方面ニ入リ込ムコトアルヲ慮リタルカ為ナル由ニテ此間尚相当折衝ヲ重ヌルノ要アリ素ヨリ此打算ニ依リ離合集散ヲ事トスル軍閥ノコトトテ予想ヲ許ササルカ前記ノ気運ハ内実相当進捗シ居リ九日孫科ノ使命ヲ帯ヒテ来広シ胡漢民ト何事カ談合シ居ル劉蘆隠、葉恭綽等モ此間ノ空気ヲ嗅付ケ真相内偵ノ為急遽南下セルニ非スヤト思料セラル

支ヨリ上海ヘ転報アリタシ、漢口ヨリ長沙、九江ヘ転電アリタシ

支、北平、奉天、天津、済南、漢口、南京、福州、汕頭、厦門、香港ヘ転電セリ

83　昭和7年3月12日　在南京上村総領事代理より芳沢外務大臣宛

日本の満州独立関与に関する羅外交部長の抗議について

付属書　同日付在南京上村総領事代理より在上海重光公使宛公信機密第七六号右羅外交部長来翰転送について　南京　3月12日付　本省　3月23日着

公信機密第一〇七号

昭和七年三月十二日付機密第七六号重光公使宛公信写送付

満州独立運動ニ関スル外交部長来翰転達ノ件

（付属書）　南京　3月12日付

公信機密第七六号

満州独立運動ニ関スル外交部長来翰転達ノ件

本件外交部長来翰別紙ノ通転達ス　御査収相成度

本信写送付先　大臣　上海　北平　奉天　長春

（別　紙）

照　会

大中華民国外交部長羅　爲

照会事准二月二十八日（七三文書）来照対於本部二月二十四日（六九文書）抗議日本賛助所謂東三省独立運動去照多所声弁茲再以本案之真相表明

貴国政府及官員応負之責任査上年九月十八日以前中国政府任命軍民長官在東三省行使職権中外人民安居楽業従無驚擾之事自九月十八日以後日軍非法侵佔東北各地在東省強樹軍権推翻中国行政機関令中国人為非法之組織其偽省政府及其所属財政交通等各偽機関之領袖雖属華人但其就偽職実由貴国政府及官員所威脅間有少数叛徒亦係受嗾使完全為貴国政府及官員所利用而各偽機関実権則皆操諸所謂顧問諮議之手該顧問諮議又全係貴国人均為貴国政府及官員所派定貴国方面復派員将廃清帝溥儀由天津挾持赴東竟於本月九日就偽職成立傀儡政府足徴貴国政府及官員対於上述非法挙動不僅如佐藤代表在国連行政院所称予以賛助而已且実為其主動者此為挙世所知不容掩

飾之真確事実乃
来照謂与之並無何等関係実属欲盖弥彰佐藤代表在国連行政
院宣称日本政府賛助所謂東三省独立運動之不合已於二月二
十四日去照詳切声明而上年九月十八日以前東三省居民及外
僑之安全中国政府任命軍民長官保護周至無可訾議茲
来照復有所藉口以為佐藤代表所言之弁護是欲諉卸九月十八
日以後日軍糜爛東三省各地之責任也尤属不合総之日軍非法
侵佔東北各地顕係破壊中国領土行政之完整故在該項日軍未
撤退期間中国政府対於在該処建立所謂独立或自主政府之挙
動及令中国人民参加此種傀儡之組織仍絶対不能承認応由
貴国政府負其全責相応再行照会
貴公使査照須至照会者
右　照　会
大日本帝国特命駐華全権公使重光
羅　文　幹
中華民国二十一年三月十日
（訳　文）
以書翰致啓上候
陳者二月二十八日付御来翰ニ於テ日本政府カ所謂東三省独
立運動ヲ賛助スルコトニ抗議セル二月二十四日付往翰ニ対
シ種々弁明セラレ居ル処茲ニ再ヒ本案ノ真相ニ依リ貴国政
府及官員ノ負フヘキ責任ヲ表明セントス査スルニ客年九月
十八日以前中国政府ノ任命セル軍民長官ハ東三省ニ於テ職
権ヲ行使シ何等驚擾ノ点ナシ九月十八日以後日本軍不法ニ
東北各地ヲ侵佔シ東省ニ強テ軍権ヲ樹テ中国行政機関ヲ顚
覆セシメ中国人ヲシテ不法ノ組織ヲナサシメタリ其ノ偽省
政府及此ニ属スル財政交通等ノ各偽機関ノ領袖ハ華人ナレ
共其ノ偽職ニ就ケルハ実ハ貴国政府及官員ノ脅迫ニ依ルモ
ノニシテ其ノ間少数ノ叛徒アレ共之亦使嗾セラレテ貴国政
府及官員ノ利用スル所ニシテ各偽機関ノ実権ハ所謂顧問諮
議ノ手ニ依テ操ラレ該顧問諮議ハ全部貴国人ニシテ貴国政
府及官員ノ派定スル所ナリ貴国方面ニテハ又人ヲ派シ清廃
帝溥儀ハ天津ヨリ挾持セラレテ東ニ赴キ遂ニ本月九日偽
職ニ就キ傀儡政府ヲ成立セリ貴国政府及官員ノ上述ノ不法
挙動ニ徴スルニ佐藤代表カ国際連盟理事会ニ於テ述ヘタル
如ク賛助ヲナスノミニ止マラス実ニ其ノ主動者タルモノニ
シテ是世ヲ挙ケテ知ル処ニシテ掩飾ヲ許ササル確実ナル
事実ナリ御来翰ニ之ト何等関係ナシト述ヘ居ラルルハ藪ン

ト欲シテ益々彰ナルモノニシテ佐藤代表カ国際連盟理事会
ニ於テ日本政府ノ所謂東三省独立運動賛助ヲ宣称セルコト
ノ不合法ナルハ既ニ二月二十四日付往翰ニ詳細声明セル処
ナルカ客年九月十八日以前ノ東三省居住民及外国居留民ノ
安全ハ中国政府任命ノ軍民長官之ヲ保護シ何等非難スヘキ
余地ナシ
御来翰ニハ又藉口スル所アリ以テ佐藤代表ノ言ヲ弁護セラ
レ居ル処右ハ九月十八日以後日本軍カ東三省各地ヲ糜爛セ
シメタル責任ヲ回避スルモノニシテ最モ不合理ナリ
之ヲ要スルニ日本軍カ不法ニ東北各地ヲ侵佔セルハ明ニ中
国領土行政ノ保全ヲ破壊セルモノナリ故ニ右日本軍カ撤退
セサル限リ中国政府ハ該地ニ設立セラレタル所謂独立或ハ
自主政府ノ行動及中国人民ヲシテ此ノ種傀儡ノ組織ニ参加
セシムルコトヲ絶対ニ承認スル能ハス当ニ貴国政府ニ於テ
全責任ヲ負フヘキモノナリ
右御了知ノ上可然御取計相成度此段重ネテ得貴意候　敬具

84　昭和7年3月15日　在北平矢野参事官より芳沢外務大臣宛（電報）

時局対策に関する張学良の江藤への内話について

北平　3月15日後発
本省　3月15日後着

第一二五号（暗、極秘）
天津発閣下宛電報第一〇二号（七九文書）ニ関シ
十四日江藤ノ内話左ノ通
十二日学良ニ面会シ
㈠天津方面ノ各派要人等ハ何レモ貴下（学良）ノ将来ハ全
然見込ナク此際根本的ニ従来ノ態度ヲ変更シ国民政府トノ
手ヲ切リテ独立ヲ宣布スルカ又ハ潔ク下野スルヲ賢明ト為
スト云フニ一致シ居レリト告ケタルニ学良ハ自分一己ノ為
ヲ計ラハ此際一応下野スルモ或ハ一策ナランモ満蒙ヲ今日
ノ事態ニ陥ラシメタルハ全然自分ノ責任ナリ従テ右ニ関シ
何等カノ結末ヲ付クルコト亦自分ノ責任ナル故引続キ現地
位ニ止マリ居ル次第ナリト縷々陳弁スル所アリ次テ
㈡自分ヨリ満蒙カ今日ノ状態ニ陥レルハ要スルニ貴下カ自
分等数年来ノ勧告ニ反シ蔣介石ト連絡シ日本ニ反抗セル結
果ナリ然ルニ蔣等ノ意図ハ貴下ヲ手懐ケテ日本ニ当ラセ其
失敗ヲ待テ自派ノ人ヲ据エントスルモノニテ貴下ハ全然蔣

等ニ欺カレタル訳ナリ今日トナリテハ或ハ既ニ遅キ如キモ此際断然蔣ト手ヲ切リ日本ノ言ニ従ヒ難局ニ処スルコトカ貴下ヲ救フ唯一ノ途ナリト言ヘルニ学良ハ自分トシテモ此際日本ヨリ何等好意的表示アラハ進テ夫レニ依リ行動スルニ躊躇セス従来蔣ト連絡セルハ蔣カ自分ノ地位ヲ保障シ呉レタル為ナルカ若シ日本カ自分ニ対シ善意ヲ以テ地位ノ保障ヲ与ヘラルルナラハ自分ハ喜テ日本ト事ヲ共ニスル覚悟アリト答ヘタリ

右ニ関シ江藤ハ学良トシテハ依然内心満蒙帰還ノ希望ハ棄テ居ラサルヘキモ今日トナリテハ其困難事ナルコトヲモ充分承知シ居ル筈従テ所謂保障トハ要スルニ現在ノ地盤勢力保存ノ保障ヲ得テ日本ト提携セントスル意ナリヤニ思ハルルト付言セリ

公使、天津、奉天ニ転電セリ

85　昭和7年3月17日　在上海重光公使より芳沢外務大臣宛（電報）

居正辞職に関する内報について

上海　3月17日前発
本省　3月17日後着

第四八〇号（暗）

十六日山田カ居正一派ヨリノ情報トシテ内報スル処ニ依レハ嚮ニ洛陽ニ於テ蔣及汪等ハ日本ニ対シ無抵抗ノ抵抗主義ヲ執リ当分日本ノ侵略ニ委セ某外国ト通謀シテ適当時期ニ内外ヨリ日本ヲ圧迫スルコトニ決シタルカ居正ハ之ニ対シ日支対峙ノ不利ヲ説キ此ノ際日本ト妥協ノ途ヲ講スヘキコトヲ主張セシモ容レラレス遂ニ辞職シ南京ニ在ルカ当地ノ同志ハ使者ヲ南京ニ派シ居正ヲ上海ニ迎フルコトトセル趣ナリ御参考迄

北平、奉天、広東、済南、漢口、南京ヘ転電シ上海ヘ転報セリ

86　昭和7年3月21日　在済南西田総領事より芳沢外務大臣宛（電報）

辞職申出の経緯に関する韓主席の内話について

済南　3月21日後発
本省　3月22日前着

第八七号（暗）

往電第八六号ニ関シ

本廿一日韓ハ本官ニ対シ中央ヨリ慰留シ来リタルニ依リ自分ハ時機ヲ待ツヘキ旨新聞所報ノ通リ答ヘ置キタル次第ナルカ現下ノ中国ハ対外的ニ和戦両派アリ強硬論者ハ中国ノ現状モ考ヘス徒ニ対日開戦ヲ主張シ温和派モ亦交渉ニ対スル何等ノ定見無ク徒ニ長期抵抗ヲ云々シ和スルカ如ク戦フカ如ク而カモ対内的ニハ反蔣擁蔣ノ両派ニ分レ何レニモ決シ得スシテ結局対内外共帰趨定ラス混沌タル状態ニ在リ一方山東省トシテハ今日ノ如ク中央政府ニ於テ取ルヘキモノハ取リ支出スヘキモノハ支出セス其上種々ナル要求ヤ負担ヲ命シ来レル処省政府ニテハ一部国税ヲ設定シ猶不足セル為地租其他ヨリ軽微ナル付加徴税ヲ為シ切抜ケントセル窮乏状態ナレハ実際財政上等ノ負担ニ堪ヘ得サル次第ナリト述ヘ殊ニ山東ハ他省ニ比シ大体平穏ナルヨリ自分トシテハ日本トノ関係ニ付疑惑ノ眼ヲ以テ見ルモノモアリ種々噂セラルルヲ以テ中央ニ対シ一応辞職電報ヲ発シタル次第ナルカ中央ノ慰留ニ依リ現状維持ノコトトナリタルモ何分山東ハ南北ノ中間ニ介在シ面（倒）ノ地点ナルカ自分ノ居ル限リ対日問題ニ付紛擾ヲ惹起セサル様努力スルニ付何分ノ援助アランコトヲ希望ス云々ト内話シ居タリ

支ヨリ上海ヘ転報アリ度シ

支、北平、青島、南京、奉天、天津、漢口、広東、芝罘ヘ転電シ、坊子、張店、博山ヘ暗送セリ

87　昭和7年3月22日　在上海重光公使より芳沢外務大臣宛

日本の満州独立運動関与に関する外交部長照会への回答について

付属書　同日在上海重光公使より在南京上村書記官宛公信機密第七八号
我方回答文送付について

上海　3月22日付
本省　4月4日着

公信機密第八六号

昭和七年三月二十二日付在南京上村書記官宛機密公第七八号信写送付

満州独立運動抗議回答ノ件

（付属書）

上海　3月22日付

公信機密第七八号

満州独立運動抗議回答ノ件

本件ニ関スル外交部長公文要領本月十二日貴電ヲ以テ御報

告相成リタル処右ニ対スル回答文別添茲ニ送付スルニ付右外交部ニ転達方御取計相成度

本信写送付先　外務大臣　北平　奉天　長春

（別紙）

外第二一号（訳文）

以書翰啓上致候。陳者、本月十日付貴翰（八三文書）ヲ以テ所謂満州独立運動ニ関シ御申越相成閲悉致候。

所謂満州独立運動ナルモノニ関シ帝国政府及官憲ニ於テ何等之ニ関係ナキ次第ハ客月二十八日付本使書翰ヲ以テ申進シタル通ニシテ又最近同地方ニ於テハ行政組織ノ変更ヲ見タル趣ノ処右ハ帝国政府ノ何等関知スル所ニ非サルハ言フ迄モナシ。然ルニ右ニ付貴部長ニ於テ帝国政府ノ態度ヲ誹謗シ且其ノ責任ヲ問ハムトスルカ如キ申越ヲ為サレタルハ本使ノ最モ了解ニ苦シム所ナリ。要之右貴翰申越ノ諸点ハ全然事実ニ反スル憶測ニ過キス我方ニ於テ全部之ヲ容認スルヲ得サルモノニシテ尚右ノ次第ハ本年三月一日付在本邦貴国公使館ヨリ外務省ニ宛テタル公文ニ対スル三月十九日付外務省ノ回答中ニ於テモ詳述セラレ居ル通ニ有之候。

此段回答申進旁本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候。

敬具

昭和七年三月二十一日

日本帝国特命全権公使　重光　葵

国民政府外交部長　羅文幹殿

88　昭和7年3月（24）日　在南京上村総領事代理より芳沢外務大臣宛（電報）

日本軍飛行機の機銃掃射に対する外交部長の抗議について

南京　3月24日後着
本省

第二五五号

本官発上海宛電報

第二五五号

外交部長ヨリ廿四日付貴公使宛口上（書）ヲ以テ大要左ノ通申越セリ

三月廿六日日本飛行機カ杭州ニ爆弾ヲ投下セル件ニ関シテハ廿七日付ヲ以テ之カ厳重取締方照会シ置キタル処確報ニ依レハ日本飛行機ハ三月十一日以来引続キ杭州ニ飛行シ機関銃ヲ発射シテ通行人ヲ傷害シ又蘇州方面ニ於テモ三月十六、十七、十八日偵察ヲ行ヘル趣ナリ察スルニ日支双方カ連盟総会ノ決議ニ依リ現ニ上海ニ於テ軍事行動ノ停止及日本軍ノ撤退ニ関シ協議ノ折柄日本飛行機カ故意ニ各地ヲ飛行シ甚タシキハ人ヲ傷害スルカ如キハ事態ヲ更ニ拡大セントスルモノト云フ可ク此処ニ重ネテ貴公使ニ向ツテ抗議ヲ提出ス依テ日本飛行機カ今後再ヒ此ノ種ノ行動ヲ為ササル様厳重取締方貴国当局ヘ御移牒相成度シ尚何分ノ御回答ヲ請フ

原文郵送ス

蘇州ヘ転報アリ度シ、大臣、北平、奉天ヘ転電セリ

89　昭和7年3月31日　在南京上村総領事代理より芳沢外務大臣宛（電報）

中央日報に掲載の居正の時局談について

南京　3月31日後発
本省　3月31日後着

第二八二号

三十一日ノ中央日報ニ掲載セラレタル居正ノ日支時局談要領左ノ通リ御参考迄

日本ハ近頃自ラ大和民族ト称シ居レルモ其ノ昔ハ夷ニ波斯、馬来人及支那人ヲ加ヘタル混合民族ニシテ始メテ支那ヨリ文化ヲ輸入セリ然ルニ日本ハ是ヲ忘レ文化発源ノ支那ヲ侵略シ更ニ征服セント考ヘ居ルハ笑フヘシ支那ハ長期抵抗トナラハ十年二十年ト雖モ差支無キモ蕞爾タル三島ノ日本ハ其ノ全物資ヲ軍需品トスルモ果シテ何日ヲ支ヘ得ルヤ恐ラク一年ニテ参ルヘシ最近ノ上海ノ例ニ見ルモ支那軍ハ三、四万ニテ七、八万ノ日本軍ニ三十余日抵抗セリ即チ自分ノ観測ニ依ラハ日本ハ媾和スル事カ利益ニシテ支那ハ抵抗スル事カ利益ナリ即チ支那ニシテ飽ク迄抵抗センカ日本ノ屈服ハ期シテ待ツヘキノミ

支、北平、奉天、天津、青島、済南、漢口、広東ニ転電セリ

90　昭和7年4月2日　在上海重光公使より芳沢外務大臣宛（電報）

日本の満州国独立への関与は事実無根との外交部長あて回答について

上海　4月2日後発
本省　4月3日前着

第六一六号（暗）

上村発本使宛電報第二九〇号ニ関シ

外交（部）公文ニ対シテハ左ノ要領ニテ回答シ之ヲ公表スルコトト致度ク何分ノ儀御回電ヲ請フ

帝国政府及官憲カ満州国政権ノ組織ニ対シ何等関係ヲ有セサルコト従テ日本政府及官吏カ該政権組織ヲ支配シ又ハ其行動ヲ使嗾セリト為スハ全然事実無根ノ臆説ニ過キスシテ貴部長カ右ノ如キ臆説ニ基キ日本政府ノ態度ヲ誹謗シ且其責任ヲ問ハルルハ本使ノ了解ニ苦シム所ナル事ハ……月……日付及……月……日付本使書翰ヲ以テ声明セル通ナリ

安東、営口ニ於ケル中国銀行総理ニ対シ日本人顧問カ関税収入ヲ官銀号ニ転付スヘシトノ命令ヲ示達シタリトノ説ニ付テハ本使ニ於テ何等報告ニ接シ居ラサル処万一右ノ如キ事実アリトスルモ右ハ日本人タル海関監督ノ顧問カ其満州国トノ雇傭関係ニ基キ義務ヲ履行シタルニ過キサルモノト認メラレ貴部長カ之ヲ以テ日本国政府及官憲カ満州国政府ノ支配ヲ実行スル証拠トシテ日本政府ノ責任ヲ問ハルルハ本使ノ更ニ了解シ能ハサル処ナリ日本政府ハ満州国家ノ行為ヲ何等制止シ得ルノ地位ニアラサルヲ以テ貴部長申出ノ如ク該政府ノ関税収入引出行為ヲ制止シ難キコト勿論ナリ

91　昭和7年4月（3日）　在上海重光公使より芳沢外務大臣宛（電報）

満州国の東三省塩務行政への干渉に対する中国側の抗議について

上海　本省　4月3日前着

第六一五号（暗）

客年往電第一二三〇号ニ関シ

「クリーブランド」ハ四月一日付本使宛書翰ヲ以テ宋子文ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ左ノ通申越セリ

一、三月二十九日付牛荘塩務稽核所ヨリノ報告ニ依レハ二十八日属僚及警官ヲ帯同セル者満州国財政総長ノ命令ナルモノヲ交付シ塩税徴収事務ノ引渡ヲ要求シタル後強制的ニ該稽核所ヲ占領セルカ其ノ後布告ヲ以テ満州塩務稽核制度ノ終止並爾今塩運許可証ノ発給ハ同人ニ対シ請求スヘキ旨公布セリ

二、客年十一月四日付宋子文宛「クリーブランド」報告（冒頭往電参照）ニ記載スル日本軍憲ノ牛荘塩務稽核所臨検及塩税抑留並其ノ後ニ於ケル抑留継続ニ徴スルモ今回ノ事件カ日本軍憲ノ使嗾ニ係リ其ノ承認ヲ得タルモノナルコト疑ヲ容レス

三、牛荘稽核所ノ税収差押額ハ既ニ三百九十二万三千弗余ニ達シ居レルカ満州ニ於ケル塩務稽核所制度ハ一九一三年ノ善後借款契約ニ基キ設置以来善後借款「クリスプ」湖広及英仏借款ノ担保タル塩税徴収ハ一切其ノ管理ニ属シ来レルモノナルヲ以テ地方的事実上ノ政府ノ代表者ト称スル者カ占領軍憲ノ援助ヲ得テ牛荘ニ於ケル其ノ機関及税収ヲ強力ニ依リ奪取シタルカ如キハ承認シ得ヘカラス吾人ハ茲ニ所謂事実上ノ政府ノ代表者、其ノ顧問ト称スル者及満州占領軍憲ノ斯ル行為及権限ニ対シ抗議ス

四、貴公使カ満州ニ於ケル塩務稽核事務所ノ明渡及其ノ職能ノ復活ニ関シ速ニ措置ヲ講セラルルト共ニ東三省塩政ニ対スル今後ノ干渉ヲ防止スル為貴国政府ニ対シ適当進言セラレンコトヲ希望ス本件ニ関シテハ他ノ借款関係代表者ニ対シテモ申出済ナリ（「テキスト」郵送ス）

牛荘、奉天、長春、南京、北平、米、連盟ニ転電セリ（連盟ヨリ必要ナル在欧大使ニ転電アリタシ）

92　昭和7年4月4日　在天津桑島総領事より芳沢外務大臣宛（電報）

北方時局に関する陸宗輿の内話について

天津　4月4日後発　本省　4月4日後着

第一五三号（暗）

北方時局ニ関シ陸宗輿ノ内話左ノ通リ

張学良カ現勢力ヲ保持スル限リ満州国当路ノ要人ハ常ニ不安ヲ抱キ衷心ヨリ建設ニ力ヲ尽ス者ナク而モ匪賊義勇軍ノ地方攪乱絶ヘサルヘキニ付テハ新国家ノ安定ヲ期スル為学良ノ駆逐ハ絶対的必要条件ナルカ之ニハ張作相ヲ利用スルコト然ルヘク尤モ作相ハ学良ニ不満ヲ抱キ居ルモ徳義上ナルヘク叛逆ノ罪名ヲ避ケント苦慮シ居ルニ付学良ニ対スル反感ヲ有スル東北軍官ヲシテ（約六個旅アル見込ナル由）反学良ヲ表明セシムルト同時ニ作相ヲ其長官ニ推戴セシムル形式ヲ執ルヲ要スヘシ但此場合于学忠ノ第一軍ハ従来ノ関係上好意的中立ニ出テ学良下野ト共ニ呉佩孚ヲ其首領ニ

担ク策ナルヲ以テ東北軍ハ自然二分セラルルニ至ルヘシ依テ作相ハ目下頻リニ呉ト連絡ヲ取リ実力ヲ接収シタル上ハ共同ニテ更ニ元老ヲ推戴シ北方政府ノ樹立ヲ実現セシメント努メ居ル処呉ハ久シク辺陬地ニ在リシ為時局ニ対スル認識不充分ナルノミナラス東北問題ニ付対日関係ヲ誤解シ居ル嫌アルヲ以テ自分（陸）ハ幸ヒ呉ヨリ懇請ノ次第モアルニ付近ク北平ニ赴キ呉ヲ援ケ作相トノ合作ニ貢献スル所存ナリ云々

支、北平、奉天ヘ転電セリ

93 昭和7年4月（5）日　在上海重光公使より芳沢外務大臣宛（電報）

東三省塩政に関する中国側抗議への回答について

上海　本省　4月5日後着

第六三二号（暗）

往電第六一五号（九一文書）ニ関シ

「ク」来翰ニ対シテハ往電第六一九号後段ノ趣旨ニ準シ尚列国トノ関係ヲ考量シ左ノ要領ヲ付加シテ回答シ場合ニ依リ之ヲ公表スル事ト致度何分ノ儀御回示ヲ請フ

日本政府ハ他ノ借款国同様塩税担保債権ノ保全ニ関シ大ナル関心ヲ有スル次第ナルカ一九二八年十一月支那政府カ日本ノ抗議ニ拘ラス善後借款契約ニ定ムル塩税ニ依ル外債担保制度ヲ一方的ニ変更シタル後ニ於テハ単ニ塩税収入ノ一部分ヲ以テ外債ノ償還ニ充当シ其他ノ部分ハ地方又ハ中央政府ニ於テ流用シ居ル現状ニ鑑ミ満州新政権カ伝ヘラルル如ク国際義務ヲ尊重シ支那政府ノ負担スル外債担保義務ノ履行ヲ阻害セサル様充分ノ注意ヲ払フモノナルニ於テハ借款関係国ハ従来ニ比シ何等不利益ナル地位ニ置カルルモノニアラスト思考ス

94 昭和7年4月5日　在南京上村総領事代理より芳沢外務大臣宛（電報）

行政院の救国義勇軍組織禁止通令について

南京　本省　4月5日後発　4月5日後着

第三〇五号

五日ノ新聞ニ依レハ行政院ハ軍政部ノ上申ニ基キ各部会ニ対シ満州事件発生以来各地民衆ニ於テ救国義勇軍ヲ組織セルモノ尠カラサル処右ハ匪賊ニ乗スル機会ヲ与ヘ地方ノ治

安ニ害アルヲ以テ今後ハ学生義勇軍教育綱領ノ規定ニ依ルモノ及戦場ニ於テ能ク国軍ト協同動作ヲ為シ得ルモノヲ除キ民衆団体又ハ退役軍人等ノ組織スル一切ノ救国義勇軍ハ之ヲ禁止スヘキ旨通令セル趣ナリ

支、北平、奉天、天津、青島、済南、漢口、広東ヘ転電セリ

95 昭和7年4月7日　在サン・フランシスコ若杉総領事より芳沢外務大臣宛

李錦綸のサン・フランシスコ渡来後の行動について

サン・フランシスコ　本省　4月7日付　5月18日着

第一四五号

昭和七年四月七日

在桑港　総領事　若杉　要（印）

外務大臣　芳沢　謙吉　殿

前国民政府外交部次長李錦綸ノ行動ニ関スル件

前国民政府外交部次長李錦綸ノ来桑ニ関シテハ曩ニ往電ヲ以テ及報告置キタル処来桑後ノ行動ニ関シ当地英字並支那新聞ノ報スル処ヲ綜合スルニ同人ハ国民政府ヨリ僑民宣慰使ナル役名ヲ授ケラレ且上海広肇公所其他八十四ケ団体ノ依頼ヲ受ケ米国政府並在米支那人ト接洽スル「極メテ重要ナル使命」ヲ有スル趣ニテ日本側ノスパイヲ極端ニ恐怖シ其当地到着ノ際ニモ停車場ヨリホテルマテ数十名ノ当地国民党員ニ護衛セラレホテルニ於テモ一向訪客ヲ避ケ其ノ使命ニ関シテハスチムソント会見スル迄公表スル能ハスト称シ居ルモ李ハスチムソンニ対スル国民政府ノ満州問題ニ関スル密書ヲ所持シ居ル由ナリ

李ハ三月三十日桑港ニ到着シ黄支那総領事以下有力支那人ノ出迎ヘヲ受ケフェヤモント、ホテルニ投宿シ同夜中華総会館ノ歓迎会ニ出席シ「今回外交部ノ命ヲ受ケ米国ニ来ル途次上海ニ於テ同地八十四団体ヨリ救国連合会ノ代表トシテ海外在留支那人ノ救国ニ熱心ニシテ今次上海事件発生後続々軍資金ヲ送付シ来レルニ対シ上海各界ヲ代表シ在留民諸君ニ謝意ヲ表スルコトヲ依頼セラレタリ余ノ今次来米ハ籌款ノ目的ニ非ス両三日当地滞在後ハ羅府、市俄古経由華盛頓ニ赴キ更ニ欧州ニ渡航スヘシ云々」ト挨拶シ居リタ

リ

右何等御参考迄報告申進ス

本信写送付先　在米大使、紐育総領事、市俄古及羅府領事

96　昭和7年4月8日　在上海重光公使より芳沢外務大臣宛（電報）

満州国との海関協定拒否に関する国民政府、総税務司の態度について

上海　4月8日後発
本省　4月8日後着

第六五五号（暗）

貴電第二三二号ニ関シ

満州側カ総税務司ト協定ヲ遂ケ穏カニ海関問題ヲ解決シ度キ意向アルコトハ福本岸本ヨリ早ク既ニ総税務司ニ通報セラレ居リ岸本ハ総税務司ニ対シ妥協方ヲ建言シ「メ」（メーズ）ヨリ南京側ニ請訓シタルモ同政府ニ於テハ考究ノ結果本問題ハ日本攻撃ノ好題目タル上之ニ関シ満州ト協定スルハ之ヲ承認スルコトトナル事情ヲ考慮シ如何ナル協定ニモ応スヘカラストノ決定ニ達シ其ノ旨「メ」ヨリ福本ニ通知シタルコトハ奉天宛屢次ノ電報ノ通ナル処（本使発奉天宛電報第一五号及第二〇号）総税務司トシテハ右ノ如キ南京政府ノ訓令ニ反シ如何ニ合理的ノ案ニテモ之カ承諾方満州側ト協定シ得サル立場ニアリ唯満州側ノ遣リ口カ無理ナキ限リ不可抗力ニ依ルモノトシテ之ヲ黙認スルヨリ外ナシトノ意見ヲ有シ居リ（即チ如何ナル遣リ方カ不可抗力トシテ黙認シ得ル程度ナリヤニ付岸本等ヲ通シ「メ」トノ間ニ話合居ルモノニシテ「メ」ヲシテ満州側ト右ノ程度ノ案ニ付テモ協定セシムルコトハ不可能ナリ）又満州側ノ措置ニ対シテハ正面ヨリ反対スルコトヲ避ケ居ル次第ナリ（往電第一八号）

右ハ今日ノ総税務司ノ立場トシテ已ムヲ得サル処ナリト認メラル尚「メ」トシテハ関税差押ヘノ方法ニ付テモ広東等ノ先例ノ如ク外債部分ハ之ヲ中国銀行ニ留メ其ノ余リヲ官銀号ニ転付セシムルコトヲ希望シ居リ現ニ満州側ヨリ税関長ト直接交渉スルコトハ避ケラレ度ク又大連ニ全然手ヲ付ケストノ件モ之ヲ明瞭ニセラレ度ク右等細目ニ付テハ福本等ノ意見ヲ徴セラレ度シトノコトナリ

北平、奉天、長春ヘ転電セリ

97　昭和7年4月13日　在上海重光公使より芳沢外務大臣宛（電報）

満州国の関税差押えに対する国民政府の態度等について

上海　4月13日後発
本省　4月14日前着

第六八五号（暗）

貴電第二三三号ニ関シ

一、其後岸本ノ探リ得タル処ニ依レハ南京側ハ如何ナル地ニテモ絶対ニ満州側ト妥協セサル方針ニテ（往電第六五五（九六文書）号ノ外輿論ノ反対ニモ鑑ミ）殊ニ数日前迄ハ満州側ノ関税差押ニ対シ税関閉鎖ヲ以テ対抗スヘシト主張シ居タルモ銀行家側ノ説得ニ依リ満州側ニ於テ大連海関及税収ニ手ヲ触レス大連以外ノ在満各海関ノ関余（外債負担及経費ヲ差引キタルモノ）ヲ押収シ海関其物ニ手ヲ触レサル限リ南京側ハ進テ海関閉鎖ノ如キ極端ナル対抗策ニ出テサルコトニ傾キタル趣ニテ「メーズ」モ右ノ点ハ大体安心シ得ヘシト岸本ニ洩ラセル由ナリ

二、尚右方針ノ実行方法ニ就テハ総税務司トシテハ往電第六五五（九六文書）号後段ノ諸点ヲ希望シ特ニ関税全部ヲ差押ヘ外債部分ヲ直接外国ニ支払ハントスル場合ニハ各国ノ新国家承認前ニ於テハ外債ノ一時支払（脱？）ヲ来シ問題紛糾スヘキニ付関税ノ一部分（例ヘハ三分ノ一）ヲ銀行ニ残スコトニハ特ニ重ヲ置キ居リ又岸本ノ意見ニ依ルモ各地税務司ノ任命、転任ニ付新国家ノ許可ヲ受クル件モ公然之ヲ主張スルコトナク事実上海関監督ヲ通シテ新政府ノ内意ヲ確メシムル如キ程度ニ止ムルコト事態ヲ荒ケサル所以ト存セラル

北平、奉天、長春ヘ転電セリ

98　昭和7年4月13日　在広東須磨総領事代理より芳沢外務大臣宛（電報）

広東方面の政況について

広東　4月13日後発
本省　4月13日後着

第二七八号（暗）

往電第二七五号ニ関シ

当地方面政客ハ依然対日問題解決方ヲ日和見シツツ不即不離ノ態度ヲ続ケ居ル処最近ノ情勢左ノ通

一、中央ト両広実力派トノ妥協説ハ朱兆莘ノ南下ニ伴ヒ更ニ進展スヘシト見ル向アル一方剿匪軍モ予定ヲ変更シテ贛州ヨリ吉安迄進出シ中央軍陳誠ノ部隊ニ代リテ同方面ノ警備ニ当ルコトトナリタル由陳済棠側ヨリ伝ヘラレ広

西派亦李済深等ノ斡旋ニ依リ中央ヨリ剿匪準備費二十万元ヲ得湖南ヲ経テ江西ニ派兵スル趣喧伝セラレ各派ノ利害衝突セサル範囲内ニ於テ緩漫乍ラ進捗シ居ルモノノ如シ

二、然レトモ本件妥協ハ元々各派ノ利害ヨリ打算セラレ殊ニ両名ノ斡旋ニ努力セル李済深ニハ再ヒ両広ヲ背景トシテ翼ヲ伸ハサントスル魂胆アリテ両広実力派ハ相当警戒シ居ル一方中央カ陳済棠、李宗仁、白崇禧ヲ突如新職ニ任命セル遣口ハ如何ニモ狡ク且高圧的ノ嫌アリ白崇禧ノ如キハ鮮カラス憤激シ腹癒ノ為カ本任命裏面ノ策動者ト見ラルル黄紹雄ノ勢力一掃ヲ計リ居リ三者共未タ任命ニ応スル模様ナシ（右ニハ胡漢民派ノ策動モ手伝ヒ居ルコト勿論ナリ）

三、他方胡漢民等ノ活動ハ屢報ノ通ニテ孫科一派ヲモ操縦シ最近果然各方面ヨリ上海停戦会議ニ猛烈ニ反対セシメ居ル外西南政務委員会ニ於テハ過般広東ノ庁長、市長ヲ任免セル例ニ倣ヒ又復八日王家烈ヲ貴州省主席代理ニ任命シタルモ中央政府ヨリハ同委員会ノ各種任免ニ対シ今尚追認ヲ与ヘス同委員会ハ表面半独立ニテ西南五省ニ君臨シ居ル状態ナリ尚閻、馮ヲ始メ雲南ノ竜雲トモ夫々代表ヲ交換シ居レリ

公使ヨリ上海、南京ヘ転報ヲ請フ

公使、北平、奉天、天津、青島、済南、漢口、福州、厦門、汕頭ヘ転電シ、香港ヘ暗送セリ

99　昭和7年4月14日　在上海村井総領事より芳沢外務大臣宛（電報）

マクノーデン市参事会議長の上海特別法院非難演説について

上海　4月14日後発
本省　4月14日後着

第五八五号

共同租界納税者年次大会十三日開カレ、之レヲ以テ任期ヲ終リ退任スル「マクノーデン」市参事会議長ハ昨年度歳出入決算報告ヲ為スニ当リ上海支那法院ニ関シ透徹セル意見ヲ吐露セリ同氏ハ先ツ共産党員訴訟事件ニ付南京政府カ同法院ニ干渉ヲ試ミタル事アルカ純粋ナル刑事事件ニテハ工部局トシテハ大ナル苦情モナカリシ処昨年九月下旬排日「ボイコット」其他ノ排日運動ニ関連シ遂ニ完全ナル無法

時代ヲ現出シ刑法ノ執行ハ瓦解スルニ至レリトテ抗日会員ノ跳梁ニ対シ支那法院ハ愛国心ニ対スル誤レル観念乃至迫害ニ対スル恐怖ノ為メ何等刑罰ヲ加ヘ得サリシ事ヲ指摘シタル後法院ノ此ノ態度ハ閘北地方ニ於テ日支両軍ノ戦闘ヲ誘致シ不幸ナル結果ニ至ラシメタル有力ナル原因ヲ成スモノナル事疑ヲ容レス、日支両国ノ今日ノ関係ニ至レル直接原因ハ別トシテ、法院カ危機ヲ孕メル時ニ於テ其司法上ノ職務ヲ充分ニ認識シ、之レヲ遂行セサリシ事ハ支那政府ハ遂ニハ外国居留民カ或程度ノ信頼ト尊敬ヲ払ヒ得ル法院ヲ造リ上クルナラントノ外国居留民ノ希望ヲ完全ニ破壊セサル迄モ根本的ニ動揺セシメタリ外国居留民カ法院ノ民事訴訟ノ取扱ニモ非常ナル不満ヲ感シ居ル事ハ先月開カレタル上海万国商業会議所会頭ノ演説ニ依リテモ明瞭ナリ

此ノ問題ノ最モ満足ナル解決方法ハ共同租界内ニ国際裁判所ヲ設置シ一様ノ民法及刑法ヲ国籍ノ如何ヲ問ハス総テノ住民ニ対シ施行スルニアリト言フ事ハ確カニ外国居留民ノ一致セル輿論ナリ云々

公使ニ転報シ、北平、奉天、南京、広東、米国、英国、連盟ニ転電セリ

100　昭和7年4月14日　在上海村井総領事より芳沢外務大臣宛（電報）

マクノーデンの演説に対する申報の論評について

上海　4月14日後発
本省　4月14日後着

第五八六号
往電第五八五号（九九文書）ニ関シ

「マクノーデン」ノ演説ニ対シ十四日ノ申報ハ左ノ通論評セリ

一、「マクノーデン」ハ特区法院カ抗日運動ニ左袒シタルコトハ上海事件ノ原因ノ一ナリト云ヘルハ抗日運動ノ由来スル所ヲ究メサル偏見ナリ今次ノ抗日運動ハ九月十八日事変ノ勃発ニ依リ我国人民ノ感情ヲ刺戟シタルコトニ根源シ単ニ平和手段ニ依ル経済絶交行為ニシテ租界ノ秩序ヲ妨害セス又（在？）支那居留民ノ安全ヲ害セサル愛国運動ナリキ「マ」ハ目下米国ニ於テ拡大シツツアル日貨排斥問題ヲ如何ニ観ルヤ

二、今次ノ事変ハ租界ノ弱点ヲ暴露シタルモノナリト為ス

所論ハ吾人ノ観ル所ト略々同様ナルモ租界ノ当局ハ事変ヲ未然ニ防止スルノ手段ニ出テス却ツテ虹口一帯ヲ日本軍ノ防備区域ニ画分シ事変ヲ誘発シタルノミナラス租界ヲ日本軍ノ攻撃及守備ノ根拠地トシタルハ租界当局カ日本ノ強力ニ屈シタルモノト認メサルヲ得ス

三、吾人ノ観察ニ依レハ「マ」ノ着眼点ハ上海事件又ハ特区法院ノ問題ニ非スシテ最近喧伝サレツツアル上海自由市問題ニ関連セルモノナルカ如キモ国際法廷又ハ自由市ノ設立ノ如キハ屋上更ニ屋ヲ架シ我国行政権ノ完璧ヲ破壊スルモノナルニ付承認シ能ハス

尚同日「デイリー・ニュース」及上海「タイムス」ハ「マ」ノ所説ヲ支持シ特区法院改造ノ要ヲ述ヘタルカ「デイリー・ニュース」ハ特ニ特区法院カ斯カル情態ニ陥リタルハ臨時法院改組交渉ニ際シ外交団カ最モ関係深キ工部局ノ意見ヲ徴セサリシコト亦其原因ナル旨指摘セリ

北平、奉天、南京、広東ヘ転電セリ

101　昭和7年4月21日　在上海村井総領事より芳沢外務大臣宛（電報）

反国民党派の動向などに関する李思浩の内話について

上海　4月21日後発
本省　4月21日後着

第六一六号（暗）

前財政総長李思浩ト其ノ同志タル陳則民及游捷（元孫伝芳ノ顧問目下紅卍会幹事タリ）ト二十日会談ノ機会ニ於テ李思浩ノ内話セル処左ノ通

一、自分ハ最近北方ニ於ケル同志ト打合ヲ遂ケ韓復榘トモ会見ノ後再ヒ当地ニ来リタルカ当地ニ於ケル反国民党熱漸次昂進シツツアルニ顧ミ同志ノ運動近ク具体化スヘキニ付然ル上ハ日本側ノ支援ヲ希望ス

一、上海事件ノ解決永引クニ伴レ蔣介石ニ対スル反対ハ愈々加ハリ来リ蔣モ自ラニテハ如何トモシ難キヲ覚リ最近段祺瑞ノ許ニ三回モ使ヲ立テ其ノ斡旋ヲ請ヒ来リタル事実アリ同志ニ於テ之カ対策講究中ナリ

一、自分等ノ主張ハ国民党ヲ討滅セントスルニハ非ス其ノ一党専制ニ反対スルモノニシテ即チ憲政時期ヲ速ニ来ラシメ各国政党政治ノ如キモノトスルニアリ内政ハ連省自治制ヲ採ラントス

一、満州問題解決策トシテハ新国家ノ分離ヲ承認スルコト困難ナルモ連省自治制ヲ採リ内政ニ干渉セス日本側ノ主張タル経済的利益ハ全部之ヲ承認スルコトニ依リ日本側ノ希望ニ副フコトヲ得ヘシ宣統帝ハ退位当時ノ条件通リ優遇スルコトトセハ可ナラン張学良ハ何レニセヨ始末セサル可ラスト思ヒ居レリ

一、同志ノ蹶起ハ資金ノ調達難ニテ困リ居ル次第ナルカ閻錫山韓復榘劉湘等ノ方面ハ何レモ各自用意シ居ルコト故石友三孫殿英等ニ向クル為約三百万元位アレハ事足ルコトナルヘク之ハ是非日本側ヨリ融通ヲ得度キ所存ニテ目下某方面（大倉カ）ト交渉中ナリ

一、日本側ノ諒解取付ノ為近ク代表ヲ派スル議アル処人選未タ決定シ居ラス曹汝霖ハ適任ナルモ其ノ日本行ハ余リ目立ツ嫌アリ又王揖唐近ク南下シ来ル筈

一、国民党側殊ニ汪兆銘派トノ妥協成立ハ至難ナルモ胡漢民等トハ話合付ク望アリ又広西実力派トハ既ニ連絡成リ居レハ対広東策モ比較的順調ニ進ムヘシ

北平、奉天、天津、青島、済南、南京、漢口、広東ヘ転電シ支ヘ転報セリ

102　昭和7年4月22日　在上海村井総領事より芳沢外務大臣宛（電報）

王揖唐ら南下の真相に関する情報について

上海　4月22日後発
本省　4月22日後着

第六一九号（暗、極秘扱）
往電第六一六号（一〇二文書）ニ関シ

王揖唐、曽毓雋、姚震ノ三名昨二十一日汽船ニテ竊カニ南京ヨリ来滬セリ其来滬ニ至レル迄ノ経緯ニ関スル山本英治（李思浩ト共ニ策動中）ノ談話要領

一、上海事件勃発以来南京中央常務委員会中ニ時局斡旋ノ為段祺瑞及王揖唐ノ出廬ヲ促ス可シトノ意見高マリ蔣モ之ニ同意シ最初李石曽ヲ北上セシメ出廬ヲ依頼セシメタルカ段ハ一応之ヲ拒絶シタリ唯其際対日問題ニ限リテナラハ相談ニ乗ラヌテモナシトノ態度ヲ示シタルヲ以テ再度蔣介石ヨリ陳果夫ヲ派シ懇請シタルモ汪精衛等左派ヲ気兼シ容易ニ動カントハセス依テ三度汪精衛ヨリ陳公博ヲ遣ハシテ左派モ亦歓迎ノ意ヲ通シタルヲ以テ遂ニ出廬ヲ承諾スルニ到リ不取敢段ノ代表トシテ曽毓雋ヲ王揖唐

（姚震随行）ト共ニ南下セシムルコトトナリタルモノニシテ右三名ハ津浦線ニテ南京着十九日湯山ニ於テ南京派要人ト会合（新聞ニハ上海停戦交渉打合セノ為ノ会合ト報シ居レリ）昨日来滬シタル次第ナリ

二、其用向カ南下迄ノ経緯ニ観テ表面南京側ト共ニ対日問題講究ニ在ルハ勿論ナルモ其実当地ニテ反蔣運動ノ画策及之カ資金ノ調達ヲ為スニ在リ南京政府部内ヲ動カシテ王等ヲ公然上海ニ乗込マシメタルハ実ハ李思浩等カ南京反蔣系要人ト語ラヒ打チタル芝居ナリ

三、代表ノ渡日ハ全然未定ナリ云々

山本ノ依頼モアリ本件発表差控ヘラレ度シ

北平、奉天、天津、青島、済南、南京、漢口、広東ヘ転電シ支ヘ転報セリ

103　昭和7年4月23日　在上海重光公使より芳沢外務大臣宛（電報）

反蔣運動の動向に関する情報について

上海　4月23日後発
本省　4月23日後着

第七一八号（暗）

陳中孚ノ談話トシテ山田ノ内報ニ依レハ

㈠広東派ハ停戦協定成立ノ機会ヲ待ツテ売国協定反対ノ口実ニテ広西ヲ含ム広東派ノ独立ヲ宣言セント目論見居リ既ニ胡漢民ト陳済棠トノ間ニ合作ノ打合セ成リ目下孫科ノ南下ヲ促シツツアリ

㈡先般国難会議ニテ決議ノ張学良査弁案ハ実ハ汪精衛ノ提案ニシテ汪カ蔣介石ノ勢力ヲ殺カントスル陰謀ナリ汪ハ行政院長就任以来極力蔣ノ勢力削減ニ腐心シ蔣派ノ地方官吏ヲ罷免シ部下ノ改組派一味ヲ任命シタルモノ頗ル多数ナリトノコトニテ陳ハ二十二日有野（学）ヘモ同様ノコトヲ語リタル趣ノ処他面右㈠ニ関シ最近南京ヨリ来滬セル郭同ハ二十二日有野ニ対シ南京発閣下宛電報第二四八号ト略々同様ノ話ヲ為シ尚広東ニ在ル蔣介石ノ代表ト陳済棠トノ妥協完全ニ成立シ其結果陳ハ蔣ノ要求ニ依リ其軍隊ノ一部ヲ江西ノ共匪討伐ニ差向クルコトヲモ承諾シタル程ニテ結局実力派ヨリ引離サレタル胡漢民等ノ策動ハ不成功ニ終レルヲ以テ目下ノ処反蔣運動カ停戦交渉ノ進行ニ累ヲ及ホス懸念無シト語レル趣ナリ何等御参考迄

北平、天津、奉天、南京、青島、済南、漢口、広東ヘ転電

セリ

104　昭和7年4月26日　在上海村井総領事より芳沢外務大臣宛（電報）

抗日を急務とする孫科の新聞記者への談話について

上海　4月26日後発
本省　4月26日後着

第六二五号

南京政府ノ招請ニ応セス当地ニ在リテ秘密裡ニ政治的策動ヲ続ケ居ル孫科ハ廿五日新聞記者トノ会談ニ於テ自己ノ進退問題ヲ述ヘ立法院長、鉄道部長乃至駐米公使ニモ就任セスト説キ抗日救国綱領ナルモノヲ発表セルカ其内外交方針ニ関シテハ抗日ノ徹底ヲ以テ当面ノ急務ナリトシ抗日ノ為ニハ連米並ニ連露政策ヲ採用スヘシト主張シ右原案ニハ胡漢民モ略同意シ来レリ云々ト述ヘ李石曽カ右連米、連露政策ヲ不可能ナリト言ヘルニ対シ反駁ヲ加ヘタル趣ナリ

北平、奉天、天津、青島、漢口、南京、広東ヘ転電シ支ヘ転報セリ

105　昭和7年4月26日　芳沢外務大臣より在ジュネーヴ沢田連盟事務局長、在米国出淵大使宛（電報）

蔣介石の段祺瑞に対する出馬要請説について

本省　4月26日発

合第一〇八二号

蔣、段ノ関係ニ関スル件

蔣介石ハ上海停戦交渉ニ関スル国内諸方面ノ反対ニ当惑シ居ル様子ナルカ蔣ハ従来ヨリ熊式輝ヲ通シ一縷ノ連絡アル段祺瑞ノ許ニ再三度使者ヲ派シ時局斡旋ノ為其出廬ヲ懇請セル由ナリ右ハ蔣カ国難ヲ看板ニ国家ノ元老タル段ヲ礼聘シ専ラ日本朝野ト接洽セシメタル上何トカ上海事件ノ鳧ヲ着ケントスル腹案ニ基クモノナリト見ル者アリ右蔣ノ要請ニ対シ段派ハ適々南下セル曽毓雋ヲシテ南京側ノ真意ヲ探ラシメタルヤノ趣ナルカ一方在上海段派策士ハ反蔣派団結ヲ画策中ナリトノ情報モアリ右何等御参考迄

寿府ヨリ「在欧各大使ニ転報アリタシ」

106　昭和7年4月27日　在広東須磨総領事代理より芳沢外務大臣宛（電報）

上海停戦問題に関する西南委員会の意向などについて

広東　4月27日後発
本省　4月27日後着

第三二八号（暗）

一、[1] 西南委員会ニ立籠ル連中ハ停戦協定ノ内容如何ニ拘ラス之ニ反対セントスル気構ヘアル事累次報告ノ通ナルカ二十七日伍朝枢ト会見ノ節広東当局ハ本件協定内容ヲ承知ナリヤト試問シタルニ伍ハ大体承知シ居ルモ西南委員会ノ主張ハ愈調印後ニ非サレハ判明シ難ク何レモ最後ノ決定ニ先立チ中央執行委員タル自分等ニハ正式ニ通知アルヘク其際篤ト協定中ニ中国ノ主権又ハ「プレステイジ」ヲ害スル事項ノ有無ヲ慎重研究ノ上賛否ヲ決定シタキ所存ナルモ満州問題未解決ノ今日独リ当方面ノミナラス山東其他ノ方面ヨリモ可成リ反対アルヘキヤニ思考セラルト答ヘタリ

二、依テ本官ヨリ満州問題ト同時ニ非サレハ上海問題ハ解決セストノ誤リタル見解支那ニ多キ処西南委員会ニ於テモ尚此種ノ見解アル次第ナリヤト試問シタルニ伍ハ声ヲ励マシ「リットン」委員会カ満州問題将又同問題ト上海事件トノ関係ニ付如何ナル報告ヲ為スヘキヤ不明ナルモ右ハ結局連盟ノ見方ニシテ支那側中央委員ハ概ネ満州上海両事件ハ日本ノ常套ナル支那侵略ニ依リ発生シタル同一性質ノ案件ナリトノ見解ヲ堅持シ殊ニ弁解ハ如何アラウトモ満州国ハ日本ノ捏チ上ケタル傀儡ナレハ此「カムフラージ」ニ誤魔化サレ上海事件ノミヲ所謂円卓会議ニ依リ解決センカ結局ハ満州ヲ第二ノ朝鮮タラシムル所以ナリト思考シ居レリトテ種々満州国内ニ日本前官吏カ要職ヲ占メ居ル事実等ヲ挙ケ居タリ

三、[2] 伍ハ更ニ貴官ノ質問ニ関連シ特ニ御含ミ迄内々申上ケ度キハ上海ノ虹口閘北在留支那人ハ概ネ広東人ニ付実ハ停戦交渉問題ニ関シテモ自然鮮カラス広東側ノ感情問題モ絡ミ居リ停戦協定対策モ従テ複雑ナルヲ免レスト述ヘタル上特ニ両国ノ為悲シムヘキハ譚啓秀等十九路軍幹部帰来シ今回上海ニ於ケル衝突ニ依リ中国軍人ハ武器及組織ニ於テハ日本ニ劣ル点アリトスルモ軍人トシテハ何等日本ニ譲ラサルヤノ確信ヲ強メ例ヘハ支那兵カ爆弾及手榴弾ヲ懐ニシテ日本鉄甲車ノ馳駆スル路上ニ軀ヲ横ヘ所謂肉弾ト為リテ日本側ニ相当打撃ヲ与ヘタル事例ヲ吹聴シ一般ニ対シテモ愈日本恐ルルニ足ラストノ信念ヲ深メシメタルノ事実ハ上海事件ノ極メテ不幸ナル結果ニシテ尚将来永ク日支関係ニ暗影ヲ投スル事実タルヘク現ニ最近満州各地ニ叛徒及匪賊ノ蜂起シカケタルハ此種十九路軍ノ気分反映セル結果トモ観ラルヘク此分ニテハ日本ハ満州国ノ為極メテ多難ナル将来ヲ有スル訳合ナリト語レリ

四、右等伍ノ見解ニ対シテハ一々我方ノ立場ヲ便宜説明シ置キタルカ右ハ西南委員会側ノ意向ハ勿論十九路軍出身地トシテノ当方面一般ノ空気ヲモ伝フルモノト存セラルルニ付特ニ電報ス

支ヨリ上海ヘ転報アリ度シ、支、北平、奉天、南京ヘ転電セリ

107　昭和7年5月13日　在南京上村総領事代理より芳沢外務大臣宛（電報）

上海、南京等における中国軍隊の配備について

南京　5月13日後発
本省　5月13日後着

第三七九号

十二日陳儀ハ陸軍武官ニ対シ今後十九路軍ハ上海付近ニ置カス蘇州以東ノ滬寧沿線ニ第六十師及第七十八師ヲ、又鎮江、南京一帯ニハ第六十一師ヲ駐屯セシムル積リナルカ目下南京ニハ第五軍及第十九路軍ノ新兵ヲ収容シ居リ兵営ノ余裕ナキヲ以テ第六十一師ハ暫ク南京ニ駐屯セサルヘキ旨語リタル趣ナリ

尚従来常熟ニアリタル第八十八師ハ当地ニ在リシ同師ノ一部ト共ニ近ク漢口ヘ移駐スル由

支、北平、奉天、天津、青島、済南、漢口、（広東脱？）ヘ転電セリ

108　昭和7年5月14日　在南京上村総領事代理より芳沢外務大臣宛（電報）

満州、上海事変解決方式に関する羅外交部長の談話について

南京　5月14日後発
本省　5月14日後着

第三八二号

新聞ニ依レハ羅文幹ハ上海停戦協定ニ何等密約無キ事ヲ証明スル為メ十三日新聞記者三十余名ヲ外交部ニ招致シ協定原本及英国公使ノ提案等ヲ示シタルカ其際記者ヨリ東三省及上海問題ハ今後如何ナル方式ニ依リ解決セントスルヤト質問セルニ対シ羅ハ個人ノ意見トシテ日本カ東三省及上海ニ於ケル軍隊ヲ完全ニ撤退シ事変前ノ状態ニ回復シタル後国際会議ヲ開キ全般的日支問題ヲ討議スル必要有ル処其範囲ハ損害賠償問題ノミナラス日本軍カ支那ノ領土ヲ作戦根拠地トシテ支那ノ国防ヲ危殆ナラシムルコトニ対シテモ之カ制止ノ方法ヲ講セサル可カラスト答ヘタル趣ナリ

支、北平、奉天、長春ニ転電セリ

109　昭和7年5月22日　在南京上村総領事代理より芳沢外務大臣宛（電報）

蔣介石の豫鄂皖剿匪総司令任命について

南京　5月22日後発
本省　5月22日後着

第四〇三号

二十二日当地新聞ノ報道ニ依レハ軍事委員会ハ昨二十一日蔣介石ヲ豫鄂皖三省剿匪総司令ニ李済深ヲ同副司令ニ任命シ河南、湖北、安徽ノ共匪ノ徹底的討伐ヲ期スル事ニ決定セル趣ナリ

支、北平、奉天、天津、青島、済南、漢口、広東、福州、九江、厦門、汕頭ヘ転電セリ

110　昭和7年5月22日　在南京上村総領事代理より芳沢外務大臣宛（電報）

山海関停車場付近における日本軍の機関銃発射事件に関する外交部長よりの抗議について

南京　5月22日後発
本省　5月22日後着

第四〇四号

本官発支宛電報

第三八八号

外交部長ヨリ貴公使宛二十一日付書翰ヲ以テ大要左ノ如ク照会越セリ

報告ニ依レハ本月十五日夜山海関停車場東端長城付近ニ於テ日軍ハ機関銃及歩兵銃ヲ発射シ弾丸ハ城内及公安局ニ落下シ南関ノ日本憲兵隊ハ歩兵銃五、六十発ヲ発射シタル後同隊ヨリ出動セル二名ノ日本人ハ洋灰橋ニ於テ空中ニ発砲シ更ニ同隊ヨリ出テ来レル三名ノ日本人ハ興隆街ニ至リ中国ノ電話柱ヲ破損シ満州偽警察隊ヲ使嗾シテ約一時間ニ亘リ通行止ヲ為シタル趣ノ処東北日軍ハ未タ撤退セス又山海関方面ニ於テ擾乱ヲ企図シ同地ノ形勢ハ益々危険トナリ居ルヲ以テ之ニ依リ発生スル事故ハ総テ日本政府ノ責任ナル事ヲ抗議スルト共ニ日本政府ニ電報ノ上同地日軍ヲシテ再ヒ上述ノ如キ不法挙動無カラシムル様厳飭方御取計相成度シ

公文郵送ス

大臣、北平、奉天、長春、天津ヘ転電セリ

111　昭和7年5月28日　在南京上村総領事代理より斎藤外務大臣宛（電報）

十九路軍の福建移駐後の南京警備について

南京　5月28日後発
本省　5月28日後着

第四一八号（暗）

二十七日宴席ニテ谷正倫ノ本官ニ内話スル処ニ依レハ蘇州南京方面ニ在ル十九路軍ノ三師ハ此処一週間乃至十日位ノ内ニ全部福建ニ移駐スル筈ナルカ之ニ依リ南京ノ警備ハ手薄トナルコトナキニ依リ他ノ方面ヨリ当地ニ補充部隊ヲ呼ヒ寄スルコトハ未タ考慮シ居ラストノコトナリ

支、北平、奉天、漢口、福州、厦門、汕頭ニ転電セリ

112　昭和7年5月28日　在天津桑島総領事より斎藤外務大臣宛（電報）

北方各派の現状について

天津　5月28日後発
本省　5月28日後着

第二二四号（暗）

北支政権ノ現状ニ関スル観察左ノ通リ御参考迄

一、安福派ヲ中心トスル反学良大同団結ノ運動ハ資金調達ノ方法無キト段ノ取巻連中ニ対スル各派ノ不信任ト往電第一八四号安福派ト学良ノ接近ニ対スル警戒トニテ各派ニ見切ヲ付ケラレタル観アリ同派ニ於テ引続キ各派トノ連絡ヲ策シ居ルモ発展ノ可能性極メテ薄シト認メラル

二、張作相ノ反学良策動ハ眉唾モノラシク仮令真面目ナリトスルモ之亦資金難ニテ望無シ

三、呉佩孚ハ直隷派ニ於テモ殆ト頼トシ居ラサルカ如シ

四、韓復榘ハ最近中央ニ対スル関係ヲ改メ帰順ノ意ヲ表シ居ルモ内心ハ自己ノ運命ノ永カラサルヲ知リ機会有ラハ反蔣張ノ態度ヲ鮮明ニスヘシト観察セラレ居ル処相変ラス進テ事ヲ挙ケ得ル度胸無キカ如シ

五、馮玉祥ハ海州ニ在ル梁冠英ヲ頼トシ他日ノ機会ヲ狙ヒ居ルモ目下韓トハ連絡無ク寧ロ広東派トノ合作ヲ策シ居ルヤニ伝ヘラル

六、閻錫山ハ宋哲元及商震カ邪魔ナルモ単独之ヲ解決スル意向モ無ク又反学良運動起ルモ彼等カ之ニ参加スル場合ハ合作ヲ斥ケ「モンロー」主義ニ終始セントスルカ如シ

七、学良ノ軍隊ハ逐次裁撤ノ結果目下十五、六万ニシテ于学忠、王樹常ノ部下ヲ交互ニ配置シ相牽制セシメ以テ部内ノ叛乱ヲ防止シ居ルカ如ク尚阿片ノ専売ニ依ル月収約二百万ノ外往電第一八五号塩税収入ヲ加ヘ相当ノ財源アルニ拘ラス軍隊ノ給料ハ旧正月以来未払ニテ不平昂マリツツアリト称セラルルモ反張派ノ状況錯雑シ統一無キ為時局ハ未タ動揺ノ気配見エス学良ハ有形無形ニ反満州国運動ノ中心トシテ北平ニ鎮マリ反ヘリツツアリ

尚学銘ハ二十六日夜南下セルカ右ハ学良ノ命ヲ受ケ山海関方面ノ状況報告並閻、馮、韓ノ策動牽制策打合ノ為ナリト噂セラル

支ヨリ上海ヘ転報アリタシ

支、北平、奉天、済南、青島、漢口、南京、長春、広東ヘ転電セリ

113　昭和7年5月30日　在広東須磨総領事代理より斎藤外務大臣宛（電報）

広東における内争など唐紹儀の時局談について

広東　5月30日後発
本省　5月30日後着

第四一七号（暗）

二十九日唐紹儀ノ本官ニ対スル当方面時局談左ノ通

一、二十八日李烈鈞、蔡元培等南京ニ於ケル要人十二名ヨリ自分並ニ蕭仏成、鄧沢如ニ宛テ困難ノ折柄内政上ノ不安ヲ除去方尽力アリ度シト来電越シ又上海広東出身実業家連ヨリモ同様入電アリ自分等ニ於テモ陳策問題ノ円満解決ニ極力尽力中ナルカ陳済棠ハ相当強硬ナル為陳策モ

唐家湾ニ碇泊中ナリシ十三隻ノ軍艦中大型八隻ヲ二十六日愈々海南島ニ回航セシメ同島ヲ根拠トシテ長期抵抗ノ腹ヲ決メタルカ如ク簡単ニハ形付カサル形勢トナリシモ一方陳策モ其ノ父カ海南島ニ於テ長ク横暴ヲ極メタル為島民ニ不人気ナル事情モアレハ今後モ主トシテ自分ニ於テ更ニ円満ニ妥協セシムル為努力シタキ意向ナリ

二、両広不和説ハ実ハ当地ニ於テモ陳済棠ノ遣口ニ対スル不満ヨリ李済深時代ヲ慕フモノ尠カラサル為時折宣伝セラルルモ李宗仁、白崇禧両人ハ特ニ今頃戦争ヲ構フルカ如キ愚ヲ為ササルヘク現ニ済棠ニ於テ先般来西江方面ニ夫レトナク軍隊移動ヲ行ヒツツアルヲ両人ハ笑ヒ居レリト聴キ及ヒ居レリ旁今ノ処両広不和説ハ臆測ニ過キス

三、上海協定反対汪精衛弾劾等ニ関シ西南委員会ノ執リツツアル措置ハ全ク一片ノ「ヂェスチュア」ニ過キサル為現ニ二十八日ノ汪精衛及中央政治会議弾劾電報（往電第四一四号）ニハ自分ハ署名ヲ断リ置キタル次第ナリ彭礎立ノ死刑（往電第四一二号）等ニ依リ抗日運動再燃ヲ懸念セラルルハ尤ナルモ彭ハシタタカ者ニテ抗日会ヲ利用シテ私腹ヲ肥シタル為二十八日西南委員会ニ於テ死刑ヲ宣告シタル迄ナレハ反テ之カ為抗日運動ヲ悪用スル徒輩ヲ去リ漸次平常状態ニ復帰スヘキヤニ思考セラル

支ヨリ上海ヘ転報アリ度シ

支、北平、奉天、天津、青島、済南、漢口、南京、福州、厦門、汕頭ヘ転電シ、香港ヘ暗送セリ

114　昭和7年6月1日　在上海村井総領事より斎藤外務大臣宛（電報）

十九路軍の福建移駐について

上海　6月1日後発
本省　6月1日後着

第七三九号（暗）

一、往電第七二一号所報ノ十九路軍モ愈中央ノ命ニ従ヒ入閩ノコトニ決定シタル模様ナルカ右ハ停戦協定成立ニ依リ南京政府ノ基礎多少安定シ蔣介石ノ勢力モ稍盛返シタル結果十九路軍トシテモ下手ニ間誤付ケハ武力ヲ以テ解決セラルル懸念アリ且広東トシテハ敗退ノ際ヨリノ希望ニテモアリ旁内心面子サヘ立タハ福建移駐必スシモ欲セサルニアラスト同意シ居タル折柄厦門方面ヨリ共匪討伐

来援方ノ請願アリ又予テ要求中ノ移駐費（八十万乃至百万元ト称セラル）モ支給セラレ更ニ各方面ヨリ引留運動モアル際トテ今カ引キ時ト腹ヲ定メタルモノト思料セラル

二、福建旅滬各団体救郷連合会代表カ二十八日蘇州ニテ蔡廷鍇ニ会見ノ際蔡ノ為セル談話（支那紙所報）左ノ通

(イ)先般上海各団体ヨリ京滬線駐防方慫慂アリタルモ本軍ノ進退ハ一ニ中央ノ命ニ依ルヘク既ニ福建ヘ移駐方政府ノ命アリ又軍事委員会ヨリモ明令アリ本軍トシテハ唯命令ニ服従シ速ニ出発センノミ

(ロ)六十一師ハ先発隊トシテ既ニ南京集中ヲ了シ出発ヲ待チ居レリ（本一日ヨリ招商局汽船数隻ニ分乗シテ弗々出発ト報セラル）唯船腹不足ノ為多少ノ遅延ハ免レス

(ハ)自分ハ本軍一師以上福建ニ到達ノ上ハ出発ノ予定ナリ

三、尚当館諜報者カ十九路軍駐滬弁事処ヨリ得タル情報ニ依レハ京滬線ノ警備ハ第五軍（張治中）十九路軍ニ代リテ担任、淞滬ノ警備ハ淞滬警備司令戴戟指揮ノ下ニ八十八師（兪済時）之ヲ担任スル趣ナリ

広東ヨリ香港ヘ転報アリタシ

支ニ転報シ、北平、奉天、天津、済南、青島、南京、漢口、福州、厦門、汕頭、広東ニ転電セリ

115　昭和7年6月2日　在広東須磨総領事代理より斎藤外務大臣宛

唐紹儀の時局外交談について

広東　6月2日付
本省　6月16日着

公第六五八号

昭和七年六月二日

在広東

総領事代理　須磨弥吉郎（印）

外務大臣子爵　斎藤　実殿

唐紹儀ノ外交談報告ノ件

現下ノ外交問題ニ関シ唐紹儀ハ六月一日新聞記者ニ対シ左ノ如キ談話ヲ試ミタル趣ナルカ何等御参考迄右報告申進ス

一、蔣介石及汪精衛カ日本ト東北問題ノ協定ヲ遂ケタル噂アルモ果シテ事実トセハ右ハ廿一ケ条トコロノ騒キニ非ス東北失地回復ノ如キハ思ヒモ寄ラサル結果トナルヘシ

二、汪精衛ノ外交部長継任説ニ付テハ与リ聞カス

三、中国外交界ニ其ノ人無キ処是レ洵ニ無理カラサルコトト云フヘク蓋シ外交ハ武力ヲ背景トスヘキニ中国ノ積弱ナル武力ノ云フヘキナシ乃チ武備ノ整ハサル他国家ト同様中国ハ常ニ恐嚇セラレテ外交上屈服ノ外無キ次第ナリ

日本ハ恐嚇ニ依リ張学良ヲ遁走セシメ同様手段ニ依リ上海ニ行動セルカ料ラスモ十九路軍ノ決死的抵抗ニ遭ヒ其ノ技量ヲ実行スルコト能ハス十九路軍ニシテ張学良ノ如カラシメシニ於テハ広州、汕頭、福州、厦門等モ亦相継イテ日本ノ擾乱ヲ受ケシナラン

這般上海会議ニ依リ日本軍ノ撤収ヲ見タルハ其ノ裏面ニ密約アルヤ否ヤヲ問ハス尠クトモ十九路軍一戦ノ結果ト云フヘク依此観之武力ノ無キ処外交無ク即チ外交人材ノ不出亦怪シムニ足ラス云々

本信写送付先、公使、北平、奉天、上海、南京

116　昭和7年6月17日　在南京上村総領事代理より斎藤外務大臣宛（電報）

日本の満州国承認を非難の国民政府外交部の声明について

南京　6月17日後発
本省　6月17日後着

第四七五号

往電第四七一号ニ関シ

外交部ハ本十七日午後大要左ノ如キ声明書ヲ発表セリ

東北偽組織カ全然日本ノ武力ニ依リ成立シ其実権カ日本人ノ手ニアリ溥儀以下日本人ノ鼻息ヲ窺ヒ日本政府ノ指揮ヲ受ケ日本ト一体ヲナシ居ル事実ハ世間周知ノコトニシテ支那政府ハ該偽組織ヲ以テ日本政府ノ傀儡トナシ其反逆行為ハ日本政府ニ於テ責任ヲ負フヘク支那政府ハ断シテ之ヲ承認シ能ハサル次第ハ従来屢々声明シ且日本政府ニ照会セルトコロナリ然ルニ日本各界ハ速ニ該偽組織ヲ承認センコトヲ政府ニ要請シ又日本議会モ同様ノ提案ヲ通過セル趣ナルカ右ハ前記日本政府ノ非法行為ヲ以テ尚足ラストシ進ンテ承認シ天下ノ耳目ヲ蔽ヒ朝鮮ヲ滅シタル故智ニ倣ハントスルモノトス

日[2]本政府ニシテ果シテ該偽組織ヲ承認センカ東北ニ対シ何等領土的野心無シトノ連盟ニ於ケル累次ノ声明及該偽組織ト日本政府トノ間ニハ何等ノ関係無シトノ支那政府ニ対スル照会ハ全然欺瞞ト言フヘク支那ノ主権ト独立並ニ領土ト行政権ノ完全ヲ破壊シ且九国条約ニ反シ連盟累次ノ決議ヲ無視スル行為タルコト明白ナリ、支那政府ハ最厳格ナル国法ニ依リ該偽組織ヲ処置スルト共ニ日本ノ東北ニ於ケル従来ノ非法行為ハ一貫セル武力侵略ト認メ前記条約締結国連盟加盟国及其他ノ各国カ日本又ハ其他ノ如何ナル国家ト雖武力ニ依リ其侵略ノ野心ヲ遂クルコトヲ決シテ許容セサルヘキヲ確信ス

奉天ヨリ長春、吉林ヘ転電ヲ請フ

支、北平、奉天、哈爾賓、天津、青島、済南、漢口、広東ヘ転電セリ

117　昭和7年6月18日　在南京上村総領事代理より斎藤外務大臣宛（電報）

日本の満州国承認を非難の国民政府行政院の対外宣言について

別　電　同日在南京上村総領事代理より斎藤外務大臣宛第四七七号

右行政院の対外宣言要旨

南京　6月18日前発
本省　6月18日前着

第四七六号（暗）

往電第四七五号ニ関シ（一一六文書）

十七日ノ行政院会議ハ往電第四七五号外交部声明ト共ニ大要別電第四七七号ノ如キ行政院ノ対外宣言ヲ通過即日発表セリ尚汪精衛ハ行政院長ノ名ニ於テ十七日付ヲ以テ全国人民団体新聞社及海外華僑団ニ対シ通電ヲ発セルカ其ノ内容ハ前記宣言ノ趣旨ヲ述ヘタル後政府ハ従来ノ方針通リ飽ク迄抵抗スルニ決シ如何ナル条件ノ下ニ於テモ日本ノ承認如何ニ拘ハラス決シテ傀儡政府ヲ承認セス又失地回復ノ努力ヲ中止セストテ民衆ノ臥薪嘗胆一致団結ノ要ヲ強調セルモノナリ

委細郵報

本電別電ト共ニ支、北平、奉天、天津、哈爾賓、長春、青島、済南、漢口、広東、福州ニ転電セリ

長春ヨリ吉林ヘ転電アリタシ

（別　電）

南京　6月18日前発
本省　6月18日前着

第四七七号

別電

行政院ノ対外宣言要旨左ノ通

日本ノ議会ハ偽満州国ヲ承認スルニ決定セル趣ナルカ政府ハ之ヲ聞キ奇怪ニ堪ヘス所謂満州国政府ハ日本軍援助ノ下ニ成立シ日本ノ顧問諮議ニ於テ実権ヲ掌握シ居リ其日本ノ製造セル傀儡政府タルコトハ夙ニ明カニシテ今回ノ承認ヲ俟ツ迄モ無ク全世界ニ対シ之カ実証ヲ与ヘタリ支那政府亦夙ニ屢々之カ否認ノ宣言ヲ為セリ唯今回日本政府ハ遂ニ最後ノ仮面ヲ抛チ大胆ニ偽国ヲ承認セントスルモノニシテ此種ノ行為ハ支那ニ対スル最大ノ侵略タルノミナラス連盟規約及九国条約ヲ完全ニ廃棄シ大戦後ノ世界各国国民ノ惨澹経営セル平和保障ノ機構ヲ徹底的ニ解体シ且将来ニ於ケル世界ノ平和運動ノ努力ニ対シ精神上ノ致命的打撃ヲ与フルモノトス支那国民ハ自衛ノ為将又世界ニ於ケル平和組織ノ連鎖ニ対スル責任ノ為日本政府ノ此種行為ニ対シテハ如何ナル犠牲モ惜マス飽ク迄反対スルコトニ決定セリ日本ノ此種行為ニ依リ惹起スル一切ノ紛糾ハ自ラ製造シテ自カラ承認スル日本政府ニ於テ完全ニ其責任ヲ負フヘキモノトス

118　昭和7年6月18日　在天津桑島総領事より斎藤外務大臣宛（電報）

日本の満州国承認に関する中国各方面の意見について

天津　6月18日後発
本省　6月18日後着

第二五五号（暗）

満州国承認問題ニ関シ各派ノ意見ヲ綜合スルニ左ノ通リ

一、段祺瑞派（元来独立国家ノ創設ニ反対ナリ）実質上日本カ満州国ニ対シ如何ナル工作ヲナスモ差支ナキ処若シ進ンテ形式的ニ独立国家トシテ承認スルニ至ラハ英、仏、露各国亦日本ニ倣ヒ支那各地ニ満州同様ノ事態ヲ誘発スルニ至ル危険アリ又国民政府ハ之ヲ材料トシテ内外ニ抗日的宣伝ヲ高調スヘキヲ以テ民衆ノ対日反感ヲ強メ将来ニ於ケル反国民党運動ノ遂行ニモ鮮カラサル不便ト支障ヲ来スヘシト予想セラル而シテ満州善後問題ハ何レ

ハ支那本部ニ於ケル反国民党ノ大政変ヲ待チテ政治外交的手段ニ依リ或ハ英国ニ対スル「アイルランド」若ハ「カナダ」ノ関係ニ置クカ如キ解決方法モ当然ニ生スヘキヲ以テ此ノ際日本カ実力ノ建設ヲ急クモ承認問題ニ付テハ焦ラス迫ラス時局ノ推移ヲ静観スル事ハ独リ日支両国民ノ為ノミナラス東洋平和ノ為ニモ得策ナルヤニ観察セラル

二、直隷派及実力派

事此所ニ至レル以上ハ満州国ヲ承認スルト否トハ単ニ形式ニ過キサルモ承認ノ結果ハ全国民ヲシテ日本カ領土主権ヲ破壊セリトノ観念ヲ深カラシメ国民政府亦之ヲ以テ民意ニ迎合宣伝シ対日感情ニ悪影響ヲ及ホス虞アルヘシ但シ反国民党側トシテ考フレハ自派ノ天下ニ帰シタル後ニ於テ本問題ニ逢着スルヨリ寧ロ今日日本カ承認セハ之ヲ以テ国民政府攻撃ノ気勢ヲ高メ得ヘキニ付却テ好都合ナリ

三、曹汝霖陸宗輿等ニ於テハ満州既ニ新政権確立シ年号ヲモ改訂シ独立シ居ルモ民衆未タ半信半疑ノ状態ニ在ル処承認ヲ与フル事トナレハ全国民ヲシテ「領土的満州」ナル観念ヲ改メシムルニ至リ有能ノ士モ真剣ニ新国家ニ力ヲ尽ス者現ハレ一方日本ノ対満政策遂行上利便アルヘシト評シ居レリ

支ヨリ上海ヘ転報アリ度シ、支、北平、奉天、南京、長春ヘ転電セリ

119　昭和7年6月20日　在北平矢野参事官より斎藤外務大臣宛（電報）

汪兆銘等の来平用向に関する林文竜の内話について

北平　6月20日前発
本省　6月20日後着

第三〇九号（暗）

往電第三〇四号ニ関シ

汪精衛、羅文幹、宋子文等ノ来平用向ニ関シ廿日林文竜カ極秘ノ含ミニテ原田ニ為セル内話

一、今回汪精衛等ノ来平用務ハ連盟調査団トノ会見並ニ廬山会議ニテ決定セル所謂整箇ノ外交弁法ニ付学良ノ同意ヲ取付ケンカ為ニシテ汪等ハ十八、十九両日ニ亘リ調査団及学良ト会見シ又外交弁法ニ関シテハ学良モ之ニ同意セル模様ナリ

二、右内容ハ露国ト結ヒ日本ニ当ラントスルモノニテ即チ速ニ露国ト国交恢復ヲ為シ同時ニ攻守同盟ノ密約ヲ結ヒ之ニ北満ノ擾乱ヲ一任シ一方約ニ依リ十万ノ義勇軍ヲ送リ南満ヲ擾乱セントシ其方法ハ鉄道破壊ト日本人ノ集団地襲撃ニテ斯クシテ日本軍ヲ奔命ニ疲レシメ其間兵ヲ動カシ日本ヲ圧迫セントスル方策ナルカ如シ

三、露国ト国交恢復ノ暁ニハ必然的ニ其要求タル支那ニ於ケル共産党ノ活動ヲ容認スルコトトナル結果自然国民政府対共産軍トノ関係ニ変化ヲ齎ラシ全般ニ重大ナル局面ノ変転ヲ招来スル惧アリ洵ニ東亜ノ為危惧ニ堪ヘサルカ

現在ノ支那トシテハ之亦已ムヲ得サル処ナルヘシ

尚廿日本官トノ対談中羅ハ露支国交恢復ハ必スシモ露国共産党トノ握手ニ非ス等ト述ヘ対露問題カ同人北上ノ重要使命ナルヤニ思ハシメタリ

支、南京、奉天、天津、長春、哈爾賓ヘ転電セリ

120　昭和7年6月22日　在漢口坂根総領事より斎藤外務大臣宛（電報）

廬山会議の経過に関する楊揆一の内話について

漢口　6月22日後発
本省　6月22日後着

第四四二号（暗）

廬山[1]会議ニ出席シタル当地綏靖公署参議兼参謀署長徐承熙ハ本月十九日徐源泉、銭大鈞、蕭之楚等ト共ニ帰来セルカ（何成濬、夏斗寅ハ本廿一日帰任ノ筈）同人カ帰漢当時綏靖公署重要職員一同ヲ集メ説明シタル廬山会議ノ経過要領ナリトシテ楊揆一ノ内話セル諸点中参考ニ資スヘシト思料セラルル部分左ノ如シ、新聞発表見合サレ度シ

一、会議ハ本月十三日ヨリ十六日迄ニテ結了

二、汪精衛ノ報告

現在ノ外交状況ニ関シテハ上海ニ於ケル日支間ノ協定成立後何等新事件ノ発生ヲ見ス然レ共世界各国ハ最近ノ上海事件以来我中国ヲ軽視スル傾向アリ日本ハ揚子江ノ流域ニ対シ何等侵略ノ野心ヲ有セサルモ中国側ノ日貨抵制ニハ余程困リ居ルモノノ如ク之カ取締ヲ希望シ居レリ日本ハ東三省ニ対シテハ遮二無二所信ヲ断行セントシテ何等譲歩スルノ模様ナク将来ハ朝鮮併呑ノ手段ヲ応用シテ中国ヨリ東三省ヲ奪取セントシ先ツ満州国ヲ承認シ徐々ニ同国ノ消滅ヲ謀

ラントシツツアリ

(2)我中央政府ハ日本ノ満州ニ於ケル陰謀ヲ世界ニ暴露シ依テ以テ日本ノ侵略行為ヲ防遏スルノ方策ヲ講スルト共ニ一方露国ニ対シテハ速ニ国交ヲ回復シテ日人ノ満州ニ於ケル横行ヲ牽制シ他方共産党ノ活動緩和ニ付一段ノ努力ヲ払ハサルヘカラス其他円卓会議ノ開催及上海自由市ノ設定説等喧伝セラレツツアルモ之ニ対スル各国ノ意見ハ未タ一致シ居ラス我国モ亦本件ニ関シテハ現ニ熟慮中ナルヲ以テ苟モ我国ニ取リ不利ナルヘキ事実判明セハ直ニ反対ノ声明ヲ為スノ用意有リト

三、右ニ関連スル決議

(イ)各地ニ於ケル日貨ノ抵制及激烈ナル越軌的反日運動ハ之ヲ禁止シ重大事件ノ再発ヲ防止スル事

(ロ)東三省問題ニ関シテハ新聞其他ノ刊行物ヲ利用シ極力之ニ反抗スル事

(ハ)露国トノ国交回復ハ現ニ慎重審議中ナルモ未タ其時期ニ達セサルモノト認メラルルニ付当分現状ヲ維持スル事

(ニ)円卓会議開催及上海自由市設定説ニ関シテハ差当リ之ニ反対ノ公表ヲ避ケ各国ノ態度ヲ見極メタル上対策ヲ講スル事

四、(3)顧維鈞ノ報告

国際連盟調査団ノ東北地方（満州）ニ於ケル調査状況ハ中国側ニ採リ稍々不利ナルノ憾ナキニ非ス、之レ畢竟スルニ日本人カ各所ニ於テ悪宣伝ヲ為シタルト且一方日人ノ為無形ノ脅迫ヲ受ケツツアル東三省官民カ已ムヲ得ス日人及満州政府ニ対シ好感ヲ示シタルニ依ルモノト思料セラル、又日人ハ張学良ヲ極力排撃シツツアルヲ以テ学良ノ東三省復帰ハ到底不可能ナリ故ニ我中国政府カ東三省ヲ回収セントスルモ夫ハ至難ナル可シ一方調査団ノ態度差当リ不明ナルモ日本側ニ偏シ居ル懸念無キニ非ス万一調査団ノ報告ニシテ日本側ニ偏シ居ランカ来ル可キ連盟総会ニ於テ我国ハ惨敗スルコト明白ナリ、故ニ之カ対策ヲ講スルコトハ焦眉ノ急務ナリト信ス云々

五、右ニ関連スル決議

(イ)東三省ノ失地回収ニ関シテハ目下適当ノ方法無キニ依リ暫時静観的態度ヲ採リ重大事件ノ発生ヲ避クルコト

(ロ)若シ調査団カ日本側ニ偏頗ナル報告書ヲ作成シ連盟カ我方ニ対シ不公平ナル取扱ヲ為サハ断乎トシテ之ニ反対スヘク連盟総会ノ結果我方ニ思ハシカラサル時ハ我国ハ断乎トシテ之ヲ承認セス各国ニ代表ヲ派遣シ連絡ヲ取リテ以テ公正ナル解決ヲ要求スルコト

六、(4)何応欽、何成濬、劉耀揚（河南代表）、劉復（安徽代表）、熊式輝、劉鎮華、何鍵等ノ報告要旨綜合

現在河南、江西、湖南、湖北、安徽ノ五省ニ於ケル共産軍及共産党ハ既ニ相互ノ連絡成リ六月一日ヨリ大活動ヲ開始シ殊ニ八月一日ハ共産党ノ記念日ナルヲ以テ右五省ノ各市区ニ於テ大暴動ヲ起サント計画シ居レリ江西省ニ於テハ共産党ノ中央政府成立セリト聞ク、尚此ノ外右五省ニ於ケル雑色軍隊及細民、土匪等ハ殆ト共産党ニ投セシ結果其数三十七、八万ヲ算シ勢力極メテ大ナリ我中央政府ハ之ニ全力ヲ注ク可シト

七、右ニ関連スル決議

(イ)財政部ハ六、七ノ両月中ニ三千五百万元ヲ捻出シ江西ニ四百万元、湖北ニ三百万元、河南及安徽ニ各二百五十万元、湖南ニ二百万元ヲ割宛テ各剿匪軍ニ対シ六月末迄ニ其半額ヲ支給シ残額ヲ七月末迄ニ支給スルコト

(ロ)六月末迄ニ剿匪軍ヲ指定地点ニ到達セシメ七月一日ヨリ共産軍ノ総攻撃ヲ開始セシムルコト

(ハ)各省ニ於ケル軍事長官ハ軍事委員長（蔣介石）宛随時共産軍ノ消息及討伐経過ヲ具報スルト共ニ之ヲ関係各省軍事長官ニ密報スヘク剿匪軍ノ移動其他剿匪軍ノ作戦計画一切ハ軍事委員長ノ指揮ニ俟ツコト

往電第四三八号ノ通リ転電、暗送セリ

121　昭和7年6月24日　在北平矢野参事官より斎藤外務大臣宛（電報）

満州国の大連海関に対する干渉を宋子文非難について

北平　6月24日前発
本省　6月24日前着

第三二七号

(1)廿二日宋子文（廿三日来平セリ）ハ大連海関ニ関シ更ニ大要左ノ声明ヲ発セリ

租借地ハ支那領土ニシテ一八九八年ノ租借条約ニ依リテ作ラレタルモノニシテ当時ノ東三省政治組織トハ関係ナシ満州国ト称スル第三者ノ大連海関ニ対スル干渉ハ租借条約違反ト認ムヘク一九〇五年以来日本ニ対シ拘束力ヲ生セル一

八九八年七月六日ノ協定第五条ハ「支那ハ境界ニ於テ租借地ノ輸出入貨物ニ対シ課税スルヲ得」又「右海関ハ専ラ北京政府ノ管轄ニ属ス」ト規定セリ日本カ行政権ヲ握レル租借地ニ於テ干渉ニ依ル海関事務ノ妨碍アルトキハ之ニ対シ日本カ責任ヲ負フ可キハ日支協定ノ左ノ規定ニ依リ明カナリ

一、海関長ハ日本人タルヘシト雖総税務司ノ任命スヘキモノニテ総税務司ノ承認ナクシテハ新ニ海関長ヲ任命スルヲ得サルコト

二、日本ハ租借地ヨリ奥地ヘノ密輸出阻止ノ措置ヲ執ルヘク又支那ヨリ租借地ヘノ密輸出阻止ノ為支那ノ執ルヘキ措置ニ付援助スヘキコト

三、[2] 一九〇七年ノ協定ハ一八九八年七月六日ノ協定ヲ有効ニ存続セルカ後者ハ右海関ハ専ラ北京政府ノ管轄ニ属スルコト

右諸条項ハ明カニ総税務司ハ関税預金銀行及送金ニ関スル規則ヲ大連ニモ適用スルノ権利アル事ヲ定メ居レリ之等協定ノ無視ニ依ル結果ニ付テハ日本ハ全責任ヲ負ハサル可ラス

大連海関ニ対シ日本以外ノ列国ノ有スル特殊利害関係ハ日露戦争後二年間ノ大連海関設置遅延セル当時列国カ条約上権利ヲ有スル満州ニ於ケル機会均等主義破レ列国ハ日支両国ニ対シ速カニ同海関開始方厳重申入レタル事実ニ依リ明カナルヲ以テ支那政府ハ関係国ニ対スル義務ヲ顧念シ前記海関開始前ノ如キ状態ニ復セントスル現状ヲ重大視セサルヲ得ス

公使、南京、奉天、長春、関東長官ヘ転電セリ

122　昭和7年6月26日　在上海守屋書記官より斎藤外務大臣宛（電報）

満州海関問題解決に関する英総領事の斡旋状況について

北平　6月26日後発
本省　6月26日後着

第一〇一二号（暗、大至急、極秘）

一、二十六日午後一時岸本来訪極秘トシテ内報スル処ニ依レハ同日午前英国総領事「ブレナン」ハ宋子文ヲ訪問シ（本国政府ノ訓令ニ依ルモノノ如シ）満州海関問題解決ノ為支那側ト満州側トノ間ニ妥協方ヲ勧告シタル処宋ハ

直ニ「メーズ」ヲ招致シテ意見ヲ聴キ其結果午後宋自身「ブ」ヲ訪問シ支那側ニ於テ英国側ノ勧告ヲ容レ妥協スル意思アル旨ヲ回答スルコトトナレル趣ナリ（妥協案ノ内容ハ右会見ノ際決定ヲ見ルヘシ）

二、同時ニ「メーズ」ハ「ブ」（ニ対シ）本件妥協進行ヲ可能ナラシムル為満州側ニ於テ最後的手段ヲ執ルコトヲ暫ク差控フル様日本側ノ斡旋ヲ希望スル旨「イングラム」ヨリ日本公使館ニ申入方要求スル処アリ「ブ」ハ宋ト会見後右ノ次第直ニ「イ」ニ電報スル筈（右「メーズ」ノ行動モ宋ノ命令ニ依ルモノナリヤ明カナラス）

三、尚前記ノ諸情報ハ岸本カ「メ」ヨリ聞カサレタル後直ニ当方ニ報告セル処ナルカ右情報ヲ当方其他ノ日本側ニ洩ラスコトハ免職ヲ条件トシテ厳禁セラレ居ル処ナル趣ニ付右御含アリタシ

123　昭和7年6月26日　在南京上村総領事代理より斎藤外務大臣宛（電報）

満州国の海関接収に対する羅外交部長の抗議について

南京　6月26日後発
本省　6月26日後着

第四九〇号（暗）

[1] 本官発支宛電報

第四五九号

外交部長ヨリ在支公使宛二十五日付公文ヲ以テ大要左ノ通申越セリ

報告ニ依レハ東北偽組織ハ既ニ海関収入ノ奪取ヲ開始シ更ニ進ンテ大連海関ニ干渉シ同時ニ関税取扱銀行ヲシテ総税務司ニ対スル送金ヲ停止セシメタル処該銀行等ハ日本人勢力ノ威圧ヲ受ケ六月七日ヨリ何レモ右送金ヲ停止セル趣ナリ査スルニ安東、営口両海関税収ハ先ニ該監督ノ日本顧問ヨリ安東営口ノ中国銀行ニ対シ偽組織ノ公文ヲ以テ脅迫シ三月二十六日現在ノ預金及同日以降ノ分ヲ東三省官銀号ニ引渡サレタリ当時中国政府ハ東北偽組織ハ完全ニ貴国政府カ武力ヲ以テ成立セシメタルモノナルニ依リ前記関税ノ奪取行為ハ貴国政府ニ於テ責ニ任ス可キ次第三月卅一日付ヲ以テ貴公使ニ厳重抗議セル所右ニ対シ本件ハ満州ニ於ケル権力者ト支那間ノ関係ニシテ日本政府ニ於テ責任ヲ負フ可キモノニ非サル旨回答ニ接セリ然ルニ該偽組織カ東北ノ関

税ヲ奪取スルハ日本人顧問及職員ノ手ヲ借ルモノニシテ而カモ此等顧問及職員ハ確カニ貴国政府カ東北偽組織ヲ操縦スル為使用スルモノタルハ世間周知ノ事ニシテ貴国政府ノ責任問題回避ヲ許ササル所ナリ

(2) 最近又前記報告ノ通リ日本側ハ脅迫ニ依リ海関税収ノ総税務司向ケ送金ヲ中止セシメ更ニ大連海関ニ干渉セルカ抑々大連海関ハ大連租借地ニ在ルモ右租借地ノ主権ハ猶中国ニアリ且光緒三十三年ノ大連海関協定ニ依レハ大連海関ニ於ケル税則及取扱銀行ノ指定送金方法ノ確定等ハ其他ノ海関ト同様ニ処理スル事トナリ居レリ然ルニ貴国政府カ前記条約上ノ義務ヲ顧ミス一面ニ於テ東北偽組織ヲ指嗾シテ安東等ノ海関ニ干与セシメ他面公然ト大連海関日本人税務司ヲシテ税収ノ送金ヲ停止セシメ以テ東北及大連ニ於ケル中国関税主権ノ保存ヲ破壊シ内外債ノ担保品ニ影響ヲ与フル此ノ種ノ行動ハ明ニ連盟累次ノ決議及九国条約並其他関係条約ノ各規定ニ違反セルモノトス右ニ対シ貴国政府ハ完全ニ責任ヲ負フ可キモノニシテ中国政府ハ各海関ノ損害賠償要求ヲ留保スルト共ニ茲ニ厳重ナル抗議ヲ提出ス

原文郵送ス

大臣、北平、奉天、長春、関東長官ヘ転電セリ

124　昭和7年6月27日　在本邦江(華本)中国臨時代理公使より斎藤外務大臣宛

満州国の海関接収に抗議について

6月27日付

申字第一六六号

為照会事奉本国外交部六月二十五日電開東省偽組織完全為日本政府以武力所造成其攫奪安東営口等処関税之叛逆行為係仮手於日本顧問及職員此等人員均為日本政府用以操縦偽組織者大連海関位於大連租借地此項租借地其主権仍属諸中国且光緒三十三年中国総税務司与日本林権助公使訂有大連海関協定故総税務司対大連海関所定税則及存欵滙欵各弁法均与他海関同様弁理茲日本政府一面嗾使偽組織干与安東等処海関一面公然呼応更令日籍税務司停滙税欵藉以破壊中国在東省及大連関税主権之完整影響中国内外債之担保品此種挙動顕違国際連合会盟約国際連合会迭次決議九国公約及其関係条約各規定日本政府応負完全責任仰即照会日本政府厳重抗議並声明保留要求損失賠償之権等因相応照会

貴爵大臣即希

査照為荷須至照会者

右照会

日本帝国外務大臣子爵斎藤実閣下

中華民国臨時代理公使　江華本

中華民国二十一年六月二十七日

(訳　文)

申字第一六六号

以書翰啓上致候陳者本国外交部ヨリ六月二十五日電報ヲ接受致候処右ニ依レハ東省偽組織ハ全然日本政府カ武力ヲ以テ造成セル所ニシテ其ノ安東、営口等ノ地方ノ関税ヲ奪取セル叛逆行為ハ日本人顧問及職員ノ手ヲ藉リテ為サレタルモノナルカ之等ノ人員ハ何レモ日本政府カ偽組織ノ操縦ニ使用スルモノナリ大連海関ハ大連租借地ニ在ル処本租借地ハ其ノ主権尚中国ニ属スルノミナラス光緒三十三年中国総税務司ト林権助公使トノ間ニ大連海関協定ヲ訂結シ居レルヲ以テ総税務司ハ大連海関ニ関シ所定ノ税則及預金、送金ノ各弁法ハ均シク他海関ト同様処理スルモノナリ然ルニ日本政府ハ一面偽組織ヲ使嗾シテ安東等ノ地方ノ海関ニ干与シ一面公然呼応シ更ニ日本人税務司ヲシテ税金ノ送付ヲ停止セシメ以テ中国ノ東省及大連ニ於ケル関税主権ノ完整ヲ破壊シ中国内外債ノ担保物件ニ影響ヲ及ホシタリ此種ノ挙動ハ明カニ国際連盟規約、国際連盟屢次ノ決議、九国条約及其関係条約ノ各規定ニ違反スルモノニシテ日本政府ハ応ニ完全ニ其責任ヲ負フヘキナリ右日本政府ニ照会ノ上厳重抗議スルト共ニ損害賠償ヲ要求スルノ権利ヲ留保スルコトヲ声明セラレ度トノ趣ニ候条此段照会旁得貴意候

敬具

中華民国二十一年六月二十七日

中華民国臨時代理公使　江華本

日本帝国外務大臣子爵斎藤実閣下

125　昭和7年7月2日　在香港吉田総領事代理より斎藤外務大臣宛

香港における十九路軍蔡廷鍇の歓迎状況について

香港　7月2日付
本省　7月14日着

普通公第一九〇号

昭和七年七月二日

在香港
総領事代理領事　吉田丹一郎（印）

外務大臣子爵　斎藤　実殿

当地ニ於ケル蔡廷鍇歓迎状況報告ノ件

蔡廷鍇ハ二十七日午後「プレヂデント、ウイルソン」号ニテ着港セルカ此日市中各商社団体等ハ何レモ青天白日旗ヲ掲ケ所謂「凱旋将軍」ニ敬意ヲ表シ一方「我等民族ノ英雄」ヲ見ンモノト桟橋並沿道ニ押掛ケタル群衆ハ無慮数千ニ達シ宛然御祭騒ト異ナラヌ一時ノ盛況ヲ極メタリ

因ニ広東ヨリノ出迎者ハ劉紀文市長何犖（陳済棠代表）其他軍政界要人省市党部代表、抗日籌款会、学界抗日会代表等三十余名ニ上リ又当地各界領袖ハ青天白日旗ヲ掲ケタル四隻ノ「ランチ」ニ分乗歓迎スル所アリタリ

一、蔡カ問答ノ形式ヲ以テ漢字紙記者ニナセル談話要領左ノ通リ

余ノ南下ハ中央ノ命ヲ奉シ旁々閩省民衆ノ懇望モアリ専ラ福建方面ノ剿共ニ当ル為ニシテ陳済棠トモ協議ノ上最短期間内ニ入閩ノ予定ナリ而シテ軍費問題ニ付テハ未タ何等決定ヲ見サルモ当然中央ヨリ相当額ノ補給ヲ受クルモノト信シ居リ広東側ニ対シ剿共軍費問題ヲ折衝スルヤ否ヤ今ノトコロ未定ナリ蔣光鼐カ突如南下セル事実ニ付巷間ニ種々ノ臆測ヲナスモノアル処蔣ハ予テヨリ健康ヲ害シ乍ラ対日抗争ノ為休養ノ機会ヲ失シ居タルモノナルカ適々日支間ニ停戦協定ノ成立ヲ見功成リ名遂ケタルヲ幸ヒ一時各職ヲ辞シ療養シ居ルニ過キス之カ為閩綏靖主任ノ職務ハ暫時余ニ於テ代行スル積ナルカ右ハ別ニ正式任命ヲ受ケタル次第ニアラス曩ニ上海事件ニ当リ中央カ一兵一弾ヲモ補給セサリシ如ク伝ヘラレタル処当時中央トシテモ亦非常ニ困難ナル境地ニ置カレ居タル関係上已ムヲ得サリシモノト思料ス次ニ東北問題ハ寔ニ痛心ノ至ニテ余ハ手兵ヲ率ヒテ失地回復ニ向ヒ軍人トシテノ職責ヲ尽サント志シタルモ不幸国際関係ニ阻マレ之ヲ果シ得サリシハ余始メ部下全軍ノ最遺憾トスル所ナリ余ハ軍人ノ職責ヲ守レハ足リ敢テ政治問題ニ関与スルヲ欲セサルヲ以テ広東海軍問題ヲ調停スルノ意志ナシ尤モ此際無益ナル内戦ヲ熄ムル意味ニ於テ只管速ナル和平解決ヲ希フモノナリ云々

一、当地ニ於ケル蔡廷鍇歓迎宴会状況

二十七日午后五時ヨリ中華酒家ニ於テ各界合同歓迎宴開催セラレタルカ新聞関係者、実業界、精武会及東華医院各方面代表有力者百余名参集シ先ツ国旗及党旗ニ三鞠躬ノ礼ヲ行ヒ蔡及譚啓秀ニ敬礼セル後滬戦陣亡将士並殉難同胞ノ為ニ三分間ノ黙禱ヲナシ宴ニ移レルカ李主席ノ開会ノ辞ニ次テ主席団代表ヨリ歓迎ノ詞トシテ蔡将軍及十九路軍ノ上海ニ於ケル功績ヲ羅列称揚シ且蔡カ内戦反対ヲ公表シ毅然トシテ入閩剿共ニ従事セントスルヲ称ヘ蔡ハ独リ中国ノ英雄ニ止マラス世界的英雄ニシテ十九路軍コソ夥多中国軍隊ノ内真ニ救国救民ヲ計ル唯一ノ精鋭部隊ナリト激賞シタルニ対シ蔡ハ謝辞ヲ兼ネ簡単ニ上海事件ノ顚末ヲ報告シタル上「抗日滬戦勃発以来省郷並華僑ヨリ熱烈ナル支援ヲ受ケタルハ深ク感銘スル処ナルカ東三省失地ノ収復セラレサル現下ノ状勢ニ於テ抗日工作ハ未タ終了シタル次第ニ非ラサルヲ以テ此際民衆諸君ハ日本カ其ノ侵略政策ヲ放棄スルニ至ル迄飽迄奮闘努力セラレンコトヲ希望シテ已マス云々」ト結ヒ序テ何犖外二三来会者ノ演説アリ最後ニ各界一同ヨリ「民族長城」ノ銅鉄製盾（未製ニ付目録ノミ）ヲ又糖商総会ヨリ「衛国干城」ノ旗幟ヲ贈リ盛会裡ニ終宴セルカ翌二十八日ニハ華商総会ニ於テ特ニ歓迎茶会ヲ催シ歓待之レ努メタル趣ナリ

右何等御参考迄此段報告申進ス

本信写送付先　在中国公使　北平参事官　上海　広東　南京

126　昭和7年7月5日　斎藤外務大臣より在本邦江中国臨時代理公使宛

満州海関問題には無関係との日本の態度表明について

本省　7月5日付

亜一普通第三三号

満州海関問題支那側抗議回答ノ件

以書翰啓上致候陳者六月二十七日付貴翰申字第一六六号（一二四文書）ヲ以テ満州海関問題ニ付御申越相成関悉致候右書翰ニ於テ貴国側ハ現満州政権ヲ以テ帝国政府カ武力ヲ以テ造成シタルモノト為シ居ル処斯ル臆断カ全然事実ニ合セス我方ノ断シテ容認シ得サル所ナルハ本年三月十九日付亜一普通第二二号及四月二日付亜一普通第二四号各芳沢外務大臣発貴下宛

書翰ニ於テモ宣明セル通リニシテ帝国政府ハ右満州政権ノ成立ニ付何等関係セル所ナキノミナラス同政権ノ行動例ヘハ今次海関ニ関スル其ノ措置ノ如キニ付テモ寸毫モ責任ヲ云々セラルル筋合無ク若シ日本人ニシテ今次満州政権ノ行動ニ参与セルモノアリトスルモ右ハ全然帝国政府ト関係ナキ私人ノ行動ニ属シ帝国政府カ彼等ヲ同政権操縦ノ為メ使用シ居レリト為ス如キハ曲解ノ甚タシキモノト謂ハサルヘカラス更ニ貴国側ニ於テハ帝国政府カ大連海関ノ日本人税務司ヲシテ送金ヲ停止セシメタリト為シ居ルモ帝国政府ニ於テハ全然右様措置ヲ執リタル事実ナシ一方帝国政府ハ今次満州海関問題紛糾ニ付出来得ル限リ円満妥当ノ解決ヲ見ンコトヲ切望シ之カ為メ機宜ノ斡旋ヲ為シ居ル次第ニシテ本件ニ関スル帝国政府ノ立場ハ何等国際連盟ノ規約及決議及九国条約等ノ規定ニ違反スル所ナキハ勿論海関統一ノ維持外債担保ノ保全等列国共同ノ利益ニ付テモ充分考慮ヲ払ヘルモノナルニ付右様御了知相成度此段回答申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ貴下ニ向テ敬意ヲ表シ候　敬具

（**欄外注記**）上海来電第三一号ニ対シテハ同案ニテ回答差支ナキ旨回答ノコトトス

127　昭和7年7月8日　在北平矢野参事官より内田外務大臣宛（電報）

張学良の下野に関する仏国公使の内話について

北平　7月8日後発
本省　7月8日後着

第三六三号（暗、極秘）

往電第三六〇号ニ関シ

七日仏国公使ノ内話左ノ通

自分ノ聞込ニテハ過日汪精衛ハ来平ノ際学良ニ対シ下野ヲ勧告シタルモ学良ハ之ニ対シ何等諾否ヲ表明セサリシカ汪出発後居残レル宋子文ハ学良ニ対シ右様ノ事ハ心配ニ及ハス貴下ハ依然現地位ニ留マリ差支無シト慰撫シタル由ナルカ宋ノ右態度ハ蔣ノ意図ヲ承ケテ為シタルモノト思ハル云云

前電ノ通転電セリ

128　昭和7年7月8日　在天津桑島総領事より内田外務大臣宛（電報）

盧山会議における満州問題に関する孫潤宇の内話について

天津　7月8日後発
本省　7月8日後着

第二七〇号（暗）

孫潤宇ノ内話左ノ通

盧山会議ニ於テ東省問題ニ関シテハ㈠満州ニ於ケル一切ノ自治組織中対日関係ハ之ヲ承認スルモ㈡最高長官ノ任命ハ中央側ニ保留ス㈢若シ日本側ニ於テ之ヲ容認セサル場合ハ米、露ト三角同盟ヲ結ヒ東北ノ武力回収ニ出ツルノ方針ヲ決定シタルカ過般汪精衛等北上ノ節右㈢ノ場合学良ニ於テ部下ヲ率ヒ出関スル覚悟アリヤ若シ其決意ナキニ於テハ中央ヨリ選定スヘキ第三者ヲシテ関内東北軍ヲ指揮セシメ差支ナキヤヲ質シタルニ対シ学良ハ考慮ノ要アリトテ明答ヲ避ケタル由ナルカ学良トシテハ蔣介石ニ縋リ現地位ニ嚙リ付キ切パ詰マリタル場合ハ兵三万ヲ率ヒテ察哈爾ニ移ラントスル底意ヲ有スルヤニ察セラル云々

支、北平、奉天、南京ヘ転電セリ

129　昭和7年7月12日　在広東須磨総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

満州問題に関する唐紹儀との会談について

広東　7月12日後発
本省　7月13日後着

第四九五号（暗）

唐紹儀カ十二日本官トノ会談ニ於テ満州問題ニ関シ吐露シタル意見左ノ通

一、袁世凱カ張作霖ヲシテ東三省ヲ采配セシメタル時以来実ハ満州ノ関スル限リ独立セルモ同然、行々ハ朝鮮同様トナルヘキヲ恐レ居リ客年三月南京ニ於テ蔣介石ニ対シ張学良トノ関係ヲ律スル上ニ於テ大ニ考慮ノ要アルヘキヲ告ケ前記ノ意見ヲ述ヘ置キタル次第ナルカ自分以外ニ於テモ心有ル者ハ之ヲ肯定シ居ルモノト認メラルル処何シロ客年満州事件以来国際連盟ニ頼リ余リニ大向ヲ悦ハセ退引ナラサル事態ニ立至ラシメタル今日トナリテハ満州問題ニ関シ有効ノ事実ヲ事実トシテ認ムルノ議論ヲ為ス者無キ実情ナレハ満州問題ノ解決ハ相当ノ期間ヲ経タル後ニ非サレハ実現セラレサルカ如シ

二、十二日青島ヨリ来広セル某要人（朱慶瀾カ）カ南京ニ於テ得タル情報ニ依レハ汪精衛等ハ満州ヲ「オウトノマ

ス、ステイト」トシ日本ヲシテ支那ノ主権ヲ認メシムルノ「ライン」（往電第四七二号）ニテ日本ト交渉開始ノ方針ナリトノ事ナルカ右ハ結局張作霖時代ト同様ノ名義上ノ主権ヲ主張スル所以ナレハ更ニ問題ヲ紛糾セシムル以外意味無シ

三、何レニセヨ自分ノ見ル処ニ依レハ蔣介石若ハ其一党ニ於テ満州問題ヲ根幹トスル日支関係万般ノ処理ヲ進メ得サルハ先ツ明白ナリト言フヘク、サレハトテ今ノ処彼ニ代ルヘキ有力者モ見当ラス結局自分年来ノ主張タル支那合衆国ヲ形成シ清朝カ事績ヲ挙ケタル所謂協省ノ制度ニ依リ富裕ナル省カ近隣ノ貧乏省ヲ盛リ立テ例ヘハ広東カ広西ヲ率キテ夫々支那大連邦ノ完成ヲ見ルノ時ニ非サレハ道理有ル解決ハ至難ナルヘク旁現下日支間諸懸案ノ解決ハ余リ焦ラサル事得策ナルヘシ

四、懸案解決ノ方法トシテハ事実ニ直面スル勇気ヲ有スル双方政治家直接胸襟ヲ開キ接触スル外日本側ニ於テモ別ニ期待スル処有ラハ格別左モ無クハ大体円卓会議ノ如キハ効果決シテ大ナラサルヘシト思考ス

支、北平、奉天、南京ヘ転電セリ、支ヨリ上海ヘ転報アリタシ

130　昭和7年7月15日　在広東吉田総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

日本の対満方針に関する陳済棠の質疑について

広東　7月15日後発
本省　7月16日後着

第五〇〇号（暗）

須磨離任本官新任ノ挨拶ノ為十五日陳済棠ヲ往訪セル処済棠ハ雑談ノ後実ハ斯ル事ヲ伺フハ甚タ不躾乍ラ日本ニ於テハ満州問題ヲ如何ニ取扱ハルル所存ナリヤ御差支無キ限リ御伺致度シト述ヘタルニ付須磨ヨリ御質問ニ対シ公人ノ資格ヲ以テ御答ヘスル事能ハサルハ勿論ナルカ日本ニ於ケル新聞論調其他ヲ綜合スルニ日本ハ満州国ノ成立ヲ既成ノ事実ト認メ日支万般ノ問題ヲ取扱フ方針ナルヤニ存セラルト答ヘタル処済棠ハ然ラハ支那モ早晩之ヲ認メサル可カラサルヤト借問セルニ依リ須磨ヨリ斯クセサレハ結局解決困難ナル可シト答ヘタルニ済棠ハ無言ノ儘ナリシカ之ヲ頷キタルヤニ見受ケラレタリ常ニ政治問題ニ付沈黙スル済棠自身ノ口ヨリ直接本問題ニ触レタルハ極メテ意味深長ナルヤニ存セラルルニ付特ニ電報ス

支、北平、奉天、南京ヘ転電セリ、支ヨリ上海ヘ転報アリ度シ

131　昭和7年7月16日　在広東吉田総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

李宗仁の時局に関する談話について

広東　7月16日後発
本省　7月16日後着

第五〇一号（暗）
往電第五〇〇号ニ関シ[1]（一三〇文書）

本官同道十五日李宗仁ヲ往訪シ新任及離任ノ挨拶ヲ申述ヘタル上三人鼎座シ日支問題ニ関シ左ノ如キ忌憚ナキ談話ヲ交換セリ

一、先ツ須磨ヨリ客年来ノ好関係ヲ説キ起シテ満州関係ニ及ヒ同問題解決ニハ従来広東派カ唱ヘタル大亜細亜主義ノ精神ヲ体シ大局ヨリ政治的ニ解決スルヲ要スル次第ナル処日本ニ於ケル対満問題ノ空気ヲ察スルニ満州国ハ既成事実トシテ之ヲ認メ此ノ方針ノ下ニ日支諸般ノ問題ヲ根本的ニ解決セントスル気運濃厚ナルカ本問題ニ関シ貴下ニ何等カ御意見モアラハ承リ度ト述フ

二、李宗仁ハ全然一己ノ支那人トシテ申上クル次第ナルカ本問題ヲ大局上ノ見地ヨリ政治的ニ解決セサルヘカラストスル貴見ニ対シテハ全然同意ナルカ満州国ヲ既成ノ事実トシテ承認スルコトハ遺憾乍ラ承服シ難シ何トナレハ満州ハ支那ノ領土ノ一部ニシテ又同地住民ノ大部分ハ支那人ナレハ同地ノ領土権ヲ喪失スルコト支那人トシテ真ニ忍ヒ難キ処ナレハナリ

抑々満州事件ノ勃発ハ私見ヲ以テセハ張学良及蔣介石ノ愚策ニ基因ス之ヲ譬フルニ広大ナル土地ヲ有シ独力ヲ以テハ到底使用監督シ能ハサル程ナルモノアルニ対シ極メテ狭隘ナル土地ヲモ有セサルモノアリト仮定セヨ之レ極メテ不公平ナル現象ニシテ前者ハ後者ニ対シ相当ノ土地ヲ売却スルナリ無料若ハ有料貸与スルナリ兎ニ角公平ニ融通スルコト自然ノ道理ナルカ学良介石数年来ノ遣口ハ斯ノ如キ公平ナル共存ノ方法ヲ取ラサリシノミナラス今迄居住ヲ許シ居リタル者ヲモ追ヒ出スカ如キ方策ヲ取レリ之レ今回ノ誘因ナレハ本件解決ニ当リテハ此ノ点篤ト考慮ニ容レラルルコト

肝要ナリト述フ

三、[2] 須磨ヨリ根本的解決ヲ図ラントセハ先ツ双方民衆ノ感情緩和ニ努ムルコト急務ナルカ上海ニ於ケル十九路軍ノ抗日ト云ヒ尚各地ニ行ハルル「ボイコット」ト云ヒ局部的ノ反抗ハ大局上甚タ望マシカラサルカ両国為政者ハ先ツ此ノ点ニ留意セサルヘカラサルカ貴見如何ト問ヒタルニ李ハ御尤ノ儀ナルカ実ハ中央政府ニ於テ若シ確乎タル方針及力量ヲ有シタランニハ民衆ハ斯クモ盲動セサリシヤニ思考ス即チ民（衆）ノ所謂抗日運動ハ真ニ已ムヲ得サル愛国運動ニシテ貴国ノ如キ統制アリ勇気アル軍隊ヲ有シ確乎不抜ノ方針ヲ以テスル処アル国家ニ比シ僅カニ民衆ノ愛国運動等ニ依リ生命ヲ保チ居ル支那ノ現状ハ真ニ憂慮ニ堪ヘサルモノアリト答フ

四、尚李宗仁ハ日支両国ノ不和ハ世界ノ和平ニ一抹ノ暗影ヲ投シ居ルノミナラス両虎相闘ハハ一虎ハ死シ一虎ハ傷クノ譬ヘノ如ク双方ニトリ甚タ不利ナルカ茲ニ更ニ懸念ニ堪ヘサルハ満州事件以後人民ノ共産党ニ対スル観念著シク変化セル現象ナリ現在知識階級中支那ノ将来ニ関シ自力ヲ信セス又他力タル国際連盟ヲモ信頼セス棄鉢的ニ赤露ニ走ラントスルモノ鮮カラサルカ斯ル現象ハ啻ニ支那将来ヲ益々希望薄ノモノトスルノミナラス世界殊ニ日本ニ取リ容易ナラサル問題ナレハ日支ノ此ノ問題ヲ解決セントセハ此ノ点ヲモ特ニ考慮ニ容レラレ度シト述フ

五、終リニ臨ミ李ハ特ニ中国ニ於ケル軍人トシテ（第四集団軍総司令トシテノ意ナルヘシ）日本ノ陸軍ニ対シ貴官（須磨）御帰京ノ序ヲ以テ日本ノ陸軍ハ支那軍ヲシテ「ソヴィエット」ニ走ラシメス相共ニ「ソヴィエット」ヲ敵トシテ戦フ為協調的態度ヲ以テ自分ヲ指導セラルル様希望ストノ趣旨ノ「メッセージ」ヲ是非共御伝ヘ相成度シト述ヘタリ

奉天ヨリ長春ヘ転電アリタシ、支、北平、奉天、南京ヘ転電セリ

支ヨリ上海ヘ転報アリタシ

132 昭和7年7月16日 鈴木（貞一）中佐 李択一 会談要旨

満州事変解決に関する鈴木貞一中佐と李択一との面談要旨

（陸軍省軍務局）鈴木（貞）中佐ト李択一ト面談要旨

七、七、一六（陸軍省）

（岡田有民同席）

李　過般山岡軍務局長、小磯次官ト談合シタルモ先生トハ未タ談合セサル故本日岡田氏ニ依頼シ面談ヲ仰クコトトナレリ是非忌憚ナキ御意見拝聴致シ度シ

鈴木　如何ナルコトニ関シ談合スル考ナリヤ

李　満州事件ニ就テ日支直接交渉ノ道ナキヤニ関シテナリ

鈴木　左様ノ問題ナレハ極メテ単簡ナリ即チ貴国ハ日支直接交渉ヲ申出ツル前ニ先ツ連盟ニ対スル貴国ノ訴ヲ取リ下クルヲ要ス今日ノ大患ハ日支ノ間ニ信カ失ハレアリ此信ノ回復カ凡テノ根本ナリトス一方ニ於テ日支ノ直接交渉ヲ望ミツツ他方連盟ニ訴フルノ態度ニテハ此信ヲ回復スル能ハス

貴国今日迄ノ革命ノ失敗、不徹底ハ之レ凡テ他力本願ノ弊ニ堕セル結果ナリ真ニ貴国カ帝国ト共ニ東洋ノ共存共栄ヲ為サントセハ明日ヨリ直チニ自力本願ニ立テ直ルヲ要ス

貴国カ事ヲ連盟ニ訴ヘテ以来帝国ハ最早ヤ貴国ヲ相手トシアラス寧ロ英、米連盟等ヲ相手トシアリ而モ帝国ハ自己ノ正シサヲ信スルカ故ニ飽ク迄モ英、米等ノ蒙ヲ啓ク考ニテ進ミ来リ将来モ亦同様ナリ此考ハ上ハ宰相ヨリ下ハ小学校生徒ニ至ル迄同一ナリ貴君等カ数年前ノ日本ト今日ノ日本トヲ同一視スルナラハ夫レハ大ナル誤ナリ本屋ノ店頭ト本ノ売レ行キノ動向トヲ見ルヘシ

李　何ントカシテ満州ニ支那ノ宗主権ヲ認ムルコトハ出来サルヤ

鈴木　満州ニ宗主権ヲ認ムル認メヌハ日本ノ問題ニアラス日本ハ満州国ノ新ナル発生ヲ認メ政治ヲ行フ外策ナキナリ申ス迄モナク「政事ハ日々ニ新ナリ」テ満州国ヲ殺スコト能ハサルナリ此満州国ノ発生ハ単ニ昨年九月十八日ノ事変ノ結果ノミト見ルハ大ナル誤リナリ一ツノ政治現象ハ又一ツノ歴史的発展ナリ満州国ノ発生ハ少クモ日清戦争時代更ニ遡レハ清朝否ナ明代ヨリ今日ニ至ル時間的発展テアリ地理的政治的ニハ日、露、支三国関係否ナ世界的空間関係ノ発展ナリ故ニ今日満州国ノ独立ヲ否定スル能ハス貴国ハ満州ノ事ニ就テ騒クモ外蒙ノ問題ハ如何、西蔵、青海ノ問題ハ如何

李　日本各方面ノ意見カ果シテ君ノ如クナルヤ

鈴木　然リ之レハ日本民族ノ叫ヒナリ予ハ東洋全局ノ為メ君等カ日本ノ測定ヲ誤ルコトノ不可ナルヲ思フカ故ニ素直ニ語レリ外務及民間ニモ尋ヌヘシ

李　外務今日ノ状態ハ陸軍ノ右ニアルヲ知レリ

鈴木　貴国人ニシテ日本ニ在ルモノノ内日本ニ近ク大変化アル故静観スヘシト為スモノアルモ之レ大ナル誤算ナリ万一日本ニ変化アルモ夫ハ更生ノ変化ニテ日本ハ益々其強ヲ加フヘシ今日ノ日本ハ凡ユル点ニ於テ欧米ニ拮抗シ得ルノ実力ヲ有ス明治維新ノ時スラ英、仏、米三国ヲ向フニ廻ハシテ国運ヲ打開セリ今日ノ日本ハ昔日ノ日本ニアラス貴国人ハ蘇国又ハ英米人ノ宣伝ニ乗リ日本ヲ誤算シアリ

李　君ノ素直ナル御意見ハ二十四日発帰国ノ上黄郛、蔣介石、汪精衛等ニ伝フヘシ

鈴木　右三氏ハ共ニ予ノ旧友ナリ彼等ノ見タル過去ノ日本ヲ頭ニシテハ今日ノ日支問題ハ議スヘカラス貴国人ハ真ニ而シテ速ニ日本ノ存在ニヨリ亡国ヲ逃レアルコトニ徹スルヲ要ス此点三氏ニ伝フヘシ

要ハ速ニ事件ヲ国際連盟ヨリ取リ下クルコトニヨリ日本ニ対スル信ヲ回復スヘシ

133

昭和7年7月18日　※在香港桑折総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

満州問題および上海事件等に関する孫科との会談について

香港　7月18日後発
本省　7月18日後着

第一三八号（暗）

須磨ヨリ

先方ヨリ希望ノ次第モアリ十八日孫科ト秘密会見時局ニ関シ二時間ニ亘リ会談シタル処右中満州問題及上海事件等ニ関シ参考トナルヘキ点左ノ通リ

一、汪精衛其他ヨリ自分（孫）ニ対シ帰京方話出アリタルモ蔣介石ノ意図明白ヲ欠ク点多ク旁来香以来胡漢民唐紹儀等ヨリモ今暫ク自重方忠言モアリ九月中旬迄ハ当地ニ止マリ時局ノ推移ヲ静観シタキ心組ニテ自然今ノ処自分トシテ支那政府筋ノ意向ヲ述ヘ得サル地位ニ在ルモ支那各方面ノ空気ヨリ推論シ満州問題ハ日支両国ノ間ニ速急解決ヲ遂クルノ要アルヲ痛感ス蓋シ共産党ノ跋扈ハ予想外ニシテ（別電参照）此儘ニ推移センカ満州上海両事件未解決ニ依ル混乱状態ヲ利用シ遂ニハ共産党ノ天下カ現出シ将又露国自体ハ直接的ニ支那ヲ支配スルコトモアリ得ヘキカ故ナリ

二、満州問題ノ解決ヲ促進セン為学良ノ下野ヲ実現スルコトトナリ先般汪精衛羅文幹等ノ赴平セルモ之カ為ナリト察セラルル処学良下野セハ日本ハ満州問題ヲ合理的ニ解決スルノ用意アルヘキ次第ナリヤト問ヘルニ付須磨ヨリ「満州国成立ノ事実ハ何人ト雖之ヲ無視シ得サル次第ナルカ故ニ此点サヘ支那側ニ於テ充分認メラルルニ於テハ所謂満州問題ノ解決モ難事ニ非サルヘシ」ト私見トシテ答ヘタル処孫ハ満州ト外蒙トハ全然事態ヲ異ニシ前者ニハ多数漢民族ノ居住スルアリ支那中央政府ノ主権ニ服スヘキコト明白ナルカ故ニ満州国ノ成立ヲ支那カ正式ニ承認シ得サルハ勿論外蒙ニ於ケル露国ノ権力ニ対スル黙認ノ程度ニテ満州問題ヲ妥結スルコトモ覚束ナカルヘク将又欧州ニ於ケル「ロカルノ」安全保障協定ノ如キ事態ヲ日支間ニ契（約）スルコトモ亦至難ナルヘク旁満州問題解決ノ前途ハ暗澹タリト言ハサルヘカラス

三、上海事件ニ関シテハ日本側ニ於テ此上種々註文アルカ如ク連盟方面モ円卓会議等ノ提唱ヲ以テ之カ根本的解決ヲ目論ミツツアルカ如キモ共同租界仏租界又ハ租界外道路等ノ問題ノ如ク日支間ノミナラス関係列国共同問題ニ付更ニ協議ノ必要モアルヘキカ日支間ノ問題トシテハ上海事件ハ既ニ停戦協定ニ依リ決セリト言フヘク排日運動停止問題ノ如キモ組織的団体運動トシテハ既ニ絶滅シ居ルカ故ニ此上円卓会議等ニ依リ討論ヲ重ヌルモ漸ク鎮静シ来掛ケタル民心ヲ再ヒ激越ナラシムル以外ニ効果無カルヘク今後ハ上海南京方面ノ日支関係者ノ隔意ナキ折衝ヲ続ケ行ク外途ナカルヘシト思考ス

支、奉天ヘ転電セリ、支ヨリ南京、上海ヘ転報アリタシ、広東ヘ暗送セリ

134

昭和7年7月26日　在北平矢野参事官より内田外務大臣宛（電報）

張学良軍の熱河進入に対する天津軍の警告について

北平　7月26日後発
本省　7月26日後着

第三九三号（暗）
貴電第一五五号ニ関シ
廿六日午前天津軍参謀長（菊池門也）ヨリ湯爾和ニ対シ左ノ通リ張学良ニ伝達方口頭ニテ申入レタル処午後湯ヨリ申出テ学良ニ伝達セル旨通知アリタリ
公使館付武官不在ニ付小官ヨリ非公式ニ次ノコトヲ通告ス
北支ニアル貴軍ノ熱河進入ハ満州国ノ治安ヲ攪乱スルモノナリトノ見地ヨリ貴軍ノ熱河進入ニ対スル行動ニ関シ日本帝国ハ深甚ノ注意ヲ払ヒツツアリ貴軍ノ熱河進入ハ極メテ重大ナル結果ヲ招来スルモノト認ム
右張主席ニ伝ヘラレ度シ
支、南京、奉天、長春、天津、米、連盟ヘ転電セリ
連盟ヨリ土ヲ除ク在欧各大使ヘ転電アリ度シ

135　昭和7年7月27日　在南京上村総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

大連海関接収問題に関し宋財政部長強硬態度表明について

南京　7月27日後発
本省　7月28日前着

第五四〇号（暗、至急、極秘扱）
財[1]政部長宋子文ヨリ会見ヲ求メラレタルニ依リ廿七日本官宋ヲ往訪セル処宋ハ満州ノ税関カ所謂満州国ニ依リ強力ヲ以テ接収セラレタルコトハ日本ノ関知セサル所ナリトノ言訳モ通ルヘキカ大連ハ純然タル日本ノ勢力下ニ在リ而モ日支間ノ厳然タル条約ニ依リ大連税関ノ機能ヲ保障セラレ居ル次第ナルニ依リ若シ日本カ日支間ノ協定ノ条項ニ忠実ナラントスル決意アルニ於テハ満州国ハ大連海関ニ対シ指モ触ルルコト能ハサルコト明カナリ然ルニ日本ハ日支間ノ協定ヲ無視シ満州国側ヲシテ大連海関ヲ接収セシメタルノミナラス同地正金銀行ニ積立テ置キタル税関収入ノ送金ヲモ阻止スルノ措置ニ出テタリ右協定蹂躙ノ事実ハ日本カ如何ニ弁解スルモ何人モ納得セサルヘシ自分ハ今日迄何トカ穏健ナル手段ニ依リ之カ解決ヲ計ラントシ来レルカ最近各方面ヨリ政府ノ無能ヲ詰問攻撃スル声愈盛トナリタルニ鑑ミ政府部内ニ於テモ此際日本ノ遣方ニ対応スル為「ドラスティック、メジュア」ヲ取ルヘシトノ意見優勢トナレリ然レトモ自分ハ尚出来得ヘクムハ日本トノ談合ニ依リ円満ナル解決ヲ計リ度シト考ヘ貴官ヲ煩ハシタル次第ナリト前提シ

(一)[2]日本ハ速ニ岸本ノ任命ニ同意シ岸本以下ヲシテ大連海関ノ事務ヲ執ラシメ
(二)大連ノ正金ニ積立テ置ケル税収ヲ速ニ上海ニ送金セシムル様取計ハルルコト
ノ二項ヲ提議スル次第ニ付速ニ日本政府ニ電報シ日本側ノ同意ヲ取付ケラレ度キ旨申出テタリ依テ本官ハ宋部長カ出来ル丈ケ事ヲ円満ニ解決セントノ考ニテ飽迄我方ト接触協議セラルル精神ニハ日本政府モ之ヲ多トスヘク今後共右精神ニ依リ互ニ腹蔵無ク意見ノ交換ヲ行ヒ会談ヲ進ムルニ於テハ如何ナル難問題モ何トカ解決ノ途ヲ得ルコトト信ス
就テハ飽迄話合ニ依リ問題ノ解決ヲ計ル様努力セラレンコトヲ希望スト前置キシタル上進テ日本側モ大連税関ノ問題ニ付テハ円満解決ノ為ニ極力努力シ来リ又現ニ努力シツツアル次第ナリトテ従来ノ経緯ヲ説明シ日本カ満州側ノ大連税関接収ヲ拒絶セハ満州側ハ関東州ト満州国ノ国境ニ税関ヲ設ケ徴税ストノコトナルニ付斯クテハ日本ノ貿易ニ対スル重大ナル打撃トナリ極メテ困難ナル事態ヲ惹起スルコトトナルヘキニ付此ノ困難ナル事態ヲ予防スル為曩ニ南京政府及満州側ニ対シ妥協案ヲ提出セル次第ナリ従テ岸本ノ任命問題モ右妥協案ニ対スル話合ト関連シ居ルヲ以テ日本側ハ右話合ニ希望ヲ繋キ暫ク決定ヲ延ハシ居ルモノト思ハル又[3]大連ノ税関接収ノ税収積立金ニ対シテハ速ニ上海ニ送金スル様日本政府ニ於テ満州国政府ヲ説得中ナルカ自分ノ了解スル処ニ依レハ近ク送金スル運ヒトナルモノト思ハル
右ノ如ク日本政府ハ本件ノ円満ナル解決ニ極力努力シ居ル次第ナルヲ以テ貴部長ニ於カレテモ日本政府ノ右努力ニ協力シ円満ナル解決ニ進マレムコトヲ希望スト述ヘタル処宋ハ
(一)日本側ノ案ハ大連税関ヲ満州国ノ支配下ニ置クコトヲ前提トスルモノナルヲ以テ斯ル案ニ同意シ協定スルコトハ満州国ノ独立ヲ認ムル形トナルヲ以テ絶対ニ承認シ得ス日本側ハ動モスレハ閻錫山ノ天津税関接収時代ノ例ヲ挙クルモ閻錫山ハ当時中央政府ヲ乗取ラントシタルモノナリ然ルニ満州国ハ中央政府ヨリ分離独立セントスルモノニテ両者ノ間ニハ根本的相違アリ中央政府トシテハ地方ノ分離独立ハ絶対ニ容認シ得ス従テ満州国ノ独立ヲ認ムルカ如キ形式トナル如何ナル協定ヲモ為シ得サル次第ナリ
(二)満州国ハ日本ノ武力ノ下ニ辛ウシテ生存シ居ル次第ナル

ヲ以テ日本ニ重大ナル決意サヘアレハ満州国ハ飽迄日本ノ意向ニ反スル行動ヲ執ルモノトハ想像セラレス仮ニ一歩ヲ譲リ日本カ満州国ノ大連税関接収ヲ拒絶スルコトニ依リ日満間ニ何等紛糾ヲ生スルトモ右ハ日満間ニ於テ解決スヘキ事柄ニシテ之ヲ理由ニ日本ハ支那トノ間ニ締結セル協定ヲ蹂躙シ得ル筋合ニ非スト述ヘタルニ依リ

本官ハ斯ル問題ハ余リニ理窟ニ拘泥シテハ到底解決ノ途ヲ見出シ難シ依テ日本ハ今日迄実際的解決ノ方針ニテ進ミ来レル次第（ナル）カ英国側モ此実際的解決ノ方針ニ依リ「イングラム」氏ノ妥協案提出セラレタリ従テ之等解決案ノ「ライン」ニ依リ話ヲ進メ初メテ問題解決ノ方法ヲ発見シ得ル次第ナリト述ヘタルニ宋ハ日本案ト「イングラム」案ノ相違如何ト尋ネタルニ依リ本官之ヲ説明シタル処宋ハ「イングラム」案モ満州国ノ支配ヲ認ムル点ニ於テ日本案ト同様ナリ如何ナル案ニ依ルモ苟モ満州国ノ独立ヲ認ムルカ如キ「フォーミュラー」ハ絶対ニ受諾シ得ス従テ「イングラム」案ニ対シテモ南京政府ハ絶対ニ同意シ得サルコトヲ明カニシ大連ヲ含ム満州ノ一切ノ税関ヲ南京政府ノ支配下ニ置ク形式トシ五分税ノミヲ中央ニ送付シ其以外ノ「サープラス」ハ満州側ニ依リ強制的ニ差押ヘラレタリトノ建前ニテ満州側ニ抑留スルカ如キ案ナラハ南京政府ノ面目モ立ツ訳ナレハ差支ヘ無シト述ヘタリ依テ本官ハ口ヲ挟ミ五分税ノミノ送付ナラハ大体外債償還額ニ相当スル次第ニテ日本ノ妥協案ト収入ノ上ヨリセハ大差無キニ非スヤ金銭ノ問題トシテ実際的解決ヲ計ラントセラルルナラハ何トカ話合ノ方法アルヘシト試ミニ宋ノ気ヲ引キ見タル処宋ハ言下ニ「ノー」ト答ヘ自分ハ金銭ヨリモ主義ニ重キヲ置キ居ル次第ナルヲ以テ満州ノ政権ヲ認メストノ主義ニ抵触スルカ如キ如何ナル妥協案ニモ応スルコト能ハスト言ヒ切リタル上改メテ宋子文ノ案トシテ日本政府ニ対シ前記㈠(脱)ヲシテ大連税関ヲ接収セシムル案㈡五分税ノミヲ中央ニ送付セシムル案ノ二案ヲ日本政府ニ伝達シ至急日本側ノ意向ヲ徴セラレタシ既ニ説明セル通リ国内及政府部内ニ於テハ強硬論熾ニシテ自分トシテハ最早到底之ヲ制シ得ス且七月ニ於ケル税関収入ノ「デフィシット」ハ約百万両ニ上リ居ル実情ナルヲ以テ本件解決急速ニ実現シ得サル場合ニハ「ドラスティック、メジュアー」ヲ取ルノ已ム無キニ至ルヘシト付言セリ依テ本官ハ「ドラスティック、メジュアー」トハ如何ナル方法ナリヤト試問シタルニ宋ハ

㈠日本カ税関制度ノ統一ヲ破壊シタル為税収ニ不足ヲ生シタリトノ理由ヲ以テ一切ノ内外債ノ償還ヲ停止シ

㈡満州行及満州ヨリノ貨物ニ対シ或種ノ課税ヲ為シ

㈢日本カ支那トノ協定ヲ遵守セサル以上支那モ日本トノ条約ヲ遵守スル義務無キヲ以テ日支関税協定ニ拘束セラルルコト無ク日本品ニ対シ自由ニ輸入税ヲ課スルカ如キ方法

ヲ考慮シ居レリト答ヘタリ依テ本官ハ右ハ余リニ「ドラスティック」ニテ日支関係ヲ救ヒ難キ状態ニ導クモノナリ貴部長ノ如ク責任アリ将来アル政治家カ一時ノ昂奮ニ駆ラレ日支関係ノ大局ヲ誤ルカ如キコトハ貴部長ノ為ニモ遺憾ニ堪ヘス先程モ貴部長モ申サレタルカ如ク腹蔵無キ話合ニ依リ円満ナル解決ニ進ムコト日支ノ大局ヨリ見テ最モ肝要ナリトテ日本側ノ妥協案ニ付話ヲ戻スコトニ努メタルカ宋ハ頗ル昂奮シ居リ本件妥協ノ方法ハ只今述ヘタル自分提出ノ二案ノ何レカニ限ル外方法無ク不幸ニシテ何レノ案ニモ日本側ノ同意無ク両国ノ関係救ヒ難キ破目ニ陥ルモ右ハ日本ノ責任ニシテ事態已ムヲ得サル処ナリト言切リ此上話合ノ余地無シト認メタルニ付右ニテ一応話ヲ打切リタリ宋ハ本官ノ辞去ニ際シ前記宋ノ二案ヲ直ニ日本政府ニ報告シ其意見ヲ徴セラレ度ク自分ハ今夜赴滬スヘキニ付日本政府ノ回電アリ次第貴官ノ来滬ヲ願ヒ度シト繰返シ述ヘ居タリ

本日ノ会談ニ於テハ宋ハ終始頗ル昂奮ノ体ナリシカ右ハ最近財政不如意ノ折柄満州ノ海関問題ニテ一層財政上ノ打撃ヲ受ケ各方面ヨリ怨嗟ノ声ヲ放タレ稍々癇癪ヲ起シタルモノノ如クナルカ他方宋ノ所謂「ドラスティック、メジュアー」ニ付テハ幾分嚇カシノ部分モアルヘシトハ思ハルルモ南京政府部内ノ強硬意見並堀内書記官ト「メーズ」トノ話合ニモ顧ミ何トカ宋トノ話合ヲ続ケ置クコト日支関係ノ破綻ヲ防ク見地ヨリ頗ル肝要ナリト存セラルルニ付宋ニ対スル回答振リ至急御回電相成度シ

尚御回電接到ノ際宋上海ニ滞在中ノ節ハ堀内書記官ヨリ宋ニ伝達シ差支ヘ無シト思考ス為念

支、北平、奉天、長春、関東長官ヘ転電セリ

136　昭和7年7月27日　林関東庁警務局長より有田外務次官、堀切拓務次官他宛

天津、北平方面の近況に関する情報について

7月27日付
8月1日着

関機高支第一二五八〇号（秘）
昭和七年七月二十七日

関東庁警務局長

拓務次官殿
内閣書記官長殿
外務次官殿
内務省警保局長殿
指定庁府県長官殿

天津北平方面近情

営口営商日報

編輯主任　陳錫箴

営口憲兵分遣隊ノ依頼ニ依リ約三週間ニ亘リ天津、北平方面ヲ視察帰来シタル某支那人ノ談左ノ如シ

記

一、張学良軍隊ノ近況

張学良ノ現有軍隊ハ約二十万ト称シ北平及河南省内ニ駐屯シ実際戦闘力ヲ有スルモノハ僅カニ八万内外ニ過キス目下軍資金欠乏シ既ニ三ケ月ノ給料不払ノ状態ニ在リ毎月僅カノ給養品ヲ支給スルノミナルヲ以テ之等各地駐屯兵ハ時々兵変ヲ起シ且ツ逃亡兵続出ス学良ハ之カ為再三軍事会議ヲ招集シ対策ヲ講シタル結果増税ニヨリ軍資ノ不足ヲ補フコトニ決シ且ツ一ケ月三十五日トシ一ケ年ニ二ケ月分ノ給料ヲ節約スルコトトセリ

而シテ現在一ケ月ノ軍費大洋四百五十万元ヲ要スト云フ

二、北平、天津住民ノ学良ニ対スル態度

北平、天津一般ノ民衆ハ学良ノ無抵抗主義ニ基因シ東三省ヲ失ヒタルコトニ関シ頗ル不満ノ態度ヲ持シツツアリ又学良ノ淫蕩苟安生活ト暴戻ナル態度苛税ニ対シ極度ニ怨嗟ノ声ヲ放ツモノ多ク民心殆ト離レタリト称シ得ヘシ

三、北平、天津方面住民ノ国民党ニ対スル悪印象

東三省カ日本ノタメ占拠以来民衆ノ国民党ニ対スル信念ハ漸次薄弱悪化シツツアリ多数人ハ満州事変ヲ起シタル原因ハ国民党ノ提唱セル日本排斥日貨不買ヲ実行シタルカ故ニシテ現在斯ノ如キ状態ニ陥ラシメタル罪ハ一ニ国民党ニアリト称スルモノ多ク今ヤ民衆ノ国民党ニ対スル依頼心ハ全ク地ニ墜チ甚タシキハ三民主義ハ中国ヲ亡失スル主義ナリト痛罵スル批評家アリ又国民党ノ方策ハ共産党ト撰フ処ナシト称ス

四、平津住民ノ満州国ニ対スル感想

客秋東三省カ日本ニ占領セラレ今年三月満州国建設セラレタリト雖モ平津一般ノ民衆ハ之ヲ批評シテ第二ノ朝鮮ナリト称シアリ且各国未タ承認セス今後米、露、独ノ各国ハ満州問題ニ関シ干渉スヘキヲ以テ延テハ東洋戦争ヲ惹起スルニ至ルヘシト懸念スル者多シ

五、平津住民ノ米、露、対日開戦説信用

満州問題ニ関シ近ク米露両国共同シ日本ニ対抗開戦スルニ至ルヘシトノ宣伝伝ハリ平津住民ノ殆ト大部分ハ之ヲ信用シアリ

六、平津住民ノ失地回復ニ対スル感想

国民政府ハ東三省ヲ回収スル建議ハアレ共只表面ノミニシテ各軍ハ自己ノ地盤及利権得失ノミヲ懸念スルニ過キス決シテ一致団結ヲ為シ能ハス又中国陸軍ハ精鋭ナル武器ヲ有セス且ツ空海軍ハ毫モ実力ナシ日本ト戦争スルハ恰モ鶏卵ヲ以テ石ニ向フト同様ニシテ決シテ勝利ヲ得ヘキモノニ非ス学良又日本ト争闘スル力ナシ各方面ヨリ学良ニ失地ノ回収ヲ督促スルモ到底不可能ノコトナリ一ツニ静カニ国連ノ裁決ヲ待ツノミナリトノ感想ヲ懐クモノ大部分ナリ

七、平津住民ノ飛行機献納義捐金募集状況

先般上海事件ニ於テ日本カ勝利ヲ得タルハ空軍ノ力ニ依ルコト大ナリ依テ中国ハ将来ノ対日抵抗ヲ計ル上ニ於テ是非優秀ナル飛行機ヲ必要トス依テ義捐金ヲ募集シ空軍ノ充実ニ資セサルヘカラストノ声アリ主催者ハ天津ノ大公報、庸報、益世報、北平華北日報、晨報、世界日報等ノ各新聞社ナリ而シテ之カ裏面ニハ学良ノ煽動ト一部ノ者ノ利益主義ニ基クモノナリ

八、義勇軍ノ人員及指揮者

学良ハ部下ヲ使嗾シ義勇軍ヲ訓練シ以テ満州国ヲ攪乱スヘク総ユル方策ヲ講シアルカ其ノ数目ハ四十五路分ケ一路ニ五千人又ハ八千人アリ計二十万以上ト称ス総指揮者ハ黄顕声、副指揮者ハ熊飛ナリ但シ学良ハ少数ノ武器少額ノ給料ヲ為スニ過キス而シテ之等義勇軍ハ殆ト帰順セ

ル匪賊ヲ以テ充当ス

九、平津住民ノ対義勇軍輿論

北津住民ハ義勇軍ハ救国スヘク徹底的ニ日本ニ抵抗スルハ敬服ニ値スルモ而シ乍ラ東三省各地到ル処ニ於テ掠奪シ住民ヲ蹂躙スルハ甚タ不都合ナリトテ憤慨スルモノ多ク頗ル不評判ニ陥リ怨声街上ニ充ツルニ到ラントス

一〇、北平、天津方面ニ日本軍進出説ノ影響

最近平津地方ハ日本軍ノ進出説盛ニ流布セラレ人民ハ極度ニ不安状態ニ在リ一般民ハ張学良カ充分ナル準備アルモ只開戦ノ際ハ日本空軍ノ襲来ヲ受ケ多大ナル損害ヲ蒙ルハ相違ナク之カ為早クモ安全地帯ニ避難スル者続出セントシツツアリ

137　昭和7年8月1日　在北平矢野参事官より内田外務大臣宛（電報）

政務委員会全体大会の開会宣言について

北平　8月1日後発
本省　8月2日前着

第三九九号

往電第三九七号ニ関シ

政務委員会全体大会ハ卅一日開会左ノ宣言ヲ発セリ

本会ハ今回大会ヲ開キ華北ノ政治軍事ヲ検討セリ本会ノ職責ハ所属各省市行政ノ指導監督ニアル処九、一八事件以来共ニ国難ニ当リ内政ハ顧ミラレサリシ憾アリ然ルニ長期抵抗ハ内政改善ヲ根本義ト為スニ依リ本会及各省当局ハ何レモ親シク巡視又ハ人ヲ派シ地方ノ実情ヲ調査シ改廃ヲ要スヘキ事項ハ遅滞ナク実施シ以テ困民ヲ救ヒ建設ヲ計ルヲ要ス又軍事方面ノ責任者ハ国難期中軍政ヲ整理シ失地回復及国防ヲ固ムルヲ要シ右ハ全国軍人特ニ華北軍人ノ責任ニシテ宜シク中央ノ命令ヲ遵奉シ一致団結生死ヲ倶ニスヘシ今次本大会ハ此二大方針ノ切実実行ヲ誓ヒ社会人士ノ尽力共助ヲ請ヒ国難ヲ救ハンコトヲ宣言ス

尚北平各界四十余団体ハ三十日代表大会ヲ開キ左記ノ通決議シ即日学良ニ請願セリ

(一)軍事首領ハ責任アル将領士卒ヲ引具シ丁寧ナル儀式ヲ以テ対敵決心ヲ宣布スルコト(二)軍民合作シ全国一致ノ国難政府ヲ作リ長期ノ奮闘ニ当ルコト(三)華北最高各将領団結シ戦地司令部ヲ組織シ司令官ヲ任命シ軍隊ノ指揮統一ヲ計ルコト(四)上海戦争ニ参加セル高級将領ヲ北方軍隊内ニ配置シ訓

練ニ当ラシムルコト(五)中央政府ニ請願シ整個ノ対日計画ヲ樹立シ暫時剿匪ヲ防匪ニ改メ其兵力ヲ討日ニ向クルコト(六)関外義勇軍自衛軍等ト密接ナル連絡ヲ取リ其士気ヲ鼓舞スルコト

支、南京、広東、漢口、青島、済南、奉天、天津、長春ヘ転電セリ

138　昭和7年8月2日　在南京上村総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

大連海関接収問題収拾策に関する張福運との会談について

南京　8月2日後発
本省　8月3日前着

第五五〇号（暗、至急）

往電[1]第五三二号ニ関シ

往電第五四八号二日本官張福運ト会見ノ際張ハ大連ノ海関問題ニ言及シ自分ハ本件ニ付貴官ト交渉スル事ヲ宋部長ヨリ委任サレタル訳ニハ非ス従テ何等権限ヲ有スル次第ニハ非サルカ貴官モ御承知ノ通リ自分ハ従来日支間ノ難問題ヲ常ニ実際的見地ヨリ解決スル事ニ努力シ相当ノ成功ヲ収メ来レル次第ナルニ付本件ニ付テモ自分丈ケハ未タ妥協ヲ絶望視スルハ尚早ナリト信シ居レリ実ハ只今モ汪行政院長ニ対シ本件ノ解決ハ未タ絶望ニ非ス従テ此ノ際日本トノ関税協定ヲ破棄スルカ如キハ尚早ナリトノ意見ヲ開陳シ来レル処ナリトテ暗ニ政府方面ノ対日空気ヲ匂ハセタル上本件ニ付何トカ双方ノ受諾シ得可キ「フォーミューラ」ヲ考案シ得サルヤト切出シタリ依テ本官ハ斯ル難問題ノ解決ヲ計ランカ為ニハ互ニ双方ノ立場ヲ完全ニ了解スル事最モ肝要ナリ実ハ先週当地ニテ宋部長ト会談セル際ニモ自分ハ本件ニ関スル日本政府ノ立場ヲ充分ニ説明シタルカ部長ハ猶能ク了解セサリシ模様ナルニ付改メテ貴官ニ御話スル次第ナレハ部長ニハ貴官ヨリ更ニ補足説明アリ度シト前提シ満州国ノ大連ヲ含ム海関接収計画ニ対スル熱意、大連海関接収ヲ拒絶セハ満州国側ハ新タニ税関ヲ設置徴税スルノ計画ナリシ事、此ノ間ニ於ケル我方ノ斡旋及支那側ノ抜打的福本免職ニ至リシ経緯ヲ説明シ要[2]スルニ我方トシテハ支那トノ協定ヲ尊重スルノ意向アルハ勿論ナルカ然リトテ協定締結当時予想セサリシ事態ノ出現ニ依リ日本ト貿易上最密接ナル関係ニアル満州国トノ間ニ「トラブル」ヲ起シ経済上

多大ノ損失ヲ蒙ルコトモ考慮セサルヘカラサル立場ニ直面セル次第ナリ然ルニ貴方ニ於テハ満州国ハ如何ナルコトニテモ日本ノ命スル儘ニ動クモノナリト考ヘ居リ若ハ考ヘントシ居ルモノノ如クナルカ右ハ全然事実ニ非ス（トテ其ノ間ノ事ヲ説明シ）要スルニ我方ハ此ノ困難ナル事態ニ直面シ其ノ間ニ在リテ貴方ニモ亦我方ニモ何トカ都合良キ解決方法ヲ見出サント努力シ妥協案ヲモ提出セル次第ナリ依テ貴方カ本件ノ解決点ヲ見出サンカ為ニハ右日本ノ困難ナル立場ヲ充分ニ了解シ此ノ難点ト衝突セサルカ如キ案ヲ工夫サルルコト解決ノ第一歩ナリト信スト述ヘタル処張ハ貴方ノ立場ハ良ク了解セリ然レ共支那側ノ立場モ頗ル困難ナリ支那側トシテハ如何ナル場合ニ於テモ満州国ノ存在ヲ認ムルカ如キ形式ノ案ヲ受諾シ得ス従テ大連海関ハ従来通リ南京政府ノ統制ノ下ニ置カサルヘカラストロヲ挾ミタリ依テ本官ハ[3]「南京政府カ満州国ヲ認ムルカ如キ「フォーミュラ」ヲ避ケントシ居ル点ハ自分モ一応了解シ得ル処ナルカ其結果トシテ直ニ大連海関ヲ以前ノ状態ニ戻ス可シト結論スル理由モ無カルヘシ自分限リノ思付ヨリスレハ満州側ハ既ニ大連海関ヲ接収セリト考ヘ居ル此際大連海関ヲ再ヒ完全ニ南京側ノ支配下ニ引戻サントスルコトハ最モ「デリケイト」ナル問題ナルニ依リ実際的解決ノ見地ヨリスレハ此際ハ海関ノ「ステータス」ノ点ニハ触レス此ノ点ハ其ノ儘トシ置キ税収ノ点ニ付双方ノ面目ノ立ツカ如キ案ヲ立ツルコト賢明且実際的ナラスヤト思考ス」ト述ヘタルニ張ハ「実ハ南京側ノ最モ重キヲ置ク点ハ大連海関ヲ従来通リ南京政府ノ完全ナル統制ノ下ニ置クコトニ在リ従テ曩ニ宋部長ヨリ満州国側ニ内示セル妥協案モ其重点ハ大連海関ヲ一九〇七年ノ海関設置ニ関スル日支協定ニ従ヒ従来通リ「ファンクション」セシムル点ニアリ其他ノ点ハ殆ト問題トセサリシ次第ナリ日本ハ右協定ニ違反スル何等ノ理由モ無ク又南京政府カ日本ノ右協定違反ヲ黙視センカ外部ノ攻撃ニ対シ弁解スル辞無カルヘシ依テ日本ノ立場ハサルコト乍ラ支那側トシテハ如何ナル事アルモ大連海関ヲ一九〇七年ノ協定通リ元ノ状態ニ返スコトヲ以テ先決要件トスル次第ナリ自分[4]ハ貴官ニ対シ此ノ際決シテ「ブラッフ」等申ササルハ了解セラルルコトト思考スルカ正直ノ処南京側トシテハ如何ナル犠牲ヲ払フモ此ノ点丈ケハ一歩モ譲歩セサルモノト思フ例ヘハ曩ニ貴官カ説明セラレタル如ク満州

側ニ於テ大連ノ関税収入カ間接ニ満州攪乱ノ費用トナルカ故ニ南京側ニ送付シ得スト云フナラハ之ハ自分限リノ考ナルカ満州海関ノ税収中ヨリ外債支払ニ充当スル以外ノ「バランス」ハ或ル期間大連ノ銀行ニ預金シ置クカ如キコトモ考慮シ得サル訳ニハ非サルヘシ然レ共一九〇七年ノ協定ニ依ル海関ノ「ステータス」ヲ少シニテモ動カスカ如キ案ニハ到底同意シ得サルコトハ充分ニ御了解ヲ願度シト述ヘ其ノ後双方共同様ノ主張ヲ繰返シタルカ結局先方ノ態度余リニ強硬ニテ何等話合ヲ遂クルニ至ラサリシモ本官辞去ニ際シ張ハ本件ハ事重大ナルニ付此ノ上共妥協案ノ考究ニ努力願度旨繰返シ述ヘ居タリ

公使、北平、奉天、長春、関東庁ヘ転電セリ

139　昭和7年8月6日　内田外務大臣より在南京上村総領事代理宛（電報）

満州海関問題解決に関し宋財政部長に申入方訓令について

別　電　同日内田外務大臣より在南京上村総領事代理宛第五七号

右訓令

第五六号（暗、秘）　本省　8月6日発

満州海関問題ニ関シ宋子文ニ申入ノ件

貴電第五四〇号（一三五文書）ニ関シ

別電第五七号ノ趣旨ニ依リ宋部長其他ト懇談ヲ遂ケラレ結果回電アリ度

別電ト共ニ支、北平、奉天、長春、関東長官ニ転電セリ

冒頭貴電及長春来電第四六四号並本電及別電ヲ英、米ニ転電シ英ヲシテ土ヲ除ク在欧各大使ニ転電シ仏ヲシテ連盟ニ転報セシメタリ

（別　電）　本省　8月6日後6時10分発

第五七号（暗）

満州海関問題ニ関シ宋子文ニ申入ノ件（別電）

一、宋子文ノ第一案ハ大連税関ノミヲ南京側ニテ接収シ其ノ全収入ヲI・Gニ送付スル考案ナルカ如ク又第二案ハ大連ノミナラス其他ノ税関ヲモ南京側ノ支配下ニ置ク形式トシテ五分税ノミヲI・Gニ送付スル考案ナルカ如キ処元来満州国ニテハ満州関税収入中外債担保ニ該当スル

部分ヲ差引キタル残額ヲ入手シ得レハ税関ノ「ステータス」等ハ差当リ不問ニ付スル考ニテ本年三月以来南京側トノ妥結方ニ努メ来リタル次第ナルニ付其ノ当時南京側ニ妥結ノ誠意アリタラムニハ前記第二案ハ勿論第一案ニテモ何トカ互譲ニ依リ話合付クヘキ形勢ナリシニモ拘ラス南京側ニテ誠意アル態度ヲ示サス次テ六月満州国ニテ南京側トノ交渉ニシビレヲ切ラシ税関接収ヲ断行セムトスル気配アリタルヲ以テ我方ハ英国側トモ連絡シ妥結方ニ付種々尽力スル所アリタルモ南京側ニテハ之ニモ応セサリシ一方突如トシテ福本ヲ罷免セル為メ著シク事態ヲ悪化シ満州国ハ満州各地税関ノ接収ヲ実行シ又大連税関ノ満州国寝返ヲ見タル次第ニテ右ノ如キ状況迄突進ミタル今日ニ至リ宋子文カ今更ラ前記考案ヲ主張スルハ甚タ身勝手ノ申分ナルト共ニ従来南京側ノ執リ来レル態度カ不誠意極マルモノナルコトヲ示スモノナリ

二、次ニ宋子文ハ我方ニ於テ大連海関協定ヲ蹂躙シタル事実ハ何人ニモ明々白々タルカ如キ口吻ヲ弄シ居ルモ之亦一方的ノ主張ニシテ我方トシテハ現下大連ニ於ケル事態ハ閻錫山カ「シンプソン」ヲ使用シテ天津仏国租界内ノ海関ヲ接収セル場合ト何等異ル所ナシト考ヘ居ル次第ナルト共ニ（宋子文カ閻錫山ノ場合ハ中央政府ヲ乗取ラムトシタルモノナルニ付可ナルモ満州国ノ場合ハ分離独立セムトスルモノナルニ付不可ナリトナシ居ルカ如キハ何ノ意タルカヲ解スルニ苦シム所ニシテ南京側ノ立場ヨリスレハ閻錫山ノ場合モ満州国ノ場合モ地方政権カ南京側ノ意ニ反シテ其ノ勢力下ノ海関ヲ接収シタルモノト云フヘク其ノ間何等区別アル筈ナシト存ス）我方トシテハ本件支満間ノ紛争ノ結果例ヘハ南京側ニ忠実ナル税関ト満州国ニ忠実ナル税関トカ大連ニ於テ対立抗争スルカ如キ関東州ノ治安ヲ乱ス虞アル事態ノ発生又例ヘハ大連ヨリ出入スル同一貨物ニ対シ南京側ニ忠実ナル税関カ大連ニ於テ又満州国官憲カ関東州外ニテ徴税スルカ如キ関東州ノ繁栄ニ影響ヲ及ホス虞アル事態ノ発生ハ到底忍ヒ難キ所ナリ（宋子文ハ日満間ノ紛糾ハ日満間ニテ解決セハ可ナラスヤト述ヘ居ルモ右ハ自ラ主張スルニ急ニシテ他ノ立場ヲ考ヘサル甚タ我儘ノ態度ト云フヘシ）

三、要スルニ今日ノ状況ニ於テ南京側カ前記宋子文ノ第一案又ハ第二案其ノ儘ノ貫徹ヲ固執シテ譲ラサレハ形勢ハ一層悪化スル丈ニテ何等ノ実益ナク殊ニ宋子文ハ其ノ申出ニ係ル二件カ希望通リニ取運ハサル場合ニハ「ドラスチック、メヂュアー」ヲ執ルヘキ旨我方ニ対スル威嚇的言辞ヲ弄シ居ル処右申出中正金積立金送付ノ件ハ我方ノ尽力ニ依リ既ニ解決済ナルコト御承知ノ通リニ有之又大連税関ノ「ステータス」ニ関シテハ福本罷免事件ノ経緯モアリ此ノ際岸本任命問題ニ手ヲ触レムカ却テ益々事態ヲ紛糾セシムル危険アルヲ以テ何トカ別途ノ方法ニテ妥結セシムルコト事宜ニ適スト認メラレ我方ハ右趣旨ニテ出来得ル限リノ尽力ヲ惜マサル意向ナルモ万一支那側ニ於テ希望通リニ取運ハストテ「ドラスチック、メヂュアー」ヲ執ルカ如キコトアラムカ右ハ世人ノ諒解ヲ得ル所以ニ非ルノミナラス我方ニ於テモ自然相当ノ対抗手段ニ出テサルヲ得ス斯クテハ国民政府ハ極メテ不利ナル影響ヲ蒙ルコトトナルヘク旁々同政府トシテハ此ノ際冷静ナル考慮ノ下ニ実際的解決ヲ計ルコト最モ策ノ得タルモノナルヘシ然ルニ最近更ニ我方ヨリ満州国ニ対シ本件ニ付実際的妥結ヲ計ル様慫慂セル結果同国側ヨリ長春来電（二一二八九文書）第四六四号（支ヨリ貴方ニ転電ノ筈）ノ如キ案ヲ提出シ来レル処該案ハ南京側希望通リニ非ラストスルモ前記宋子文ノ第一案ノ趣旨ニ余程合致スルモノニテ結局南京側ハ満州関税収入中ノ外債担保ニ該当スル部分ヲ確実ニ入手スルト共ニ大連税関「ステータス」問題ニ付テモ一応面目ヲ立テ得ヘキ次第ナルニ付此ノ辺ニテ妥結スルコト適当ナルヘシ

140　昭和7年8月8日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

汪兆銘の張学良に対する辞職勧告に関する湯爾和の内話について

北平　8月8日後発
本省　8月8日後着

第四二六号（暗）

汪精衛ノ学良ニ対スル辞職勧告ハ当方面ニ多大ノ衝動ヲ与ヘ八日各紙ハ七日学良ハ政務委員会ヲ開キ今回自分ハ引責辞職スルニ付政務ハ北平政務委員会ニ軍事ハ北平軍事委員会ヲシテ分別弁理セシメ度キ旨ノ意思ヲ述ヘ尚此旨中央ニ電報セル趣報道シ居ル処右ニ関シ八日湯爾和カ原田ニ為セル内話左ノ通リ

一、七日学良ノ招キニ応シ会見シタル処学良ハ下野ヲ決心シ既ニ政府ニ対シ辞職電報ヲ発セル旨述ヘタルヲ以テ自分（湯）ハ之ニ賛成スルト共ニ仮令将来各方面ヨリ慰留セラルルモ之ニ耳ヲ藉スコト無ク下野敢行方ノ意見ヲ開陳シ置ケル次第ナルカ同人ノ意思モ極メテ鞏固ナリ尚右ニ関シ学良ヨリ蔣介石ノ意向問合セ中ナルカ蔣ヨリハ未タ何等返電無キ模様ナリ

二、学良下野後ノ善後措置ハ中央ノ決定ニ俟ツノ外無キモ多分軍事ハ中央軍事委員会ニテ又政務ハ中央政務委員会ニテ夫々後任者銓衡ノコトトナルヘク夫迄ハ前記当地政務及軍事委員会ニテ分別弁理ノ筈

三、河北ノ治安ニ付テハ綏靖公署ヨリ各軍ニ対シ安心シテ訓練シ流言ニ動カサルルコト無キ様訓令済ニテ目下何等動揺ノ色無ク従テ学良下野ハ治安ニ直接ノ影響ヲ及ホササルヘシ

支、南京、広東、漢口、青島、済南、天津、奉天、長春、吉林、哈爾賓ヘ転電セリ

141　昭和7年8月8日　在天津桑島総領事より内田外務大臣宛（電報）

張学良の汪兆銘あて弁駁電報について

天津　8月8日後発
本省　8月8日後着

第三一八号（暗）

往電第三一六号ニ関シ

学良ハ七日夜在平軍政委員ノ談合ヲ開キ協議ノ末同夜汪兆銘ニ対シ大要左ノ如ク回電シタル趣ナリ

余ハ九、一八事件発生後東北ヲ失ヒタル責ヲ負ヒ辞職シ以テ罪ヲ国人ニ謝スヘシ今後政務ハ北平政務委員会ニ、軍事ハ北平軍事整理委員会ニ引継キ夫々弁理セシメントス汪院長ハ全国行政ノ重任ニアレハ此国難時期ニ際シ個人ノ些々タル事故ニ依リ辞去スルコト無ク即時辞意ヲ翻シ引続キ其責ヲ尽サレンコトヲ望ム云々

尚財政問題ニ関シテハ北平政務委員会ノ名義ヲ以テ今次中央ニ対シ財政ノ補助ヲ請求シタルハ全ク熱河ノ財政困難ナル為委員会ノ決議ニ依リ二百万元ノ支出ヲ求メタルニ過キストテ弁駁電報ヲ汪ニ発シタル由

支、北平、奉天、長春、南京、済南、青島、漢口ヘ転電セリ

支ヨリ上海ヘ転報アリ度シ

142　昭和7年8月9日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

辞職問題に関する張学良との会談について

北平　8月9日後発
本省　8月10日前着

第四三八号（暗、至急極秘）

九日夕本官早速学良辞職ノ真相ヲ確ムル為往訪シタルニ本官ノ問ニ対スル学良ノ談話左ノ通

一、八日南京政府ニ対シ辞職電報ヲ発セルハ事実ナルカ右ハ軍事委員会及政治会議ニテ決定セラルルモノニテ許可シ来ルト否トハ自分ハ承知セス但シ右許可セラルル迄ハ一切ノ事ハ従前通責任ヲ以テ事ニ当ルニ付当方面ノ治安ノ如キモ何等心配セラルル要無シ下野後ハ官ニ在ルヨリモ日本人ト自由ニ話カ出来却テ好都合ト思フ

二、後任者ノ何人ナルヤハ自分ハ承知セス辞職後ノ身ノ振方ニ付テモ未タ何等考ヘ居ラス又所属軍隊ハ国家ノ軍隊ニ付個人的関係尠ク昔日ト異リ軍ノ長官タル自分ノ去就ハ簡単ニ行ハル可シト考ヘ居レリ

尚右会談中今回満州事変関係者タル本庄司令官ト自分カ同時ニ現職ヲ去ルハ奇シキ因縁ナリト語リ其態度ハ何等従来ト異ラス相当ニ落付ヲ見セ近ク一身上大ナル変化ヲ期待スル人ノ如キ感ヲ与ヘサリキ

支、南京、広東、漢口、青島、済南、天津、奉天、吉林、哈爾賓ヘ転電セリ

143　昭和7年8月9日　在南京上村総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

張学良の辞職承認方に関する汪兆銘の電報について

南京　8月9日後発
本省　8月9日後着

第五六四号

往電第五六三号ニ関シ

汪精衛ハ八日付ヲ以テ大要左ノ通リ電報越セル由

張主任ヨリ八日付ヲ以テ「自衛ノ為ニハ先ツ準備ヲ要シ準備ニハ金ヲ要ス自分ノ要求ハ職責上自衛ノ為必要ナルモノナリ」トノ返電アリタル処張ハ河北、熱河、察哈爾等ノ国家税収ハ一切之ヲ国庫ニ収メス税収官吏モ自ラ任命シ居リ

又税収ノ大部分ハ軍費ニ使用スルト称スレ共兵数幾何ニシテ兵士ハ毎月幾何ヲ支給サルルヤ中央ニ於テ干与スル権限ナシ右ハ河北、熱河ニ限ル訳ニ非サルモ張ノ治下ニアリテハ最モ甚シク其名ハ一家ナレ共其実ハ異国ニ等シ今日強敵ニ抵抗スル唯一ノ方法ハ各省軍人割拠ノ局面ヲ打破シ中央ヲシテ全国ノ財力、兵力ヲ集中セシムルニアリ今ヤ張ハ中央ニ対シ本職ヲ免シ後任任命方電請セリト称シ居レルニ付中央ハ直ニ其願ヲ許シ軍人割拠制打破ノ手初トセラレンコトヲ切望ス同時ニ中央ハ余ノ行政院長辞職許可セラレタシ尚汪ノ辞職ニ伴ヒ羅文幹ノ外顧孟余、陳樹人モ辞表ヲ提出セル趣ナリ

冒頭往電通リ転電セリ、奉天ヨリ長春、吉林ヘ転報アリ度シ

144　昭和7年8月9日　在天津桑島総領事より内田外務大臣宛（電報）

張学良の国民政府および蔣介石あて辞職電報について

天津　8月9日後発
本省　8月10日後着

第三二〇号（暗）
往電第三一八号ニ関シ

学良ハ八日付ヲ以テ国民政府軍事委員会及行政院ニ対シ学良ハ大罪ノ身ヲ以テ其職責ニ尽力シ来レルモ識力足ラス事願フ処ト違ヒ寸功無シ此国難事ニ当リ永ク現職ニ在リテ禄ヲ喰ムヲ恥ツ依テ北平綏靖主任ノ職ヲ即時罷免シ賢能ノ士ニ継任セラレン事ヲ請フ云々トノ辞職電ヲ発スルト共ニ蔣介石ニ対シ大要左ノ如キ電報ヲ発シタル趣ナリ

学良職ヲ奉シテ以来何等為ス処無ク累ヲ汪院長ニ及ホシタルハ慚懼ニ堪ヘス依テ中央ニ対シ現職ノ罷免方ヲ電請セルカ㈠河北ノ安危ハ極メテ重大ナルヲ以テ後継者ノ来任スル迄ハ責任ヲ以テ中央ノ北顧ノ憂ヲ軽減スヘク尽力スヘキモ速ニ大兵ヲ派シテ局面ヲ安定セラレン事ヲ望ム㈡軍事ニ付テハ地方治安ニ重大ナル関係有レハ軍事上最高ノ全責任者タル貴官ニ於テ一切ヲ指示セラレン事ヲ請フ㈢国家ノ最大危機ニ際シ余ハ飽迄冷静ニ処断シ敢テ一時的血気ニ出ツル者ニ非ス惟フニ内憂外患ハ総テ閣下ノ一身ニ統属ス故ニ余ハ国家ノ為将又貴官ノ為一身ヲ挙ケテ貴命ニ従フノミ

支、北平、奉天、長春、南京、済南、青島、漢口、広東へ

転電セリ支ヨリ上海へ転報アリタシ

145　昭和7年8月10日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

辞職問題に関する張学良の新聞記者団に対する談話について

北平　8月10日前発
本省　8月10日後着

第四三六号

八日夕学良ハ支那記者団ニ対シ汪精衛ノ六日付電信ニ対スル左記弁駁ヲ漏ラシタル上自分ハ八日政府ニ対シ辞職電報（別電第四三七号）ヲ送リタレハ此上ハ仮令何人カ慰留スルモ断然辞職スルトテ固キ決心ヲ示セル上後任者ハ多分韓復榘ナルヘク右ニ関シ在平中ノ蔣伯誠ハ八日蔣介石ノ電命ニ接シ済南ニ急行セル旨語レル由

一、東三省及錦州ノ失地問題ニ関シテハ自分ハ政府ノ官吏トシテ政府ノ如何ナル処分ニモ服従スヘキモ唯汪氏カ中央ノ政策遂行上余ノ辞職ヲ強要スルニハ異議ナキ能ハス又汪氏ハ十九路軍ヲ引合ニ出シ余ノ（不）抵抗ヲ責ムルモ同軍カ莫大ナル損失ヲ国家ニ与ヘタル上日本ニ和ヲ求メタルハ如何ナルモノカ自分カ日本ト一戦ヲ交ヘテ国民ノ喝采ヲ博スルハ容易ナルカ夫レカ為国民ノ生命財産ト多数ノ部下ヲ犠牲ニ供スルヲ忍ヒス軽挙盲動セサリシモノナルカ中央ノ命トアラハ喜ンテ命令ニ服スヘシ

二、財政問題ニ関シ従来中央ニ請求セルハ何レモ財政委員会ノ議ヲ経タル最少額ニシテ何レモ詳細ナル記録アリ自分ニ何等疾シキ所ナシ現ニ自分ハ金城銀行ニ預入セル一千万円ノ私財ヲ引出シ武器購入費ニ充テタル位ナリ又熱河要求ノ三百万元ニ関シテハ政務委員会ニテ討議ノ際長蘆塩ニ付加税ヲ課セントノ議出テタルカ自分ト李石曾ハ熱河ノ費用ハ河北省民ニ負担セシムルヲ不合理トナシタル結果中央ニ請求ノコトトナリ余ハ李石曾、胡若愚及熱河参謀長ニ依リ南下説明ノコトトナリ居タル次第ニテ汪氏ノ誤解ヲ迷惑トス

委細郵報

支、南京、漢口、広東、青島、済南、天津、奉天、吉林、哈爾賓、長春へ転電セリ

146　昭和7年8月11日　在広東吉田総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

張学良の辞職に関し西南執行部の中央執行委員会あて電報について

広東　8月11日後発
本省　8月11日後着

第五二四号（暗）
往電第五二三号（一四二文書）ニ関シ
西南執行部ハ十日付ヲ以テ中央執行委員会ニ対シ九、一八事件発生以来学良ヘ東北領土ヲ喪失シ三千万同胞ヲ水火ノ中ニ陥レ敵カ淞滬及平津ヲ窺ヒ熱河カ急ヲ告クルモ一兵ヲ出シ一矢ヲ放チタルヲ聞カス徒ニ数百万ノ軍費ヲ要求シテ中央ヲ脅セリ宜シク厳重ニ免職処罰シ国規ヲ維持シ全国民衆ノ抗日心ヲ振作スヘシ云々トノ電報ヲ発セル処右電報中ニハ汪精衛ノ行為ニ対シ何等言及シ居ラス何処迄モ独自ノ立場ヲ以テ臨ミ居レリ
支、北平、奉天、天津、南京、済南、青島、福州、漢口ヘ転電セリ
支ヨリ上海ヘ転報セリ

147　昭和7年8月12日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

張学良の辞職、汪張関係の決裂および張の後任問題等に関する林文竜の内話について

北平　8月12日前発
本省　8月12日後着

第四五一号（暗）
往電第四三八号（一四二文書）ニ関シ
十一日林文竜ノ内話
一、今回汪張関係破裂ハ曩ニ汪来平ノ際汪ヨリ学良ニ向テ東北及熱河問題ニ対シ其不抵抗ヲ詰リ速ニ兵ヲ率ヒ熱河ヲ救フト共ニ東北奪回方主張シタルニ対シ学良ハ自分ハ政府ノ命トアラハ敢テ水火ヲ辞スル者ニ非サルカ右ニハ莫大ナル費用ヲ要ストテ軍費及武器ヲ要求シテ逆襲セル為遂ニ物別レトナリタルニ起因シ居レリ
二、学良カ右ノ如キ態度ニ出テタルハ汪来平ニ先立チ学良ハ最高幹部ヲ召集シ東北奪回ニ関スル秘密会議ヲ開キタルカ自分（林）モ日本顧問トシテ列席シ予テ準備セル意見書ヲ提出シ極力抵抗ノ非ナルヲ主張シ強硬派ヲ抑ヘ学良モ之ニ賛成スル傾ニ有リタルカ為ナリ
三、学良下野問題ハ蔣トシテモ一存ヲ以テ決定スルヲ得ス中央全体ノ意向ヲ聴取ルヲ要スヘク或ハ第三次全体会議ヲ開催シ決定ノ事トナルヘキカ右ニハ尚相当ノ時日ヲ要スヘシ又後任ニ関シテハ何応欽、韓復榘等ノ説アルニ対シ早クモ東北軍旅長間ニハ反対ノ意見有リ又済南ニ赴ケル蔣伯誠ノ電報ニ依レハ韓ハ態度消極ナルヤノ由ナレハ旁急速ニ解決ヲ期スル事困難ナルヘキモ結局ハ万福麟等ニテ収マル事トナルヘキカ仮令後任ノ何人ナルニセヨ学良ノ扶植セル勢力ニハ歯カ立タス単ナル傀儡トシテ空位ヲ擁スル事トナルヘシ
四、学良下野ニ付側近ノ新派及軍費ノ支給ヲ受ケ居レル馮系軍隊将領等ハ引留運動中ナルカ学良自身トシテハ心身共ニ疲労シ居レル為辞職許可ヲ待ツテ直ニ下野外遊シタキ意ニ傾キ居レルカ如シ
五、満州義勇軍ノ元締ヲ一般ハ学良ノ如クニ思惟シ居レルモ実ハ単ナル連絡ヲ取レル程度ニテ其本部ハ上海華僑ニテ豊富ナル資金ヲ以テ大仕掛ニ之ヲ操縦シ居レリ
冒頭往電ノ通転電セリ、支ヨリ上海ヘ転報アリタシ

148　昭和7年8月12日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

張学良の辞職に関し同人と欧米記者等との会談について

北平　8月12日後発
本省　8月12日後着

第四五五号（暗、至急）
往電第四五一号（一四七文書）ニ関シ
十一日学良ハ欧米新聞記者（六名）ノミヲ茶会ニ招キタルカ右ノ内二名ヨリ詳細ノ内報ヲ得タルニ雑談中注意ス可キモノアルニ付電報ス
右席上河北ノ事態ハ四五日中ニ安定スト考フト声明セル後記者ノ質問ニ答ヘ辞職問題ニ付余ハ中央ノ命ニ従フノミ又部下軍隊ハ国家ノ軍隊ナルニ付昔日ト異リ何人カ指揮官トナルモ其ノ命ニ服従ス可シト語リ雑談ニ入リテ後中央カ許可セサル場合ニモ下野スル積リナリヤトノ記者ノ問ニ対シテハ不得要領ノ答ヲ為シ又軍ノ処置ニ関シテハ余ハ部下軍隊ヲ愛護スルノ義務アリ従テ之ニ相当ノ給与ヲ与ヘラル可キ事ヲ監視スルト同時ニ之ヲ分散セシムル如キ措置ヲ好マスト答ヘ河北ノ治安ニ関シ当面ノ時局ニ処スル方法トシテハ綏靖公署ヲ解散シ別様ノ組織ヲ作ラサル可カラスト語レ

ル趣ナリ

更ニ記者カ下野後ノ方針ニ付冗談的ニ質問セルニ対シ辞職ノ後ハ二三週間内ニ外遊シ度ク伊太利、土耳古、露西亜等新シキ政府ヲ有スル国ヲ視察ノ後「オックスフォード」若ハ「ケンブリッヂ」ニ於テ支那ニ利スル事アル可キ学問ヲ研究シ更ニ米国ニ至リ商工業発展ノ状況ヲ視察シ度シト考ヘ居リ大体三年乃至五年ノ計画ナリト云ヘル趣ナリ

尚右終了後「ドナルド」ヨリ右会見談ハ京津乃至北支ニ於テハ地方治安ノ動揺ヲ来ス虞アルニ付発表セサル様注意セル由

右会見ニ関シ当地UPハ長文ノ電報ヲ発シタルカ其ノ要領当地発電済ノ通ニ付略ス只UPノ通信員ハ支那ニ経験少キ為カ他ノ記者ト重点ノ置キ処ヲ異ニシ居レルカ如シ為念前電ノ通リ転電セリ、公使ヨリ上海ニ転報アリ度シ

149　昭和7年8月15日　在上海村井総領事より内田外務大臣宛（電報）

汪兆銘辞職に伴なう蔣介石、張学良等の関係について

上海　8月15日後発　本省　8月15日後着

第九一九号（暗）

(1)汪精衛辞職通電ハ遂ニ張学良ノ下野表明トナリ時局ノ変化予想セラレシニ拘ラス既ニ（脱）実ハ汪ニ対スル各方面ノ盛ナル引留運動（十四日支那紙ハ蔣自ラ来滬慰留スヘシト報シ居レリ）ト張ノ下野ニ対スル種々ナル揣摩臆測其間ニ於ケル各派策士ノ宣伝戦ト暗中飛躍裡ニ経過シ今ニ何等具体的展開ヲ示サス一部ニハ本問題解決ノ為三中全会ヲ繰上ケ招集ノ必要サヘ説カルルニ至リ人ヲシテ其ノ帰趨ニ迷ハシムルモノアル処汪、張ノ進退並ニ蔣介石ノ意図ヲ忖度シ中央政局ノ将来ヲ考察スルニ大体左ノ通

一、汪ノ進退ニ付其ノ辞職ノ原因ニ対スル見解ノ相違ニ依リ二説アリ

(イ)復職説ヲ為ス者ハ辞職ノ原因ヲ(一)財政的行詰リ(二)張ノ下野ニ依リ北方ニ於ケル蔣ノ勢力ニ打撃ヲ加ヘ反蔣軍閥ニ蹶起ノ機会ヲ作ルニアリト為スモノニシテ例ヘハ汪年来ノ主張ト称セラルル阿片公売等ニ依リ財政難打開ノ見込付キ張ノ下野実現セハ必ス復職スヘシト為シ

(ロ)復職説ヲ絶望視スルモノハ辞職ノ原因ヲ(一)蔣ノ「ファッショ」運動ニ依ル身辺ノ不安(二)熱河問題ニ対スル責任回避ノ点ニ重キヲ置クモノニシテ最近陳果夫兄弟等ノ「ファッショ」急進論者勝ヲ制シタリトノ情報モアリ又熱河問題モ帰結自ラ明カナルニ汪トシテ好ンテ困難ナル地位ニ身ヲ置ク筈ナシト見汪カ各方面ノ熱心ナル慰留ヲモ退ケ其ノ居所サヘ晦シ居ルハ之カ証左ナリト為シ居レリ

而シテ解決ノ遷延スルニ従ヒ一般ハ復職絶望説ニ傾キ行政院長後任ニハ蔣意中ノ人トシテ于右任ノ呼声高キ処只茲ニ留意ス可キハ汪今次ノ辞職カ蔣トノ勢力争ニ於ケル敗北ヲ民衆ノ利用ニ依リ政府部内ニ自己ノ地位ヲ再建セン為ノ芝居ニ他ナラサル事ナリ従テ既ニ大衆ノ怨府タル張ヲ槍玉ニ挙ケ其ノ下野ヲ強要シタル結果全国的同情ヲ博シ近来兎角振ハサリシ人気ヲ稍々回復シ兼ネテ蔣ノ北支ニ於ケル勢力ニ痛撃ヲ与ヘ得タル今日汪トシテハ敢ヘテ辞意ヲ固執スル理由無ク況ヤ一度下野センカ復活困難ニシテ従テ蔣ノ独裁ニ勢ヲ加フルノ結果トナル虞アリ寧ロ虎穴ニ虎児ヲ得可ク敢然復職シテ勢力輓回ヲ計ルヲ得策トス可ク只彼カ辞意ヲ翻ヘササルハ何等有利ナル条件ノ出ツルヲ待チ居ルモノニシテ曩ニ汪カ辞意ヲ申出テ乍ラ党員トシテ党務ニ尽瘁シ度キ旨付記シ居ルハ或ル時機ニ至ラハ中央復活ノ余裕ヲ残シ居ルモノト見ルヲ得可シ又(2)蔣トシテモ其ノ「ファッシスティ」ノ基礎未タ堅カラス況ンヤ大敵共匪ニ直面シ南北諸軍閥亦反蔣ニ動カントシ加之熱河兵（脱）急ヲ告ケ連盟調査員未タ北平ニ在ル事情ノ下ニ於テ無暗ナル政敵駆逐ニ依リ内訌ヲ繁カラシメ延イテハ全国民党員ヲ敵ニ廻スハ如何ニモ時宜ヲ得タルモノニ非ス蔣ニシテ這間ノ消息ヲ解セサルノ理無ク此ノ間ノ事情ヨリシテ蔣汪間疎通ノ途ハ猶アリトス可ク行政院長トシテ復職望無シトスルモ結局政治上責任ノ衝ヲ避ケテ党務ヲ主宰スル地位ニ復活スル事無キヲ保セス

二、張学良ノ下野ハ一般ニ時期ノ問題ト目セラレツツアリタルモノニテ汪之カ口火ヲ切リシノミ蔣カ「ファッショ」転向以来其ノ親日政策遂行上日本ノ敵視スル張学良ノ存在ハ可ナリニ厄介ナリシハ想像ニ難カラス只蔣カ従来張擁護ノ態度ヲ捨テ得サリシハ張無キ後ノ北方ノ変局ヲ恐

レシノミ此ノ事情ハ今猶存ス之レ張ノ下野表明ニ対シテモ未タ其ノ意思ヲ明ラカニセス又或ハ蔣伯誠ヲ韓復榘ノ許ニ派シ或ハ北上中ノ張群ヲシテ各方面ニ斡旋連絡セシメツツアル所以ナリ張ノ下野ハ蔣ノ久シク待望セル処従テ北方治安維持ノ方策（差当リ北支ノ動揺ヲ最小限度ニ止ムル事ハ蔣ノ欲スル処ニシテ此ノ必要ヨリ張ノ反感ヲ避ケル為其ノ実力保存ヲ許ス可シ）付クノ日ハ張ノ下野実現ノ時ト見ラル北平綏靖公署撤銷セラレ軍事委員会分会設ケラル可シトノ説及蔣カ張ノ下野ヲ許可セリト語レル蔣伯誠ノ談話ニ見ルニ張下野ノ実現モ近キカ

三、之ヲ要スルニ中央政局今後ノ展開ハ(イ)汪、張共ニ退クカ(ロ)汪留マリ張退クノ二ツノ場合ニ依リ決定セラル可キ処（張留マリテ汪退ク場合及汪、張共ニ留マル場合ハ目下ノ処想像セラレス）(イ)ノ場合ハ蔣ノ独裁ハ急速度ノ進展ヲ見中央モ根本的改造サルルト同時ニ蔣ハ共匪トノ対抗上其ノ「ファッショ」外交政策ニ基キ可ナリ親日的転向ヲ示スニ至ル可ク(ロ)ノ場合ハ政局ハ一時彌縫サレ大体現状維持ニテ進マンモ裏面ニ於ケル汪蔣ノ抗争ハ一層深刻化シ両者ノ正面衝突、換言スレハ蔣ノ汪ニ対スル「クーデター」カ将来ニ約束サルルト共ニ汪カ対日不抵抗ノ廉ヲ以テ張ヲ難詰セル手前満州問題殊ニ熱河問題ニ対シテ（勿論対内政策上）何等具体的表示ヲ為スノ必要ニ迫ラレ中日関係ハ或ハ蔣ノ意ニ反シテ幾分悪化ス可キニアラサルカ

北平、奉天、漢口、天津、青島、済南、南京、広東、福州へ転電セリ

支へ転報セリ

150　昭和7年8月18日　※在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

張学良辞職に関する在北平要人との会見および日中国交調整に関する意見について

北平　8月18日後発
本省　8月18日後着

第四八二号（暗、極秘）
伊藤（述史）ヨリ

本官来平以来張群、商震、湯爾和、オウヘイホウ（汪栄宝カ）、王克敏、周大文、周作民其ノ他二三要人ト会見セルカ右ニ依リ得タル印象左ニ電報ス

一、学良ノ下野ハ元々蔣カ日本トノ交渉ヲ有利ニ導ヒカンカ為ニ仕組ミタル芝居ニ過キサレハ大局ニ齎ス影響案外軽微ナルカ如ク即チ

(イ)北平綏靖公署撤廃セラレ之ニ代フルニ軍事委員会分会ノ成立ヲ見タルコト(ロ)蔣派及各将領ノ委員会加入(ハ)学良ハ韓復榘、石友三、宋哲元、商震等ノ馮系ト結ヒテ閻錫山ニ備ヘ自己直系ノ軍隊ハ之ヲ平津地方ニ集中シテ実力ヲ保存シ以テ他日ニ備ヘントシツツアルコト等ニテ一先ツ局面ノ落着ヲ見セタル上学良外遊ノ段取トナルモノノ如シ

二、右学良ノ下野ヲ一転機トシテ日支関係ハ漸次常道ニ復スルモノトシテ一般ハ大ナル期待ヲ懸ケ居ル一方連盟ニ対シテハ昔日ノ依頼心ナク中ニハ寿府ニ於ケル両国代表ノ極端ナル論争ニ依リ日支関係ヲ此ノ上悪化セシムル事ヲ憂慮シ何トカ方法ヲ設ケ之カ緩和ヲ計ラン事ヲ主張セル者スラアルハ注目ニ値ス

三、共匪ハ上海ヲ中継トシテ蘇連邦ト連絡シ居ルハ事実ナルカ如ク其ノ討伐ハ十分ノ七方成功ノ可能性アリトテ希望ヲ繋キ居ル者アルモ多クハ悲観論ニテ蔣直系ノ張群スラ右ニハ尚数箇月ヲ要シ却々困難ナル旨洩シ居タルニ見テ其ノ容易ナラサル事業ナルハ蓋シ想像ニ難カラス従テ右ニ全力ヲ傾倒シ居レル蔣トシテハ北方ノ不安定ヲ極力避ケントスルハ自然ノ理数ナリ

四、之ヲ要スルニ政局ハ表面複雑セルカ如キモ諸般ノ状態ヨリ見テ恐ラク前記ノ如ク一先ツ落着シ突発的事故ナキ限リ学良ノ外遊モ実現ノ模様ナル処支那側ニハ此ノ機会ニ日本トノ間ニ何トカ話ヲ進メ此ノ上日支関係ノ悪化ヲ防キ度キ意向多分ニ之アルニ付此ノ際我方ニ於テモ機ヲ逸セス何等カノ切掛ニ開談スルコト時宜ニ適スルヤニ思料セラル

支、南京、漢口、広東、天津、奉天、長春へ転電セリ

151　昭和7年8月19日　在南京上村総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

武藤大使任命に関する羅外交部長の抗議声明について

南京　8月19日後発
本省　8月19日後着

第五八〇号

武藤全権派遣ニ関シ羅外交部長（羅文幹）ハ十八日ノ新聞ニ大要左ノ如キ声明書ヲ発表セリ

日本政府ハ支那政府ノ抗議及世界輿論ヲ顧ミス敢然武藤ヲ満州特命全権大使ニ任命シ且之ヲ正式ニ連盟ニ通告セルカ右ハ明カニ正式承認ノ手始メニシテ以テ併呑ノ最終目的ヲ達セントスルモノナリ而モ日本ハ世界ノ耳目ヲ蔽ハントシ連盟ニ対シ武藤ノ満州ニ赴クハ決シテ普通ノ大使ニアラス且国書ノ捧呈モナサス日本ノ領事館ヲ監督スルモノナリト称シ居レリ抑々満州国ハ日本ノ一手製造セル傀儡ナルカ自ラ製造セル傀儡ニ対シ大使ヲ派遣スルコトヲ以テ普通ノ意味ノ大使ニ非ストナスモ信セラル可キヤ其国書捧呈ノ要無シト言フハ当然ノコトナリ又武藤ノ派遣ハ日本領事ノ監督ノ為ナリト言フモ若シ日本カ満州国ノ独立ヲ承認セサルモノナラハ東三省ニ於ケル日本領事ノ監督ハ当然新任有吉公使ノ為ス可キモノナリ日本カ東北ヲ侵略スルニ当リ外交家ハ甘言ヲ以テ世ヲ欺ク一方軍事当局ハ満州大使ノ派遣ヲ以テ事実上ノ承認ナリトシ正式承認ハ時機ノ熟スルヲ待ツテ実行ス可シト再三声明セリ世界各国ハ日本ノ満州承認ニ対シ之ヲ正当ナリトシテ黙認セント欲スルモノナラハ夫迄ナルモ左モ無クハ満州大使ノ派遣ハ看過ス可キニ非ス

委細公信

奉天ヨリ長春ニ転電請フ支、北平、奉天、長春ヘ転電セリ

152　昭和7年8月19日　在漢口坂根総領事より内田外務大臣宛（電報）

張学良の辞職に関する蔣介石の態度について

漢口　8月19日後発
本省　8月20日後着

第五六一号（暗）

今回[1]北平軍事委員会分会ヲ設ケテ北方軍事ヲ処理シ分会委員長ハ蔣介石ノ兼任トスル事トナリタルニ対シ殆ント入レ違ヒニ学良系五十七将領ノ連名通電アリテ汪精衛カ中央常務委員トシテ留任シテ依然枢機ニ参与スル事ノ片手落ナルヲ難シ学良ト進退ヲ共ニスヘシトノ威嚇的態度ヲ示スニ至ル就中栄臻、万福麟、宋哲元等ノ如キハ蔣介石、張学良間ノ此レ迄ノ了解ヲ楯ニ取リ蔣カ学良ヲ見殺シニセントスルハ以テノ外ナリトシ蔣介石代表ヲ北方ヨリ駆逐スヘシトノ過激ナル言辞スラ弄スルニ至レル結果蔣ハ昨十八日ニ至リ張群其他ノ代表ヲシテ北平分会ニハ委員長ヲ置カス常務委員制トシ蔣介石、張学良、韓復榘、閻錫山、何応欽ノ五名ヲ常務委員トシ事実上ノ実権ヲ一時韓復榘ニ与ヘ以テ学良ノ顔ヲ立ツル事トシ度キ旨ヲ極秘裡ニ伝ヘシメ既ニ北方将領ノ同意ヲ大体取付ケタルヲ以テ蔣ハ今次学良ト会見スルニ当リ早速之ヲ切出ス段取リトナリ居ル趣ナリ

右[2]ニ関シ当地消息通ノ間ニ伝ヘラルル所ヲ綜合スルニ蔣介石ハ元々北平分会委員長ノ兼任ニ依リ将来熱河東北問題ニ対スル責任ヲ一身ニ負フ事ヲ好マサリシ折柄学良系将領ノ態度右ノ如ク急ニ強硬トナリ事態重大化ノ徴アルニ驚キ最近汪精衛ノ態度稍妥協的ニ傾キタルニ乗シテ此ノ際学良ノ面目ヲモ立ツル一面自己ノ政治的責任ノ軽減ヲ計リタルモノナル可シトノ事ナルカ汪一派ハ学良カ常務委員ノ一人トシテ残ル事ハ学良下野ノ意味ヲ為ササルヲ以テ相当強ク反対ス可ク延テハ局面ヲ再ヒ元ノ状態迄悪化セシムル惧無キニ非サルモ元来学良ハ予テ和戦何レノ方法ニ依ルモ東北失地回収ノ不可能ナルヲ看取シ中央ニ多額ノ軍費ヲ要求シ其ノ拒絶ニ会ハハ失地回復不能ノ責ヲ中央ニ転嫁セント計リテ一芝居打チタルモ蔣カ其ノ下野ヲ引留メサリシ結果已ムヲ得ス下野外遊ノ通電ヲ発シタルモノト認メラルル処今日モ尚学良自身トシテハ全然外遊ノ意思無キハ勿論学良系将領モ其ノ地位ノ擁護上学良ノ外遊ヲ極力引留メ居ル現状ナルヲ以テ仮ニ今回ノ政局カ廬山ニ蔣、林、汪三者ノ会見ニ依リ曲リナリニモ一段落ヲ見ル場合ニ於テモ蔣ノ前記ノ如キ調停案ハ現政府ノ運命並ニ華北問題ノ将来ニ対シ極メテ重大ナル影響ヲ及ホス可キモノト思料セラル

御参考迄

支、北平、南京、済南、奉天、広東、天津ニ転電セリ、支ヨリ上海ヘ転報アリタシ、九江、長沙、宜昌ニ暗送セリ

153　昭和7年8月20日　在済南西田総領事より内田外務大臣宛（電報）

張学良の辞職に関する韓復榘の内話について

済南　8月20日後発
本省　8月20日後着

第二二〇号（暗）

往電第二一四号ニ関シ

十九日韓主席ノ本官ヘノ内話左ノ通

一、北平ノ軍事委員会分会ニハ常務委員三名ヲ置キ別ニ主席委員ハ置カス尤モ分会ノ大綱ハ張群カ蔣介石ノ意ヲ受

ケ当分同会ヲ指導スルモノト思ハルルモ張ハ北平ニ常駐シ得サル事情モアル由ニ付常務委員トナラサリシ模様ナリ尚自分ハ分会ノ一委員ナルカ当分赴平セサル考ナリ

二、一時辞意ヲ漏シタル沈青島市長モ辞職ニ至ラス同人ハ北平ヨリ昨日来済シ本日帰青ノ筈ナルカ山東省方面ハ従来ノ儘何等移動ナキ次第ナリ

三、河北将領ノ張学良挽留電ノ詳細事情ハ承知セサルモ今回張ノ辞職申出ニ対シ蔣介石ハ形式上ニセヨ今少シク慰留方ニ努ムルモノト将領側ニテ観測セラレシカ別段此ノ事ナカリシト、今後ノ軍費支出等ノ関係上電報ヲ発シタルモノナルヘク右ニ対シテハ中央ニ於テ然ルヘク措置スヘク之カ為現在ノ所急ニ河北方面ニ変化ヲ来タスカ如キ事ナカル可シ

支ヨリ上海ヘ転報アリタシ

支、北平、青島、奉天、天津、南京、漢口、広東ヘ転電セリ

154　昭和7年8月22日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

張学良の辞職に関する各種情報について

北平　8月22日後発
本省　8月23日前着

第五〇五号（暗）

往電第四七一号ニ関シ

其ノ後ノ情報左ノ通

一、十九日学良ハ直系各将領ヲ招集シ自分ノ下野ニ関シテハ各方面ヨリ懇篤ナル慰留アルモ右ハ既定ノ事実ナルヲ以テ今後ハ外間ノ誤解ヲ防ク為一同ヨリ何等ノ意見ヲモ発表セサル様申渡シタル由

二、二十日蔣介石ハ張群ヲ通シ学良ニ対シ自分ハ軍事委員会北平分会長ヲ兼任セルモ北平ニ常駐シ得サルヲ以テ学良カ軍事委員会委員ノ資格ニテ右職務代行方電請シ来レルモ学良ハ未タ何等ノ表示ヲ為ササル由

三、学良ハ数日中ニ万寿山ニ移居スヘシト伝ヘラレタルカ各将領ヨリ熱河ノ風雲急ナルヲ以テ暫時離平取止方頻リニ請願セルヲ以テ右ハ一時延期ノ已ムナキニ至ルノ模様ナリ

四、二十二日周作民ハ原田ニ対シ各将領ノ学良慰留モ結局

ニ於テサシタル効果ナク対汪精衛ノ関係ヨリスルモ学良トシテ今更下野取止ハ不可能ナルヘク部下将領ノ鎮静ヲ俟ツテ一旦ハ外遊スルモノト思考スル旨語レル由

前電ノ通転電セリ

支ヨリ上海ヘ転報アリ度シ

155　昭和7年8月24日　在広東吉田総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

満州問題に関する孫科および西南政務委員等の態度につき鄒魯の内話について

広東　8月24日後発
本省　8月24日後着

第五四一号（暗）

往電第五三六号ニ関シ

二十三日本官鄒魯ヲ往訪シ歓談セルカ其要領左ノ通

一、本官ヨリ容共政策ハ過去ニ於テ既ニ試験済ナルニ拘ラス最近孫科ハ再ヒ之ヲ繰返シ党方面ニ於テモ種々論議セラレ居ル模様ナルカ右ニ関スル貴見如何ト試問セルニ鄒魯ハ自分トシテハ亜細亜ノ問題ハ亜細亜人ニテ解決セヨトノ従来ノ主張ヲ変更スル事ナク徹頭徹尾蘇連邦トノ復交ニ反対スルモノナルカ満州事変以来頼トセル連盟モ無力ナル事漸ク判明シ去リトテ自力更生ノ途モナク対日問題ノ解決ヲ計ラントセハ新ニ何物カノ力ヲ借ル必要アリトシ自然連露容共ノ再現ヲ主張スルモノ多キニ至レル次第ニテ主義トシテ賛成セサル自分モ真向ヨリ右政策ニ反対ヲ唱フル事能ハサル状態ナリ蓋シ孫科ハ目標ヲ対日問題ニ置キテ連露ヲ主張シ居レハナリト述フ

二、依テ本官ハ共産党ノ跋扈ハ貴国心腹ノ患ノミナラス延イテハ其影響日本ニ及フナキヤヲ惧ルル次第ナル処現状ヨリ推シテ近キ将来剿共ノ目的ヲ達スル見込アリヤト借問セルニ対シ鄒魯ハ稍暫ク沈思ノ上遺憾乍ラ全ク不明ナリ何トナレハ満州事変以後共匪問題ニ対スル方策ハ根本的ニ相反スル二派ニ分裂シ一派ハ剿共ヲ先決問題トスルニ対シ他派ハ共匪ト合作シテ抗日ヲ敢行ス可シト説キ昨今後者ノ勢力中々侮リ難キモノアレハナリ然レトモ支那民族ハ由来個人主義的自由及平和ヲ愛シ階級闘争ヲ好マサルノ風アリ加フルニ大資本家、大地主少ク国民ノ大部分ハ農民ニテ何レモ自食自耕ニ満足シ其安楽ヲ冀フモノナレハ白人種ノ考フルカ如ク容易ニ赤化スル事万ナカ

ル可シト存ス

三、更ニ本官ヨリ西南政務委員会ノ諸公ハ本問題ニ関シテ如何ナル意見ヲ有セラルルヤ伺ヒ度シト述ヘタル処鄒ハ何レモ多少ノ意見ヲ有スルナランモ実ノ所対日問題解決ニ関シ連露ヲ措キテ他ニ如何ナル名案アリヤト借問セラレタル場合返答ニ窮スル次第ニテ剿共ヲ主張シ乍ラモ孫科ノ意見ニ対シ無下ニ之ヲ退クル事能ハサル状態ナリ余等ノ苦衷ハ貴国側ニ於テモ御了解相成様願ヒ度シト述フ

右鄒魯ノ内話ハ往電第五〇一号（二三一文書）李宗仁ノ談話ノ末段ト異曲同工ナルヤニ認メラルルニ付特ニ電報ス

支、北平、奉天、南京ヘ転電セリ支ヨリ上海ヘ転報アリタシ奉天ヨリ長春ヘ転電アリタシ

156　昭和7年8月25日　在南京上村総領事代理より内田外務大臣宛

福本大連海関長罷免に関する外交部長の通告について

付属書　同日付在南京上村総領事代理より在上海矢野臨時代理公使宛機密第二七一号

臨時代理公使　矢野　真　殿

大連海関長福本罷免ニ関スル件

七月二十六日付機密公第二二八号貴信ニ関シ八月二十四日付書翰ヲ以テ外交部長ヨリ貴代理公使宛照会越ノ次第アリ大要電報済ナル処原文茲ニ郵送ス御査閲相成度

本信写送付先　外務大臣　北平　奉天　長春　関東庁

（別紙）

照　会

大中華民国外交部長羅　為

照会事准七月二十六日

来略関於大連関税務司福本免職事業経閲悉来略以関東庁外事課長強令福本違抗総税務司命令完全与事実不符一節査福本受関東庁外事課長之指揮及日本当局之警告竟違抗総税務司命令与東省偽組織合作此事確係福本自向総税務司所陳述有案可稽不容諱飾所謂日本当局乃関東庁外事課長対於中国大連関行政非法干渉該福本身為中国官吏及以日籍関係服従日本官員之非法命令付和東省叛逆以与中国政府反抗総税務司以此項違令行動在海関歴史上実為創挙即予以免職処分以粛紀綱而為服務中国行政機関不忠於其職者戒此係按照歴来更換税務司従来通知関東長官之成案弁理自属無可訾議及日本方面在実際上一面強令福本違令付逆指使東省偽組織在大連設関徴税一面対於中国総税務司依拠大連設関協定所派新任大連関税務司岸本広吉之通知延不答復以致継任者不能到任中国在大連海関行政亦因之停頓税収蒙莫大之損失而東省偽組織可以藉此任意攫奪大連関税顕係故意庇護叛逆海関違背大連設関協定之精神中国政府以東省偽組織攫奪大連海関之叛逆行為及福本違令付逆既為日本政府所指揮而貴公使館対於岸本継任通知亦延近両月迄不答復又係事実故大連関因此所受一切損失認為応由日本政府負其全責相応照会即希

貴代弁査照見復並対於岸本継任通知迅予逕復中国総税務司為荷須至照会者

右　照　会

大日本帝国駐華代弁使事矢野

羅　文　幹

中華民国二十一年八月二十四日

157　昭和7年8月30日　在上海矢野臨時代理公使より内田外務大臣宛

右に関する羅外交部長の照会

南京　8月25日付
本省　9月5日着

機密第四四五号

昭和七年八月二十五日

在南京・
総領事代理　上村　伸一（印）

外務大臣伯爵　内田　康哉　殿

昭和七年八月二十五日付機密第二七一号代理公使宛公信写送付

件　名

大連海関長福本罷免ニ関スル件

（付属書）

南京　8月25日付

機密第二七一号

昭和七年八月二十五日

在南京
総領事代理　上村　伸一

在中華民国

汪兆銘の辞職問題その他に関する唐有壬の堀内への内話について

上海　8月30日付

機密公第二五七号

昭和七年八月三十日

在中華民国
臨時代理公使　矢野　真

外務大臣伯爵　内田　康哉　殿

唐有壬堀内ヘノ内話ノ件

二十七日堀内ハ中央政治会議秘書長唐有壬ト内密会談セルカ其ノ内注意スヘキ点左ノ通尚本件内話ハ唐ノ立場モアリ取扱上特ニ御注意ヲ請フ

一、汪精衛辞職問題

汪カ張学良ノ下野ヲ要求セルハ張学良ノ職ニ留ルコトハ汪ノ企図セル日本トノ直接交渉ノ支障トナルヲ知リ此ノ支障ヲ除カントシタルカ為ニシテ世間伝フルカ如ク之ニ依リ蔣介石ノ権力ヲ減殺セントシタル訳ニ非ス而シテ張学良ノ下野ニ付テハ早クヨリ蔣介石ノ了解ヲ得居リ現ニ先般下野勧告ノ為北平ニ赴キタル際モ蔣介石ノ学良宛手紙ヲ携行シタル程ナルカ当時学良ハ真面目ニ話ヲセス（面会ヲ謝絶セサリシモ御馳走攻ニシ又会見ヲ約スルモ常ニ婦女子ヲ同席セシメ政治ヲ談スル機会ヲ避ケタリ）其ノ目的ヲ達セサリシカ今回ハ時期切迫セルヲ以テ遂ニ独断ニテ辞表ヲ出シ学良辞職勧告ノ通電ヲ出シタリ予メ蔣介石ニ相談セサリシハ蔣介石之ニ反対セハ蔣汪ノ合作ハ破ルヘク又同意シテ学良之ニ応セスムハ茲ニ軍事行動ヲ起シ時局紛糾ヲ来スヘキ事情アリ熟慮ノ結果独断ニテ遣リタルモノニテ当時蔣介石モ突然ノ辞職ニ驚キ其ノ説明ヲ求メタルヲ以テ自分ハ汪ノ命ニ依リ漢口ニ赴キ前記汪ノ心情ヲ説明セル処蔣介石モ初テ汪ノ他意ナキヲ知リ時局収拾ニ尽力シタル次第ナリ今回ノ事件カ蔣汪仲違乃至蔣介石ノ汪精衛圧迫ノ結果ナリトノ世評ハ全然事実ニ非ス万一右カ事実ナラハ汪ハ南京ニ帰リ得サルヘシ

行政院長ニ復職スヘキヤトノ問ニ対シ行ク行クハ復職スヘキモ今直ニトハ行カス又中央ノ要職云々トハ中央政治会議常務委員ノコトナリ（現在委員中南京ニ在ルハ汪ノミナリ林森ハ別ニ病気ニ非サルモ紛争ノ渦中ニ入ルヲ避クル為廬山ニ在リ）

二、所謂東北義勇軍ト学良トノ関係

学良カ盛ニ東北義勇軍ヲ後援シ居ルカ如ク日本ノ新聞等ニ書カレ居ル処（支那及外国ノ新聞モ学良カ金ヲ出シテ書カシ居レリ）之ハ学良ノ国民ニ対スル宣伝ニテ事実余リ熱心ナラス現ニ先日当方面ニ来レル馬占山ノ旅長苑崇（脱）ノ談ニ依レハ北平ニテハ一週間滞在セルカ其ノ間漸ク一回学良ニ面会ヲ許サレ而モ学良ハ馬占山一派ノ行動カ自己ノ立場ニ迷惑ヲ及ホストテ之ヲ「デスカレーヂ」シタル程ナリト語リ居タル位ナリ又義勇軍ノ費用ニ付テモ学良ハ余リ出サス上海方面ノ寄付金モ支那人ハ余リ出サス華僑モ従前程熱心ニ後援セス寧ロ「ソ」側ヨリ費用ヲ出シ居ル趣ナリ

三、南京政府ノ対日方針

対日方針ニ付テハ支那ハ第一ニ直接交渉ヲ希望シ居リ交渉ノ条件合致セスハ連盟ニ提出シテ妥協ヲ勧告セシムルコトニシタシト考ヘ居ルモ日本側ニテ直接交渉ニ絶対反対ナラハ第二ノ処置トシテ少クトモ現状維持ヲ希望ス、現状ヲ維持スルニ於テハ時ト共ニ支那ノ輿論モ冷静ニ赴キ両国平常状態ノ回復ヲ可能ナラシムルカ如キ時期及機会カ到来スヘキヲ以テナリ第二案ハ全然無策ナルモ今日ノ場合此レ以外策ナシト考ヘ居レリ、現ニ先達テ連盟委員側ノ内々ノ質問ニ対シテモ前記二ツノ案ヲ回答シタリ

尚日本側ニ於テハ近ク満州国ヲ承認スヘシト伝ヘラルルカ此ノ場合ニハ全国ノ排日運動熾烈トナルヘク政府ハ如何トモ之ヲ徹底的ニ取締リ難ク其ノ結果或ハ日本側ノ反対手段ヲ喚起シ上海事件ノ如キモノヲ繰リ返ス危険アリトテ政府ハ之カ防止方ニ付色々考量シ居ルカ同時ニ政府部内ニハ事茲ニ到レハ必スヤ第三国（米、英等）ノ干渉ヲ招キ日本ト此等第三国トノ争トナリ結局時局ハ支那ニ有利ニ解決サルヘシトノ説ヲ為スモノアリ（賀耀組ノ如キ其ノ一人）自分ハ此ノ如キ事態トナレハ日本カ勝ツモ英米カ勝ツモ結局支那ハ亡国ノ道ヲ辿ルヨリ外ナシト反対シ居ル次第ナリ

右ニ関連シテ最近伝ヘラルルカ如ク中央政治会議ニ於テ米支仲裁裁判条約ノ批准方ヲ決定セルハ米国ノ援助ヲ求ムル下地トシテ之ヲ唱導シタルモノアル次第ナリヤト尋ネタル処唐ハ之ヲ否定シ此ノ際外国トノ問ニ事端ヲ起ス

コトハ極力避クヘキヲ以テ其ノ趣旨ヨリ該条約ヲ批准スヘシト為スモノアリタルカ為ナリト説明シ居タリ

四、排日問題（三十日電報ノ通）

本信写送付先　北平　奉天　長春　天津　青島　漢口、南京　福州　広東

158　昭和7年8月(31)日　在南京上村総領事代理より内田外務大臣宛（電報）
中央党部記念週における汪兆銘の演説要領について

南京
本省　8月31日後着

第六〇三号

(1)汪精衛ハ二十九日中央党部記念週ニ於テ「熱河問題ト救国」ト題シ演説セル趣ニテ右原文ハ三十一日ノ各新聞ニ発表セラレタルカ右要領左ノ通

昨年九月十八日以来日本ノ東北ニ関スル論調ヲ見ルニ東三省ト言ハスシテ何レモ東四省ト称シ居レルカ右ハ熱河省ヲモ含ムモノニシテ所謂熱河問題ハ決シテ本年七、八月頃ニ発生シタルモノニ非サル事ヲ知リ得可シ我政府ハ熱河ノ防禦問題ニ関シ本年三月初積極的ニ計画シ居タリ当時上海方面ニテハ江西ヨリ移動セル援兵ハ共産党ニ牽制セラレ予定通到着セス又江北ヨリノ援軍ハ日本軍艦ノ脅威ヲ受ケ長江ヲ渡ル事困難ナリシ為十九路軍及第五軍ハ到底長ク支ヘ難キニ至レリ然ルニ日本ハ東北ヨリ軍隊ヲ上海ニ移動シ居タルヲ以テ軍事委員会ニ於テハ宋哲元、龐炳勲、孫殿英等ノ部隊ヲ急速熱河ニ進出セシメ同地方ヲ固ムルト共ニ日本軍ノ上海移動ヲ牽制スル計画ヲ建テ河北当局ノ諒解ヲ得ル為李済深及陳公博ヲ北上セシメタルカ河北当局ハ後方ヲ鞏固ニシ前方ニ進出シ地方ヲ保衛シ中央ヲ擁護スト中央ニ回答セリ

(2)上海ニ於ケル停戦後日本ハ再ヒ軍隊ヲ東北ニ移動シタルヲ以テ吾人モ北方ニ軍隊ヲ移動シ抵抗スル必要ヲ認メ余ハ之カ為北平ヘ飛行セリ軍隊ノ系統ハ素ヨリ変更シ差支ナキモ熱河出兵ノ計画ハ変更スル能ハス目下ノ衝突ハ非常ニ軽少ナルモ小衝突ハ大戦ノ導火線トナルコトアリ大戦爆発ノ時期ハ素ヨリ断定シ難キモ随時発生シ得ヘシ今ヤ蔣委員長ハ北平軍事分会ノ委員長ヲ兼ネタルヲ以テ東北ノ局面ハ必スヤ一新スヘク之等計画ニ付テハ事軍機ニ関スルヲ以テ述フルヲ得ス

目下ノ国難ニ赴ク方法トシテ余ハ中央ニ対シ三ツノ方法ヲ提議セントス即チ

(一)江蘇、浙江、河南、安徽、江西、湖北各省ノ如キ統一シ得ル省ニ於テハ極力建設ヲ計リ近代政治ノ模範ヲ示スコト

(二)名義上中央ニ服従スルモ実際上服従スルニ至ラサル各省ニアリテハ比較的良好ナルモノヨリ建設シ統一ヲ計ルコト尚名実共ニ中央ニ服従セサル省アラハ絶エス制裁ヲ加フルコト

(三)国民参政会ノ如キ民衆組織ヲ起シ党ト人民ノ合作ヲ図ルコト

委細郵報

支、北平、奉天、長春、青島、天津、済南、漢口、広東、福州へ転電セリ

159　昭和7年9月5日　在南京上村総領事代理より内田外務大臣宛
満州海関税収問題に関する中国側の抗議について

付属書　同日付在南京上村総領事代理より在上海有吉公使宛機密第二八五号右中国側来翰

南京　9月5日付
本省　9月13日着

機密第四六六号

昭和七年九月五日

在南京
総領事代理　上村　伸一（印）

外務大臣伯爵　内田　康哉　殿

昭和七年九月五日付機密第二八五号在支公使宛公信写送付件名

満州海関問題ニ関スル外交部長来翰転達ノ件

（付属書）

機密第二八五号

昭和七年九月五日

在南京
総領事代理　上村　伸一

在中華民国
特命全権公使　有吉　明　殿

満州海関問題ニ関スル外交部長来翰転達ノ件

本件ニ関スル本月三日付外交部長来翰別紙ノ通転達ス御査収相成度

本信写送付先　外務大臣　北平　奉天　長春

（別　紙）

大中華民国外交部長羅　　為

照会事関於中国東省関税被奪一事本部業於六月二十六日提出厳重抗議茲拠報告東省税務司署自被非法掠奪以来所有東省及大連各海関税収均未滙交総税務司署以備償債或別項用途且当各関被奪時已収税欵計有滬銀二百余万両其中業経滙交者僅佔三分之一此項掠奪税欵事件発生於世界商業蕭条税収減少之際実予向以関税担保之償債義務以極大之破壊当本年六七二月間関税収入較之平日徴収用以償債之欵其短絀之数超過滬銀三百万両而依照東省海関未経被奪以前交来之税額計算上述二月中其収入関税総額応在滬銀四百万両以上因此以関税担保之償債義務今由中国其余各地海関負其重担而東省関税之損失毎年約計滬銀二千四百余万両実使中国政府之財政大受影響等語査東省偽組織確係日本政府以武力所造成之傀儡其掠奪東省及大連海関之非法行為均係日本政府所指使而解決此事之責任自応由日本政府負之除継任大連関税務司事已另文照請早日答復総税務司外相応照会貴代弁査照迅電

貴国政府従速採取合法歩驟将被奪時已収関税及以後税収一併交還並使東省各税務司署及早恢復得以照常工作為荷須至照会者

右　照　会

大日本帝国駐華代弁使事矢野

羅　文　幹

中華民国二十一年九月三日

（訳　文）

（要訳）

以書翰啓上致候陳者中国東省ノ関税奪取ノ件ニ関シテハ既ニ六月二十六日本部ヨリ厳重ナル抗議ヲ提出致置候処茲ニ報告ニ拠レハ「東省税務司署カ非法ナル奪取ヲ被リテ以来東省及大連ノ各海関ノ税収ハ本来総テ外債償還又ハ別途ノ使用ニ備ヘンカタメニ総税務司署宛送金セラルヘキニ未タ之カ送金無ク且又各海関ニ於テ奪取ヲ被リタル当時已ニ収納セル税額ハ合計二百余万上海両ニ上リ其ノ中既ニ送金アリタルハ僅カニ三分ノ一ニスキス如此税収ノ奪取ナル事件カ世界ノ商業不振ニシテ税収減少セル際発生セルハ関税ヲ以テ担保トセル外債償還ノ義務ニ極メテ大ナル障礙ヲ与フルモノナリ本年六、七ノ二ケ月間ノ関税収入ハ之ヲ平常徴収ノ上償還ニ充テタル額ニ比スレハ其ノ不足額三百万上海両ヲ超過ス、然シテ東省海関カ未タ奪取セラレサル以前ニ送付越セル税額ニ依リテ計算スレハ前記二ケ月中ノ関税収入総計ハ四百万上海両以上トナルヘク此カタメ関税ヲ以テ担保トセル外債償還ノ義務ハ目下中国ニ於ケル爾余ノ各地海関ニ於テ其ノ重任ヲ負フニ至レル次第ニシテ東省関税ノ損失ハ年額約二千四百余万上海両ニシテ中国政府ノ財政ニ大ナル影響ヲ与フルモノナリ」トノ趣ニ有之候査スルニ東省偽組織ハ明白ニ日本政府ノ武力ヲ以テ造成セル所ノ傀儡ニシテ其ノ東省及大連ノ海関ヲ奪取セル不法行為ハ総テ日本政府ノ指揮ニ係リ而シテ之カ解決ノ責任ハ応ニ日本政府ニ於テ負フヘキナリ依テ前ニ大連税関税務司ノ後任ノ件ニ関シ至急総税務司宛御回答方相煩シ置キタルカ尚貴代理公使ヨリ至急貴国政府ニ御電報ノ上奪取ヲ被リタル当時已ニ収納セル関税及其以後ノ関税ノ一律返還方並東省各税務署ノ早急恢復方ニ関シ至急合法的措置ヲ被講度此段御照会旁得貴意候

中華民国二十一年九月三日

中華民国外交部長　羅　文　幹

大日本帝国矢野駐華代理公使殿

160　昭和7年9月9日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

張学良の外遊に関する湯爾和の内話について

北平　9月9日後発
本省　9月9日後着

第五七六号（暗）

往電第五二九号ニ関シ

九日湯爾和ノ内話ニ依レハ学良ハ数日中ニ漢口ニ赴キ蔣ニ面会北方軍政事項ノ報告ト外遊ニ対シ了解ヲ求メタル上帰来シ内部ノ整頓ヲ俟ツテ外遊ノ筈ナルカ先ツ外遊ノ瀬踏トシテ南方（多分杭州ナラン）ニ暫時逗留シ北方ニ事ナキヲ見届ケタル上上海ヨリ渡欧ノ筈ノ由ナリ

在支公使、南京、漢口、広東、青島、済南、天津、駐満全権、奉天、長春ヘ転電セリ

161　昭和7年9月9日　在済南西田総領事より内田外務大臣宛（電報）

張宗昌の暗殺に関する石友三の内話について

済南　9月9日後発
本省　9月10日後着

第二四二号（暗、極秘）
往電第二四一号ニ関シ
本九日石友三ハ本官ニ対シ極秘ニ願ヒ度シト冒頭シ張宗昌ハ張学良ノ前途見込ナキヨリ学良ニ直接反対スルニアラサルモ北方ニ於テ現時実力ヲ有スル各将領及政治的ニ国民党ニ対シ不平ヲ抱ケル分子ノ合作ヲ図リ兎ニ角或時期ニ河北方面ノ将領ニ依リ治安ヲ維持シ非党政府ヲ作リテ満州問題ハ可然日本ト接触シ熱河問題等ニ付京津其他河北方面ニ紛糾ヲ避ケントスル大体ノ方針ヲ樹テ内密ニ韓ト協議ノ為来済セシモノニシテ韓トシテモ別段不同意ナラサルモ積極的ニ如何ニスト迄ニハ至ラス又此ノ目的ノ為ニ急ニ帰平スルコトトナレル次第ニシテ狙撃事情ニ付当地ニ於テ伝ヘラルル各種謡言中馮玉祥側又ハ張ノ圧迫ヲ受ケタル反韓派カナセルモノトハ俄ニ信シ難ク結局蔣介石張学良韓復榘何レカノ手カ動キタルモノト想像シ得ラルル処犯人鄭等ヲ法律ニ依リ処分スヘキヤ否ヤ其ノ処分ノ如何ニ依リ如何ナル方面カ関係セシヤハ自然判明スヘシト思ハル尚張ノ遺骸ハ不日当地ヨリ掖県ニ送ルコトニ決シ居レリ云々ト内話セリ
支ヨリ上海ヘ、駐満全権大使ヨリ奉天ヘ転報アリタシ
支、北平、青島、天津、南京、漢口、広東、駐満全権ヘ転電シ芝罘ヘ暗送セリ

162　昭和7年9月10日　在済南西田総領事より内田外務大臣宛（電報）

張宗昌暗殺犯人の処罰に関する韓復榘の内話について

済南　9月10日後発
本省　9月10日後着

第二四四号（暗）
往電第二四二号（一六一文書）ニ関シ
本十日本官韓主席ト会見ノ際張宗昌ノ狙撃事情ヲ確メタル処韓ハ張ノ来済用務ハ語ルヲ避ケ張ノ横死ハ意外ニシテ本件発生カ当地ナルヨリ自分ノ地位上困難セル次第ナルカ犯人ハ明白ニ張宗昌ニ対シ報復ノ為ナリト申立テ目下ノ所特ニ政治的ノ背景アルモノトハ認メラレス本件発生後犯人ニ対シテハ各方面ヨリ同情的ニ釈放運動ヲ為ス者アリ是カ処置ニ付中央ニ電報シ指示ヲ仰ケルカ未タ何等回訓ニ接セサル為今尚軍法署ニ抑留シ居レリト述ヘタリ
要スルニ韓ハ右犯人ノ処分ニ付張宗昌カ未タ中央ノ逮捕令ヲ取消サレ居ラサルト省党部ヲ始メ各方面ヨリノ釈放運動アルヨリ中央ノ指令ヲ待テ処置セン考ナリト認メラル
支ヨリ上海ニ、駐満全権ヨリ奉天ニ転報アリタシ
支、北平、南京、漢口、青島、天津、広東、駐満全権ニ転電セリ

163　昭和7年9月10日　内田外務大臣より在米国加藤臨時代理大使、在英国松平大使他宛（電報）

満州国承認問題に関する中国公使との会談について

本省　9月10日後9時30分発
合第一八〇五号（暗）
満州国承認問題ニ関スル支那公使内田大臣会談（九月十日）
十日支那（蔣作賓）公使本大臣ヲ来訪シ自分ハ先般帰任以来専心一意日支親善ヲ図ラムカ為微力ヲ尽シ来レル次第ナリ然ルニ日本政府ニ於テハ不日満州国ヲ承認セラルルヤノ趣ナル処右承認実行ノ暁ニハ自分ノ目的トスル日支親善ノ増進ハ非常ナル障害ヲ蒙ルニ付此ノ際承認ノ延期出来間敷ヤト述ヘタルニ付本大臣ハ満州国承認ハ既ニ帝国ノ確定的国策トナリ居リ延期等ヲ行フカ如キ余地絶対ニ無シト強ク答ヘタル処同公使ハ過日貴大臣カ議会ニ於テ不日承認実行ノ旨演説セラレタルヲ聞キ自分ハ非常ニ驚愕シタル次第ナルカ日本政府ニ於テ愈々承認ヲ行ハルル暁ニハ日支間ニ種々ナル紛糾生スヘク其ノ結果ハスヘテ日本ノ責任ニ帰スヘキモノナリト述ヘタルニ付本大臣ヨリ右ハ実ニ意外ナリ満州国承認問題ニ対スル日本ノ態度ハ貴国側ハ勿論世界各国共充分承知ノ筈ニテ現ニ前回ノ議会中斎藤子爵ヨリ言明セラレタル次第ニアリ又今次議会ニ於テモ自分ヨリ宣明セリ今日承認実行ノ瀬戸際ニ差シ掛リ斯カル御申出ヲ聞クハ自分ノ了解ニ苦シム所ナリ若シ夫レ責任論ノ如キニ至ツテハ全然承服シ難シ今次事変ハ全ク旧東北政権及国民政府カ方針ヲ誤リタル結果ナルニ付責任ハスヘテ貴国側ニ存スル次第ナリト

答ヘタルニ公使ハ自分ハ誠心誠意日支ノ親善ヲ企図シ前述ノ如キ提言ヲ為シタルモノナルトコロ貴大臣ニ於テ之ヲ等閑ニ付セラルルハ遺憾ナリト述ヘタリ仍テ本大臣ハ自分トシテモ日支親善ヲ望ムコト貴公使ト同様ニテ貴公使ノ提言ヲ等閑ニ付スルカ如キコト無キモ承認ノ実行ハ最早如何トモ為シ難キ次第ニ付御諒承アリ度将来ハ満州問題ト離レ日支ノ親善ヲ図リ度キモノナリト言ヘル処公使ハ今日ハ日支親善ニ努ムヘキ自分ノ職責上以上ノコトヲ申上ケタル次第ニ付其ノ点ハ諒トセラレタシト述ヘテ辞去セリ

本電宛先　米、英、支、在満全権、長春、北平、南京、広東

英ヨリ土ヲ除ク在欧各大使ニ転電シ仏ヲシテ連盟ヘ転報セシメラレタシ

在満全権ヨリ奉天ヘ転報アリタシ

164　昭和7年9月14日　在上海村井総領事より内田外務大臣宛（電報）

日本の満州国承認問題に関する林森の談話について

上海　9月14日後発　本省　9月15日前着

第一〇四〇号

十三日林森ハ我カ満州国承認ニ関シ支那新聞記者ニ「此ノ挙ハ当然日本側ノ九国条約破壊ニシテ中央ニ於テハ既ニ対策ニ付熟慮決定シアレハ時ニ至リテ既定弁法ニ従テ実行ス可シ、九国条約調印国会議ノ招集ハ関係国モ多ク其ノ間外交上策略ノ関係モアリ困難ナルヘク我国トシテハ各国国際関係ノ変化ヲ静観シ対策ヲ講ス可キノミ」ト語リタル趣ナリ

駐満全権、北平、長春、天津、済南、青島、南京、漢口、広東、福州ヘ転電シ支ヘ転報セリ

駐満全権ヨリ奉天ヘ転報アリタシ

165　昭和7年9月17日　在本邦蔣中国公使より内田外務大臣宛

日本の国際連盟規約、不戦条約、九国条約違反の不法行為について

9月17日付
9月19日着

申字第二六〇号

為照会事項奉本国外交部来電奉達

貴国政府如下

自去年九月十八日日本軍隊按照預定計画突然轟撃瀋陽城以後日本政府着着進行使東三省之局勢日趨厳重不僅中国主権受極度之蹂躪即国際条約神聖之原則亦為之根本動揺世界和平亦遭悲痛之打撃

去年九月三十日国際連合会之決議促令日本政府不再使局勢愈趨厳重並応自遼吉両省所佔之地将軍隊撤至鉄路区域以内日本政府亦自己承認此決議乃行政院甫経通過日本軍隊立即随之而拡大行動進佔東北各省土地包括齊齊哈爾及黒省内其他重要城邑十一月間暴変発於天津斯則天津日方人員実有以引起之十二月十日国際連合会行政院以日本軍隊応及早撤至鉄路区域以内日本政府対於此項決議則報之以侵略更甚之活動其範囲竟至於錦州哈爾浜黒省等離発難地点甚遠之区域其軍事要地無不受日本軍隊之炸撃本年一月末戦事行動起於上海日本海軍陸戦隊実為戎首日本竟増派陸軍至数師之衆以致生命財産損失無算

日本既以武力掠拠東三省之全部乃従事於傀儡組織之製造謚之曰満州国而使溥儀為之主一切実権則操之於対東京政府負責之官吏之手自是攫奪我鉄路截留我関塩及其他税欵破壊我郵務屠戮圧迫我人民恣意毀滅我財産以及其他非法行動尽以満州国之名義行之実則主其事者乃効忠日本政府或受日本政府所支配之人也日本在中国毎次侵略挙動中国政府無不向之提出厳重抗議喚起其対於自身所負重大責任之注意無如日本対於此類抗議非特漠然置之反報之以侵略更甚之行動世界各国対於其用暴力拡展疆土之政策亦曾一再予以警告本年一月初美国政府曾正式宣布『凡以違反一千九百二十八年八月二十七日巴黎公約規定之義務之方法而造成之局面条約或協定美国均不承認之』二月十六日国際連合会行政院十二国代表宣言『凡違反国際連合会盟約第十条而侵犯会員国土地之完整及変更其政治之独立者其他会員国均不応認為有効』三月十一日国際連合会大会一致決議『凡用違反国際連合会盟約或巴黎公約之方法而造成之局面条約或協定国際連合会会員国有不予承認之義務又中日争端若在任何一方軍力圧迫之下覓取解決実与盟約精神相違背』日本政府不顧友邦之忠言与警告不顧国際連合会之決議与訓誡不顧人類之公論現更対於其黷武主義所産生之傀儡組織悍然加以正式承認並与之締結所謂条約俾

日本有駐兵東省之権藉欲淪陥東三省於日本保護国之地位
国際連合会依照去年十二月十日行政院通過而経日本接受
之決議所委派之調査団以日本代表之協助従事工作今当該
調査団工作甫竣国際連合会尚未加以討論之際日本遽行承
認偽組織此項挙動一面適足以増加其罪戾一面無異対於国
際連合会之権威為侮辱性之挑戦
日本政府悍然施行其暴力的残殺的与征服的政策其責任之
重大在近代国際関係之歴史上罕与倫比茲挙其犖犖大者如
下
(一)日本已違犯国際公法之基本原則蓋日本已破壊中華民国
領土之完整簒奪中国之政治与行政権也
(二)日本已違犯法律之根本原則与人道観念蓋日本已殺傷無
数中国人命毀損現時尚難統計之中国公私財産也
(三)日本已違犯国際連合会盟約蓋在該盟約中各会員国曾担
任保持各会員国之領土完整及現有之政治上独立以防禦外
来之侵犯也
(四)日本已違犯非戦公約蓋在該公約中各締約国曾鄭重声明
放棄以戦争為彼此間施行国家政策之工具並互允各国間設
有争端不論如何性質因何発端祇可用和平方法解決之也
(五)日本已違犯民国十一年簽訂之九国条約蓋在該条約中各
締約国除中国外曾互允尊重中国之主権与独立以及領土与
行政之完整也
(六)日本已違犯其自為之誓約蓋日本曾声明在東省無領土企
図且允於最近期間内将日軍撤至鉄路区域内也
(七)日本已違犯国際連合会歴次訓誡蓋国際連合会曾一再誥
誡日本不得就其因侵略中国而造成之形勢再使拡大与悪化
也
関於日本自去年九月十八日轟撃瀋陽城至今年九月十五日
承認偽組織所有一切侵略行為及其発生之任何結果中国政
府当令日本政府担負完全責任中国政府並保留其在現状下
国際公法与条約上所賦予之権利
相応照会
貴爵大臣査照為荷須至照会者
右照会
日本帝国外務大臣伯爵内田康哉閣下
中華民国特命全権公使　蔣　作　賓（印）
中華民国二十一年九月十七日

（訳　文）
申字第二六〇号
以書翰致啓上候最近本国外交部ノ来電ニ依リ貴国政府ニ左
ノ如ク申入候
客年九月十八日日本軍隊カ予定ノ計画ニ基キ突然奉天城
ヲ轟撃シテ以来日本政府ハ着々東三省ノ事態ヲ日増ニ重
大化シ為ニ中国主権ハ極度ノ蹂躙ヲ受ケタルノミナラス
国際条約神聖ノ原則亦之カ為ニ根本ヨリ動揺シ世界ノ平
和モ亦悲痛ノ打撃ニ遭ヘリ客年九月三十日国際連盟ノ決
議ハ日本ニ対シ事態ヲ更ニ重大ナラシメス並ニ奉天吉林
両省ノ占領地ヨリ軍隊ヲ鉄道区域内ニ撤退スヘキ旨ヲ促
令シ日本政府モ亦自ラ此ノ決議ヲ承認セリ然ルニ右理事
会ノ通過ヲ見ルヤ否ヤ日本軍隊ハ殆ト此ト同時ニ行動ヲ
拡大シ斉々哈爾及黒竜江省内重要城邑ヲ含ム東北各省ノ
土地ヲ進佔セリ十一月中天津ニ暴変突発セルカ之天津ノ
日本側人員ニ依リテ起サレタルモノナリ十二月十日国際
連盟理事会ハ日本軍隊ノ将ニ早キニ及ンテ鉄道区域内ニ
撤退スヘキヲ決議シタルカ日本政府ハ此ノ決議ニ対シ報
ユルニ侵略更ニ甚シキ活動ヲ以テシ其ノ範囲ハ遂ニ錦
州、哈爾賓、黒竜江省等発端地点ヨリ甚タ遠キ区域ニ及
ヒ其ノ軍事要地ハ日本軍隊ノ爆撃ヲ受ケサルナシ本年一
月末戦事行動上海ニ起リタルカ日本陸戦隊ハ其ノ発端人
（戎首）ニシテ日本ハ遂ニ数ケ師団ニモ及フ多数ノ陸軍
ヲ増派シ為ニ生命財産ノ損失算無シ
日本ハ既ニ武力ヲ以テ東三省ノ全部ヲ奪拠スルヤ傀儡組
織ノ製造ニ従事シ之ヲ名ツケテ満州国ト称シ溥儀ヲ之カ
主トナシ一切ノ実権ハ東京政府ニ対シ責任ヲ負フ官吏ノ
手ニテ之ヲ操レリ爾後我鉄道ヲ奪ヒ我関塩及其ノ他ノ税
款ノ抑留、我カ郵務ノ破壊、我カ人民ノ屠戮圧迫、我カ
財産ノ擅ナル破壊、其ノ他ノ非法行動ハ総テ満州国ノ名
義ヲ以テ之ヲ行フモ其ノ当事者ハ日本政府ニ忠実ナルカ
又ハ日本政府ノ支配スル人物ナリ日本カ中国ニ於テ侵略
ノ挙動アル毎ニ中国政府ハ之ニ向ヒ厳重抗議シ其ノ自ラ
負フヘキ重大ナル責任ニ付注意ヲ喚起セサルハナシ如何
セン日本ハ此ノ種抗議ニ対シ漠然トシテ之ヲ放置スルノ
ミニ止マラス之ニ報ユルニ侵略ハ更ニ甚タシキ行動ヲ以
テス世界各国モ日本ノ暴力ヲ用ヒ疆土ヲ拡張スルノ政策
ニ対シ一再ナラス警告ヲ与ヘタリ本年一月初米国政府ハ

正式ニ「千九百二十八年八月二十七日巴里条約規定ノ義務ニ違反スル方法ニ依リ造成セル凡ユル事態、条約或ハ協定ハ米国ハ凡テ之ヲ承認セス」ト宣布シ二月十六日国際連盟理事会十二国代表ハ「国際連盟規約第十条ニ違反シ加盟国ノ領土ノ保全ヲ侵犯シ其ノ政治的独立ヲ変更スル者ニ対シ其ノ他ノ加盟国ハ凡テ之ヲ有効ト認メス」ト宣言シ三月十一日国際連盟総会ハ一致ニテ「国際連盟規約又ハ巴里条約ニ違反シテ造成セラレタル凡ユル事態、条約或ハ協定ニ対シ国際連盟加盟国ハ之ニ承認ヲ与ヘサル義務アリ又日支紛争ハ若シ何レカ一方ノ軍力ノ圧迫ノ下ニ之カ解決ヲ求メントスルニ於テハ実ニ規約ノ精神ト違背スルモノナリ」ト決議セリ日本政府ハ友邦ノ忠言ト警告ヲ顧ミス国際連盟ノ決議ト訓誡ヲ顧ミス又人類ノ公論ヲ顧ミス今又更ニ黷武主義ノ産出セル傀儡組織ニ悍然トシテ正式承認ヲ与ヘ之ト所謂条約ヲ締結シテ東省ニ於テ駐兵ノ権ヲ有スルニ至リ東三省ヲ日本ノ保護国ノ地位ニ陥ラシメントス国際連盟カ客年十二月十日ノ理事会ヲ通過シ日本ノ接受ヲ経タル決議ニ基キテ派遣セル調査団ハ日本代表ノ協助ニ依リ工作ニ従事セルカ該調査団ノ工作漸ク終リ国際連盟カ未タ之ニ討論ヲ加ヘサル此ノ際日本カ遽ニ偽組織ノ承認ヲ行フカ如キ行動ハ一面其ノ罪過ヲ増加スルモノニシテ一面国際連盟ノ権威ニ対シ侮辱性ノ挑戦ヲナスニ異ナラス日本政府ハ悍然其ノ暴力的残殺的征服的政策ヲ施行ス其ノ責任ノ重大ナルコト近代国際関係ノ歴史上稀ニ其ノ比ヲ見ル処ニシテ其ノ顕著ニシテ大ナルモノ左ノ如シ

(一)日本ハ国際公法ノ基本原則ニ違犯セリ蓋シ日本ハ中華民国ノ領土ノ保全ヲ破壊シ中国ノ政治及行政権ヲ簒奪セリ

(二)日本ハ法律ノ根本原則ト人道観念ニ違犯セリ蓋シ日本ハ無数ノ中国人命ヲ殺傷シ現在ニ至ルモ尚計算シ難キ程ノ中国公私財産ヲ毀損セリ

(三)日本ハ国際連盟規約ニ違犯セリ蓋シ該規約中ニ於テ各加盟国ハ各加盟国ノ領土ノ保全及現有ノ政治上ノ独立ヲ保持シ以テ外来ノ侵犯ヲ防禦スルコトヲ担任シタリ

(四)日本ハ不戦条約ニ違犯セリ蓋シ該条約中各締約国ハ戦争ヲ相互間ノ国策遂行ノ具トナスコトヲ放棄シ又各国間ニ若シ紛争アル場合其ノ如何ナル性質タルカ又ハ其ノ何ニ依リテ発生セルカヲ問ハス専ラ和平的方法ヲ以テ解決スヘキ旨ヲ厳粛ニ声明セリ

(五)日本ハ民国十一年調印ノ九国条約ニ違犯セリ蓋シ該条約中中国ヲ除ク各締約国ハ相互ニ中国ノ主権ト独立及領土ト行政ノ保全ヲ尊重スルコトヲ認メタリ

(六)日本ハ其ノ自ラ為セル誓約ニ違犯セリ蓋シ日本ハ東省ニ於テ領土的企図ナク且最近期間内ニ日本軍ヲ鉄道区域内ニ撤退スヘキコトヲ声明セリ

(七)日本ハ国際連盟屢次ノ訓誡ニ違犯セリ蓋シ国際連盟ハ一再ナラス日本ハ其ノ中国ヲ侵略スルニ因リテ造成セル事態ヲ更ニ拡大悪化スルヲ得サル旨訓誡セリ

日本カ客年九月十八日奉天城ヲ轟撃シテ以来今年九月十五日偽組織承認ニ至ル迄ノ一切ノ侵略行為及其ノ結果ニ関シ中国政府ハ日本政府ニ完全ニ其ノ責任ヲ負担セシムルト共ニ現状ノ下ニ於テ国際公法ト条約上与ヘラルヘキ権利ヲ保留スルモノナリ

右御了知相成度此段照会得貴意候　敬具

中華民国二十一年九月十七日

中華民国特命全権公使　蔣　作　賓

日本帝国外務大臣伯爵　内田康哉閣下

166　昭和7年9月21日　在福州守屋総領事より内田外務大臣宛（電報）

蔣光鼐、蔡廷鍇らの動静および福州事情について

福州　9月21日後発
本省　9月21日後着

第二二〇号（暗）

往電第二一八号ニ関シ

一、二十一日ノ漢字紙ハ蔣光鼐来福ニ関シ右ハ綏靖主任ニ正式就任ノ為ニシテ同人ハ長期駐在ノ筈ナルヲ以テ綏靖事務ハ多大ノ進展ヲ見ルヘシトノ趣旨ヲ述ヘ外ニ綏靖公署側ノ発表トシテ綏靖事務ハ蔣主任ト共同画策スルニアラサレハ効果ヲ収メ得ス即蔡廷鍇自ラ上海ニ赴キ蔣ヲ同行セルモノナリ今後ノ綏靖事務ハ汀州方面ノ共匪討伐ト各県ノ土匪粛清ニアル処共匪ハ既ニ十九路軍精鋭部隊ニ於テ劉和鼎盧興邦及張貞ノ軍隊ト会合包囲中ニテ又土匪ニ対シテハ直ニ海陸軍隊長官及党政責任者ト大規模ノ連席会議ヲ開キ討伐ノ順序及担任部隊ヲ協議ノ上決行スル計画ナリトノ記事ヲモ掲ケタリ

二、蔡廷鍇最近ノ上海行キニ関シ曩ニ右ハ共匪討伐ニ付陳銘枢ニ兵力ノ増派ヲ要求スルコト其ノ目的ノ一ナリト信セラレ蔡ト雖モ現在ノ兵力ヲ以テシテハ（五万）到底剿匪事業ヲ進捗セシムルコト困難ナリト取沙汰セラレ居タル矢先ニモアリ蔣今次ノ来福ハ前記新聞記事ノ通リ綏靖公署ノ事務ノ検閲以外他意ナキモノト見ルヲ妥当トスヘキカ如シ蔣ハ暫時滞在ノ意向ニテ私邸ヲ借入ルル準備ヲ為シ居ルトノ聞込ミアリ又現在ノ省政府ニ不平ヲ抱ク分子ハ蔣ニ接近シテ何事カ画策シ居リ省政府側ニテモ昨二十日急遽帰福方上海ニアル楊樹荘ニ打電スルト共ニ近ク赴滬スヘキ陳培錕ニモ楊ノ帰福ヲ勧説スル様依頼シタリトノ情報モアレト今回手軽ニ質素ニ福州入リヲ為シ人民モ別段騒カサル処彼ノ馬尾到着ノ光景ハ偶々軍艦北上ニアリタル本官之ヲ目撃シタルカ出迎ヘハ少人数ノ乗レル二隻ノ「ランチ」丈ケニシテ福州上陸ニ際シテモ民衆其他ノ歓迎ハナカリシ次第ナル等ヨリ推シ少クモ今回ハ省政府改組等ノ大問題ニ立入ルカ如キコトハ一般ノ期待シ居ラサル処ニシテ蔣ハ適当ノ時期ニ引揚ヲナスモノト観察セラル

支ヨリ上海ヘ、駐満全権ヨリ奉天ヘ転報アリタシ

支、駐満全権、北平、南京、厦門、汕頭、広東ヘ転電セリ

167　昭和7年9月23日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛

陳中孚の日中関係解決策について

上海　9月23日付
本省　9月29日着

機密公第二九〇号

昭和七年九月二十三日

在中華民国
特命全権公使　有吉　明（印）

外務大臣伯爵　内田　康哉　殿

陳中孚ノ時局談報告ノ件

八月末迄約二ケ月天津ニ滞在九月初旬東京ニ赴キ数日ニシテ帰滬シタル陳中孚二十一日須磨ヲ来訪シ内話シタル時局談中参考トナルヘキ点ハ九月二十二日要領電報済ミナルカ茲ニ左ノ通リ追報申進ス

一、予テ胡漢民等ノ意ヲ受ケ何トカシテ日支関係好転ノ端緒ヲ見出ス為先ツ平津地方ニ於テ学良ヲ中心トスル北支ノ情勢ヲ観察シタル処要スルニ学良ノ配下ニハ人物ナク

又呉佩孚、段祺瑞ト雖モ昔日ノ勢ヒナク何等カ新勢力ヲ以テスルニアラサレハ学良ヲ駆逐シ難キ実情ヲ看取セリ他方日本カ満州問題ニ断乎タル態度ヲ以テ終始セムトスルコト明瞭トナリタル今日学良ヲ下野セシメサル限リ日支関係打開ノ途ヲ見出スコト至難トナリ胡漢民ヲ中心トスル所謂広東派ハ焦慮ヲ増スニ至リ遂ニ自分ヲ東京ニ派シ日本軍部ノ意向ヲ探ラシムルニ至レリ

二、三日程在京中主トシテ参謀本部内ノ知人ト会談シ学良ニ対スル軍部ノ意向ヲ確カメ見タル処依然強硬ニシテ学良ノ満州国治安攪乱策尚改マラサルニ於テハ日本ノ手ヲ以テ学良ヲ解決セントスルヤノ印象ヲ受ケ他方自分カ天津滞在中日本軍部及満州国側等ノ策謀ニ依リ平津地方ニ又復不祥事件ヲ惹起セシメントスルヤノ計画サヘアリトノ聞込ミモアリシニ鑑ミ日支関係ノ前途益々暗澹タルヲ認メ兎モ角上海ニ帰来シ当方面ノ要人トモ隔意ナキ意見ヲ交換シタルカ何シロ満州国ノ存在カ日本ノ承認ニ依リ確定スルニ至リタルカ故ニ何レモ前途ヲ悲観シ殆ト成案ヲ有スルモノナク寔ニ心細キ次第ナルカ之ト同時ニ当方面支那側官民共何等カノ方法ニ依リ出来得ル限リ速ニ両国関係好転ノ途ヲ見出サント努メツツアルハ事実ナリ

三、仍テ前述ノ観測ヲ取纒メ数日中ニ広東ニ赴キ胡漢民等所謂広東派ノ要人ト更ニ親シク意見交換ノ心組ナル処今迄ノ諸方面トノ接触ヨリ自分ノ得タル日支関係解決策ハ概ネ次ノ如シ

イ、学良ノ下野ヲ実現シ満州問題ヲ行詰ラシメタル一切責任ヲ之ニ負ハシムルコトヲ要ス

ロ、目下ノ実情ニ徴シ学良ハ自発的ニ下野実行ノ気遣ナキカ故ニ支那側ノ実力ヲ以テ之カ実行ヲ強フルノ外ナキ処是カ達成ニハ武器将又財源ニ付日本側ノ諒解ヲ求ムルコト満州ノ北支トノ地理的関係上已ムヲ得サルトコロナルヘシ而シテ従来革命運動失敗シタルノ跡ヲ観ルニ概ネ同運動ヲ支持スル確乎タル地域ノ有セサリシコト主因タリ例ヘハ蔣介石ノ北伐カ成功ヲ見タルハ一ニ広東ナル一地域カ腰ヲ入レタルニ他ナラサルニ鑑ミ学良討伐ニモ結局之ニ匹敵スヘキ策源地アルコトヲ要ス

ハ、右地域トシテハ南京広東孰レモ其ノ資格ハアルヘキ

モ蔣介石ハ学良ノ崩壊ニ伴ヒ其ノ死活ヲ制セラルルコトトナルヘキカ故ニ先ツ南京ハ問題トナラス去リトテ広東モ実ノトコロ客年五月末広東国民政府成立以来馮玉祥、閻錫山麾下ノ将領買収ニ努メ多大ノ金額ヲ費シタルモ結局問題トナラサリシ事実アリ旁々広東ハ余リニ遠隔ナルカ故ニ是亦策源地タリ得ス要スルニ山東地方ハ殊ニ韓復榘カ従来自家地盤ノ擁護上日本トノ了解ニ汲々タリシニ鑑ミ最モ好適ナル策源地タルヲ失ハサルヘシ

ニ、韓復榘カ劉珍年解決ニ決意シタルハ勿論諸種ノ事情アルヘキカ馮玉祥、閻錫山共ニ事実上北支ニ号令シ得サル今トナリテハ韓ノ出様如何ニ依リテハ北支ヲ采配スルコト敢テ不可能ニアラストノ観測ヨリ先ツ手近ノ障碍タル劉ヲ除却セントシタルニアルモノノ如ク従テ大体韓ヲ中心トシテ学良解決ノ方策ヲ定ムルコト先ツ得策ナルカ如シ

ホ、尤モ右解決方法ヲシテ有効ナラシムルニハ之ニ政治的意味ヲ加フルノ必要アルトコロ韓丈ニテハ如何ニモ貫録タラス此目的達成上支障多カルヘキニ鑑ミ胡漢民、孫科、伍朝枢、陳策等ヲシテ直接間接ニ韓ヲ支持スルノ態度ニ出テシムルコト最モ得策ナルヤニ思考セラル（然ルニ最近来滬シタル伍朝枢、陳策カ近ク北上スヘシトノ説アル処右ハ恐ラク孫科ノ意ヲ含ミ北方将領ヲシテ孫ヲ再ヒ行政院長ニ推薦セシメントスルコトニアルモノノ如ク果シテ然ラハ事態益々複雑ヲ加フルニ至ルヘシ）

ヘ、学良ノ下野実行ノ暁ニ於テモ支那トシテハ満州国ヲ正面ヨリ承認シ得サルハ勿論非公式ニモ之ヲ認ムルカ如キ態度ニハ出テ得サルヘキカ故ニ其処ハ支那式ニ学良ノ査弁ニ依リ東北失地及満州国成立ノ責任ハ一応解除セラレタルモノト看做シ一方満州回復ニハ今ノ処実行手段ナキカ故ニ臥薪嘗胆失地回復ニ力ムヘシ等当座ヲ好イ加減ニ糊塗シ行クヨリ外致方ナカルヘキモ兎モ角此種ノ方法ニ依リ日支関係ヲ好転セシメ得ヘシト信ス

本信写送付先　北平　武藤全権　天津　済南　青島　南京　広東　香港

168　満州海関閉鎖に関する宋財政部長の声明発表について

昭和7年9月24日　在上海石射総領事より内田外務大臣宛（電報）

上海　9月24日後発
本省　9月24日後着

第一〇八三号

往電第一〇八一号ニ関シ

満州海関閉鎖ニ付宋子文ハ二十四日付大要左ノ如キ声明ヲ発表セリ

満州国ノ所謂外交部長謝介石ハ曩ニ満州国ハ関税及通商航海並ニ其他ノ事項ニ関シ中国ヲ完全ニ外国トシテ待遇スルニ決シ九月二十五日ヨリ実行スヘキ旨声明セルニ鑑ミ国民政府ハ財政部訓令ヲ以テ更ニ命令アル迄東北各地ノ海関ヲ封鎖シ関税ハ差当リ出来ル限リ山海関以南ノ各税関ニ於テ徴収スル事トシ詳細ナル弁法ハ各貿易港ノ税務司ニ於テ随時発表スル事トセリ

抑々今春日人ノ偽リテ組織セル満州国当局ハ満州各地関税ノ奪取ヲ開始シ次イテ大連海関ノ奪取ヲ為セルモ国民政府ハ終始隠忍シ満州ト各省間ニ発着スル土貨ニ対シテハ在来ノ弁法ヲ変更セス又関税納付済ノ外国貨物中満州ヨリ其他ノ各地ニ運フ物ニ対シテモ別ニ税金ノ再徴収ヲ為ササリシ為政府ハ輿論ノ圧迫ヲ受ケ乍ラモ何等報復手段ヲ執ラサリキ蓋シ満州モ亦中国領土ニシテ其住民ノ九十六「パーセント」ハ中国人民ナルニ付報復行為ニ出テンカ徒ニ中国人民ヲ苦ムノミナルニ顧ミ政府ハ寧ロ暫時税収上ノ損失ヲ受クルモ満州分離ノ端ヲ自ラ開ク事ヲ欲セサリシナリ（続ク）

（編注）第一〇八三号の続電は見当らない。

169　除奸団の活動に鑑み駆逐艦による南京行決定について

昭和7年9月26日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

上海　9月26日後発
本省　9月26日後着

第一二〇八号（暗、至急極秘）

本使発南京宛電報

第三六〇号

除奸団一派カ公使南京行ニ際シ公使及随員ニ対シ北停車場付近等ニテ爆弾ヲ投シ日支ノ国交ヲ阻害シ南京政府ノ立場

ヲ困難ナラシメントノ計画ヲ着々実行シ居ル事確実ナル方面ヨリ探知セリ右カ何ノ程度迄実現セラルルヤハ不明ナルモ斯ル聞込有ル此ノ際強イテ予定通リ汽車ニテ入京スルハ面白カラスト思考セラルルニ付急ニ予定ヲ変更シ一同二十七日朝駆逐艦ニテ出発スル事ニ決定シタリ（二十八日早朝下関着）右ハ全ク不慮ノ突発事件ノ為両国々交ニ累ヲ及ホス事ヲ恐レタルカ為ノ措置ナルニ付此ノ点篤ト外交部ニ説明シ先方ノ了解ヲ得置カレタシ

(2) 以上貴地陸海軍武官ニモ通報アリ度ク出迎及警備ノ点モ予テノ打合ニ準シ御取計置キアリ度シ尚外交部ニハ右実状ヲ説明スルモ一般ニハ公使ハ急用アリテ予定ノ汽車ニ間ニ合ハサリシ為船ニシタリトノ説明ヲ与フル筈ニテ又警戒ノ都合上本件予定変更ハ廿七日午前九時迄絶対ニ外部ニ漏ラササルコトトセルニ付外交部ニモ右時刻ニ至リ申入レラレ度当方ニテモ公安局工部局及鉄道側ニハ廿七日朝発車間際ニ至リ特別列車ニ乗ラサルコトヲ鄭重ニ申入ルル予定ナリ

大臣ヘ転電セリ

170 昭和7年9月26日 在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

駆逐艦による南京行に関する外交部への説明振りについて

上海 9月26日後発
本省 9月26日後着

第一二一一号（暗）

本官発南京宛電報

第三六一号（至急、極秘）
往電第三六〇号（一六九文書）ニ関シ

外交部ヘノ説明ニハ右電報冒頭「日支ノ国交ヲ阻害シ南京政府ノ立場ヲ困難ナラシメントスル」計画ノ動機ニハ言及セラレサル事ト致シタシ又同電末段当方ヨリ公安局ヘノ申入ニハ「本件情報ハ二十六日深更ニ至リ接到セルヲ以テ同局ト協議シテ警備ヲ厳重ニスル暇ナカリシ」旨ヲ説明スル積リナレハ外務部ヘモ此点付言セラレ差支ナシ

大臣ヘ転電シ往電第三六〇号（一六九文書）ト共ニ上海ヘ転報セリ

171 昭和7年9月26日 在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

北平地方の軍事的情勢および張学良駆逐について

北平 9月26日後発
本省 9月26日後着

第六〇三号（暗、極秘）

(1) 八月廿六日付亜一機密合第八八九号ニ関シ

当地ハ他地方トハ異リ学良勢力ノ中心地ニシテ彼ノ政治上ノ資格如何ニ拘ラス彼カ十万余ノ私兵ヲ有スル限リ其ノ勢力ハ牢固タルモノアリ満州問題ノ進展ニ伴ヒ学良ノ当地存在ハ益々邪魔者視サレ北支ノ危機之カ為ニ切迫スルモノト信セラレツツアルカ如シ

北支ノ状勢ヲ軍事的ニ見ルニ左ノ三ノ場合ヲ考慮スルヲ要スト信セラル

第一、熱河問題

満州国ハ熱河領有ヲ主張シ居ル関係上早晩之カ実現ヲ計ルヘク其場合学良カ密ニ兵ヲ熱河ニ進メ隠然タル抵抗ヲ為ス（現ニ日々派兵シツツアル旨ノ報道ヲ為スモノアリ）場合

満州国ヲ援助スル我方トシテハ単ニ遼西方面ヨリ之ヲ援助スルニ止マラス平津地方ヲ衝キテ其根拠ヲ覆スヲ捷径トスル場合

第二、義勇軍問題

満州国内ニ蜂起スル義勇軍ハ皇軍ノ威力ニ依リ漸次撃滅セラルヘク完全ナル平定ハ単ニ時ノ問題ナルモ之カ為ニ皇軍ノ犠牲ヲ継続スルニ忍ヒス一時国際関係其他ノ理由ヲ覚悟シテ義勇軍ノ根元ト信セラルル学良ヲ駆逐スル為平津ニ兵ヲ用ユルヲ得策トスル場合

第三、緩衝地帯案

満州国ニ隣接スル河北省ヲ以テ満州国ト支那本部トノ緩衝地帯ト為シ此ノ地域ノ支配者ハ我方ノ承認シ得ル人物タラシムルコト国策上必要ナルヲ以テ其素地ヲ作ル為我方ノ実力ヲ以テ学良ヲ駆逐シ其後継者ノ選任ニ就テハ帝国ノ意思ヲ表明シ得ル事態ヲ作リ置カサルヘカラスト考ヘラルル場合

（済南事変当時ノ山東出兵ハ国民党勢力ノ満州波及ヲ阻止スルノ効果鮮カラサリシ事例アリ）

(2) 右何レノ場合ニ於テモ軍事的ニ言ヘハ其ノ効果ノ件ハ後ノ問題ニシテ学良ヲ駆逐スルコトカ先決問題ナルヘシ満州国ノ承認ヲ与ヘ且軍事協定ノ成立シタル今日学良ノ失脚ハ支那内政上ノ分解作用ニ俟ツコトヲ許ササルヘシ

次ニ居留民保護ノ見地ヨリ観ルニ九、一五乃至一八紀念日

ハ支那官憲ノ厳重ナル警戒ニ依リ何等ノ事故発生セサリシモ官憲ノ圧迫ノ結果ハ運動漸次潜行的トナリツツアルヤノ情報モアリ又学生抗日会、除奸団等ハ共産党ト共ニ常ニ帝国臣民ノ生命財産ノ安全ニ対スル脅威ニシテ常ニ存在シ現ニ二十三日当地一支那紙商ハ日本新聞紙ヲ販売シタル理由ニ依リ爆弾ヲ投セラレタル事件アリ

右小官ノ事態自観ニシテ多少トモ当ル処アリトセハ軍事上ノ必要ト冒頭御訓令ノ趣旨トノ間ニハ相当ノ開アリ其ノ実際的適用ニ当リテハ外国官憲殊ニ支那側トノ交際ニ居留民ノ保護ノ方法程度ニ付テ言ヘハ公使館区域内ノ収容保護ト現地保護従テ一定地区ノ占領乃至治安官憲ノ乗取等ノ差異ヲ見ルヤニ思考セラレ出先トシテ極メテ困難ナル問題ニ逢着スル次第ニ付学良ニ対スル政府ノ御方針当方心得迄ニ御内示ヲ仰度ク尚冒頭御訓令ハ天津軍司令官及桑島総領事ニ御通報望マシト存ス

支、駐満全権、南京ニ転電セリ

172　満州国は同地方住民の自発的意図により成立

昭和7年9月26日　内田外務大臣より在本邦蔣中国公使宛

し、その承認は日本側の自由なる旨回答について

本省　9月26日付

亜一普通第四二号

昭和七年九月二十六日

内田外務大臣

駐日中国公使　蔣作賓

満州国承認ニ対スル抗議反駁

以書翰啓上致候陳者本月十七日付貴翰申字第二六〇号ヲ以（一六五文書）テ御申越ノ趣閲悉致候

然ルニ客年九月十八日在満帝国軍ノ行動ハ貴国軍ノ挑発侵害ニ対スル自衛権ノ発動ニ基クモノニシテ爾来我方ニ於テハ帝国軍ノ安全及帝国臣民生命財産ノ安固ニ対スル脅威ヲ排除スル為メ正当且適法ノ行動ヲ執リ来リシ次第ナルカ其ノ間客年九月三十日及十二月十日ノ連盟理事会決議ニ何等違反セルカ如キ事実ナシ又客年十一月天津ニ発生セル騒擾ハ貴国内部ノ変乱ニシテ我方ノ関スル所ニ非ス将又本年一月以来ノ上海事件ハ貴国側ノ帝国軍ニ対スル挑発侵害ニ基因スルモノニシテ帝国軍ハ自衛行動ニ出テタルニ過キス

次ニ満州国ノ成立ハ同地方住民ノ自発的意図ニ出テタルモノニシテ帝国政府ニ於テ何等関係ナク又満州国政府ノ行動ニ対シ帝国政府トシテ責任ヲ負フヘキ筋合ニ非ルコト申迄モナシ将又満州国カ其ノ住民ノ自由意思ニ基キ成立セル以上之ニ承認ヲ与フルヤ否ヤハ帝国政府ノ自由ニ決シ得ヘキ所ナリ

叙上ノ次第殊ニ我方ノ行動カ理事会ノ決議、連盟規約、不戦条約、九国条約及国際法ニ何等抵触スル所ナク正義公道ニ基ケルモノナルコトハ帝国政府累次ノ公文及声明並本年八月二十五日帝国議会ニ於ケル本大臣ノ演説等ニ依リ極メテ明瞭ナリ貴翰御申越ノ如キハ殊更事実ヲ曲解シ我方ニ対シ不当ノ責任ヲ嫁セムトスルモノニシテ帝国政府ノ断シテ容認シ得サル所ナリ

之ニ反シ貴国側ニ於テハ帝国ノ権益ニ対スル悪辣不法ノ侵犯ヲ敢テシ来リ剰エ帝国軍ヲ挑発攻撃セル結果満州事変及上海事件等ノ発生ヲ見ルニ至レルノミナラス其ノ後モ義勇軍等ヲ使用シテ満蒙ノ治安ヲ攪乱シ又支那本部ニ於テハ排日運動依然トシテ猖獗ヲ極メ居ル次第ニシテ事態拡大並条約及国際法違反ノ事実ハ実ニ貴国側ニ存シ之カ結果ニ対スル責任ハ総テ貴国政府ノ負担スヘキモノナリ

就テハ右貴国政府ニ伝達セラレ度此段回答旁々本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ対シ敬意ヲ表シ候

173　日本の満州国承認に関する孫科の抗議について

昭和7年9月27日　在上海有吉公使より内田外務大臣宛（電報）

上海　9月27日後発
本省　9月27日後着

第一二一四号（暗）

二十五日張恵長傅秉常等ヲ従ヘテ来着セル孫科カ須磨ニ内話セル処左ノ通

一、日本カ「リットン」報告ノ発表ヲモ俟タス満州国ヲ承認シタルハ支那ノミナラス連盟及列国ヲ無視スルモノニシテ事態ヲ益々紛糾セシムルモノナルカ故ニ自分及胡漢民並ニ広東ノ同志ハ日支問題ノ解決ハ遂ニ全ク絶望的トナレルヲ今更ノ如ク痛嘆シ斯クテハ日米戦争ノ発生位ヲ俟ツノ外無シトサヘ思ヒ居レリ（トテ大体広東発閣下宛電報第五九二号同様ノ対日強硬論ヲ繰返セリ）

二、除奸団等反日団体ハ自分ノ操縦スル処ナリトノ説アルカ如キモ右ハ全ク虚伝ナリ尤モ日本ノ態度カ此儘ナラハ仮リニ一時表面平静ニ見ユルコトアリトスルモ却々油断ナラサルヘク如何ナル政府ト雖モ民衆ノ自発的反撥ハ避ケ難カルヘシ

三、汪精衛ハ自分ヲ南京ニ引戻ス為陳樹人等ヲ介シ種々運動シ居ルハ事実ナルモ今少シク見極メ付ク迄ハ此ノ儘上海ニ止マル見込ナリ汪ハ元来蔣介石トハ合作シ得サルモ乾児ニ地位ヲ与フル必要モアリテ却々思フ様ニ成ラサル一方蔣ノ剿匪事業モ相当成績ヲ挙ケ居ル為「リットン」報告カ南京政府ニ致命的結果ヲ齎ラササル限リ結局ハ当分汪蔣ノ合作持続スヘシ

四、伍朝枢陳策等カ近ク北上スルコトトナリ居ル為種々ノ臆測行ハレ居ルモ事実何等政治的意味無シ殊ニ自分ノ見ル所ニ依レハ学良ハ「リットン」報告ノ結果カ彼ニ特ニ有利ト成レハ格別結局其下野ハ時間ノ問題ニ過キサルカ故ニ自分カ之ト話合ヲ進ムル為伍朝枢等ヲ北上セシムル筈無シ

五、韓復榘ノ今回ノ行動ハ地方的ノ事件ニ過キストハ解セラルルモ韓ハ日本ノ了解ヲ得テ行々ハ学良ヲ牽制セン為先ツ山東ヲ堅メントシツツアリトノ聞込アリ云々

駐満全権、北平、南京、天津、青島、済南、漢口、広東ヘ転電セリ

駐満全権ヨリ奉天ヘ転報アリ度シ、上海ヘ転報セリ

174　昭和7年9月27日　在南京上村総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

公使の軍艦による南京行に関し外交部に申入れについて

南京　9月27日後発
本省　9月27日後着

第六六二号（暗）

本官発在支公使宛電報

第六三〇号（一六九文書）

貴電第三六〇号及第三六一号（一七〇文書）ニ関シ

御訓令ノ次第ハ廿七日外交次長及交際科係官ニ対シ鄭重ニ申入レ置キタリ

大臣ヘ転電セリ

175　昭和7年9月28日　在北平中山書記官より内田外務大臣宛（電報）

満州国承認問題およびその他諸問題に関する林文竜の内話について

北平　9月28日後発
本省　9月28日後着

第六〇四号（暗）

二十七日林文竜カ極秘ノ含ミヲ以テ原田ニ為セル内話左ノ通（支那側ノ対内及対日宣伝トモ考ヘラルルモ不取敢）

一、今回日本ノ満州国承認及九、一八記念日ニ際シ支那各地共平静ニ経過セルハ一ニ国民政府ノ厳重ナル取締命令ニ依ル結果ナルカ右政府ノ措置ハ日本ニ対シ親善ノ意ニ出テタルニ非スシテ連盟総会ヲ控ヘ日本ニ支那攻撃ノ材料ヲ与ヘサラントスル苦肉ノ策ニ外ナラス

二、満州問題ヲ解決セサレハ日本トノ正常関係ヲ回復シ難シトハ中央委員大多数ノ意見ニシテ従テ支那トシテハ今秋連盟総会ニ顔等三代表ヲシテ大活動ヲ試マシムルト共ニ他方施肇基ヲ遊撃トシテ英米ノ輿論指導ニ当ラシメ日本ヲ国際的孤立ニ陥ラシメントシ又一方政府ハ右ノ結果ニ依リ最悪ノ場合ヲ予知シ密カニ施肇基ヲシテ米国トノ間ニ大量ノ武器、弾薬及小麦ヲ供給方（借款ノ形式トシテ）ニ付交渉中ニシテ右ノ内小麦ハ既ニ一部到着シ居レリ

三、学良ハ目下米国ヨリ武器ヲ購入中ナルカ右ハ主トシテ飛行機襲撃ヲ目的トスル高射砲ニテ右ハ必スシモ内乱ニ備フル為ノミナラサルカ如シ又将来日本軍カ平津ニ進出ノ場合ニハ学良ハ東北軍ヲ率ヒ熱河ニ立籠ラントスル意ナルカ如シ

（右発表見合ハセヲ請フ）

支、南京、天津、駐満全権ヘ転電セリ

176　昭和7年10月4日　在南京上村総領事代理より内田外務大臣宛（電報）

満州国海関接収前の収入送金方宋子文より申出について

南京　10月4日後発
本省　10月4日後着

第六八九号（暗）

宋子文来京セルニヨリ四日本官之ヲ往訪シ雑談ヲ交ハシタルカ其際本官ヨリ大連海関問題ニ関スル帝国政府ノ回訓

ヲ伝達シ得サリシ次第（拙電第五四〇号及公使発大臣宛電報第一一一七号参照）ヲ一言可然釈明シタル処宋ハ別ニ気ニモ懸ケ居ラサリシモノノ如ク機嫌ヨク聞キ流シタル上夫レハ最早過去ノコトトナレリ御互ニ困難ナル地位ニ置カレ苦労セルニ非スヤト笑ヒ乍ラ述ヘ進テ満州国カ海関ヲ接収セル以前ノ海関収入ハ是非速ニ当方ヨリ送金スル様尽力ヲ願ヒ度シト申出テタルニヨリ本官ハ我方ニ於テハ出来得ル丈ケノ尽力ヲナシ居ル次第ナリトアツサリ答ヘタル処宋ハ感謝ノ意ヲ述ヘ更ニ雑談ニ話ヲ転シ日支関係局面打開ノ困難ナル次第ヲ述ヘ御互ニ友人トシテ今後トモ接触ヲ保チ腹蔵ナキ意見ノ交換ヲナスコト最モ必要ナルカ目下ノ情勢ニテハ先ツ当分積極的ニ局面打開ノ方法ヲ講スルコトモ出来サルニ付暫ク時機ヲ俟ツヨリ外ナカルヘク時日ノ経過ト共ニ必スヤ日支ノ関係モ軌道ニ立返ルモノト信ストテ如何ニモ楽観的ノ述懐ヲナシ居タリ御参考迄

支、北平、駐満全権ヘ転電セリ

駐満全権ヨリ奉天、長春ヘ転報アリ度シ

（一三五文書）

日本外交文書　満州事変　第二巻第二冊　終

付録　日本外交文書　満州事変　第二巻　日付索引